

中央区政世論調査

報告書

第51回 令和3年4月実施



中央区

は じ め に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析したうえでの確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、区長への手紙、区政への提案制度など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で51回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「男女共同参画社会」「防犯対策」「スポーツ」「築地魚河岸」「受動喫煙防止対策」「公共施設」「デジタル技術を活用した区民サービス」「地球温暖化対策」「中央区コミュニティバス（江戸バス）の運行」「施策の要望・評価」の15項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきますが、多くの皆さまに参考としていただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和3年9月

中央区企画部広報課

I	調査のあらまし	1
1	調査の目的	3
2	調査の項目	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	4
5	地域区分	4
6	この報告書の見方	4
7	調査方法略歴	6
II	回答者の属性	7
1	性別	9
2	年齢	9
3	職業	9
4	居住地域	10
5	同居家族	10
6	住居形態	10
7	家族構成	11
8	家族の状況	11
9	ライフステージ（7分類）	11
III	地域別にみた回答者の属性	13
1	年齢	15
2	職業	15
3	同居家族	15
4	住居形態	16
5	ライフステージ	16
IV	調査結果の分析	17
	【1 定住性】	19
	（1）居住年数	19
	（2）愛着心	22
	（3）定住意向	25

目次

【2 防災対策】	28
（1）家庭での災害に対する備え	28
（2）防災拠点の認知度	33
（3）災害に備えた地域の協力体制	36
（4）災害情報を得る手段として有効だと思うもの	38
【3 健康診査】	41
（1）健康診査の受診状況	41
（2）健康診査を受けなかった理由	44
【4 高齢者施策】	48
（1）要介護時における暮らし方	48
（2）区に望む高齢者保健福祉サービス	52
（3）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	55
【5 子育て支援】	57
（1）子育てに関する悩みの相談	57
（2）重要と考える子育て支援策	61
（3）さらに充実を図る必要がある子育て支援策	65
（4）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	69
【6 男女共同参画社会】	71
（1）男女の地位の平等感	71
（2）ワーク・ライフ・バランスの現在の状況	84
【7 防犯対策】	88
（1）不安に感じる犯罪	88
（2）防犯のために行っていること	92
（3）区に特に力を入れてほしい施策	96
【8 スポーツ】	100
（1）過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	100
（2）過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	105
【9 築地魚河岸】	109
（1）「築地魚河岸」への来場経験	109
（2）「築地魚河岸」への来場目的	112

【10 受動喫煙防止対策】	113
(1) 「中央区たばこルール」の認知度	113
(2) 区に取り組んでほしい受動喫煙防止対策	115
【11 公共施設】	117
(1) 区の施設の利用頻度	117
(2) 区の施設を利用したことがない理由	125
(3) 現在不足していると思う公共施設	141
(4) 将来不足すると思う公共施設	144
【12 デジタル技術を活用した区民サービス】	147
(1) スマートフォンの利用状況	147
(2) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス	149
【13 地球温暖化対策】	152
(1) 「中央区の森」事業の認知度	152
(2) 森林保全活動のために重要だと思うこと	154
(3) 地球温暖化対策に効果的な施策	157
【14 中央区コミュニティバス（江戸バス）の運行】	159
(1) 江戸バスの利用頻度	159
(2) 江戸バスの運行内容に望むこと	162
(3) 江戸バスの利便性向上のために優先すべきこと	165
【15 施策の要望・評価】	168
(1) 区の施策の満足度と重要度	168
(2) 区の施策への要望	175
V 結果の数表	181
VI 使用した調査票	203

I 調査のあらし

I 調査のあらまし

1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

2 調査の項目

今回の調査では、次の15項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) 健康診査
- (4) 高齢者施策
- (5) 子育て支援
- (6) 男女共同参画社会
- (7) 防犯対策
- (8) スポーツ
- (9) 築地魚河岸
- (10) 受動喫煙防止対策
- (11) 公共施設
- (12) デジタル技術を活用した区民サービス
- (13) 地球温暖化対策
- (14) 中央区コミュニティバス（江戸バス）の運行
- (15) 施策の要望・評価

3 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満18歳以上の男女（外国籍の方を除く） |
| (2) 対象者 | 2,000人 |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出法
令和3年4月1日現在の住民基本台帳に登録された満18歳以上の男女137,494人から一定の割合で系統的に抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送法（郵送に準じた配布－郵送回収） |
| (5) 調査時期 | 令和3年4月27日（火）～6月7日（月） |
| (6) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4 回収結果

(1) 地域別対象者数・回収数・回収率

地域	対象者	回収数	回収率(%)
京橋地域	501	271	54.1
日本橋地域	633	353	55.8
月島地域 (無回答)	866	464	53.6
計	2,000	1,101	55.1

(2) 無効票(率)・無効内訳(率)

事故内訳	実数(率)	内訳比率
転居	44(2.2)	83.0
その他	9(0.5)	17.0
計	53(2.7)	100.0

* 宛名なしで返送されてきた調査票を転居とした。

* 高齢や病気などの理由による調査辞退者をその他とした。

5 地域区分

集計にあたっては、地域特性を把握するため、区役所、特別出張所管内別に、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。

6 この報告書の見方

(1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性／年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層の n の合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに（上位10項目）や（5項目）などと書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。

（2）ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」（57.2%）が最も高いが、「独身期」（26.4%）や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」（13.9%）もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身（18～39歳、学生など：親と同居含む）
- ②家族形成期 = 子どものいない夫婦（18～39歳）、
子どもあり（一番上が小学校入学前）
- ③家族成長前期 = 子どもあり（一番上が小・中学生）
- ④家族成長後期 = 子どもあり（一番上が高・大学生）
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
- ⑥老齢期 = 65歳以上で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
独身（65歳以上）、子どものいない夫婦（65歳以上）
- ⑦その他 = 独身（40～64歳）、子どものいない夫婦（40～64歳）

(3) 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）および回答比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数（サンプル数）
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,101	±1.81	±2.41	±2.76	±2.95	±3.01
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,101で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.95%以内（57.05～62.95%）である」とみることができる。

7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

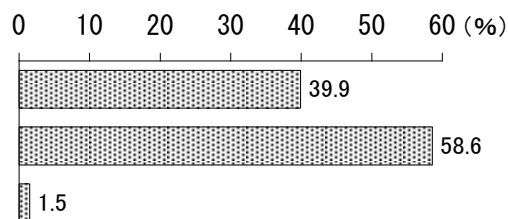
調査年	調査方法	説明	対象とした年齢
昭和63年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成4年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成8年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成12年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成16年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成17年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成18年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成19年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成20年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成21年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成22年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成23年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成24年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成25年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成26年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成27年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成28年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成29年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成30年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和元年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和2年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上

Ⅱ 回答者の属性

II 回答者の属性

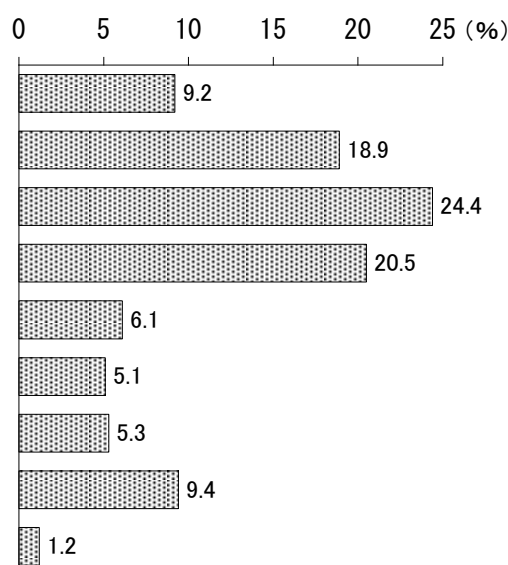
1 性別

	基数	構成比
1 男性	439	39.9%
2 女性	645	58.6
(無回答)	17	1.5
合計	1,101	100.0



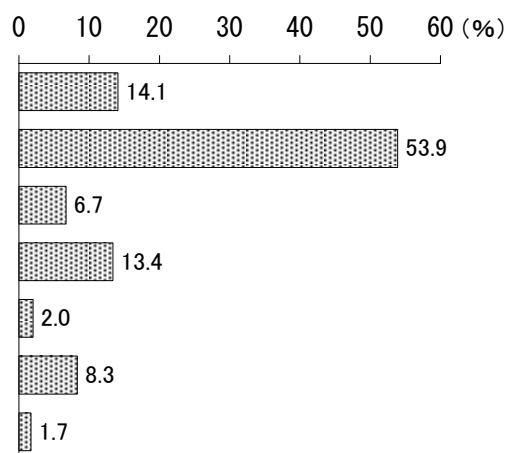
2 年齢

	基数	構成比
1 18～29歳	101	9.2%
2 30歳代	208	18.9
3 40歳代	269	24.4
4 50歳代	226	20.5
5 60～64歳	67	6.1
6 65～69歳	56	5.1
7 70～74歳	58	5.3
8 75歳以上	103	9.4
(無回答)	13	1.2
合計	1,101	100.0



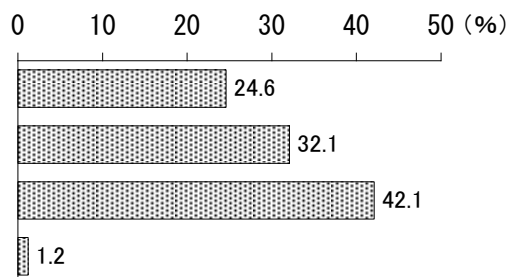
3 職業

	基数	構成比
1 自営業 (家族従業を含む)	155	14.1%
2 勤め人	593	53.9
3 アルバイト・パートタイマー	74	6.7
4 無職 (主婦)	147	13.4
5 無職 (学生)	22	2.0
6 無職 (その他)	91	8.3
(無回答)	19	1.7
合計	1,101	100.0



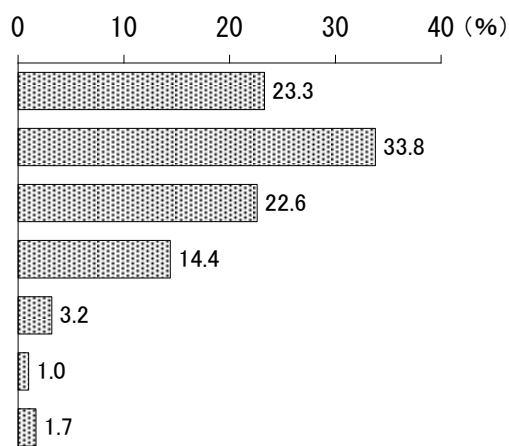
4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	271	24.6%
2 日本橋地域	353	32.1
3 月島地域	464	42.1
(無 回 答)	13	1.2
合 計	1,101	100.0



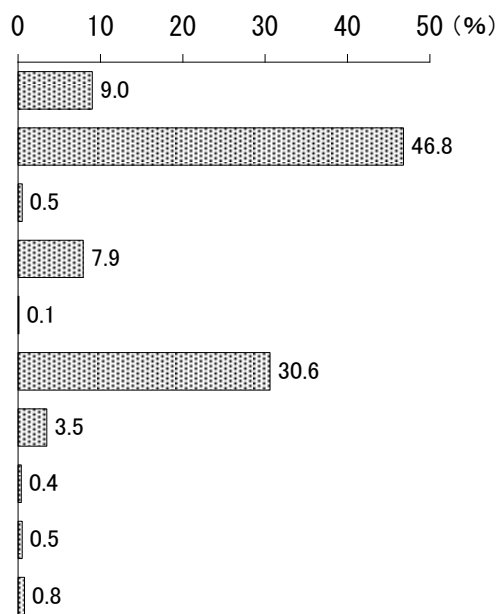
5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	257	23.3%
2 2人	372	33.8
3 3人	249	22.6
4 4人	158	14.4
5 5人	35	3.2
6 6人以上	11	1.0
(無 回 答)	19	1.7
合 計	1,101	100.0



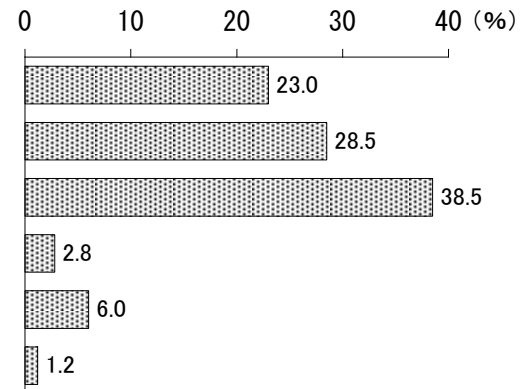
6 住居形態

	基数	構成比
1 持家 一戸建	99	9.0%
2 持家 分譲マンション	515	46.8
3 借家 一戸建	6	0.5
4 借家 公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団))	87	7.9
5 借家 民間木造アパート	1	0.1
6 借家 民間鉄筋アパート、マンション	337	30.6
7 借家 社宅、官舎、寮	38	3.5
8 借家 間借り、住込み	4	0.4
9 その他	5	0.5
(無 回 答)	9	0.8
合 計	1,101	100.0



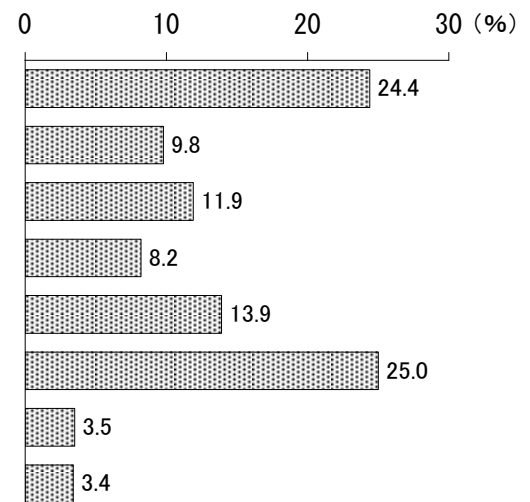
7 家族構成

	基数	構成比
1 ひとり暮らし	253	23.0%
2 夫婦だけ（1世代）	314	28.5
3 夫婦と子どもだけ（2世代）	424	38.5
4 夫婦と子どもと親（3世代）	31	2.8
5 その他	66	6.0
（無回答）	13	1.2
合計	1,101	100.0



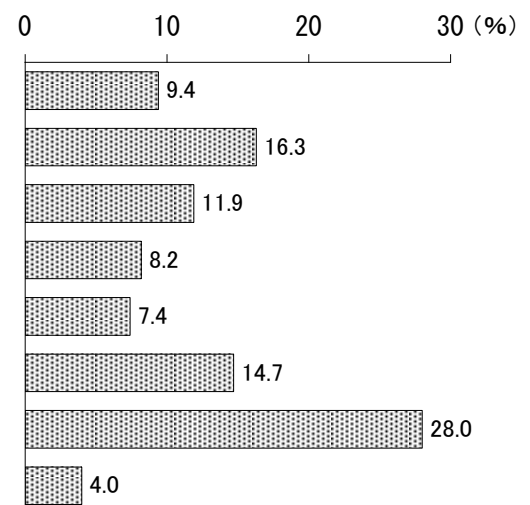
8 家族の状況

	基数	構成比
1 子どものいない夫婦	269	24.4%
2 一番上の子どもが小学校入学前	108	9.8
3 一番上の子どもが小・中学生	131	11.9
4 一番上の子どもが高校・大学生	90	8.2
5 一番上の子どもが学校卒業	153	13.9
6 独身	275	25.0
7 その他	38	3.5
（無回答）	37	3.4
合計	1,101	100.0



9 ライフステージ（7分類）

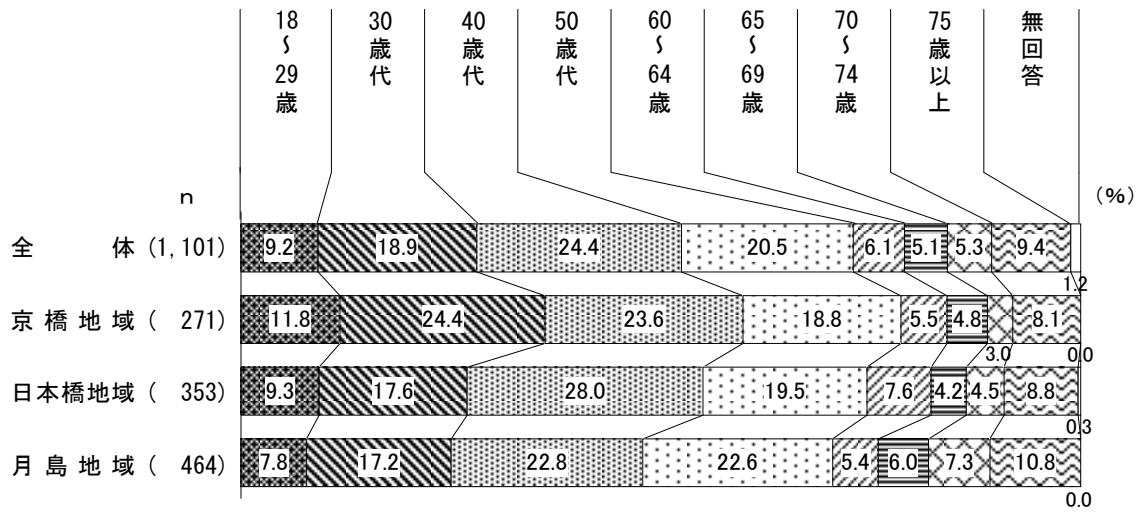
	基数	構成比
1 独身期	104	9.4%
2 家族形成期	180	16.3
3 家族成長前期	131	11.9
4 家族成長後期	90	8.2
5 家族成熟期	82	7.4
6 老齢期	162	14.7
7 その他	308	28.0
（無回答）	44	4.0
合計	1,101	100.0



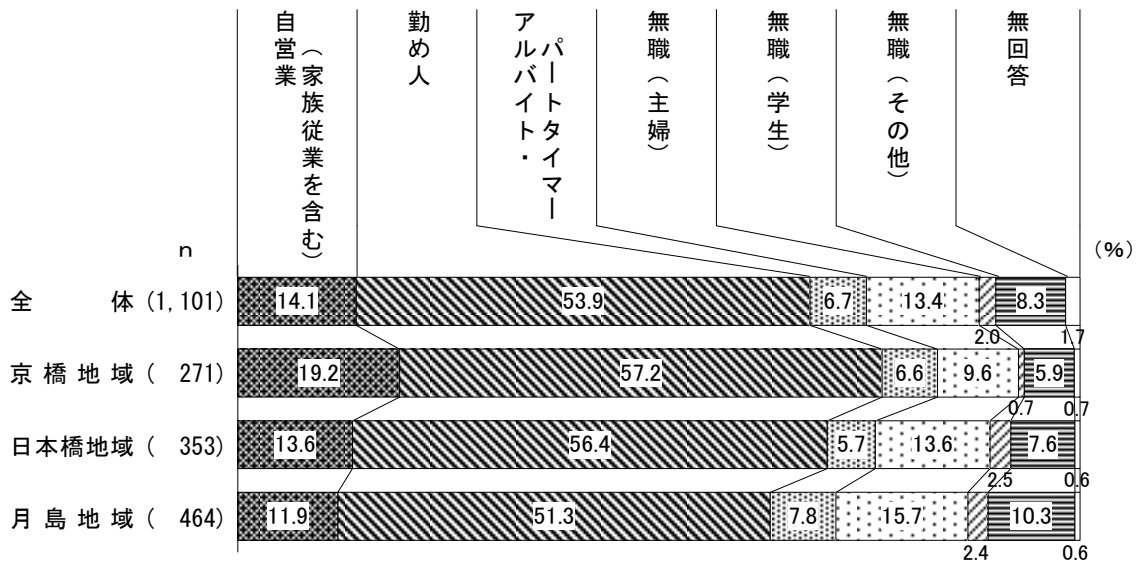
Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

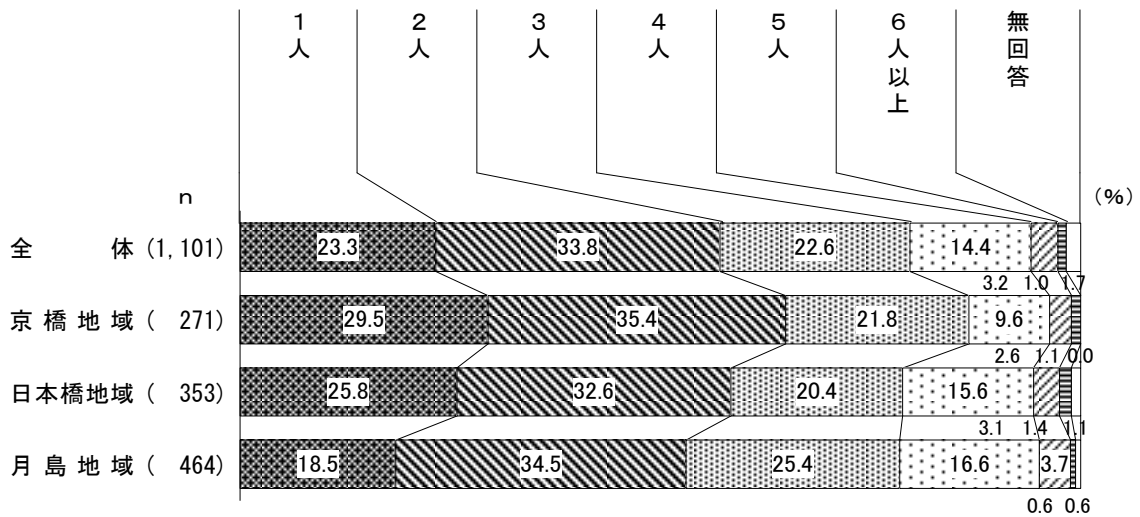
1 年齢



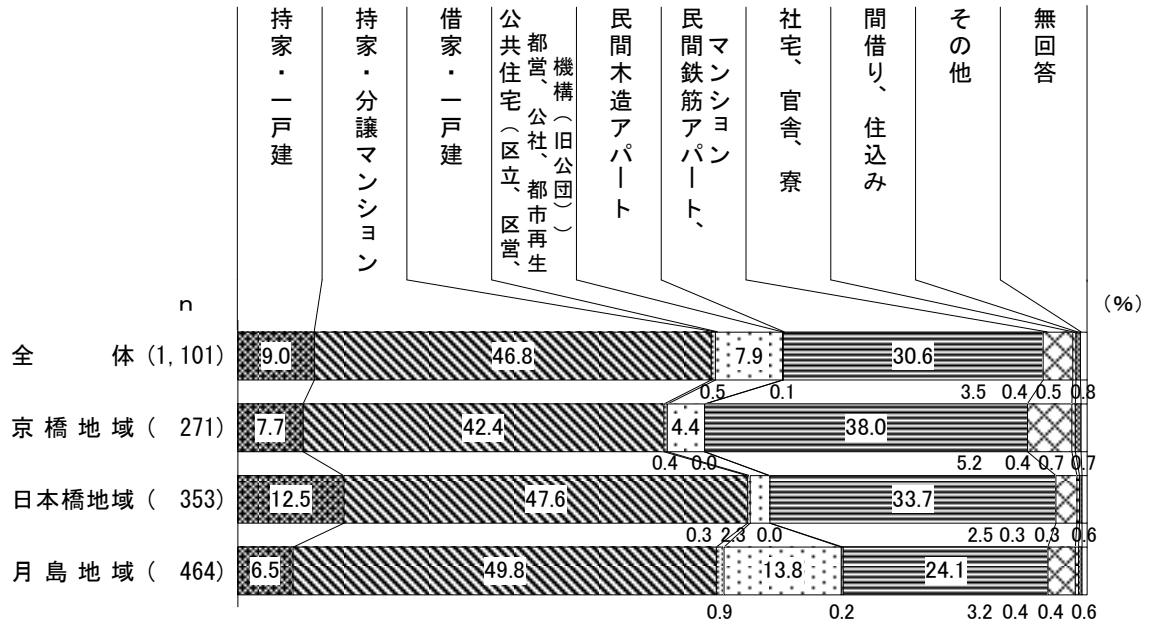
2 職業



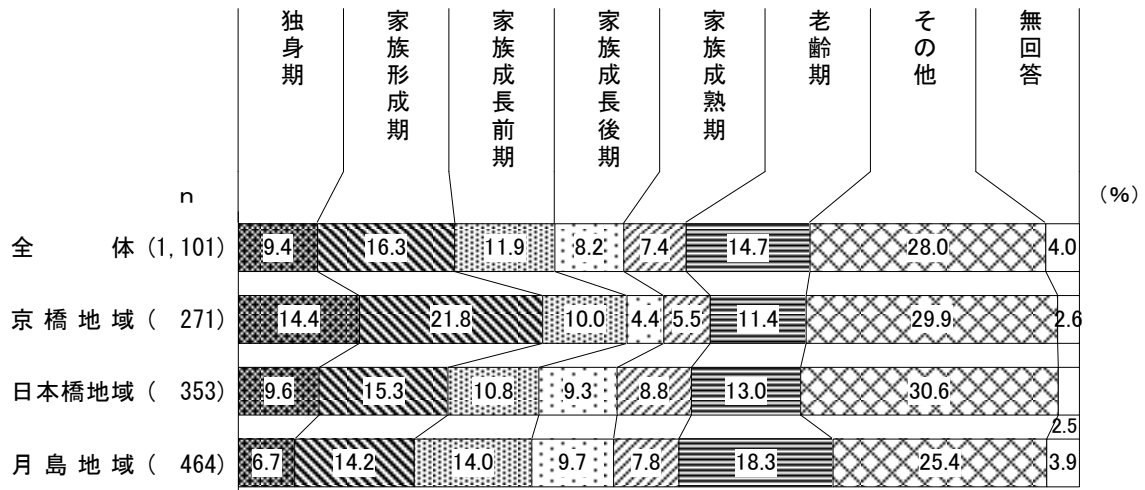
3 同居家族



4 住居形態



5 ライフステージ



IV 調査結果の分析

IV 調査結果の分析

【1 定住性】

(1) 居住年数

◇『長期居住者』が約3割、『中期居住者』が4割近く、『短期居住者』が3割を超える

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)

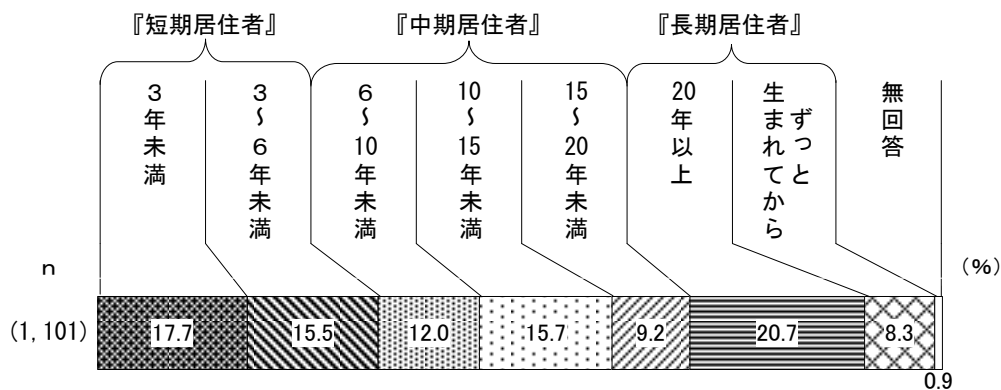
n = 1,101

1	3年未満	17.7%	5	15～20年未満	9.2
2	3～6年未満	15.5	6	20年以上	20.7
3	6～10年未満	12.0	7	生まれてからずっと	8.3
4	10～15年未満	15.7		(無回答)	0.9

居住年数は、「20年以上」(20.7%)が最も高くなっており、「生まれてからずっと」(8.3%)と合わせた『長期居住者』(29.0%)は約3割となっている。

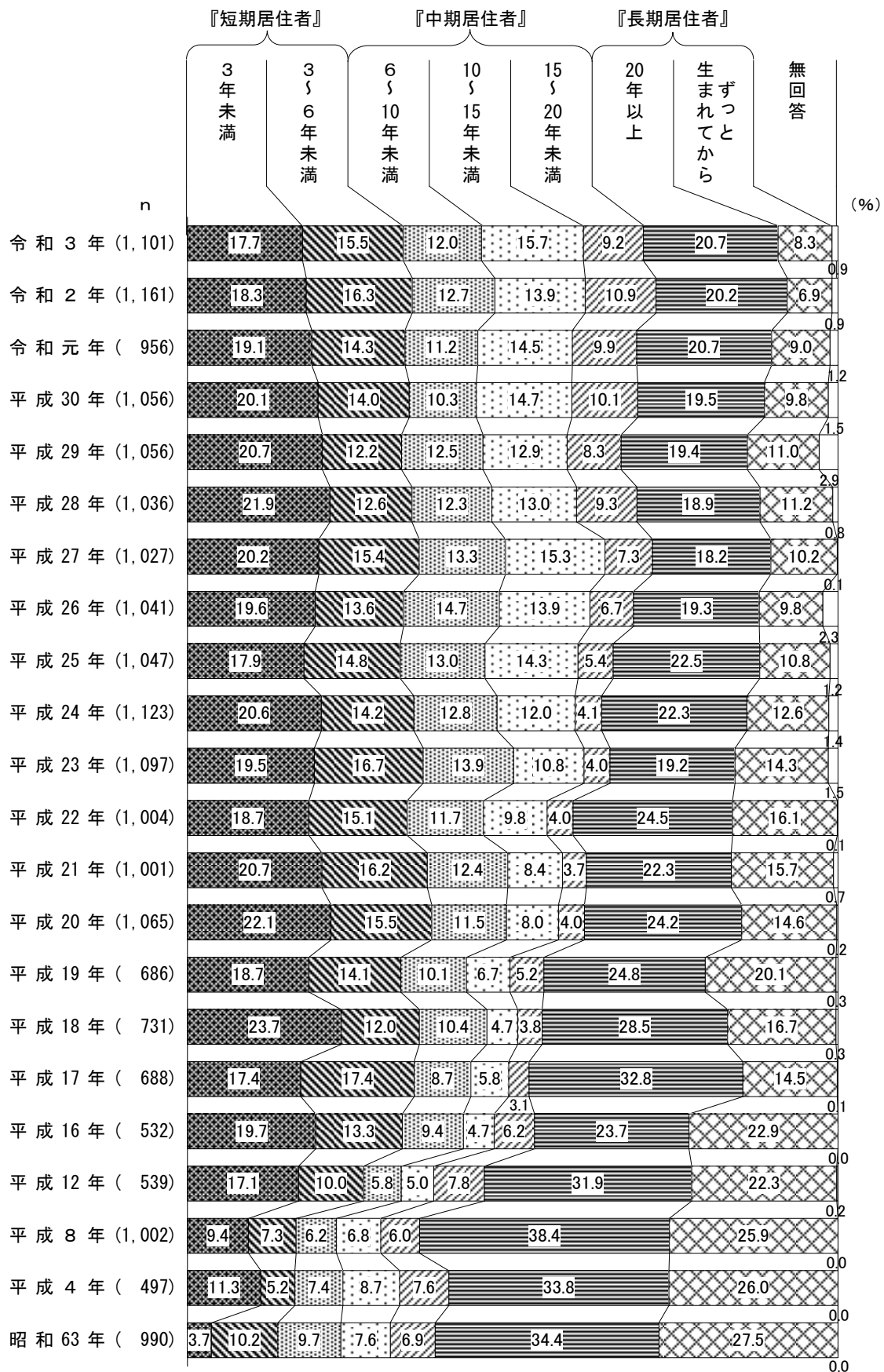
また、「6～10年未満」(12.0%)と「10～15年未満」(15.7%)、「15～20年未満」(9.2%)を合わせた『中期居住者』(36.9%)は4割近くとなっている。「3年未満」(17.7%)と「3～6年未満」(15.5%)を合わせた『短期居住者』(33.2%)は3割を超えている。(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



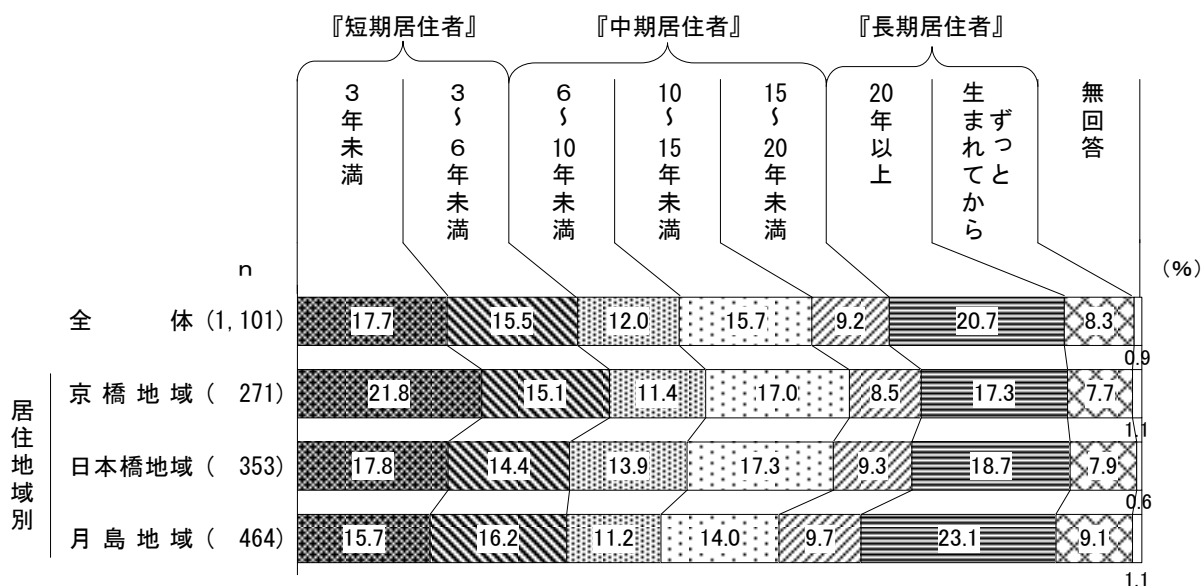
過去の調査結果と比較すると、平成26年以降大きな傾向の違いはみられない。(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数一過年度比較



居住地域別で見ると、『短期居住者』は京橋地域で4割近くと高くなっている。『中期居住者』は日本橋地域で約4割と高くなっている。『長期居住者』は月島地域で3割を超えて高くなっている。
 (図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数—居住地域別



(2) 愛着心

◇愛着を『感じる』人が8割を超える

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。

(○は1つ)

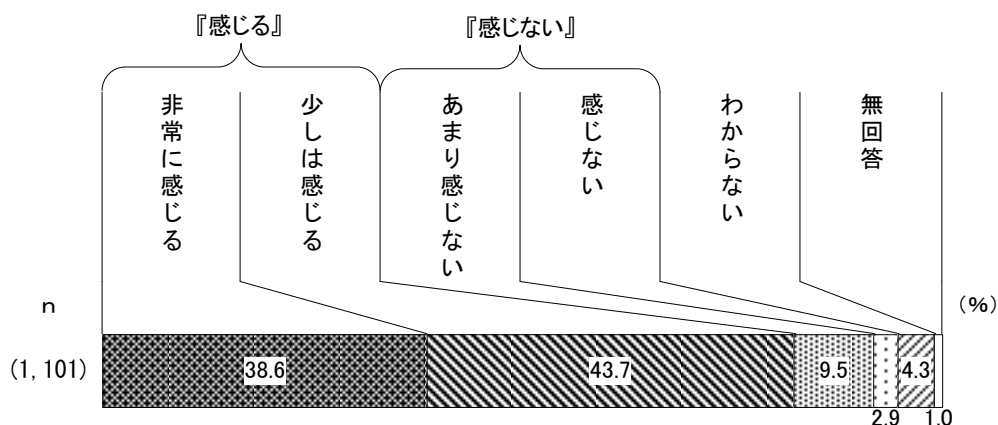
n = 1,101

1	非常に感じる	38.6%	4	感じない	2.9
2	少しは感じる	43.7	5	わからない	4.3
3	あまり感じない	9.5		(無回答)	1.0

愛着心は、「少しは感じる」(43.7%)が最も高くなっており、「非常に感じる」(38.6%)と合わせた『感じる』(82.3%)は8割を超えている。

一方、「あまり感じない」(9.5%)と「感じない」(2.9%)を合わせた『感じない』(12.4%)は1割を超えている。(図表1-2-1)

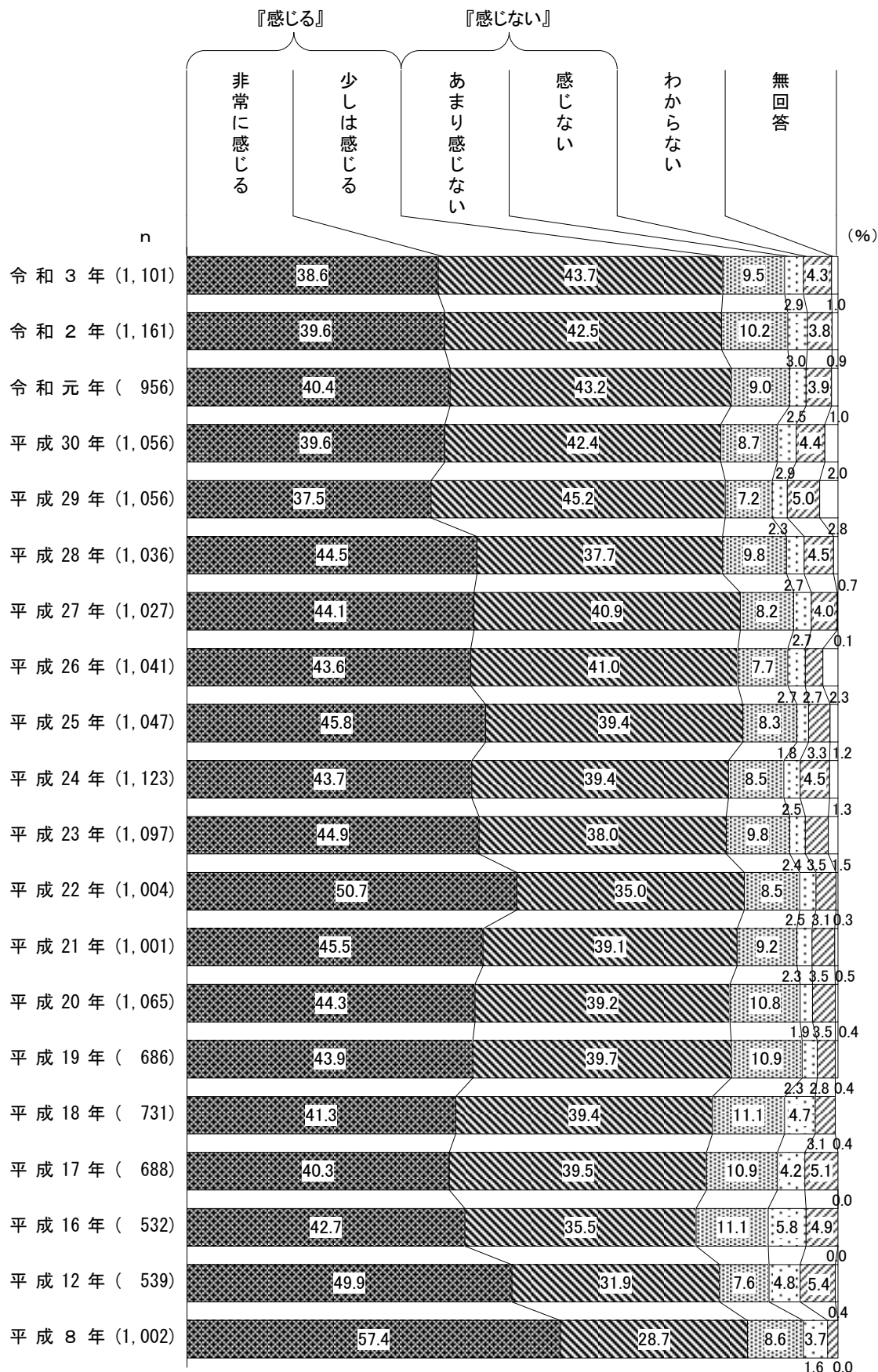
図表1-2-1 愛着心



過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成18年以降8割台で推移している。

(図表1-2-2)

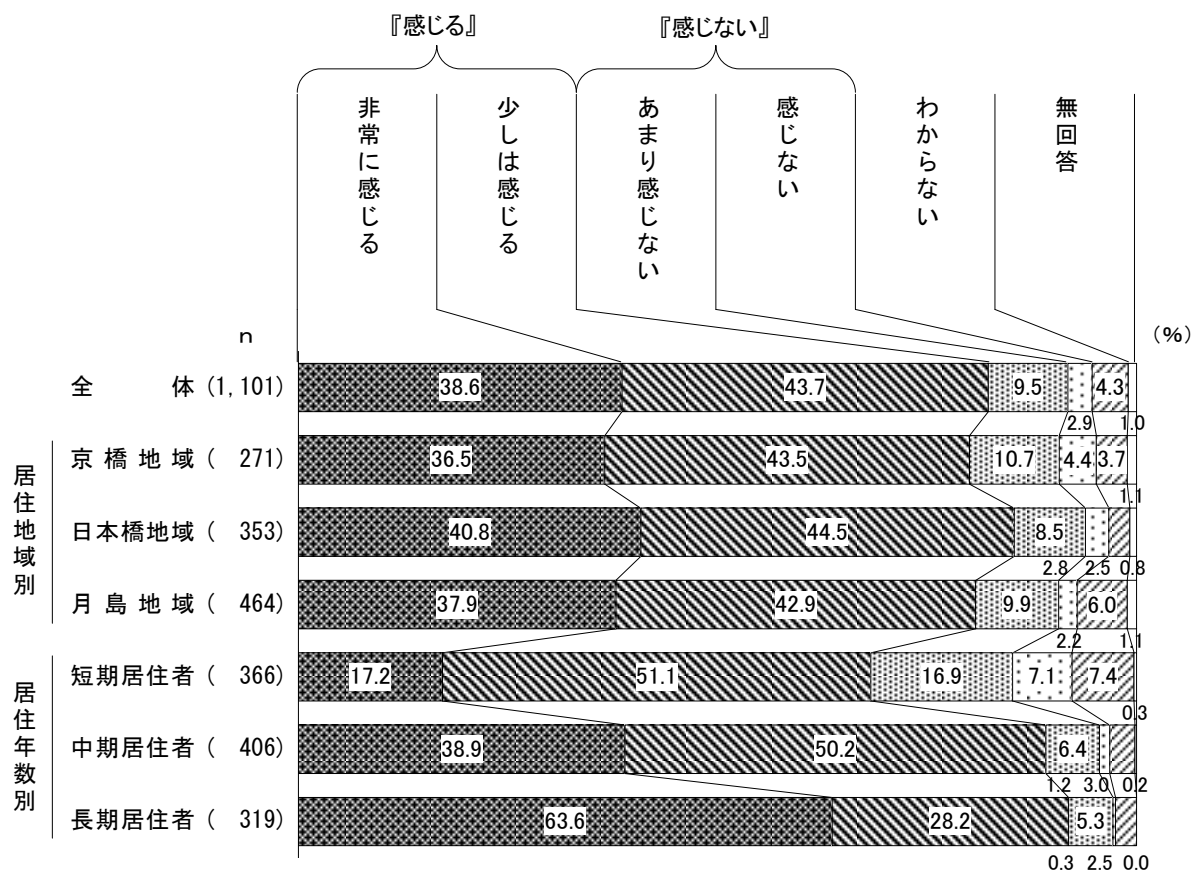
図表1-2-2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、『感じる』は日本橋地域で8割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、『感じる』は長期居住者で9割を超え、中期居住者で約9割と高くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別



(3) 定住意向

◇『定住意向』が8割台半ば

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

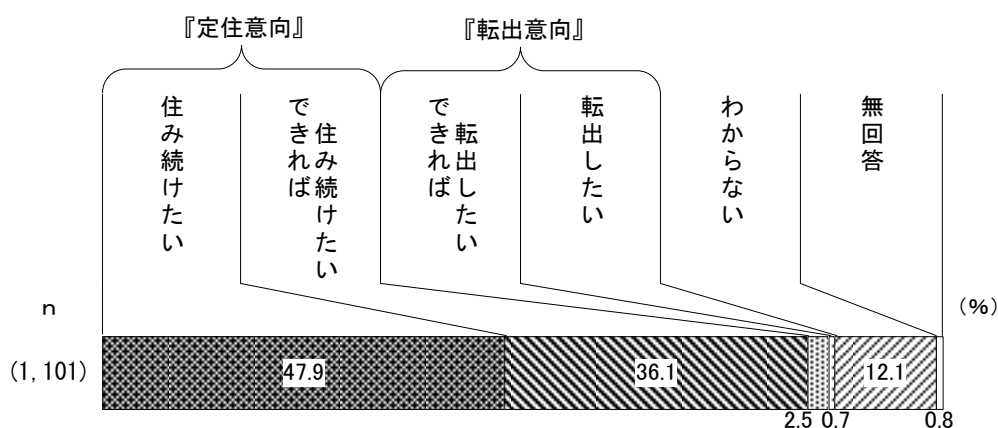
n = 1,101

1	住み続けたい	47.9%	4	転出したい	0.7
2	できれば住み続けたい	36.1	5	わからない	12.1
3	できれば転出したい	2.5		(無回答)	0.8

定住意向は、「住み続けたい」(47.9%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(36.1%)と合わせた『定住意向』(84.0%)は8割台半ばとなっている。

一方、「できれば転出したい」(2.5%)と「転出したい」(0.7%)を合わせた『転出意向』(3.2%)は1割に満たない。(図表1-3-1)

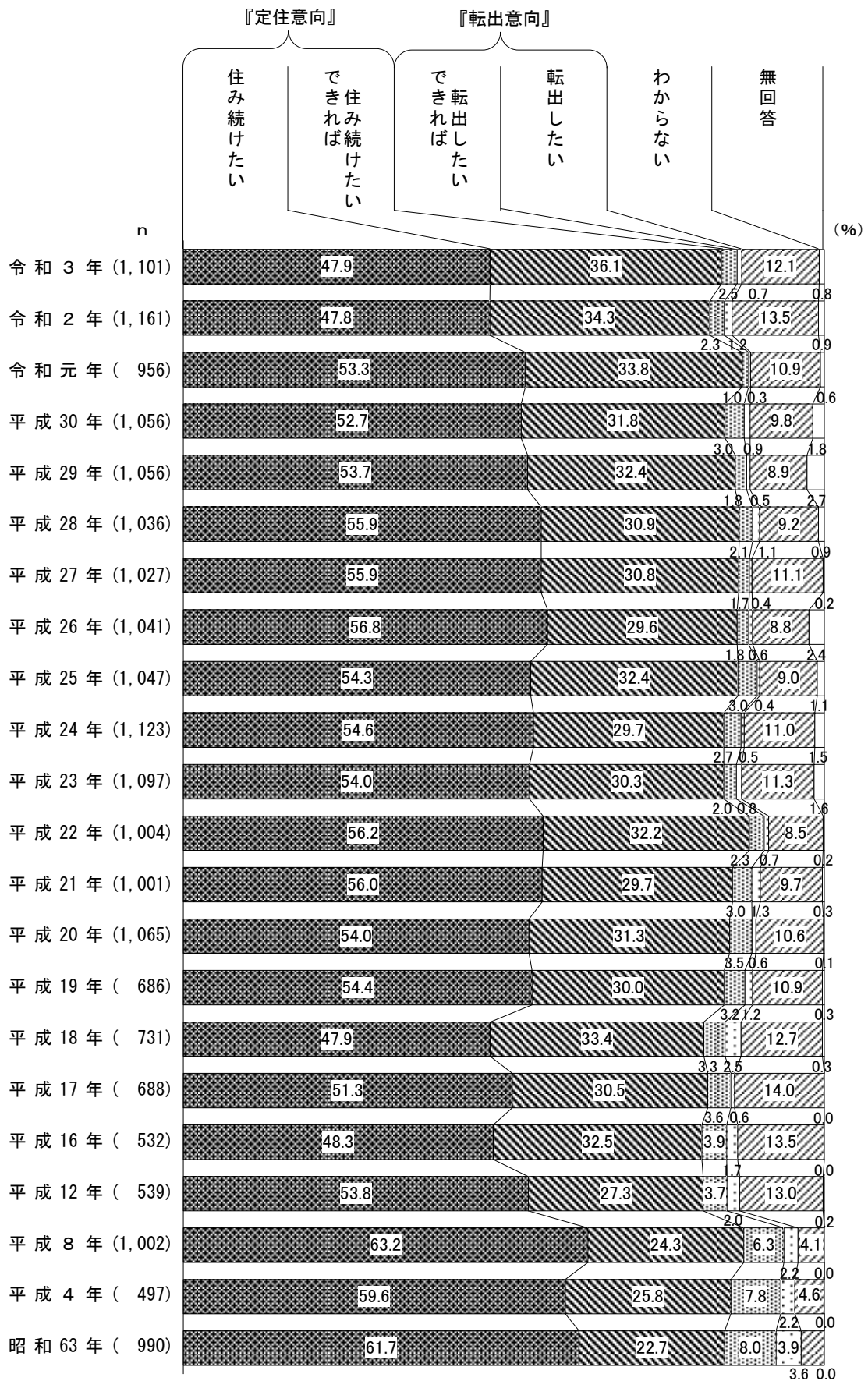
図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は昭和63年以降8割台で推移している。

(図表1-3-2)

図表1-3-2 定住意向-過年度比較



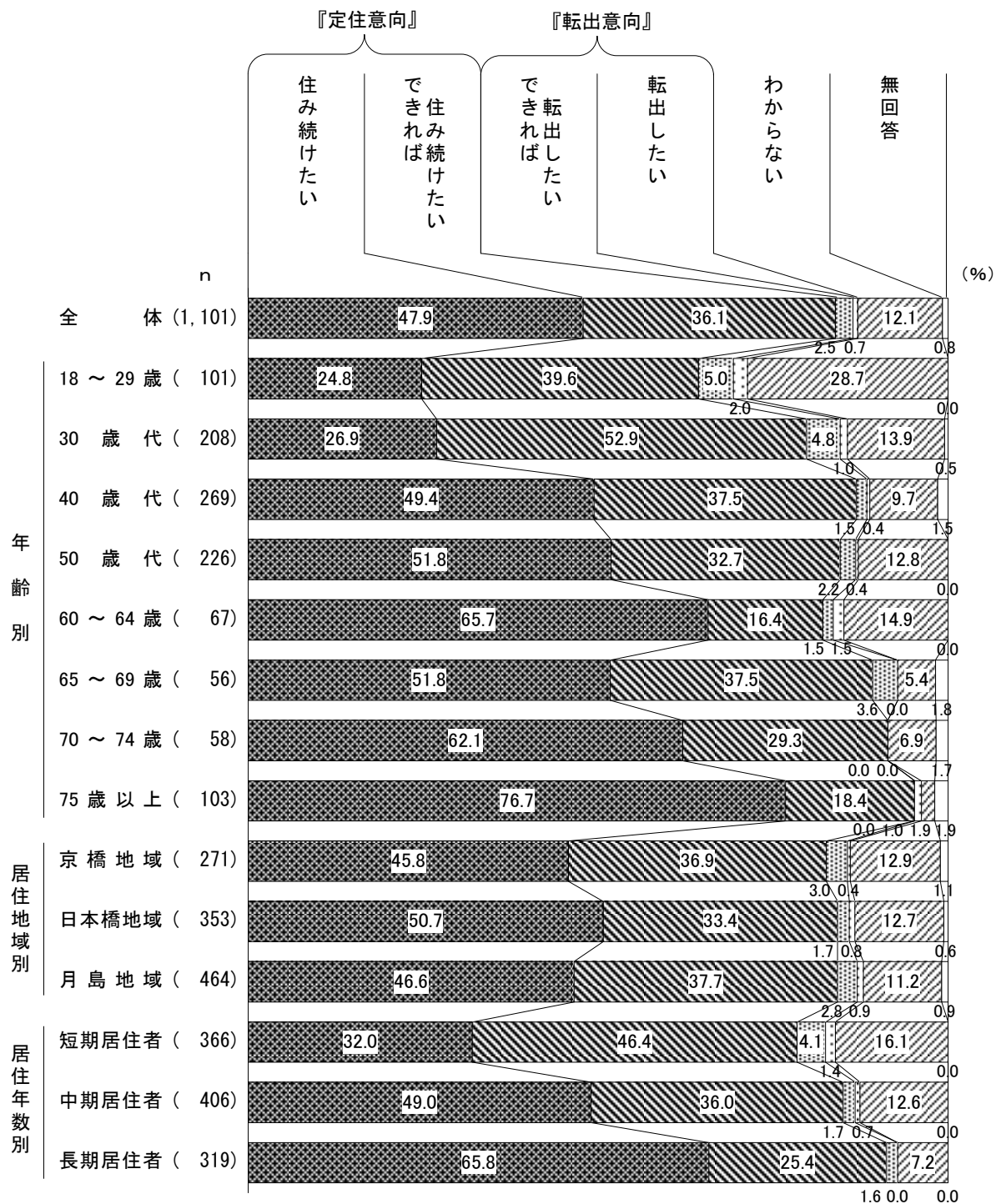
年齢別でみると、『定住意向』は75歳以上で9割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は日本橋地域と月島地域で8割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は長期居住者で9割を超えて高くなっている。

(図表 1-3-3)

図表 1-3-3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



【2 防災対策】

(1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が7割を超える

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

n = 1, 101

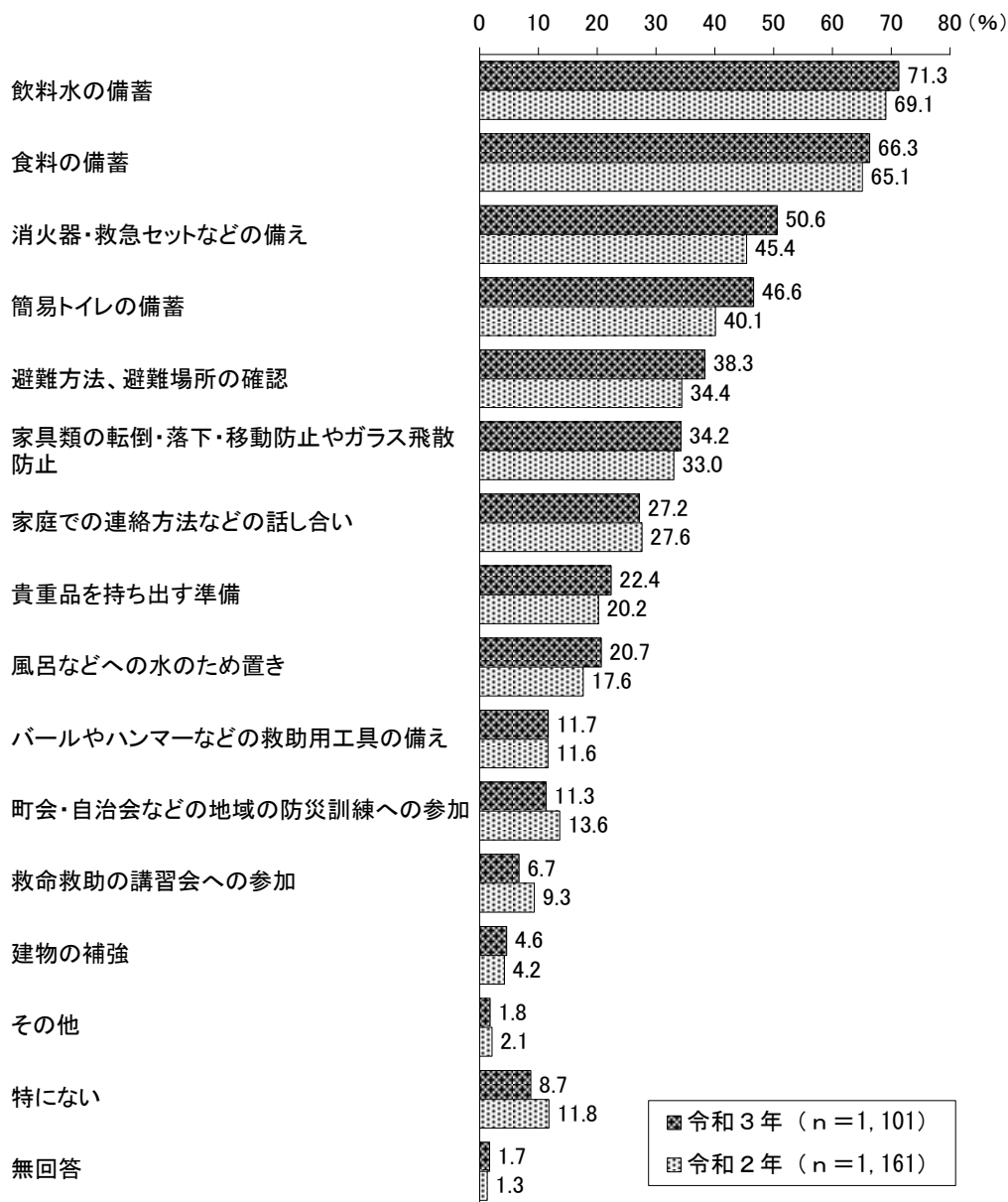
1 食料の備蓄	66.3%
2 飲料水の備蓄	71.3
3 簡易トイレの備蓄	46.6
4 家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止	34.2
5 消火器・救急セットなどの備え	50.6
6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え	11.7
7 貴重品を持ち出す準備	22.4
8 風呂などへの水のため置き	20.7
9 救命救助の講習会への参加	6.7
10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	11.3
11 避難方法、避難場所の確認	38.3
12 家庭での連絡方法などの話し合い	27.2
13 建物の補強	4.6
14 その他	1.8
15 特にない	8.7
(無回答)	1.7

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(71.3%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(66.3%)、「消火器・救急セットなどの備え」(50.6%)、「簡易トイレの備蓄」(46.6%)、「避難方法、避難場所の確認」(38.3%)、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」(34.2%)などとなっている。一方、「特にない」(8.7%)は1割に満たない。

昨年の調査結果と比較すると、「簡易トイレの備蓄」は6.5ポイント、「消火器・救急セットなどの備え」は5.2ポイント、「避難方法、避難場所の確認」は3.9ポイント、それぞれ増加している。

(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え（複数回答）



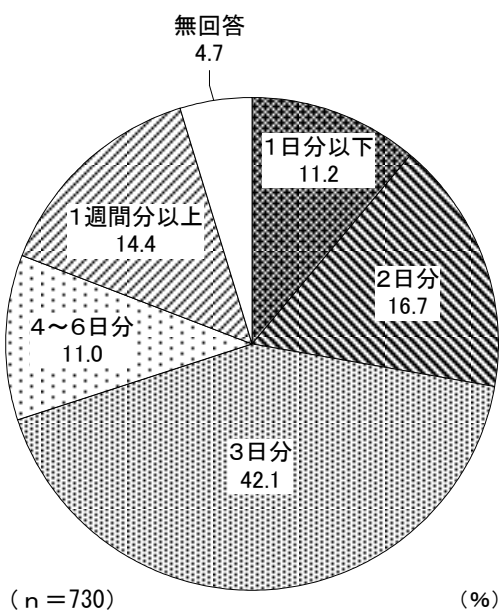
* 「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」の選択肢は、令和2年では「家具類の転倒防止」としていた。

食料の備蓄日数は、「3日分」(42.1%)が4割を超えて最も高く、平均備蓄日数は3.86日分となっている。(図表2-1-2)

飲料水の備蓄日数は、「3日分」(33.1%)が3割を超えて最も高く、平均備蓄日数は4.13日分となっている。(図表2-1-3)

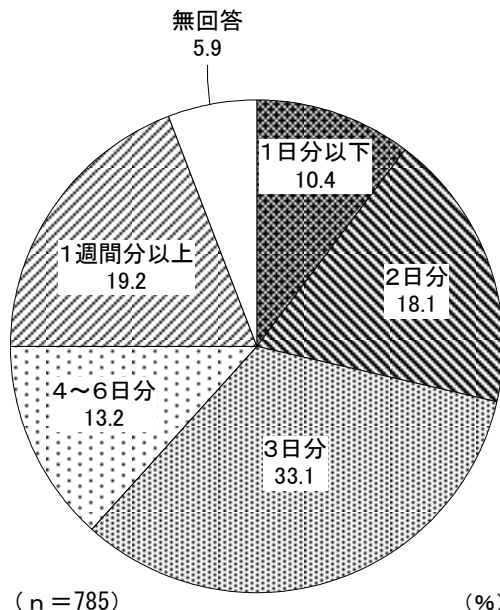
簡易トイレの備蓄日数は、「3日分」(27.9%)が3割近くで最も高く、平均備蓄日数は4.49日分となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-2 食料の備蓄日数



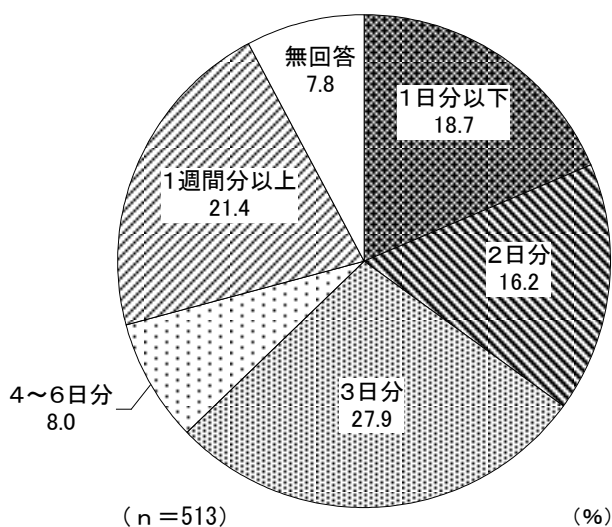
平均備蓄日数 : 3.86日

図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.13日

図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.49日

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」と「食料の備蓄」、「消火器・救急セットなどの備え」が引き続き上位3項目となっている。

(図表2-1-5)

図表2-1-5 家庭での災害に対する備え一過年度比較

調査年	n	(%)															
		飲料水の備蓄	食料の備蓄	消火器・救急セットなどの備え	簡易トイレの備蓄	避難方法、避難場所の確認	家具類の転倒・落下・移動防止	家庭での連絡方法などの話し合い	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	バールやハンマーなどの救助用工具の備え	町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	救命救助の講習会への参加	建物の補強	その他	特になし	無回答
令和3年	1,101	71.3	66.3	50.6	46.6	38.3	34.2	27.2	22.4	20.7	11.7	11.3	6.7	4.6	1.8	8.7	1.7
令和2年	1,161	69.1	65.1	45.4	40.1	34.4	33.0	27.6	20.2	17.6	11.6	13.6	9.3	4.2	2.1	11.8	1.3
令和元年	956	67.1	59.5	49.5	41.0	35.7	36.6	29.6	21.2	19.5	12.9	15.5	12.6	4.6	2.6	11.0	1.3
平成30年	1,056	63.4	54.2	46.6	37.4	33.0	36.6	27.5	18.8	18.2	11.0	15.2	11.4	5.0	2.3	12.5	1.8
平成29年	1,056	66.3	58.0	47.7	38.7	32.2	35.9	30.9	21.1	20.5	12.5	15.4	10.9	4.7	1.2	11.9	2.7
平成28年	1,036	66.4	57.0	44.8	33.2	36.0	33.5	32.7	19.6	23.5	12.5	16.0	12.7	4.5	2.6	11.1	1.1
平成27年	1,027	63.5	57.7	47.0	33.9	35.3	35.2	29.9	23.8	20.4	11.3	16.6	10.5	5.6	2.5	14.4	0.5
平成26年	1,041	67.0	60.7	50.1	36.4	37.7	37.9	33.5	22.1	25.5	12.5	16.8	14.2	4.0	2.5	10.2	3.4
平成25年	1,047	67.1	60.6	49.5	30.0	36.9	37.0	34.7	24.7	28.5	13.1	18.6	11.2	4.8	3.1	8.8	1.5
平成24年	1,123	67.7	58.9	51.6	23.5	35.5	40.1	36.2	26.2	27.0	13.1	16.5	11.0	4.2	2.2	9.0	1.8
平成23年	1,097	63.1	51.0	39.5	19.3	30.5	36.7	35.1	31.6	28.4	8.5	11.5	6.2	2.3	1.9	7.1	2.0
平成22年	1,004	42.8	37.3	39.5	※	26.7	※	21.2	17.5	21.8	6.7	16.6	7.2	5.8	1.9	19.9	2.0
平成21年	1,001	41.0	36.4	37.2	※	24.3	21.0	23.1	13.4	19.9	4.7	14.2	7.5	3.0	0.9	20.3	1.4
平成20年	1,065	41.1	24.8	31.7	※	29.6	23.6	26.1	11.0	19.5	4.2	14.3	6.5	2.1	1.6	20.5	1.9
平成19年	686	42.6	26.5	36.7	※	24.3	21.3	16.9	12.8	22.6	4.5	14.0	6.0	1.6	0.7	25.8	0.7

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」の選択肢は、令和2年以前は「家具類の転倒防止」としていた。

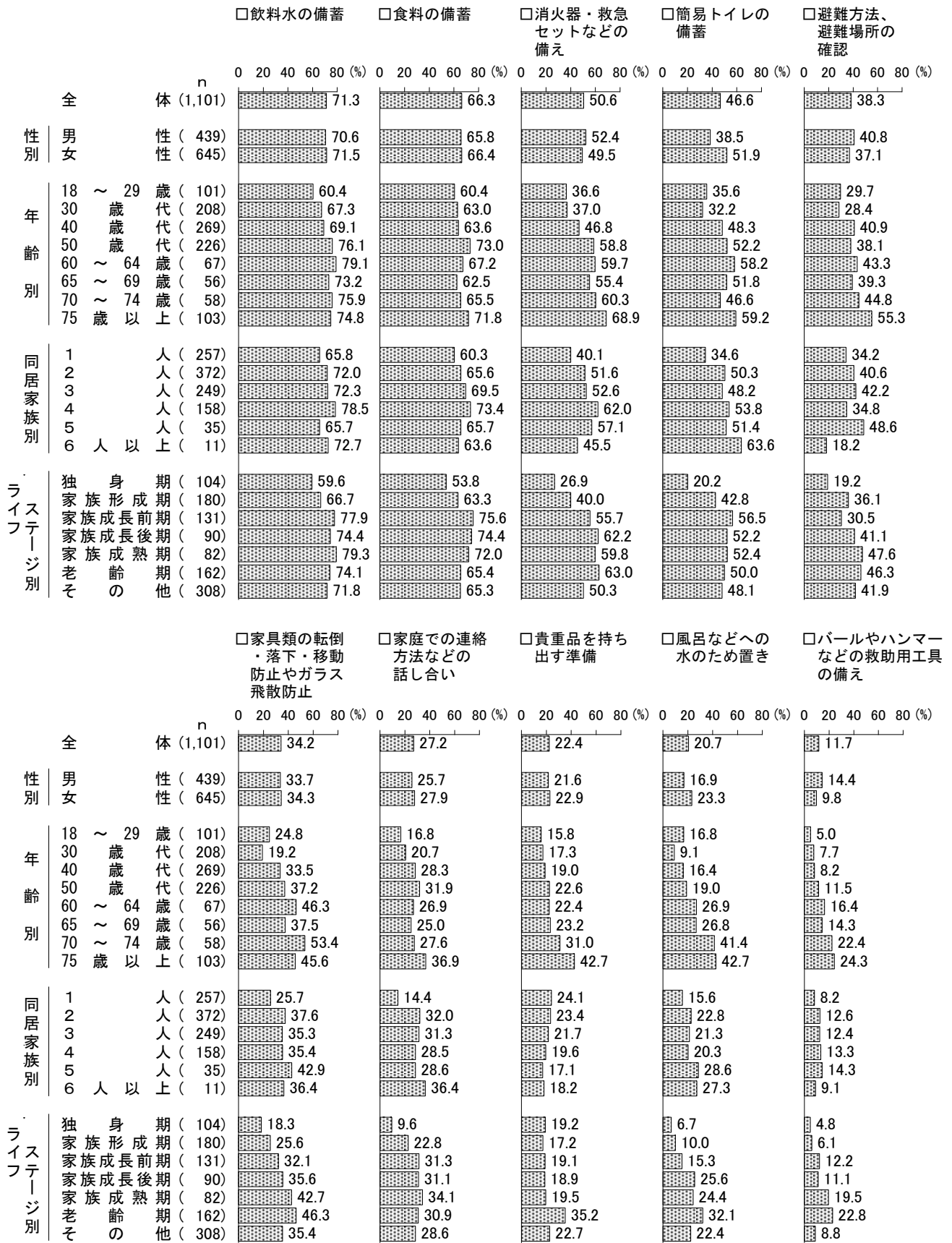
性別でみると、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で13.4ポイント、「風呂などへの水のため置き」で6.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「バールやハンマーなどの救助用工具の備え」で4.6ポイント、「避難方法、避難場所の確認」で3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「飲料水の備蓄」は60～64歳で約8割と高くなっている。「食料の備蓄」は50歳代と75歳以上で7割を超えて高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は75歳以上で7割近くと高くなっている。「簡易トイレの備蓄」は75歳以上で約6割と高くなっている。

同居家族別でみると、「飲料水の備蓄」は同居家族4人で8割近くと高くなっている。「食料の備蓄」は同居家族4人で7割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「飲料水の備蓄」は家族成熟期で約8割と高くなっている。「食料の備蓄」は家族成長前期と家族成長後期で7割台半ばと高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は老齢期と家族成長後期で6割を超えて高くなっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 家庭での災害に対する備え—性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別
(上位10項目)



(2) 防災拠点の認知度

◇「知っている」が6割を超える

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

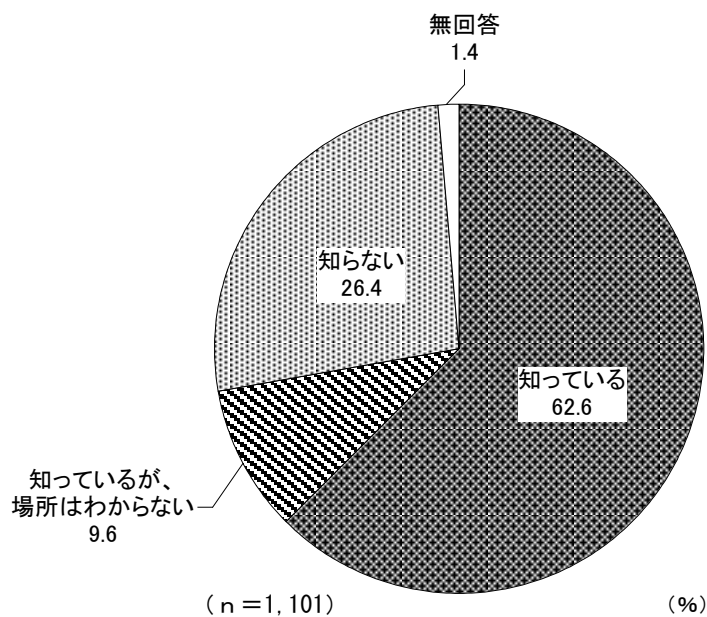
n = 1, 101

1	知っている	62.6%	3	知らない	26.4
2	知っているが、場所はわからない	9.6		(無回答)	1.4

防災拠点の認知度は、「知っている」(62.6%)が6割を超えて最も高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(9.6%)は1割で、「知らない」(26.4%)は2割台半ばとなっている。

(図表2-2-1)

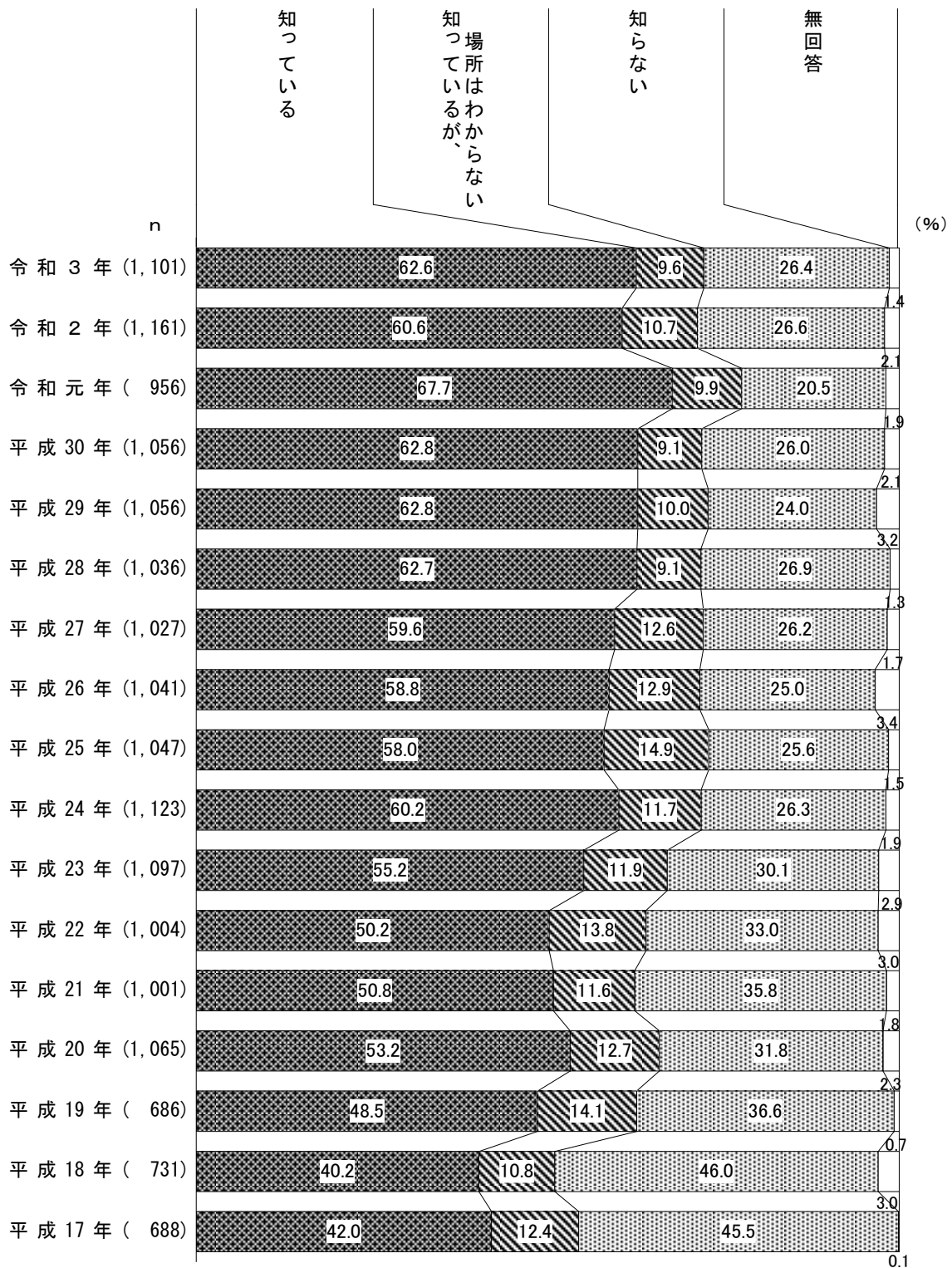
図表2-2-1 防災拠点の認知度



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成28年以降6割台で推移している。

(図表2-2-2)

図表2-2-2 防災拠点の認知度一過年度比較



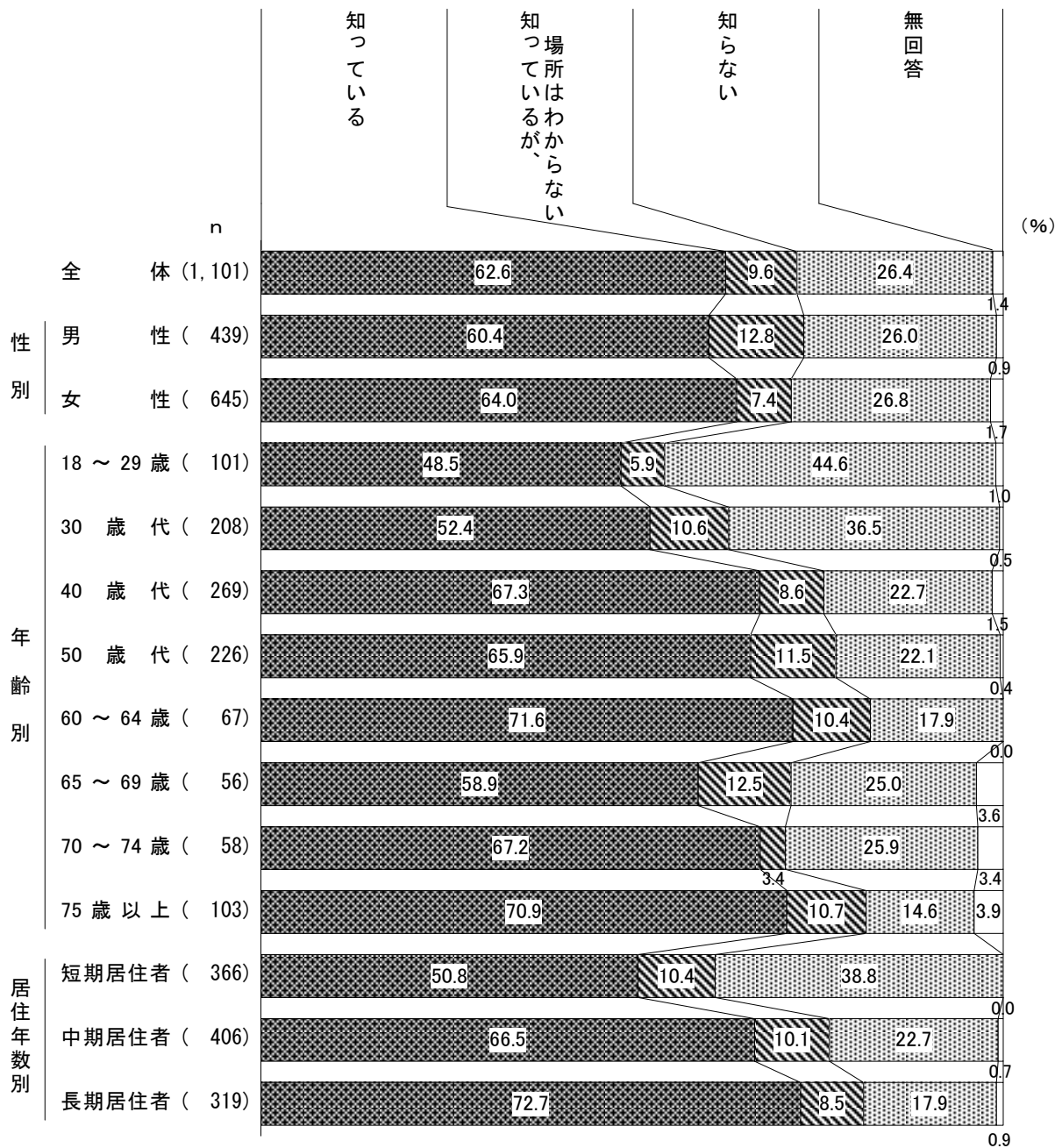
性別でみると、女性の方が男性よりも「知っている」で3.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「知っている」は60～64歳と75歳以上で7割台と高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は長期居住者で7割を超えて高くなっている。

(図表 2-2-3)

図表 2-2-3 防災拠点の認知度—性別・年齢別・居住年数別



(3) 災害に備えた地域の協力体制

◇「知っている」が2割を超える

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(〇は1つ)

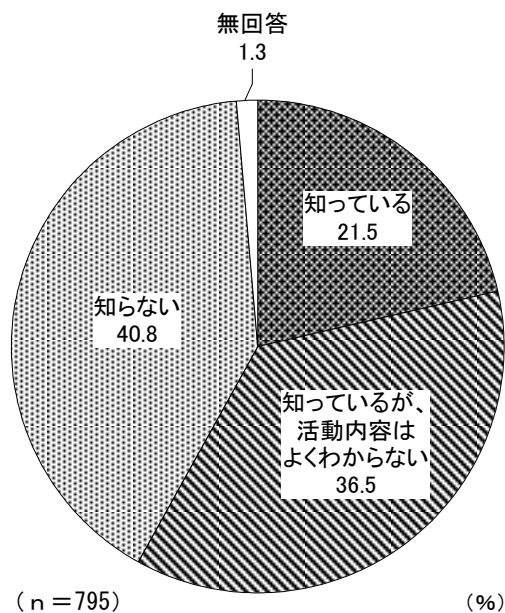
n = 795

1 知っている	21.5%	3 知らない	40.8
2 知っているが、活動内容はよくわからない	36.5	(無回答)	1.3

問5で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」と回答した方の、災害に備えた地域の協力体制は、「知っている」(21.5%)が2割を超えている。「知っているが、活動内容はよくわからない」(36.5%)は4割近くで、「知らない」(40.8%)は約4割となっている。

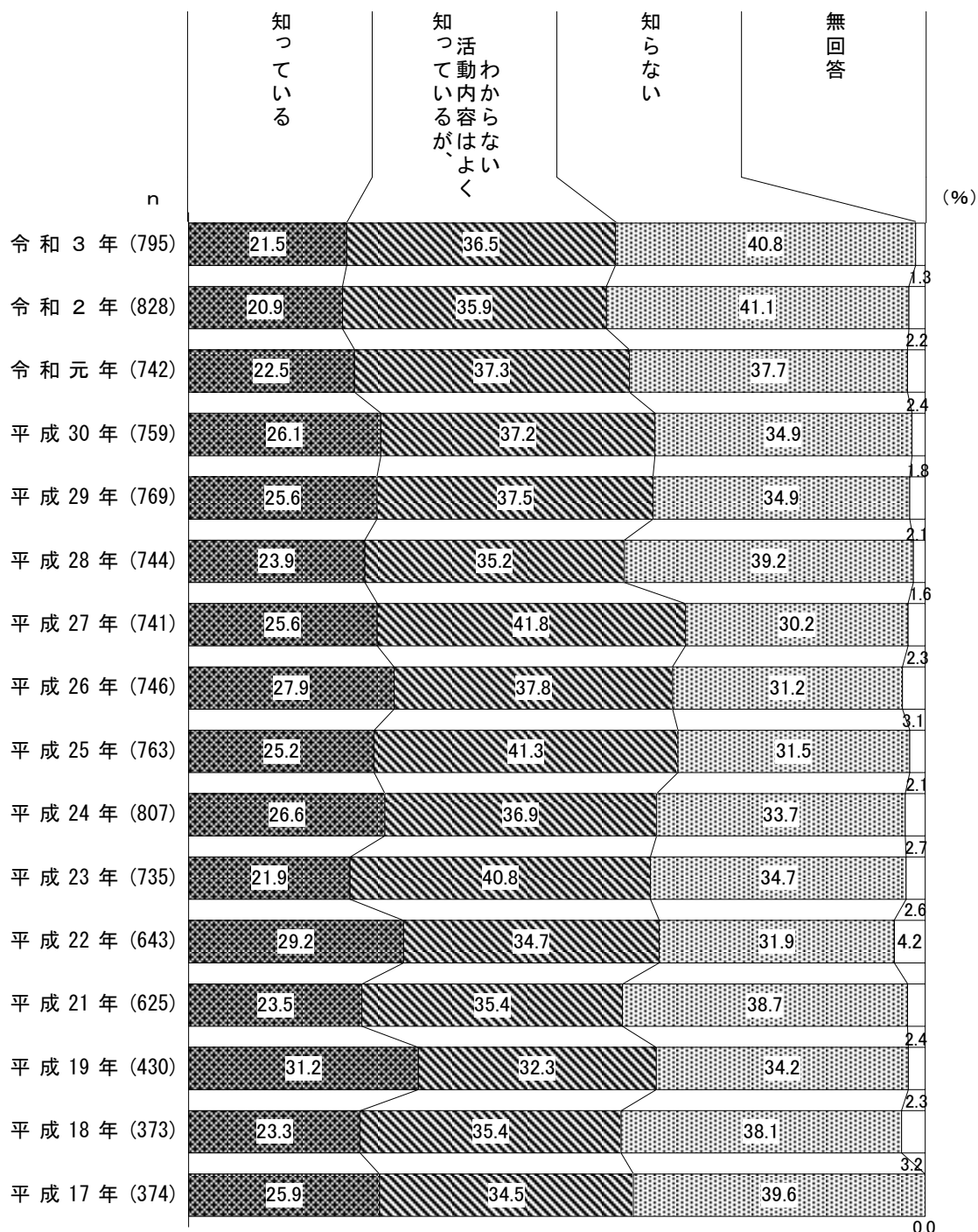
(図表2-3-1)

図表2-3-1 災害に備えた地域の協力体制



過去の調査結果と比較すると、「知らない」は令和2年に引き続き4割台となっており、大きな傾向の違いはみられない。(図表2-3-2)

図表2-3-2 災害に備えた地域の協力体制一過年度比較



(4) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が5割を超える

問6 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1, 101

1	区のホームページ	42.6%
2	防災マップアプリ	27.2
3	ちゅうおう安全・安心メール	22.2
4	インターネット	53.0
5	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	39.0
6	防災行政無線(屋外スピーカー)	33.8
7	緊急告知ラジオ	28.7
8	ケーブルテレビ	3.8
9	その他	2.5
	(無回答)	2.3

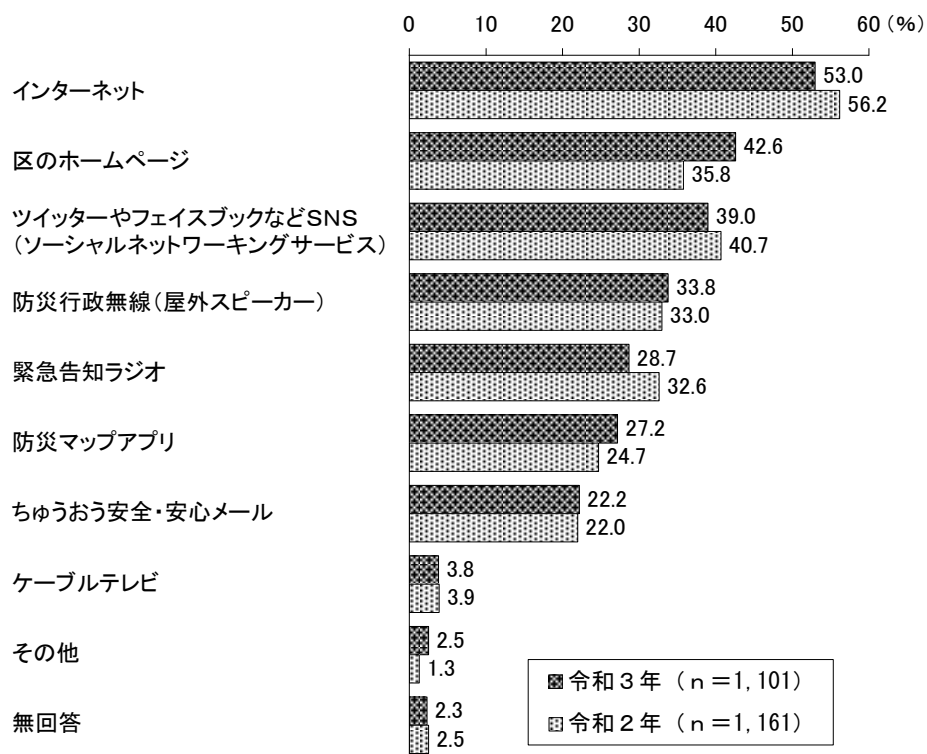
(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(53.0%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(42.6%)、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(39.0%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(33.8%)、「緊急告知ラジオ」(28.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区のホームページ」は6.8ポイント増加している。一方、「緊急告知ラジオ」は3.9ポイント、「インターネット」は3.2ポイント、それぞれ減少している。

(図表2-4-1)

図表2-4-1 災害情報を得る手段として有効だと思うもの（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「インターネット」は平成27年以降5割台で推移している。(図表2-4-2)

図表2-4-2 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—過年度比較

調査年	n	インターネット	区のホームページ	ツイッターやフェイスブックなどSNS	防災行政無線(屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
令和3年	1,101	53.0	42.6	39.0	33.8	28.7	27.2	22.2	3.8	2.5	2.3
令和2年	1,161	56.2	35.8	40.7	33.0	32.6	24.7	22.0	3.9	1.3	2.5
令和元年	956	51.4	28.7	36.3	38.1	36.1	25.2	20.6	3.8	1.9	3.9
平成30年	1,056	54.6	29.9	38.9	37.2	37.3	19.0	18.4	6.0	1.8	3.2
平成29年	1,056	52.0	26.9	38.9	38.8	42.0	※	19.0	4.6	1.8	3.0
平成28年	1,036	52.7	27.5	38.3	40.6	40.2	※	18.5	6.9	2.4	2.2
平成27年	1,027	50.1	28.6	31.6	39.6	42.7	※	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	25.4	30.5	40.7	45.6	※	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	26.7	29.5	47.3	47.3	※	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	22.1	27.6	44.5	48.8	※	15.0	7.2	3.0	3.9

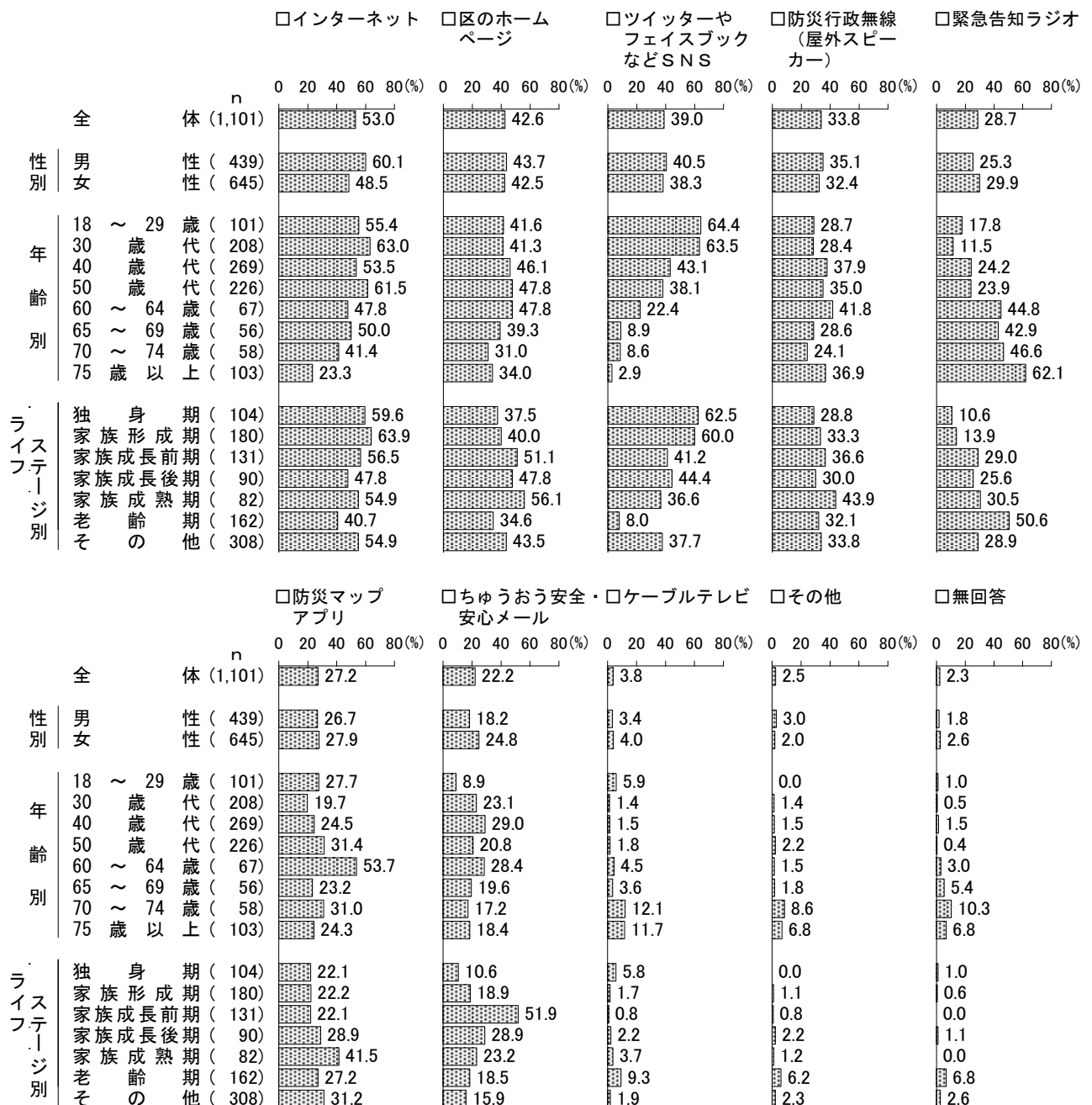
* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

性別でみると、男性の方が女性よりも「インターネット」で11.6ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「ちゅうおう安全・安心メール」で6.6ポイント、「緊急告知ラジオ」で4.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「インターネット」は30歳代と50歳代で6割を超えて高くなっている。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳と30歳代で6割台と高くなっている。「緊急告知ラジオ」は75歳以上で6割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「インターネット」は家族形成期で6割を超えて高くなっている。「区のホームページ」は家族成熟期で5割台半ばと高くなっている。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は独身期と家族形成期で6割台と高くなっている。「ちゅうおう安全・安心メール」は家族成長前期で5割を超えて高くなっている。(図表2-4-3)

図表2-4-3 災害情報を得る手段として有効だと思うもの一性別・年齢別・ライフステージ別



【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

(1) 健康診査の受診状況

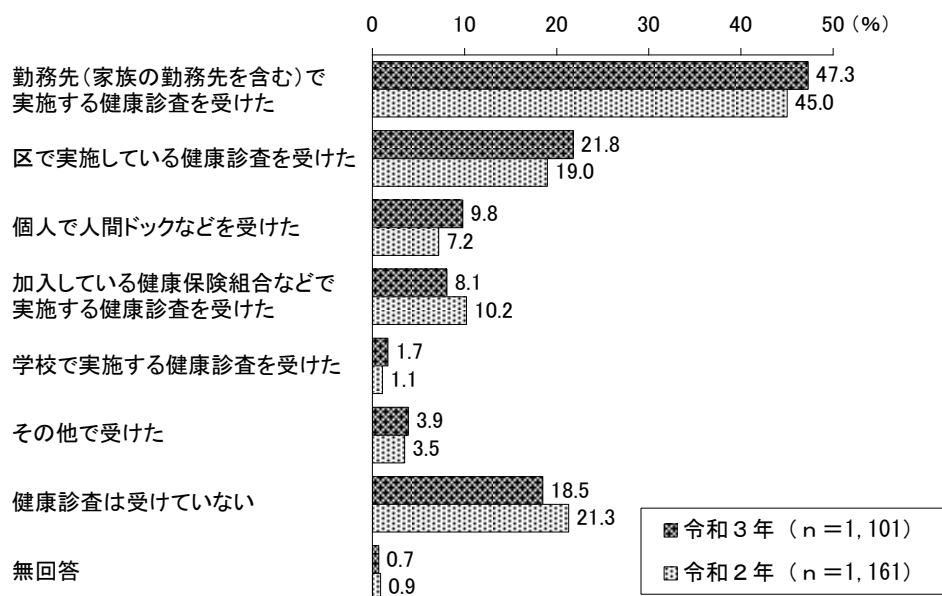
◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が5割近く

問7 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（○はいくつでも）	
n = 1, 101	
1 区で実施している健康診査を受けた	21.8%
2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	47.3
3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	8.1
4 個人で人間ドックなどを受けた	9.8
5 学校で実施する健康診査を受けた	1.7
6 その他で受けた	3.9
7 健康診査は受けていない	18.5
(無回答)	0.7

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（47.3%）が5割近くで最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（21.8%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（9.8%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（8.1%）などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」（18.5%）は2割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図表3-1-1）

図表3-1-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位2項目となっている。（図表3-1-2）

図表3-1-2 健康診査の受診状況一過年度比較

調査年	n	(%)							
		勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
令和3年	1,101	47.3	21.8	9.8	8.1	1.7	3.9	18.5	0.7
令和2年	1,161	45.0	19.0	7.2	10.2	1.1	3.5	21.3	0.9
令和元年	956	44.2	25.3	8.9	10.0	1.8	4.8	16.5	0.6
平成30年	1,056	44.7	25.7	8.8	9.8	1.3	3.4	16.1	0.6
平成29年	1,056	42.9	24.6	8.5	8.6	2.2	4.5	17.8	1.8
平成28年	1,036	42.5	27.2	9.0	8.9	1.5	4.2	17.2	0.6
平成27年	1,027	40.9	27.3	7.8	8.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	8.1	6.8	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	9.6	8.9	1.0	4.0	19.0	1.9

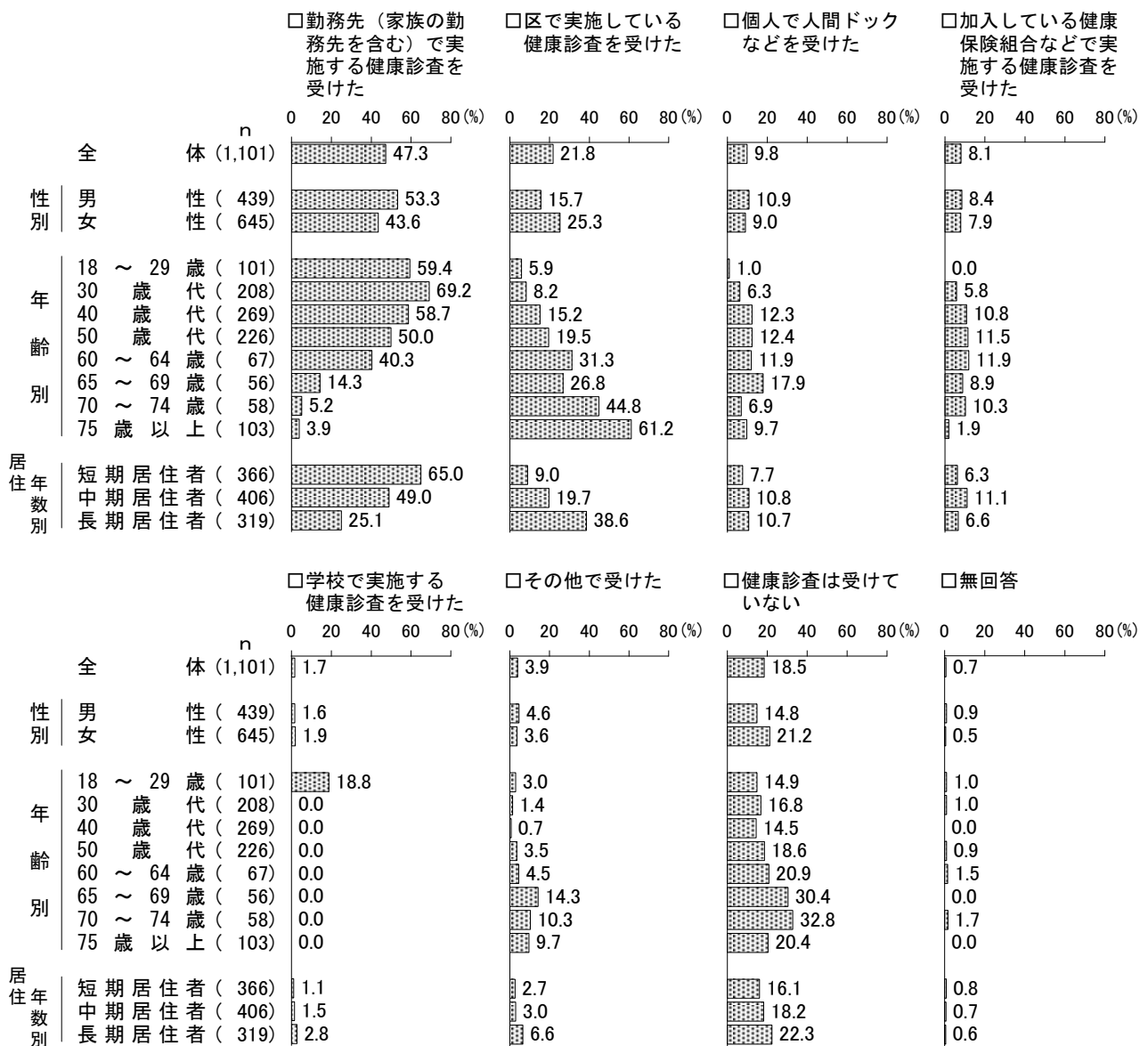
* 「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は、平成25年は「加入している健康保険で実施する健康診査を受けた」としていた。

性別でみると、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」で9.7ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「区で実施している健康診査を受けた」で9.6ポイント、「健康診査は受けていない」で6.4ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代で約7割と高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」はおおむね高い年代ほど割合が高くなっており、75歳以上で6割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で6割台半ばと高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で4割近くと高くなっている。（図表3-1-3）

図表3-1-3 健康診査の受診状況－性別・年齢別・居住年数別



(2) 健康診査を受けなかった理由

◇「時間がない」と「病気で医者にかかっている」がともに約2割

(問7で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問7-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

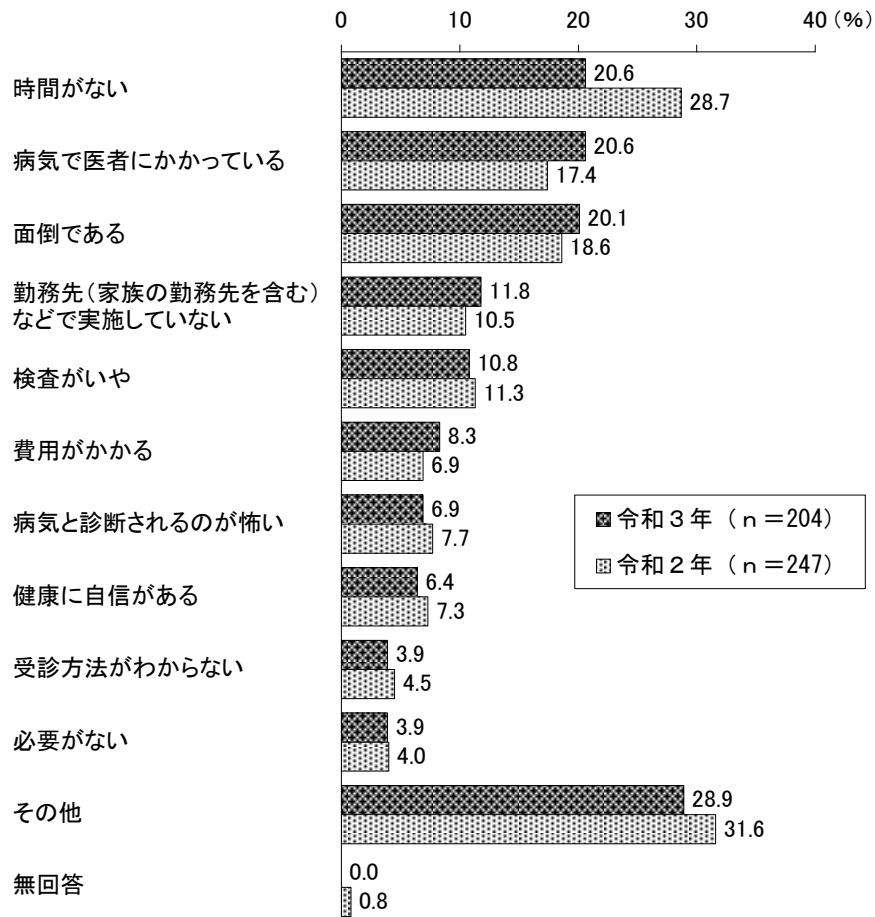
n = 204

1	勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	11.8%
2	受診方法がわからない	3.9
3	必要がない	3.9
4	時間がない	20.6
5	面倒である	20.1
6	健康に自信がある	6.4
7	病気で医者にかかっている	20.6
8	検査がいや	10.8
9	病気と診断されるのが怖い	6.9
10	費用がかかる	8.3
11	その他	28.9

問7で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「時間がない」(20.6%)と「病気で医者にかかっている」(20.6%)がともに約2割で最も高くなっている。次いで、「面倒である」(20.1%)、「勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない」(11.8%)、「検査がいや」(10.8%)などとなっている。また、「その他」の回答として、「コロナ禍のため控えた」などが多くあげられている。

昨年の調査結果と比較すると、「病気で医者にかかっている」は3.2ポイント増加している。一方、「時間がない」は8.1ポイント減少している。(図表3-2-1)

図表3-2-1 健康診査を受けなかった理由(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「時間がない」は引き続き同率で第1位となっている。(図表3-2-2)

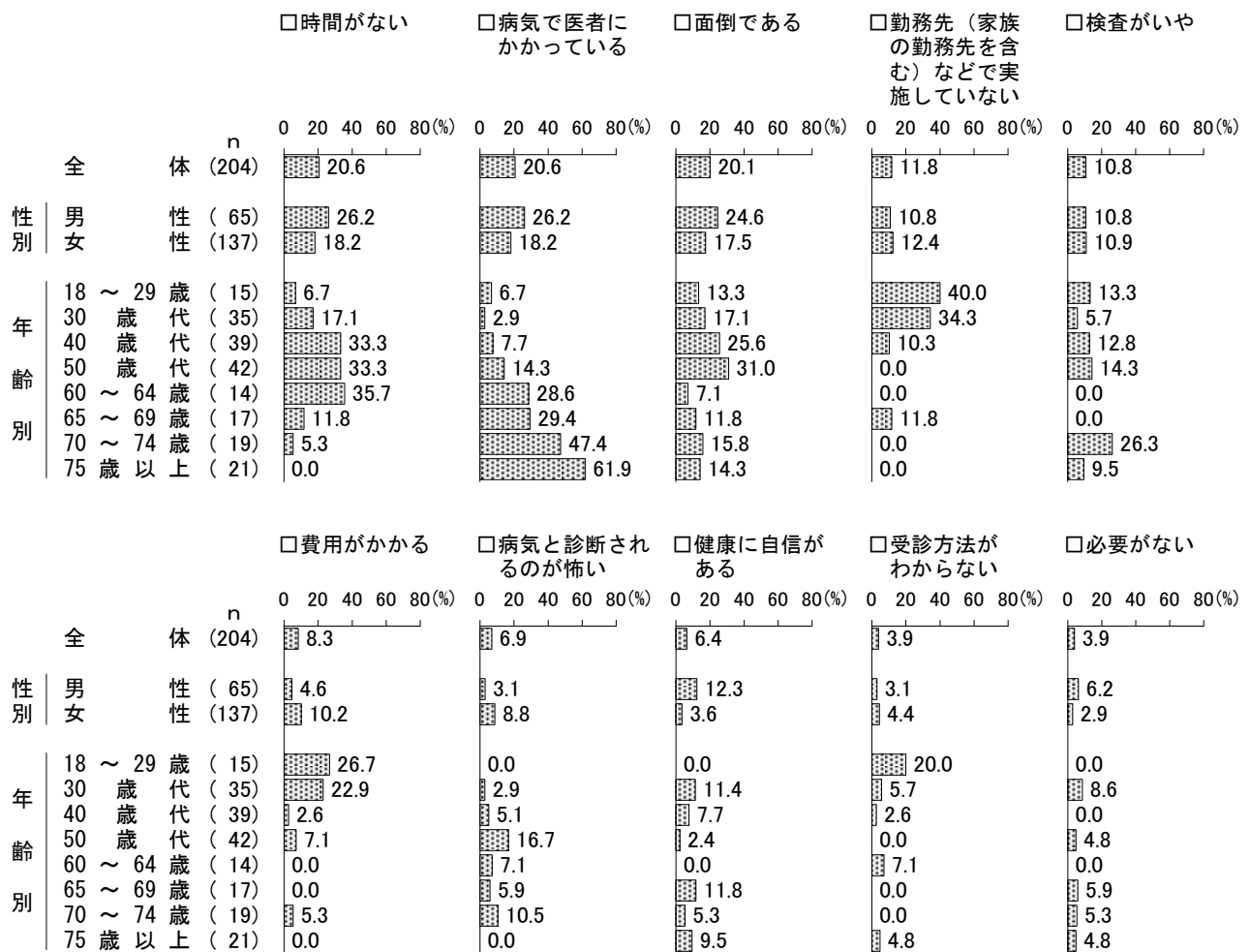
図表3-2-2 健康診査を受けなかった理由—過年度比較

調査年	n	(%)											
		時間がない	病気で医者にかかっている	面倒である	勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	検査がいや	費用がかかる	病気と診断されるのが怖い	健康に自信がある	受診方法がわからない	必要がない	その他	無回答
令和3年	204	20.6	20.6	20.1	11.8	10.8	8.3	6.9	6.4	3.9	3.9	28.9	0.0
令和2年	247	28.7	17.4	18.6	10.5	11.3	6.9	7.7	7.3	4.5	4.0	31.6	0.8
令和元年	158	33.5	20.3	22.2	10.8	11.4	9.5	10.8	7.6	4.4	7.0	13.3	0.6
平成30年	170	28.2	25.3	13.5	13.5	4.1	9.4	3.5	7.1	5.9	6.5	14.7	1.2
平成29年	188	26.1	22.3	21.3	10.1	12.8	12.2	10.1	8.0	5.9	6.9	17.0	2.1
平成28年	178	27.5	16.9	19.1	14.6	14.6	12.9	6.2	8.4	4.5	6.7	16.9	1.1
平成27年	192	32.3	15.6	23.4	9.9	14.1	14.6	9.9	9.4	6.3	7.3	12.0	3.1
平成26年	220	29.1	18.2	14.5	15.0	12.3	14.1	6.8	4.1	6.4	5.9	18.2	0.0
平成25年	199	34.7	16.6	17.1	12.6	7.5	9.5	6.0	7.0	6.5	7.5	19.1	0.5

性別でみると、男性の方が女性よりも「健康に自信がある」で8.7ポイント、「時間がない」で8.0ポイント、「病気で医者にかかっている」で8.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「病気と診断されるのが怖い」で5.7ポイント、「費用がかかる」で5.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「時間がない」は40歳代と50歳代で3割を超えて高くなっている。「病気で医者にかかっている」はおおむね高い年代ほど割合が高くなっており、75歳以上で6割を超えて高くなっている。(図表3-2-3)

図表3-2-3 健康診査を受けなかった理由—性別・年齢別



【4 高齢者施策】

(1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が3割台半ば

問8 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

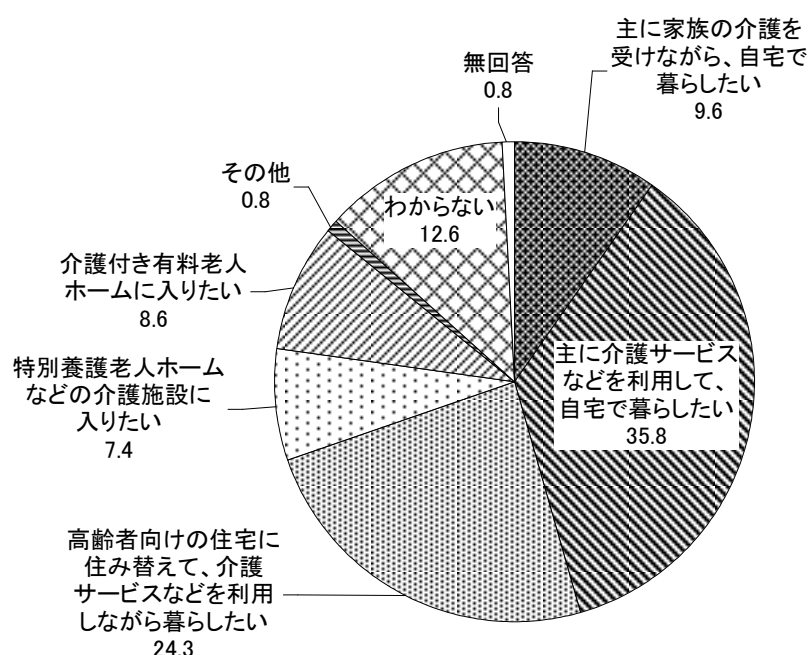
(もっとも近い考え1つに○)

n = 1, 101

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	9.6%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	35.8
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	24.3
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	7.4
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	8.6
6	その他	0.8
7	わからない	12.6
	(無回答)	0.8

要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(35.8%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(24.3%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(9.6%)、「介護付き有料老人ホームに入りたい」(8.6%)などとなっている。(図表4-1-1)

図表4-1-1 要介護時における暮らし方

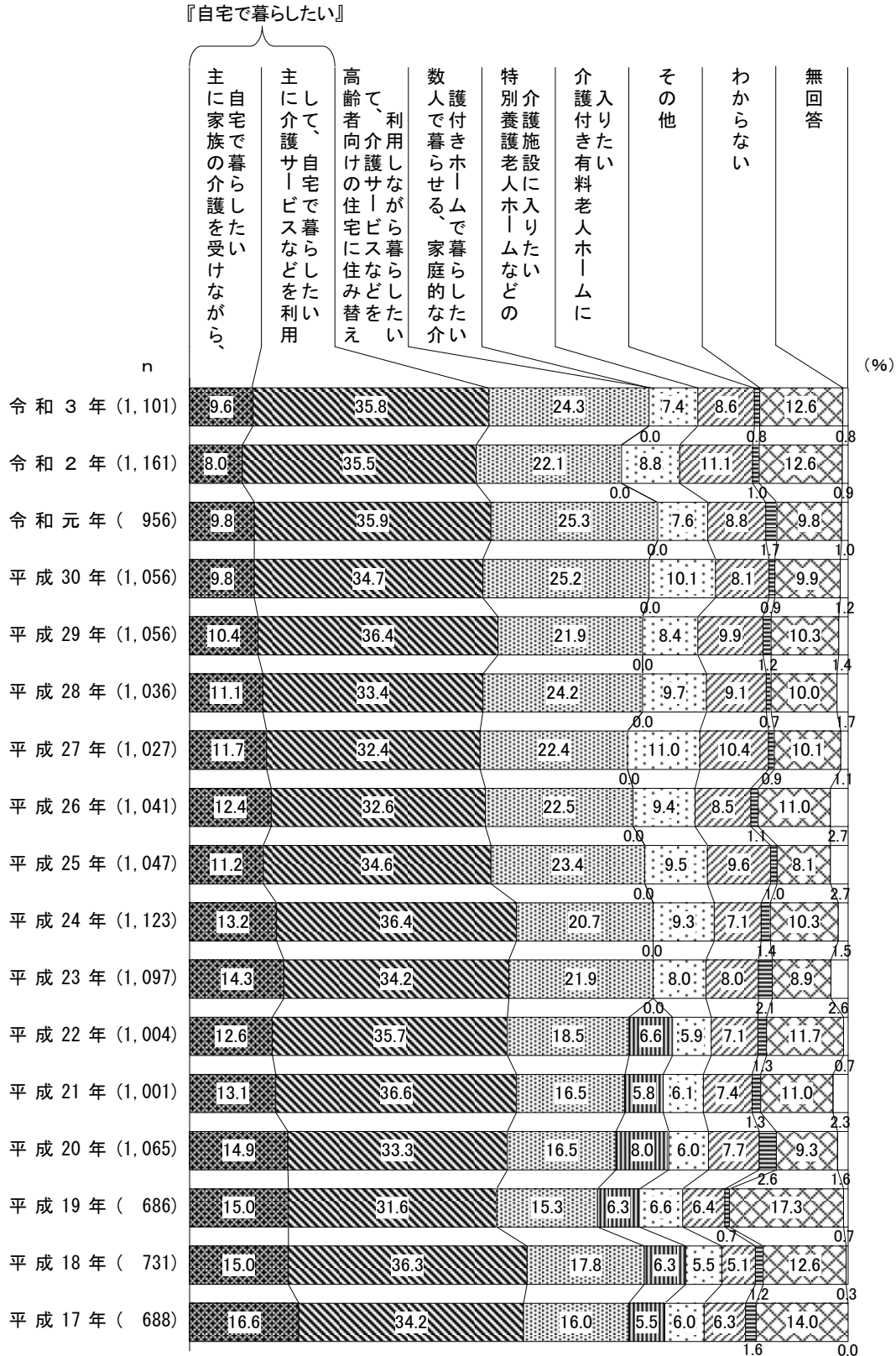


(n = 1, 101)

(%)

過去の調査結果と比較すると、「介護付き有料老人ホームに入りたい」は令和2年と比べて2.5ポイント減少している。(図表4-1-2)

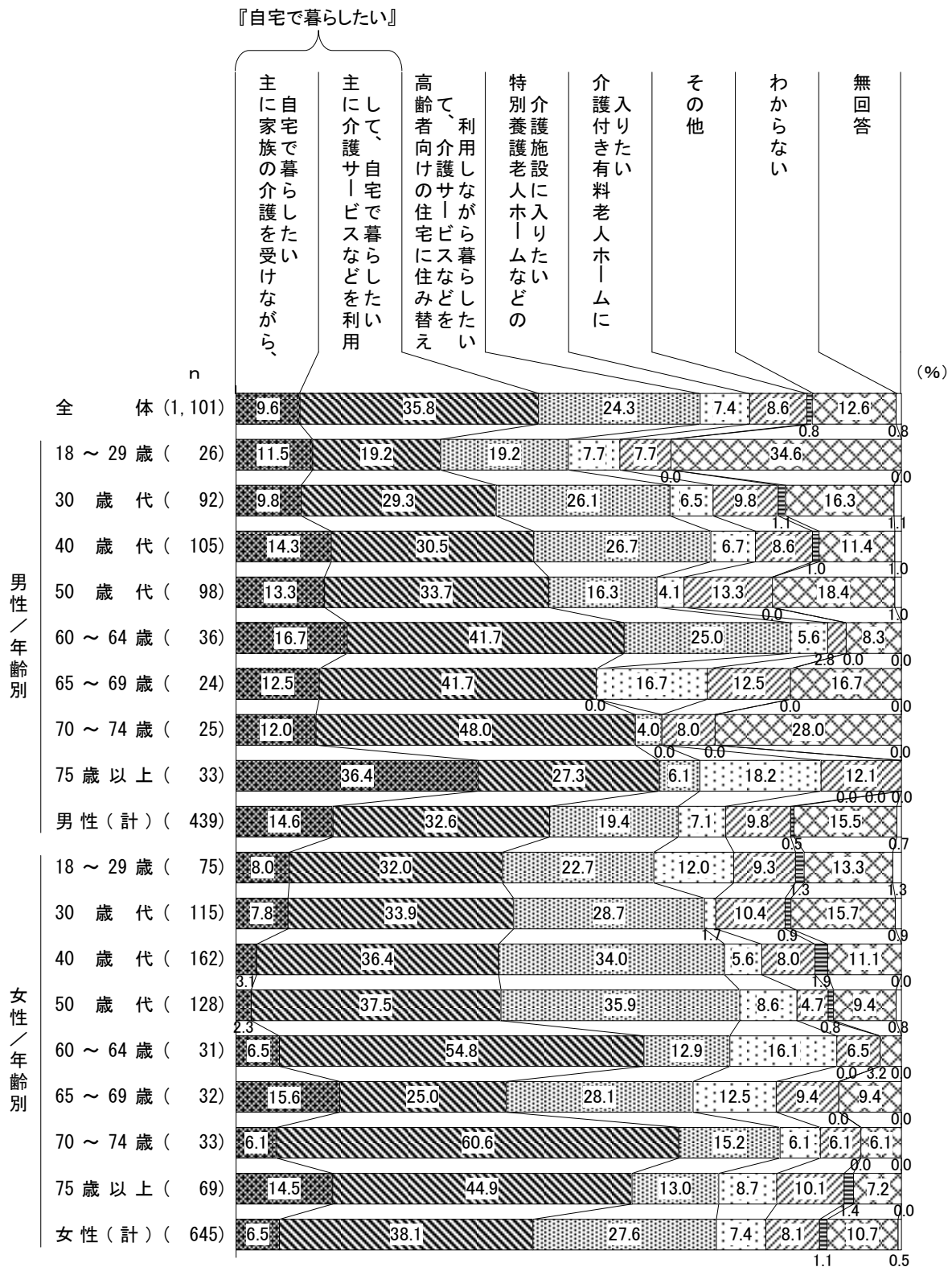
図表4-1-2 要介護時における暮らし方一過年度比較



* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

性／年齢別でみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は男性の75歳以上で3割台半ばと高くなっている。「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は女性の70～74歳で約6割と高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の40歳代と50歳代で3割台半ばと高くなっている。(図表4-1-3)

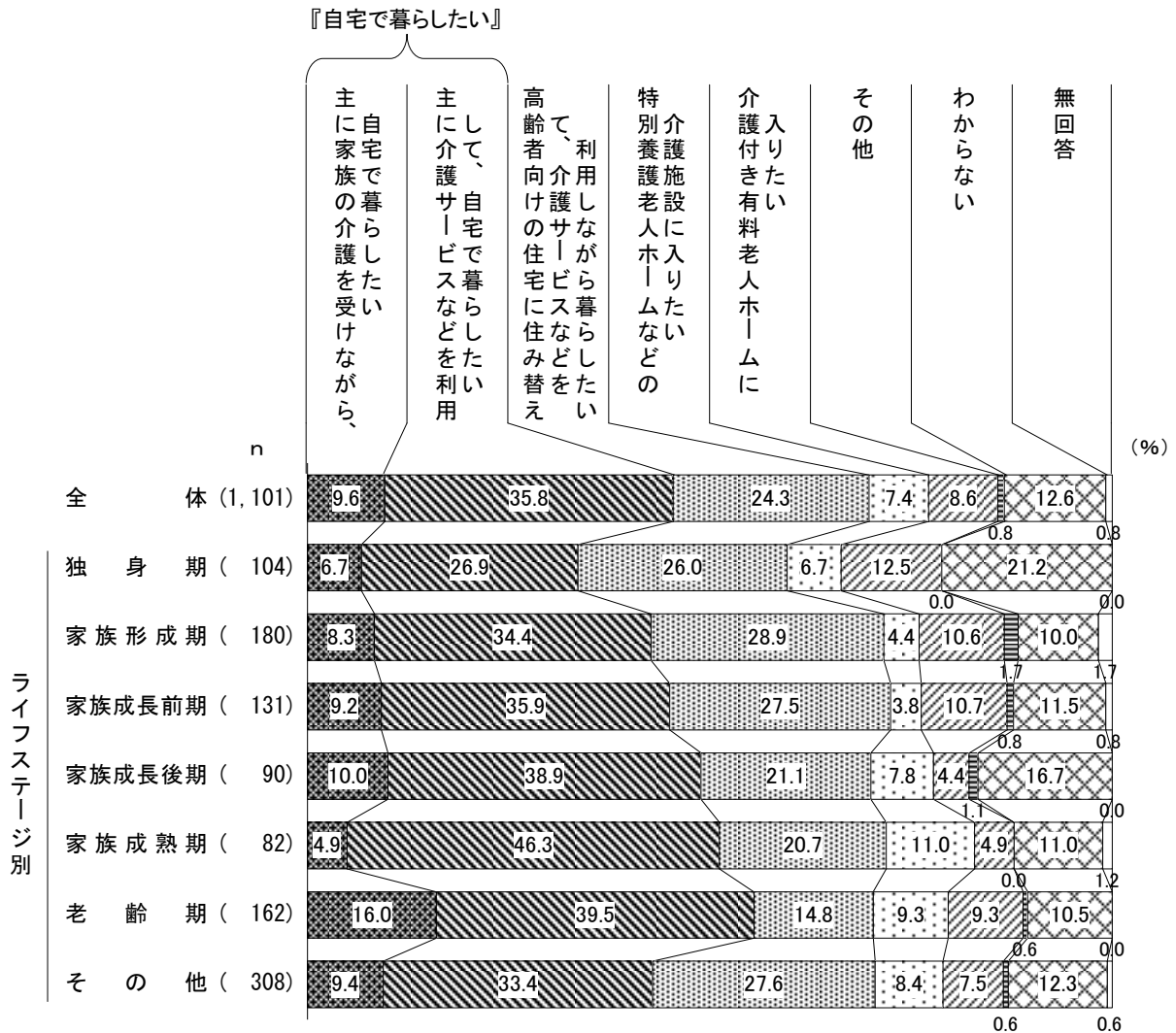
図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別で見ると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は家族成熟期で4割台半ばと高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は家族形成期とその他、家族成長前期で3割近くと高くなっている。

(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方—ライフステージ別



(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が5割を超える

問9 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これから高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

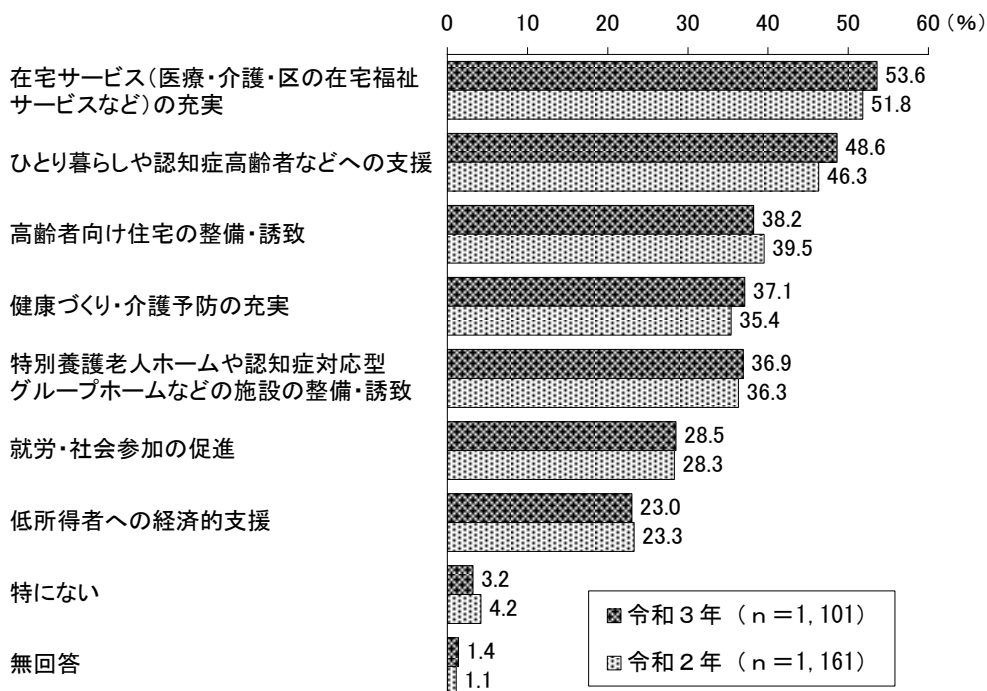
n = 1, 101

1	健康づくり・介護予防の充実	37.1%
2	就労・社会参加の促進	28.5
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	53.6
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	36.9
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	38.2
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	48.6
7	低所得者への経済的支援	23.0
8	特にない	3.2
	(無回答)	1.4

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（53.6%）が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（48.6%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（38.2%）、「健康づくり・介護予防の充実」（37.1%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（36.9%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」が引き続き上位2項目となっている。

(図表4-2-2)

図表4-2-2 区に望む高齢者保健福祉サービス一過年度比較

(%)

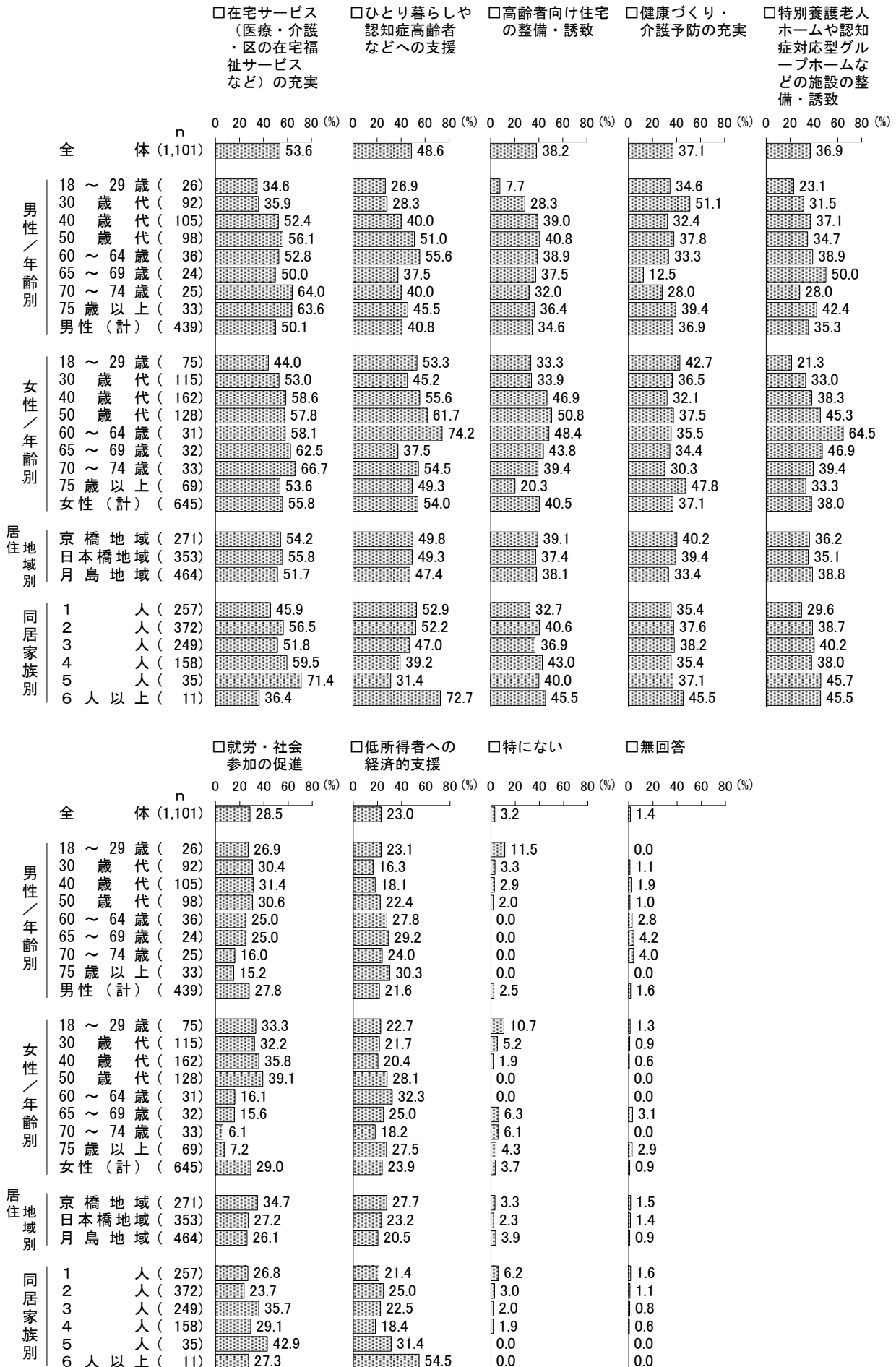
調査年	n	在宅サービス（医療・介護・区の充実）	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	高齢者向け住宅の整備・誘致	健康づくり・介護予防の充実	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	就労・社会参加の促進	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
令和3年	1,101	53.6	48.6	38.2	37.1	36.9	28.5	23.0	3.2	1.4
令和2年	1,161	51.8	46.3	39.5	35.4	36.3	28.3	23.3	4.2	1.1
令和元年	956	52.7	48.1	37.2	38.0	35.6	28.0	20.9	3.3	1.4
平成30年	1,056	49.5	44.4	41.1	41.3	37.5	27.1	21.3	2.9	1.2
平成29年	1,056	54.5	44.3	36.9	35.0	38.9	26.5	21.5	2.6	1.7
平成28年	1,036	50.8	46.1	40.5	37.2	40.7	28.3	23.4	2.8	2.0
平成27年	1,027	48.7	45.8	38.5	37.9	37.8	28.1	21.9	3.5	1.4
平成26年	1,041	54.9	47.0	39.1	34.7	39.9	28.1	24.7	2.2	3.1

性／年齢別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は女性の70～74歳で7割近くと高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は女性の60～64歳で7割台半ばと高くなっている。「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」は女性の60～64歳で6割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は京橋地域と日本橋地域で5割台半ばと高くなっている。「就労・社会参加の促進」は京橋地域で3割台半ばと高くなっている。

同居家族別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は同居家族5人で7割を超えて高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は同居家族1人と2人で5割を超えて高くなっている。(図表4-2-3)

図表4-2-3 区に望む高齢者保健福祉サービス—性／年齢別・居住地域別・同居家族別



(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問9-1 問9で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、344人から延べ381件の回答が寄せられた。問9の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■健康づくり・介護予防の充実(54件)

- ・ 高齢者が活躍できる・楽しめる場や活動の充実(高齢者向けイベント、地域の人と交流等)。
- ・ スポーツ施設(屋内筋力トレーニング)の充実。民間のスポーツ施設は高齢者には、加入しづらい。簡単な服装で、手軽にトレーニングしづらい。
- ・ 人生100年と言われる今日、長生きはお金がかかる故に、50代から体力を付け、健康増進、保険、貯金等心構えが必要。広報で周知させるべき。
- ・ 自宅でも参加できるイベント、キャンペーンを増やしてほしい。

■就労・社会参加の促進(27件)

- ・ 就労するためのセミナーを行ってほしい。
- ・ 高齢者が体を動かせるうちは、働いたり、ボランティア活動に参加できるよう、仕組みを作ってほしい。
- ・ 高齢者が積極的に社会参加できる仕組み。
- ・ 区の業務、福祉業務に退職者や高齢者が参加できる仕事があるのではないかと思う。

■在宅サービス(医療・介護・区の在宅福祉サービスなど)の充実(47件)

- ・ 安定的な介護(等)スタッフの確保。
- ・ 日中、夜間を通し24時間、365日体制で支援する訪問介護、看護サービス。また、生活支援サービス(買い物、食事作り、掃除等)。
- ・ 自宅と病院までのタクシーの無料化。
- ・ 訪問介護や定期的な自宅への訪問での健康確認。
- ・ 在宅介護サービスを充実させてほしい。弁当宅配、訪問介護、介護のサービスを受けやすくしてほしい。

■特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致（57件）

- ・ 今後増えるであろう“低所得者”のための区営の老人ホームが必要だと思います。
- ・ 特別養護老人ホームの数を増やしてほしい。
- ・ 福祉施設で働いている方の労働環境改善。
- ・ 土地がない。地代が高いなどの理由で難しいかもしれませんが、例えば、区の所有する土地、施設を利用して、新たにハコものを建設する際は特養を併設するようにした方が良い。

■高齢者向け住宅の整備・誘致（27件）

- ・ 区民住宅を増やしてほしい。また家賃が高すぎるのももう少し抑えてほしい。
- ・ 年金の範囲で無理なく生活できる（家賃が安い）住宅の整備を希望します。
- ・ 家族と一緒に住める高齢者向け住宅。
- ・ いざという時に高齢者が入居可能な住宅。又、その手続きの簡略化。
- ・ 介護や高齢者向けの事は詳しくないが、高齢者のみで生活するのではなく各年代層の方たちと一緒に（敷地や建物等）生活出来る様な住環境で暮らしたい。

■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（35件）

- ・ 見守り支援。単身者、高齢者のみの世帯を地域で見守る仕組み。
- ・ 地域コミュニティの強化、見守りサービス（災害時や事件、事故予防のため）。
- ・ ひとり暮らしの高齢者が地域とコミュニケーションをはかれるように支援してほしい。
- ・ 定期的な安否確認。
- ・ ひとり暮らしや認知症高齢者への支援強化。
- ・ 在宅の一人暮らし高齢者の人への訪問声かけ。

■低所得者への経済的支援（21件）

- ・ 経済的な不安なく生活できるための支援。
- ・ 介護手当の充実（介護者への資金援助）。
- ・ 低所得者がわかりやすい、利用しやすいサービスの受け方など、区から発信してほしい。
- ・ 年金支給額で安心して生活できるような支援サービスを希望します。

■その他（113件）

- ・ 介護のためやむなく職をやめないといけない問題も含めて解決すべきだと思っています。気軽にシニアの相談センターなどがあるといいと思います。
- ・ 情報を簡潔に分かりやすく伝えられるサイトマップ（知りたい情報にすぐたどり着くようなわかりやすいもの）。
- ・ 病院から自宅での暮らしに戻るための移行支援。
- ・ 介護の際にいろいろな課や施設に書類を取りに行くのを大変だと思った経験があります。介護を利用する際、手続きをインターネットで一括に出来るようにして欲しいです。
- ・ 保健福祉に関するわかりやすい情報提供と、利用しやすい様に条件のハードルを下げたいと思う。

【5 子育て支援】

(1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が4割近く

問10 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 1, 101

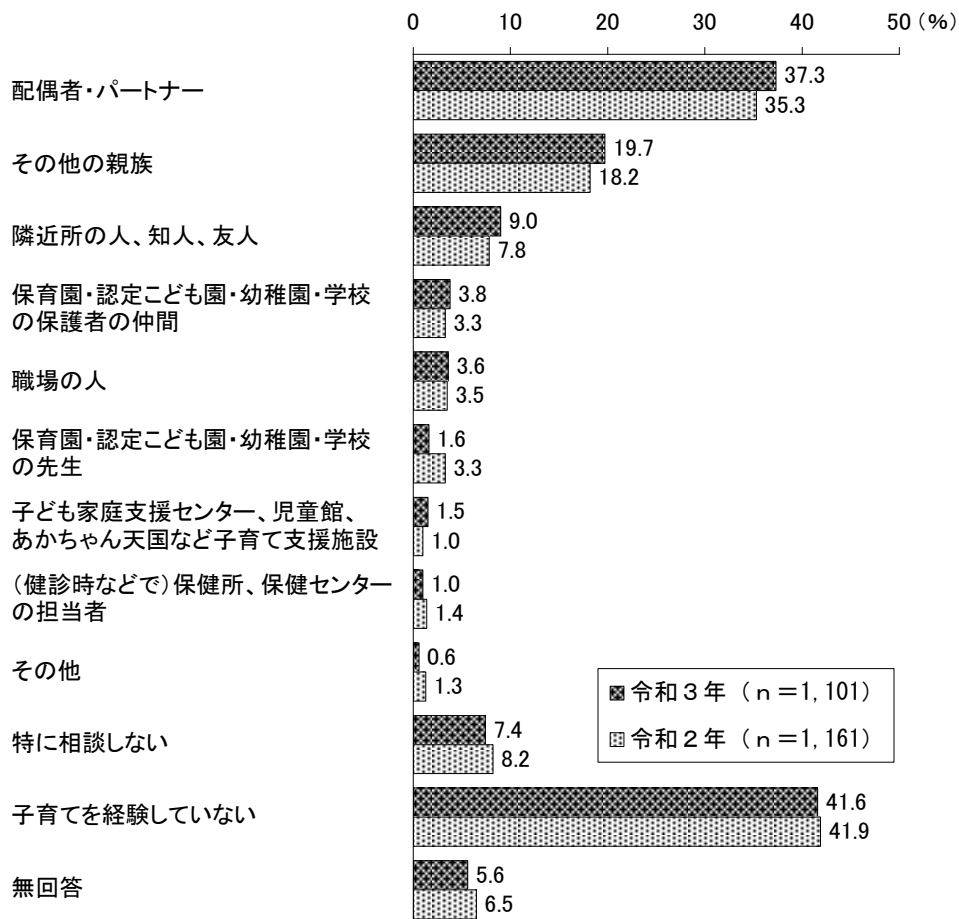
1	配偶者・パートナー	37.3%
2	その他の親族	19.7
3	職場の人	3.6
4	隣近所の人、知人、友人	9.0
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	3.8
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	1.6
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	1.5
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	1.0
9	その他	0.6
10	特に相談しない	7.4
11	子育てを経験していない	41.6
	(無回答)	5.6

(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(37.3%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(19.7%)、「隣近所の人、知人、友人」(9.0%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(3.8%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表5-1-1)

図表5-1-1 子育てに関する悩みの相談(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」と「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。

(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談一過年度比較

調査年	n													(%)
		配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	職場の人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	子ども家庭支援センター、児童館、	あかちゃん天国など子育て支援施設	(健診時などで) 保健所、保健センター	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
令和3年	1,101	37.3	19.7	9.0	3.8	3.6	1.6	1.5	1.0	0.6	7.4	41.6	5.6	※
令和2年	1,161	35.3	18.2	7.8	3.3	3.5	3.3	1.0	1.4	1.3	8.2	41.9	6.5	※
令和元年	956	34.3	20.2	9.2	3.1	3.3	2.3	1.0	1.7	1.0	8.4	39.3	7.9	※
平成30年	1,056	35.0	18.8	7.9	3.7	3.7	2.8	1.6	1.3	0.9	7.9	39.7	8.5	※
平成29年	1,056	33.5	20.0	8.5	4.8	4.0	2.6	1.9	1.8	0.5	6.4	38.8	10.2	※
平成28年	1,036	33.9	17.4	9.4	3.2	4.2	2.6	1.5	1.5	1.9	9.2	37.8	8.8	※
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	5.7	4.4	4.2	1.9	2.7	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	4.9	2.2	3.6	1.2	2.2	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	4.6	2.7	3.2	2.5	2.1	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	5.1	2.2	2.4	1.5	1.3	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	5.7	3.0	2.6	0.9	1.5	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	4.9	3.1	3.1	1.2	1.8	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	3.8	2.5	3.0	※	2.5	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	4.2	1.3	2.9	※	2.7	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	8.0	2.2	5.0	※	※	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

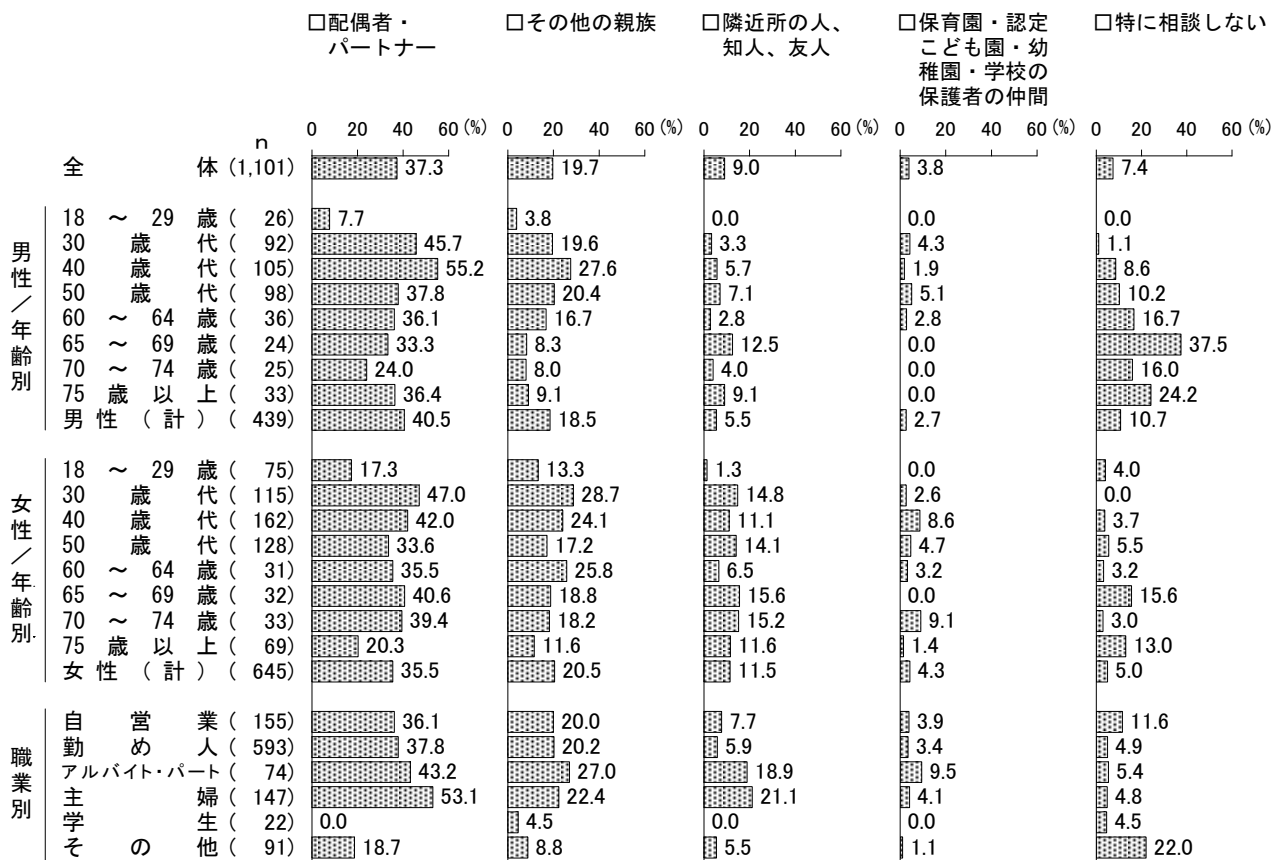
* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。

* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別でみると、「配偶者・パートナー」は男性の40歳代で5割台半ばと高くなっている。「その他の親族」は女性の30歳代と男性の40歳代で3割近くと高くなっている。「特に相談しない」は男性の65～69歳で4割近くと高くなっている。

職業別でみると、「配偶者・パートナー」は主婦で5割を超えて高くなっている。「その他の親族」はアルバイト・パートタイマーで3割近くと高くなっている。「隣近所の人、知人、友人」は主婦で2割を超えて高くなっている。(図表5-1-3)

図表5-1-3 子育てに関する悩みの相談一性／年齢別・職業別（上位5項目）



(2) 重要と考える子育て支援策

◇「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が3割台半ば

問11 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。

(○は2つまで)

n = 1, 101

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	36.4%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	35.1
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	4.2
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	9.5
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	12.6
6	情報の提供や相談サービス	4.0
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	15.4
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	1.5
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	16.6
10	児童虐待防止対策	8.6
11	経済的な支援	11.5
12	特にない	4.4
	(無回答)	14.7

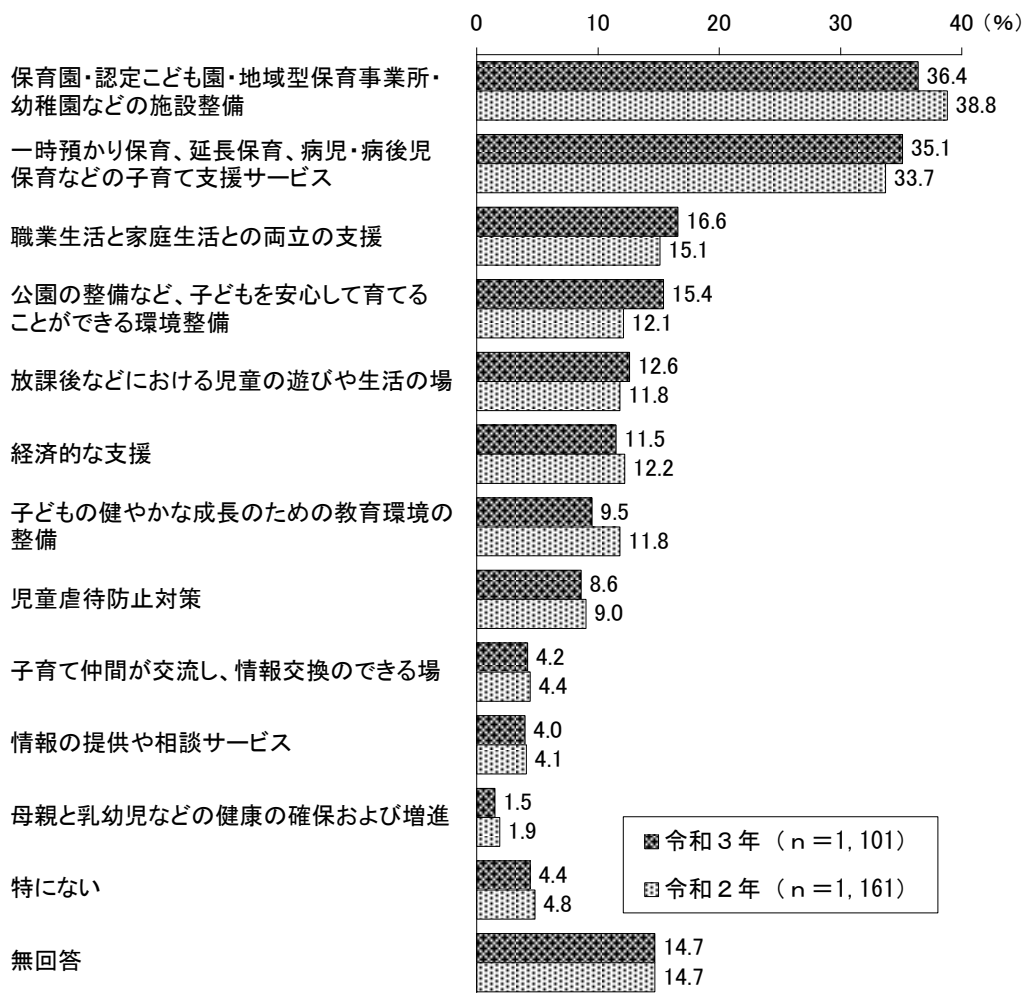
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

重要と考える子育て支援策は、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(36.4%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(35.1%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(16.6%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(15.4%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(12.6%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は3.3ポイント増加している。(図表5-2-1)

図表5-2-1 重要と考える子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」と「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が引き続き上位2項目となっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 重要と考える子育て支援策一過年度比較

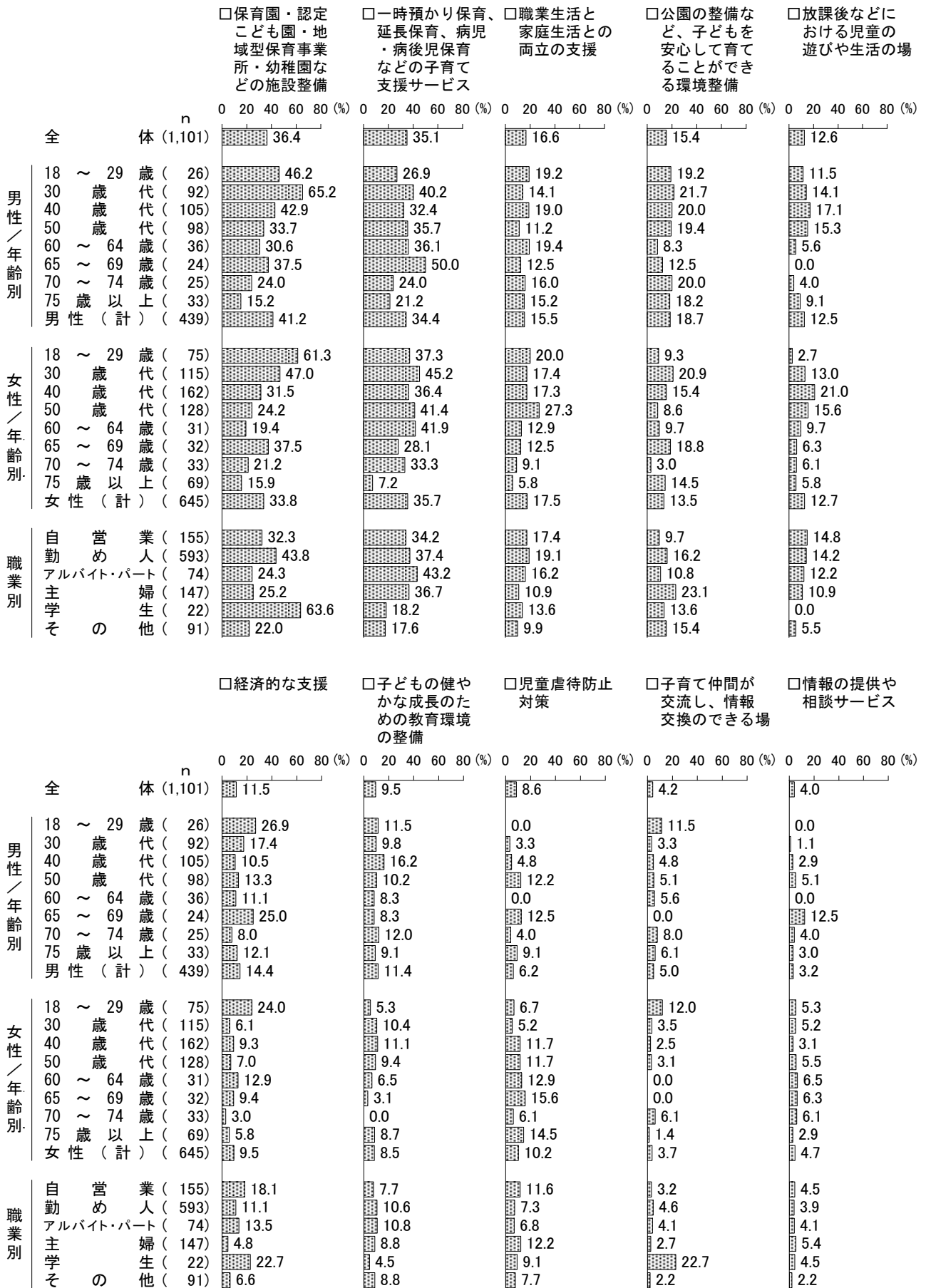
調査年	n														(%)
		保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	職業生活と家庭生活との両立の支援	公園の整備など、子どもを安心して育てる環境整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	経済的な支援	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	児童虐待防止対策	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特になし	無回答	その他
令和3年	1,101	36.4	35.1	16.6	15.4	12.6	11.5	9.5	8.6	4.2	4.0	1.5	4.4	14.7	※
令和2年	1,161	38.8	33.7	15.1	12.1	11.8	12.2	11.8	9.0	4.4	4.1	1.9	4.8	14.7	※
令和元年	956	34.5	37.0	16.7	10.6	11.7	7.5	9.3	11.6	4.9	3.8	1.8	4.4	17.4	※
平成30年	1,056	42.8	40.2	14.6	11.3	11.3	9.7	8.5	6.6	3.0	2.8	1.6	4.4	15.8	※
平成29年	1,056	42.6	36.4	16.6	11.5	12.6	8.3	10.4	6.8	3.5	2.7	1.1	4.1	16.1	※
平成28年	1,036	44.3	36.0	15.9	11.3	12.4	10.2	8.8	7.9	4.5	1.8	2.2	3.8	15.8	※
平成27年	1,027	41.1	38.9	19.7	17.7	※	10.4	14.3	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	40.6	42.5	14.4	12.3	※	8.0	11.9	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	46.2	43.7	12.4	12.4	※	9.0	10.7	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	53.7	※	28.6	15.3	※	15.9	17.2	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	52.4	※	30.5	14.7	※	15.5	19.7	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	59.4	※	31.9	15.7	※	15.4	19.9	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	42.9	※	30.0	13.2	※	26.1	15.4	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	39.6	※	31.4	18.6	※	22.3	20.2	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	34.1	※	30.3	20.6	※	24.6	20.6	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成23年から平成26年までは「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。
- * 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」の選択肢は、平成27年以前は「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」としていた。
- * 「職業生活と家庭生活との両立の支援」の選択肢は、平成27年以前は「職業生活と家庭生活との両立の推進」としていた。

性／年齢別で見ると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は男性の30歳代と女性の18～29歳で6割台と高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は男性の65～69歳で5割と高くなっている。「職業生活と家庭生活との両立の支援」は女性の50歳代で3割近くと高くなっている。

職業別で見ると、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は学生で6割を超えて高くなっている。「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」はアルバイト・パートタイマーで4割を超えて高くなっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 重要と考える子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割を超える

問11 また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

n = 1, 101

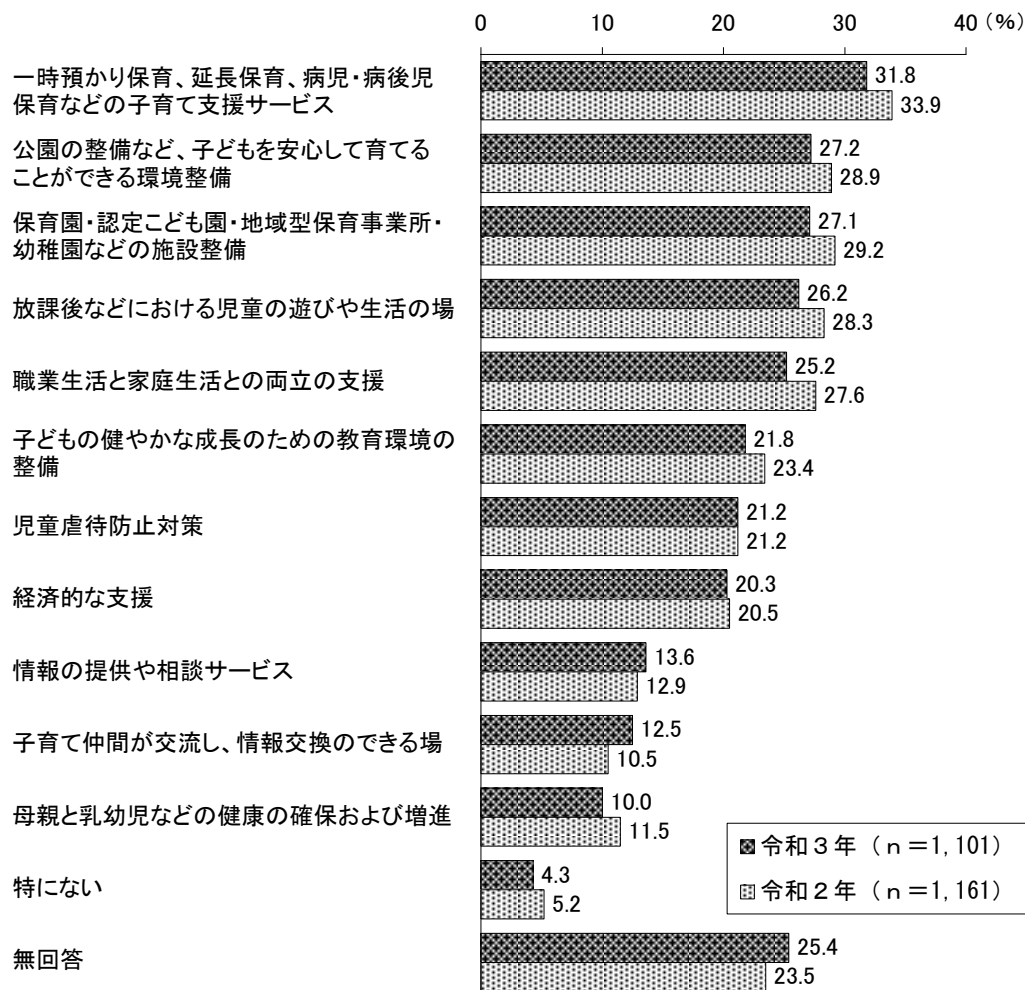
1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	27.1%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	31.8
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	12.5
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	21.8
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	26.2
6	情報の提供や相談サービス	13.6
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	27.2
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	10.0
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	25.2
10	児童虐待防止対策	21.2
11	経済的な支援	20.3
12	特にない	4.3
	(無回答)	25.4

(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

さらに充実を図る必要がある子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(31.8%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(27.2%)、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(27.1%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(26.2%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(25.2%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表5-3-1)

図表5-3-1 さらに充実を図る必要がある子育て支援策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は引き続き第1位となっている。

(図表5-3-2)

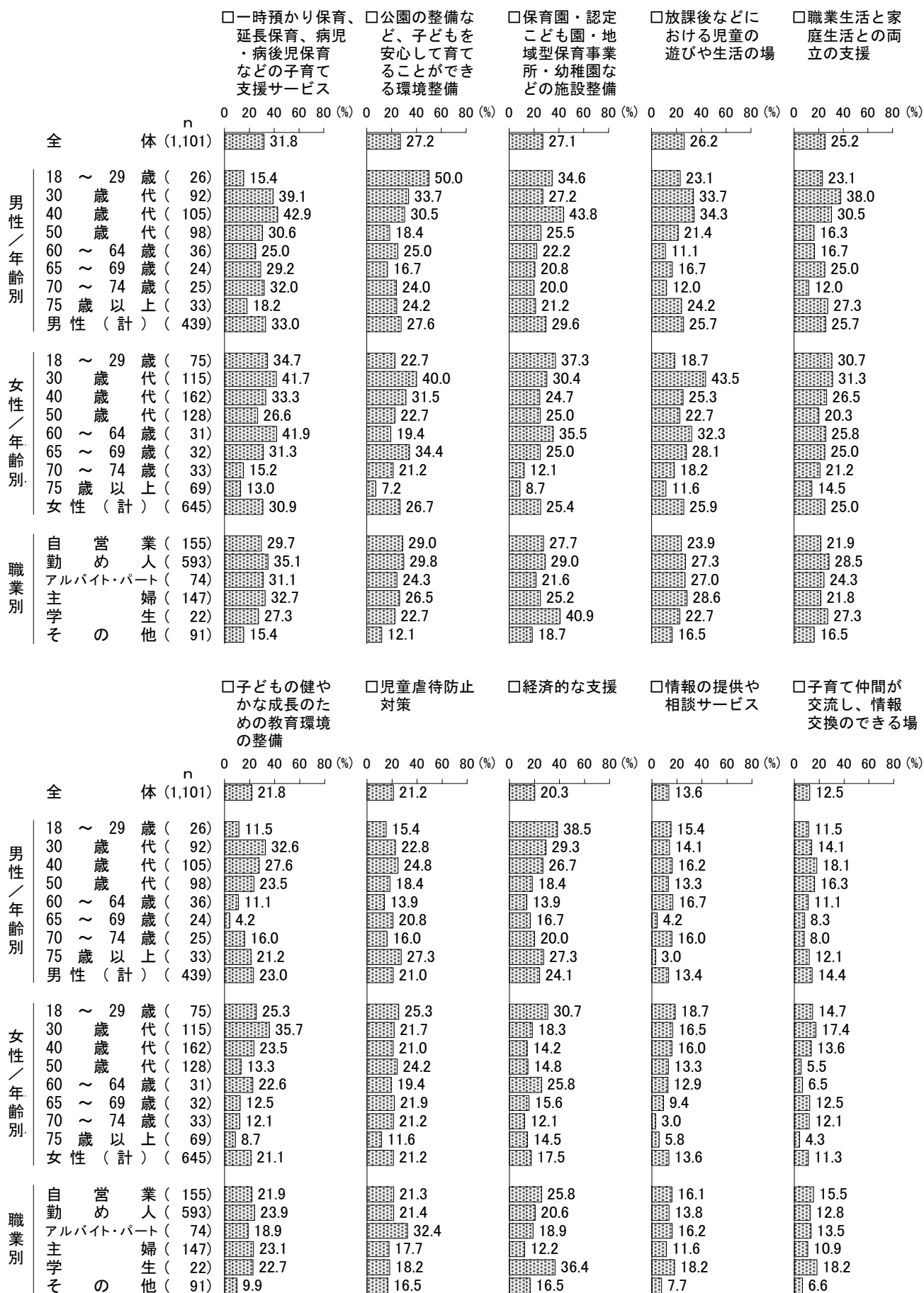
図表5-3-2 さらに充実を図る必要がある子育て支援策—過年度比較

調査年	n	(%)												
		一時預かり保育、延長保育、病児・病後児	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	職業生活と家庭生活との両立の支援	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	児童虐待防止対策	経済的な支援	情報の提供や相談サービス	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特になし	無回答
令和3年	1,101	31.8	27.2	27.1	26.2	25.2	21.8	21.2	20.3	13.6	12.5	10.0	4.3	25.4
令和2年	1,161	33.9	28.9	29.2	28.3	27.6	23.4	21.2	20.5	12.9	10.5	11.5	5.2	23.5
令和元年	956	32.6	26.2	27.4	27.0	25.5	20.4	24.4	16.3	13.0	11.1	11.7	4.5	27.5
平成30年	1,056	33.6	27.3	30.6	27.7	26.8	19.4	16.3	17.4	13.3	13.1	10.4	4.8	24.2
平成29年	1,056	33.3	24.6	28.5	27.7	25.8	19.2	16.0	17.1	12.5	12.5	11.5	3.4	25.9
平成28年	1,036	36.2	26.7	32.4	26.4	28.3	20.7	20.0	16.4	13.8	12.2	11.1	3.7	26.3

性／年齢別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は男性の40歳代と女性の30歳代、女性の60～64歳で4割を超えて高くなっている。「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は男性の18～29歳で5割と高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は男性の40歳代で4割を超えて高くなっている。「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」は女性の30歳代で4割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は勤め人で3割台半ばと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は学生で約4割と高くなっている。「児童虐待防止対策」はアルバイト・パートタイマーで3割を超えて高くなっている。(図表5-3-3)

図表5-3-3 さらに充実を図る必要がある子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問11-1 あなたが問11で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、317人から延べ356件の回答が寄せられた。問11の重要と考える子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備 (65件)

- ・ 求職中でも保育園に入れるようにしてほしい (現時点では待機児童が多く不可能なので)。
- ・ 自宅の近くで預けられるような保育園、幼稚園の拡充 (施設はあるが遠いところに入るケースがあるらしい)。
- ・ 待機児童数が多く、保育園入所が難しいと聞いている。子育てを不安視してしまうので解消してほしい。
- ・ 保育士の待遇改善につながる取り組み。

■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス (45件)

- ・ 病児、病後児保育の受け入れ先、受け入れ人数を増やしてほしいです。
- ・ 区の一時的預かり保育の予約がインターネットで取れるようにしてほしい。
- ・ ベビーシッターサービスの低額化、柔軟なサービスの提供。
- ・ 一時預かりなど、急な短時間の預けが必要な時に利用しやすい施設。

■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場 (10件)

- ・ ひとり親同士のコミュニティなどあればうれしい。
- ・ 1人で悩んでいる親は多いと思う。何らかの情報交換 (資料、相談会、Q&Aなど) の場の充実。
- ・ 母親が孤立しないように、おばあちゃん世代と交流できる場があるといいのでは。

■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備 (22件)

- ・ 英語でも運動でも何でも良いので教育方針に特色のある施設も増やして選択メニューの幅が広がると良いと思います。
- ・ 公立学校を増やして下さい。ひとクラスの人数をもう少し、少人数で。

■放課後などにおける児童の遊びや生活の場 (33件)

- ・ 学童保育の増員 (小3くらいまでは誰でも入れるようにしてほしい)。
- ・ 小学生が安心して過ごせる場を充実してほしい。特に3～6年生の学童に入れなくなった頃。

■情報の提供や相談サービス（11件）

- ・ 育児休暇で休んでも会社から手当が出ない職業の方たちのために子育て支援金などの施策をもっと分かりやすく伝わる様にしてほしい。SNSやYoutube等の若い世代に親しみのあるツールを使う。
- ・ 近くに親族がいない場合にも気軽に相談できる環境があれば良い。行政への相談の敷居が高い印象がある。
- ・ 仕事をしながら育児への不安があるため、安心して子供を産める様な情報などを産む前の段階でほしい。

■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（46件）

- ・ 自転車遊びやボール遊びができる公園がもっと欲しい。小さい子どものスペースと小学生のスペースが分かれているとなお良い。公園のトイレが汚れていることがあるので掃除の頻度を増やしてほしい。
- ・ 中央区には土の場所が少ないので土と触れ合える場所（畑など）を作してほしい。

■母親と乳幼児などの健康の確保および増進（3件）

- ・ 子育てをがんばるお母様方の負担はとても大きいと思います。お母様方の心のストレスや体の負担を軽くできるといろいろな問題が少なくなると思います。

■職業生活と家庭生活との両立の支援（21件）

- ・ 母親が子育てと仕事を両立できるサービスを充実してほしい（学童保育など）多子家庭への支援。
- ・ 子育てしやすい環境整備を職場に促す（フレックスタイム、事業所内保育施設など）。

■児童虐待防止対策（7件）

- ・ DVに対する窓口の増加と行政介入の拡大（児童虐待）。
- ・ 警察とも協力した児童虐待防止体制作り。他の自治体での失敗例を活かし、同様の事例を2度と起こさないこと。

■経済的な支援（31件）

- ・ 子育て家庭への経済的支援（但し、収入制限を付ける）。
- ・ 十分な食事をとれない子供のための食堂またはお弁当宅配サービス。
- ・ 一人親家庭への経済的支援等。

■その他（62件）

- ・ 男性の一人親への施策が充実してほしいと思う。
- ・ 子育て支援に関わる仕事をされている方の給料面を良くするべき。働き手がいなくなれば元も子もない。
- ・ 具体的なことは思いつきませんが、子育て全般について、更なる充実をお願いします。

【6 男女共同参画社会】

(※) 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

(1) 男女の地位の平等感

◇「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”で6割台半ば

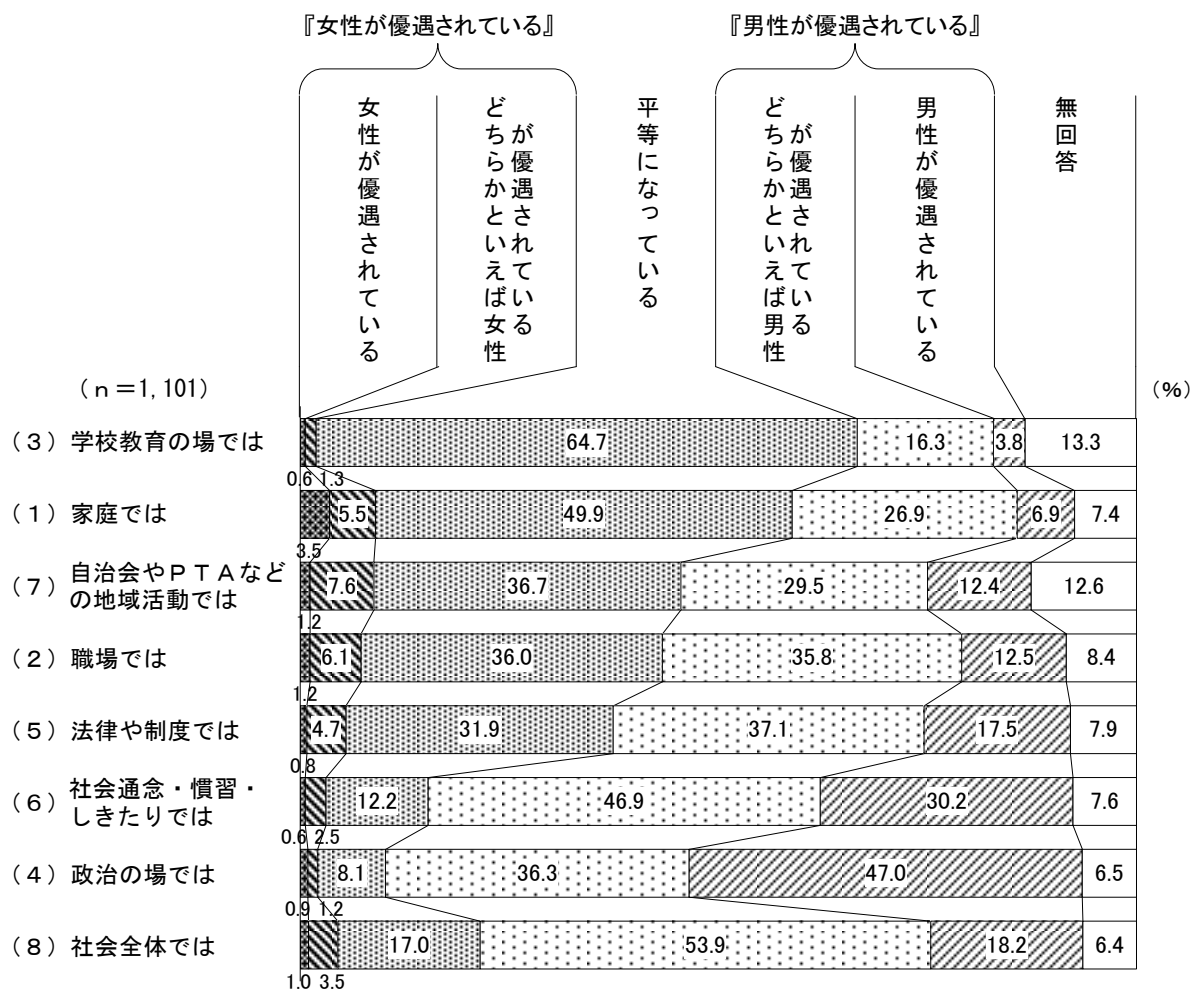
「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と感じるのは、“政治の場では”で8割を超える

問12 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。		(〇はそれぞれ1つずつ)					(%)
		1	2	3	4	5	無回答
		女性が優遇されている	どちらかといえば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性が優遇されている	男性が優遇されている	
n = 1, 101							
(1) 家庭では		3.5	5.5	49.9	26.9	6.9	7.4
(2) 職場では		1.2	6.1	36.0	35.8	12.5	8.4
(3) 学校教育の場では		0.6	1.3	64.7	16.3	3.8	13.3
(4) 政治の場では		0.9	1.2	8.1	36.3	47.0	6.5
(5) 法律や制度では		0.8	4.7	31.9	37.1	17.5	7.9
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは		0.6	2.5	12.2	46.9	30.2	7.6
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では		1.2	7.6	36.7	29.5	12.4	12.6
(8) 社会全体では		1.0	3.5	17.0	53.9	18.2	6.4

男女の地位の平等感について、「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”（64.7%）で6割台半ばで最も高く、次いで“家庭では”（49.9%）で5割となっている。

「どちらかといえば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（83.3%）で8割を超えて最も高く、次いで“社会通念・慣習・しきたりでは”（77.1%）で8割近くとなっている。（図表6-1-1）

図表6-1-1 男女の地位の平等感

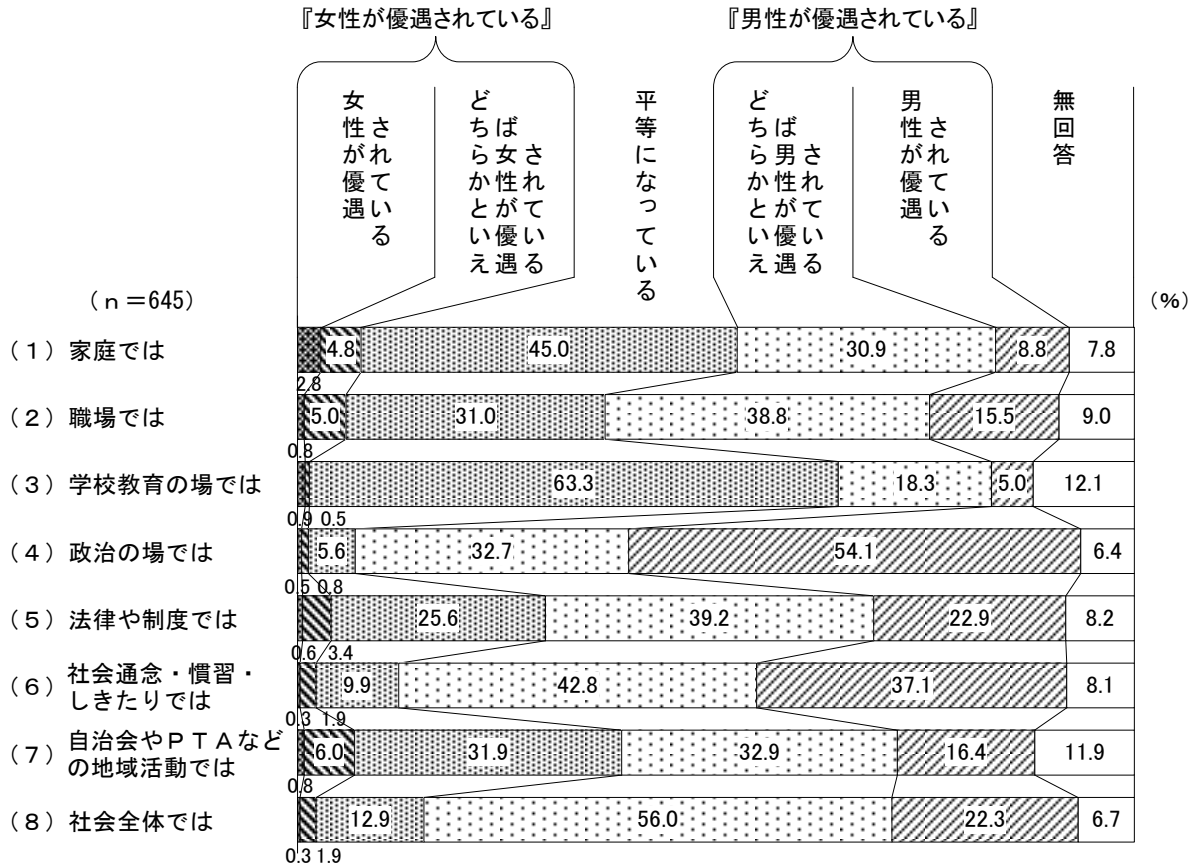


性別でみると、「平等になっている」と感じる割合は、男性の方が女性よりも“法律や制度では”で16.3ポイント、“家庭では”で13.3ポイント、それぞれ高くなっている。

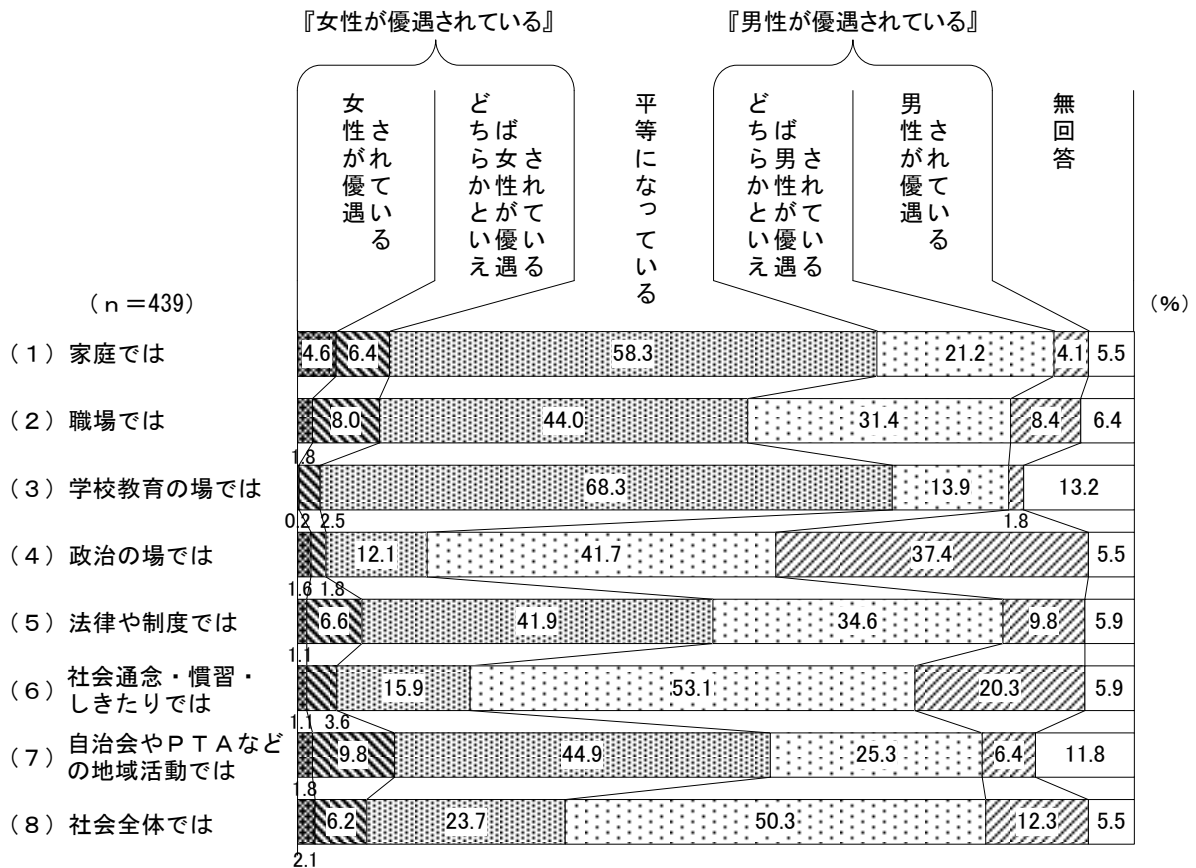
一方、『男性が優遇されている』と感じる割合は、女性の方が男性よりも“法律や制度では”で17.7ポイント、“自治会やPTAなどの地域活動では”で17.6ポイント、それぞれ高くなっている。

また、“社会全体では”でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が15.7ポイント高くなっている。（図表6-1-2、図表6-1-3）

図表6-1-2 男女の地位の平等感—女性



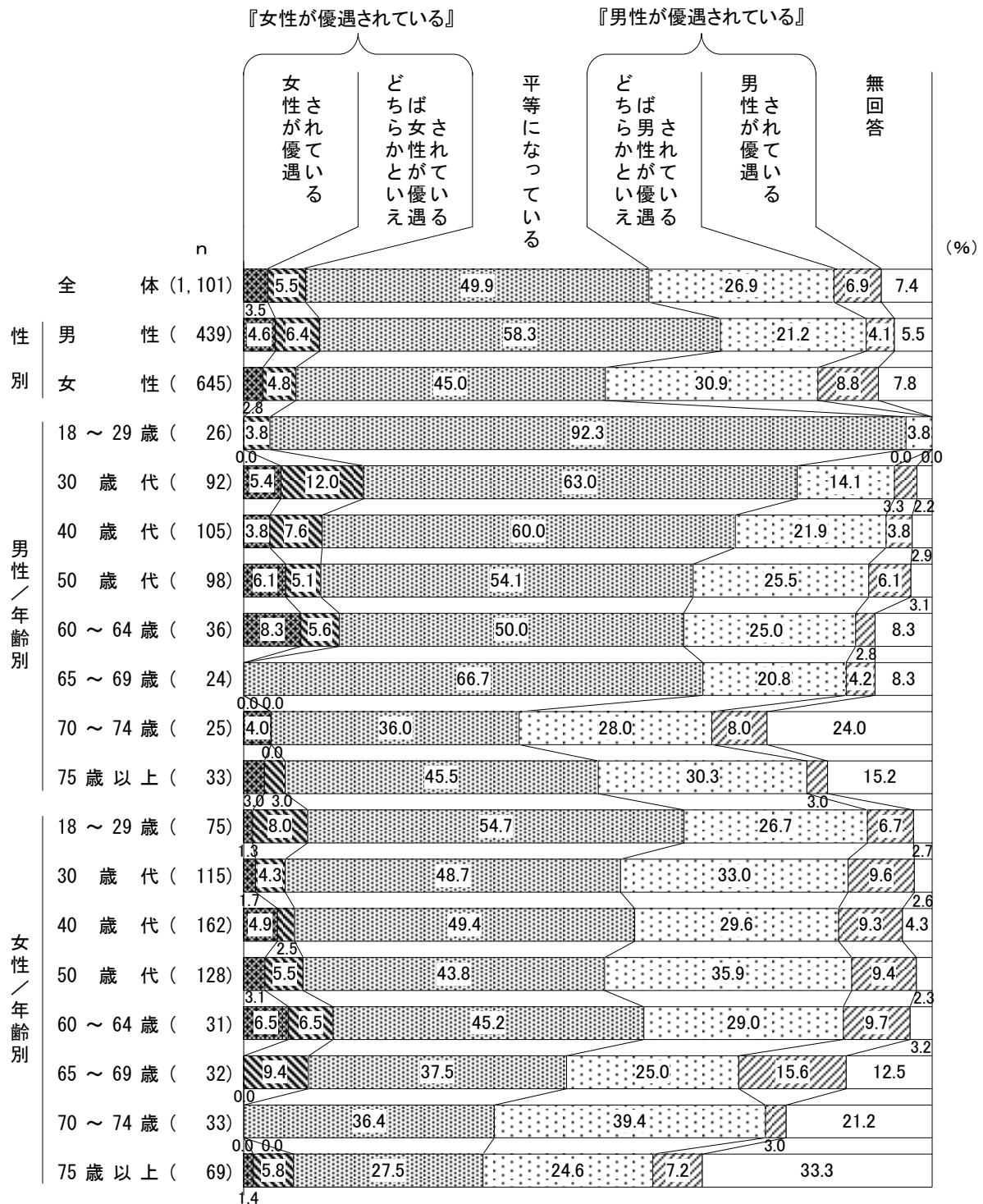
図表6-1-3 男女の地位の平等感—男性



“家庭では”について性別で見ると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が14.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が13.3ポイント高くなっている。

“家庭では”について性/年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で4割台半ばと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で9割を超えて高くなっている。(図表6-1-4)

図表6-1-4 男女の地位の平等感—性別・性/年齢別「(1) 家庭では」

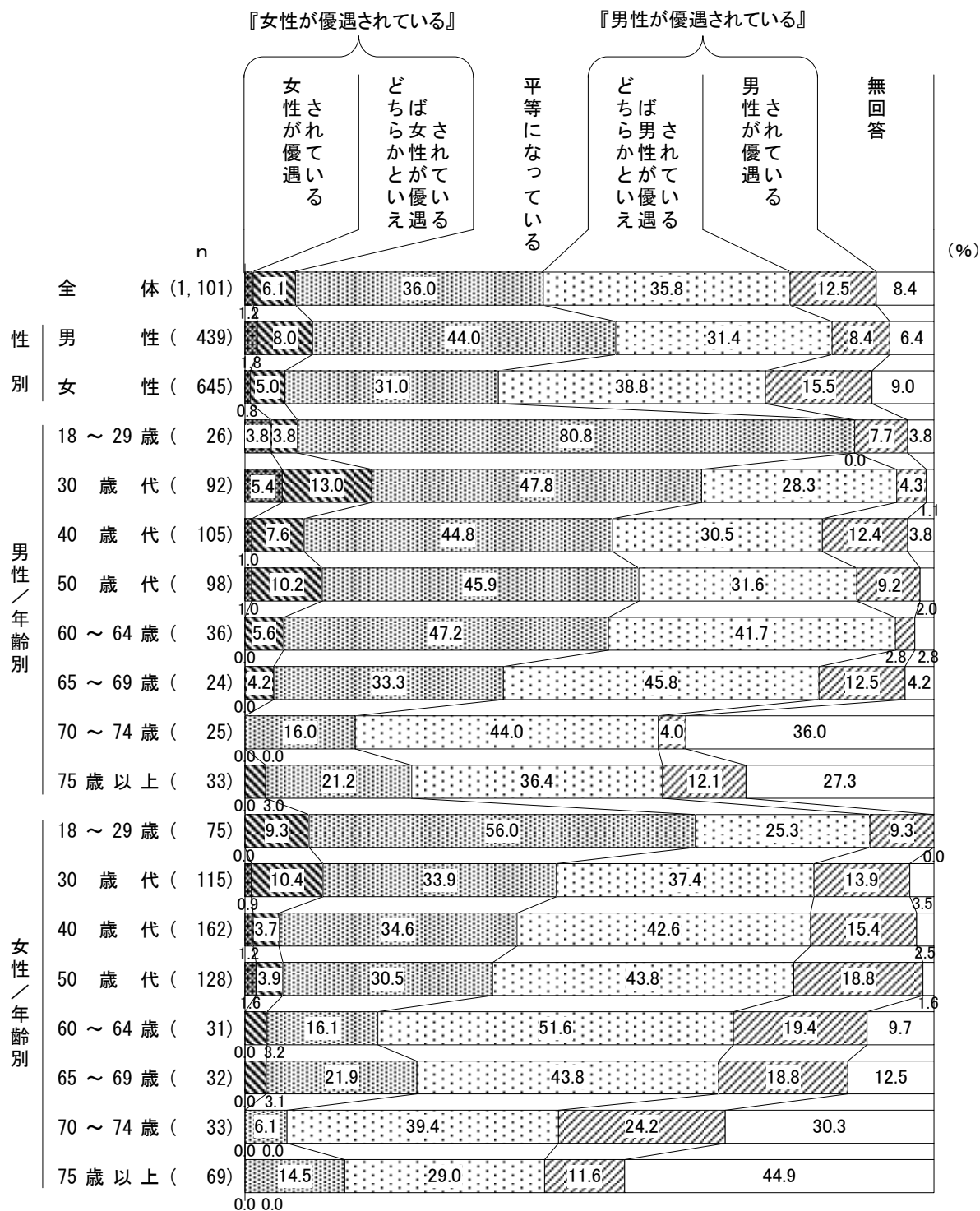


“職場では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が14.5ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が13.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で7割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で約8割と高くなっている。

(図表6-1-5)

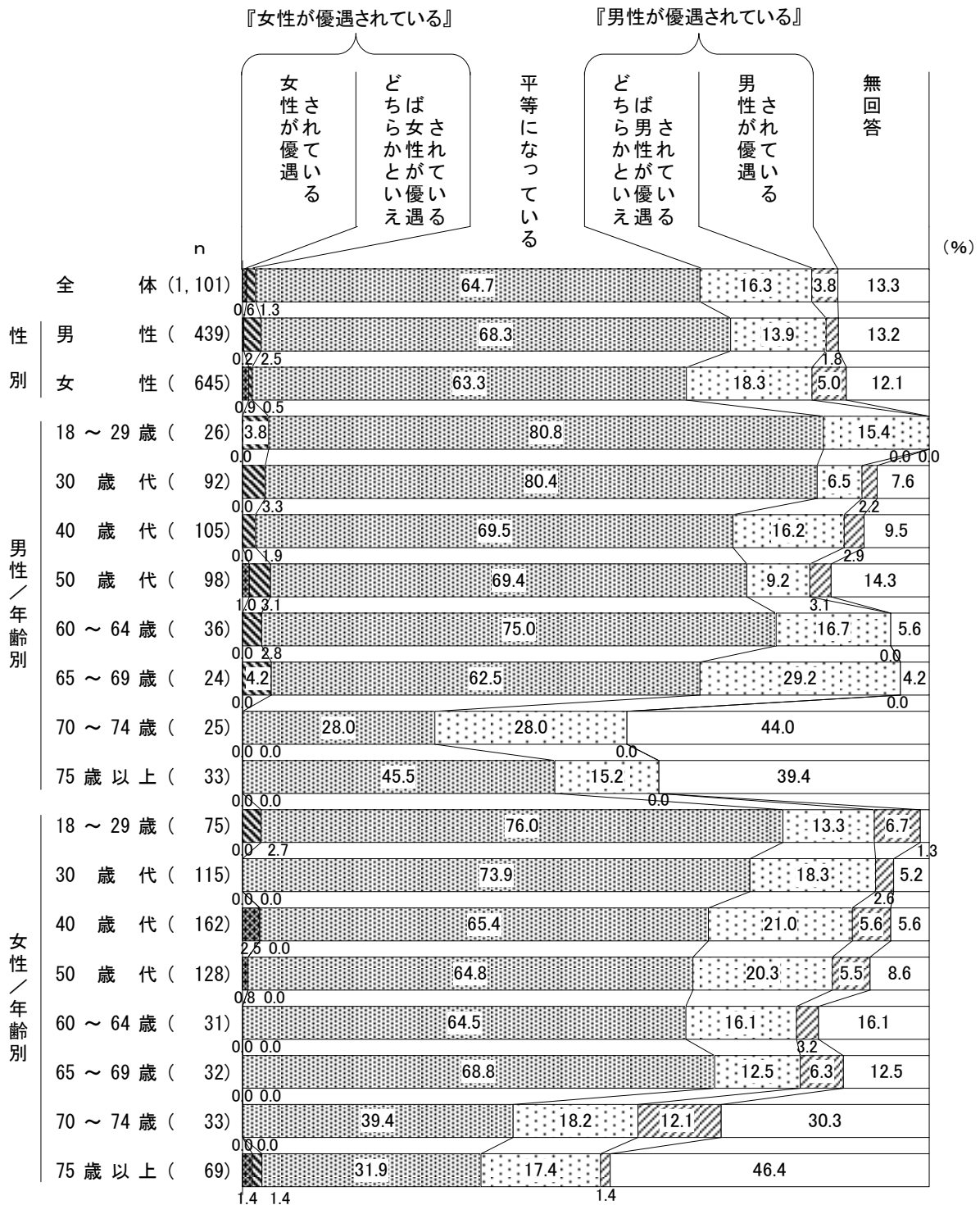
図表6-1-5 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(2) 職場では」



“学校教育の場では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が7.6ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の70～74歳で3割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳と30歳代で約8割と高くなっている。(図表6-1-6)

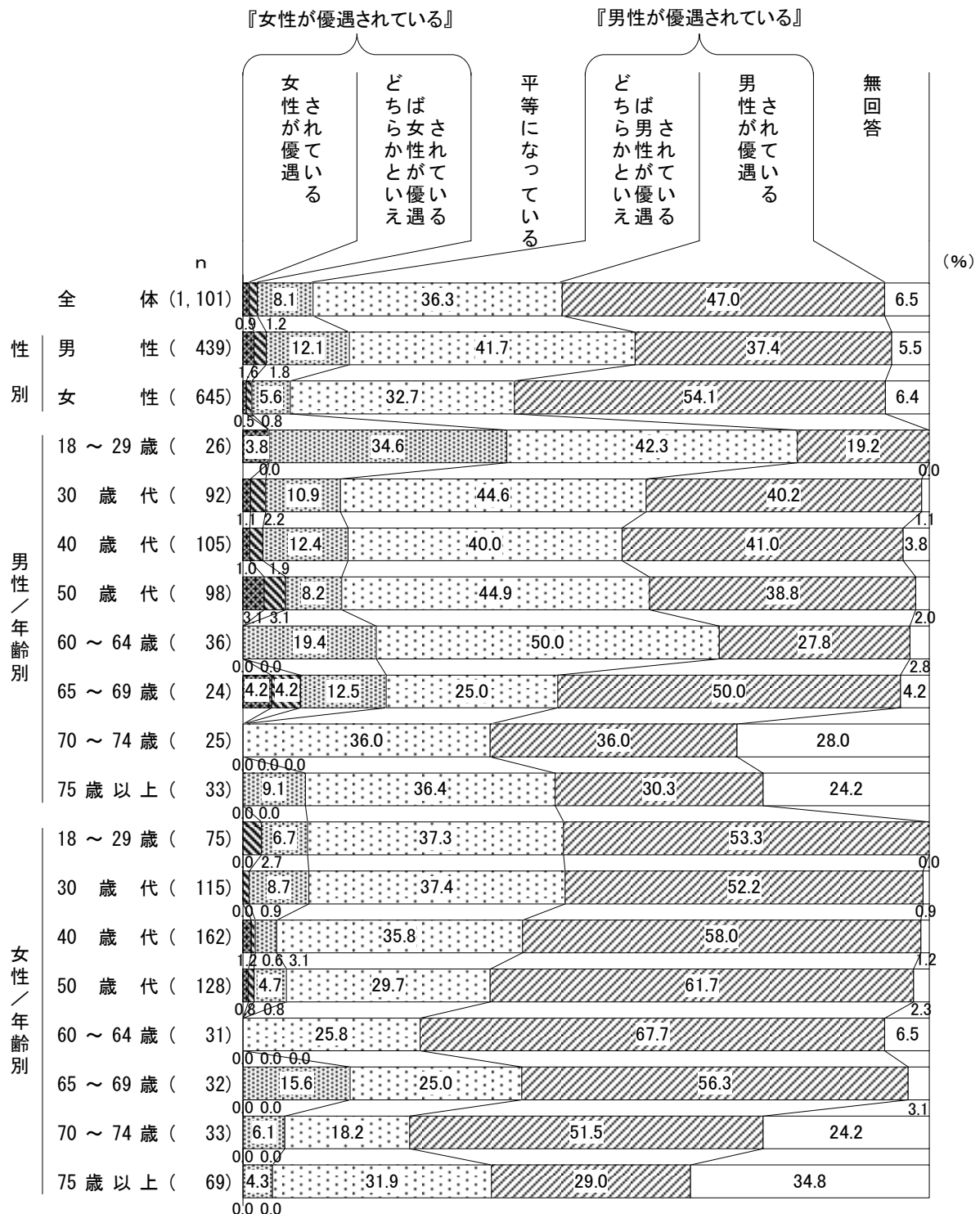
図表6-1-6 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(3) 学校教育の場では」



“政治の場では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が7.7ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が6.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代と50歳代、60～64歳で9割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で3割台半ばと高くなっている。(図表6-1-7)

図表6-1-7 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(4) 政治の場では」

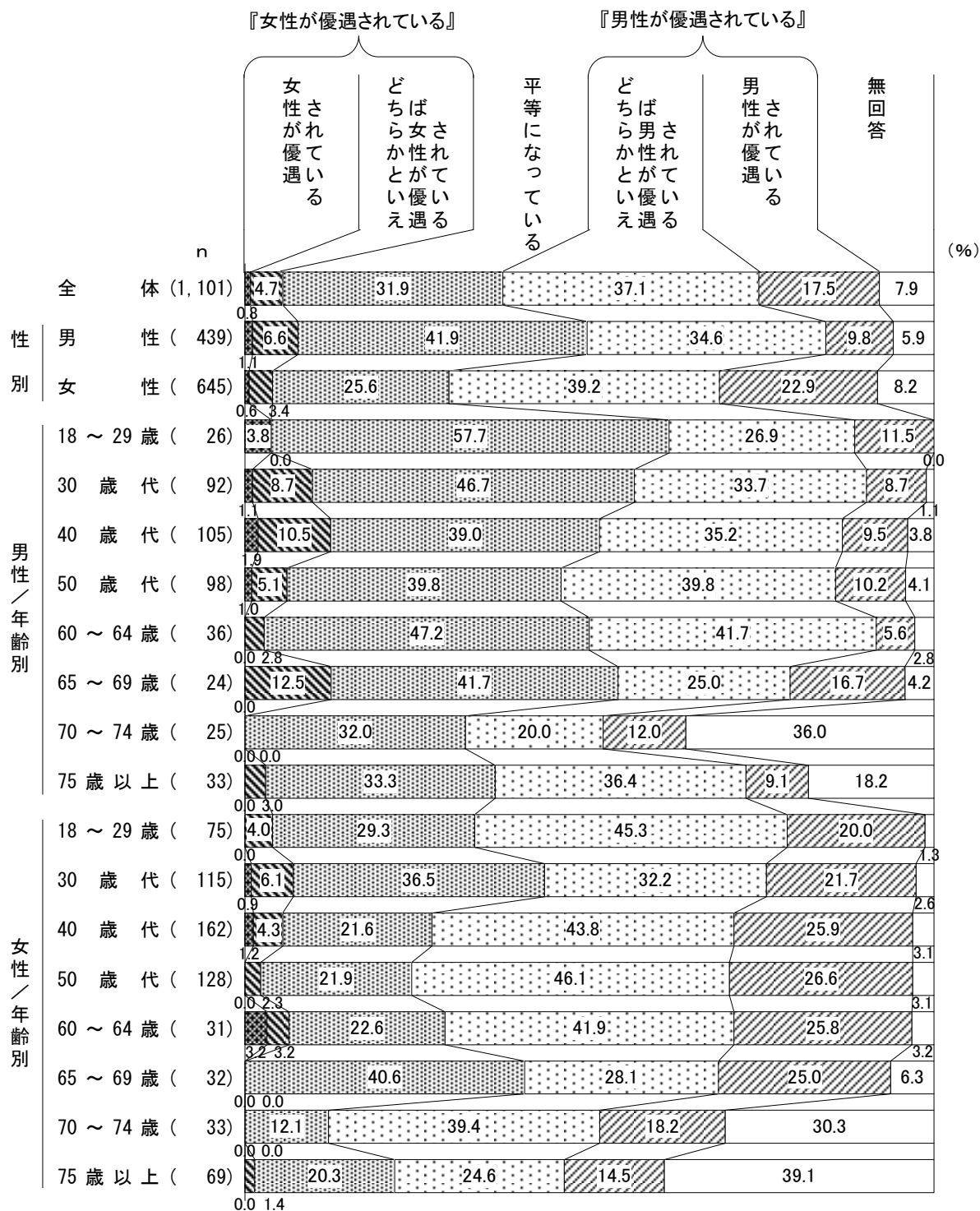


“法律や制度では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が17.7ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が16.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で7割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で6割近くと高くなっている。

(図表6-1-8)

図表6-1-8 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(5) 法律や制度では」

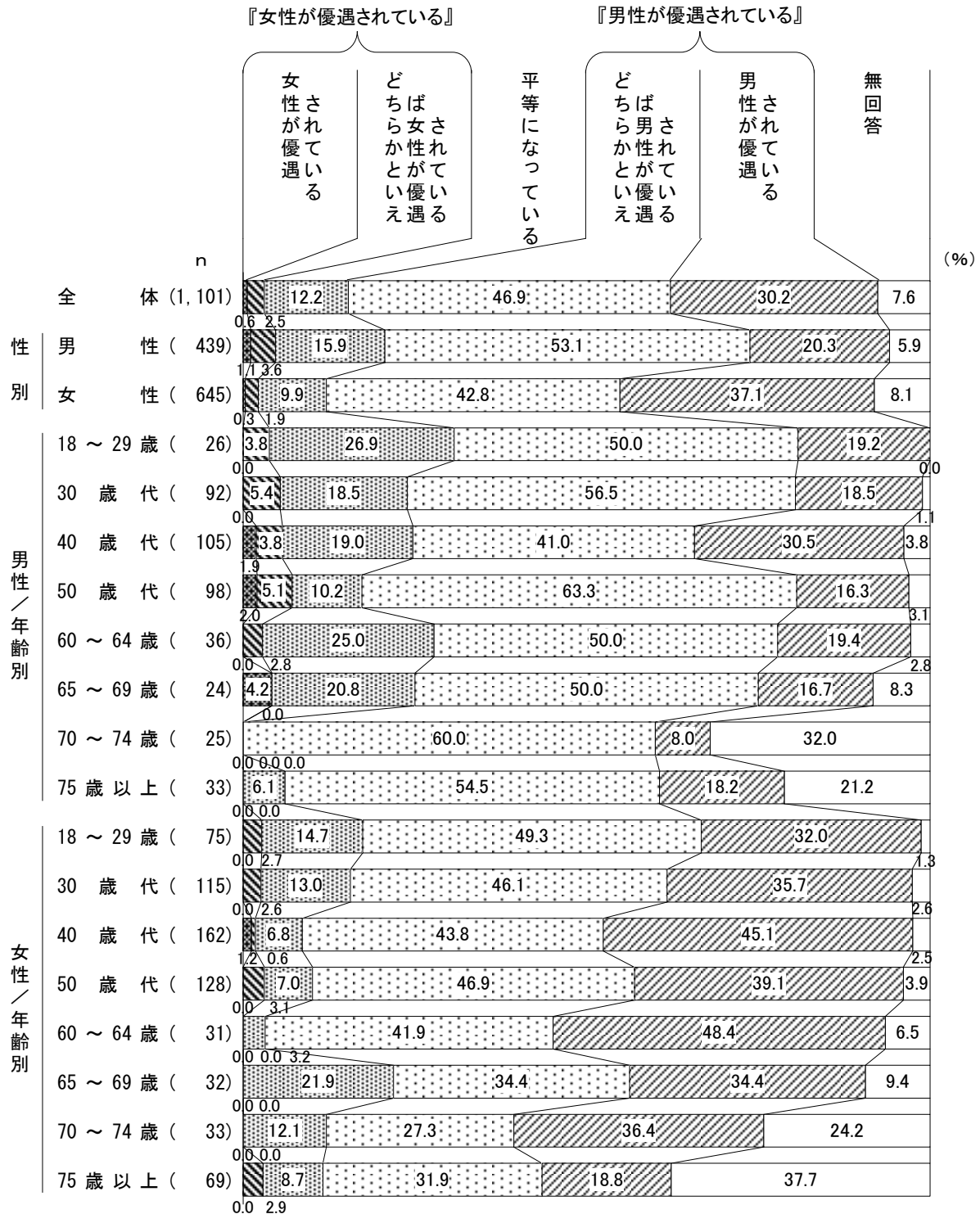


“社会通念・慣習・しきたりでは”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が6.5ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が6.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で9割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で3割近くと高くなっている。

(図表6-1-9)

図表6-1-9 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(6) 社会通念・慣習・しきたりでは」

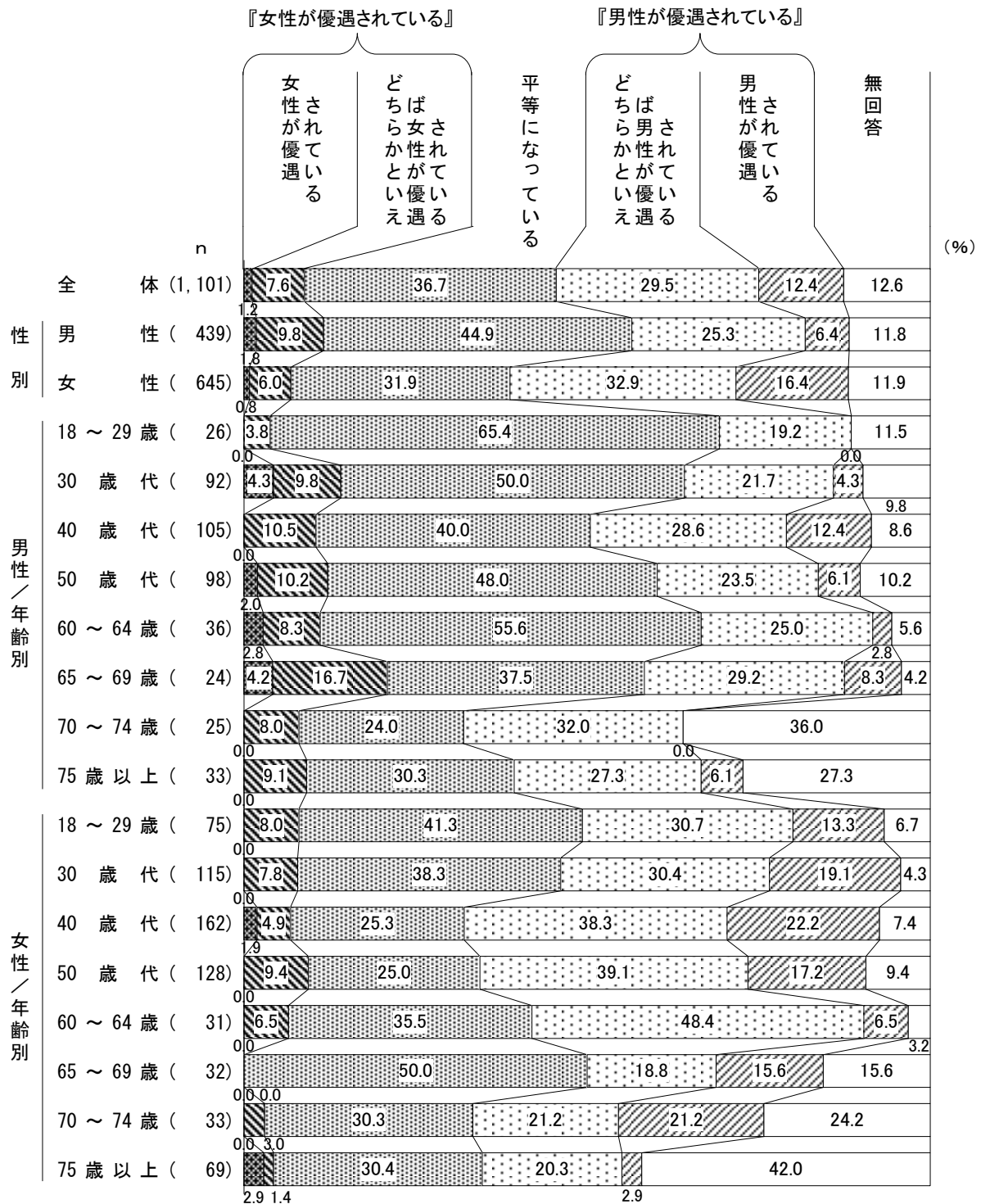


“自治体やPTAなどの地域活動では”について性別で見ると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が17.6ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が13.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の40歳代で約6割と高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で6割台半ばと高くなっている。

(図表6-1-10)

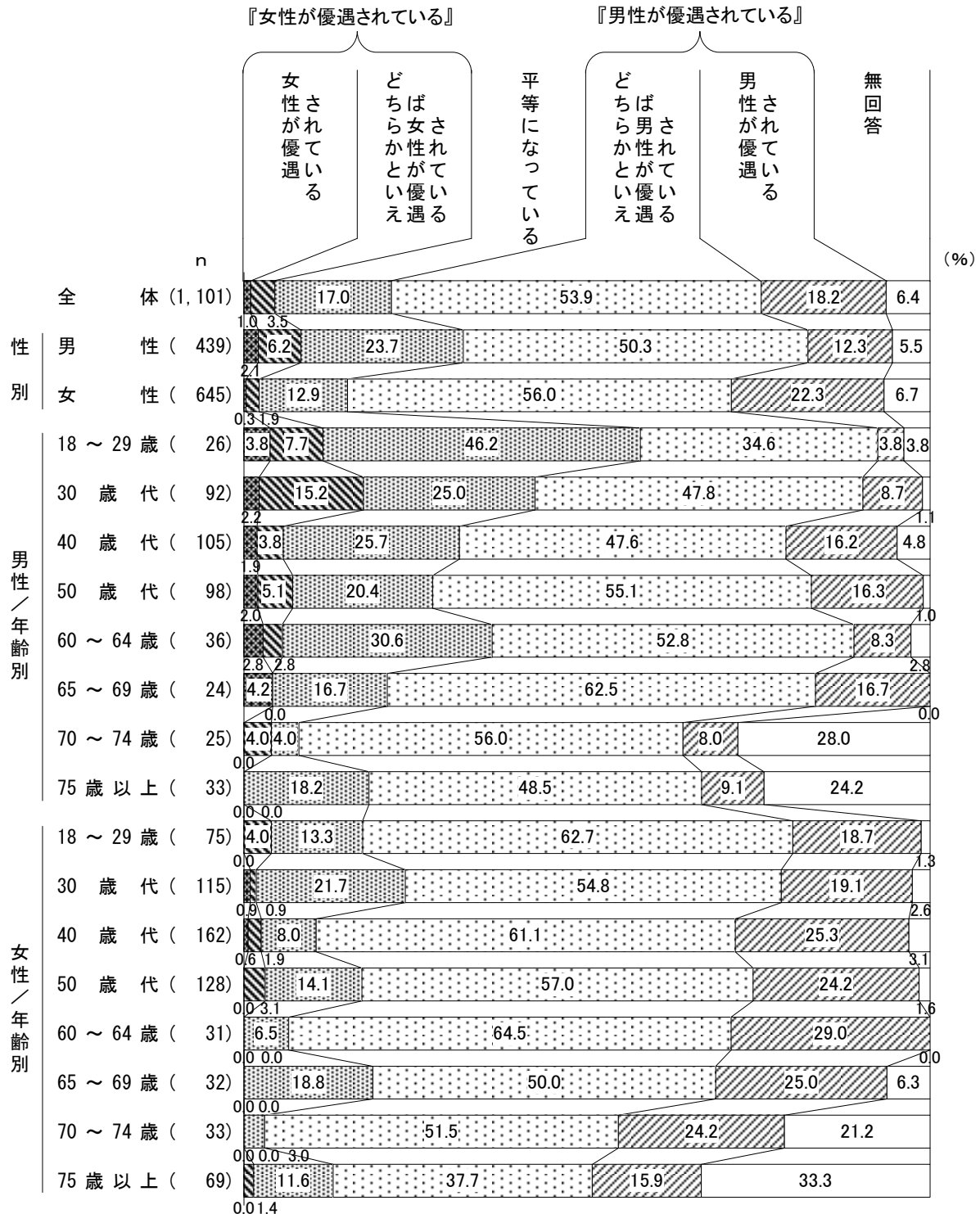
図表6-1-10 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(7)自治体やPTAなどの地域活動では」



“社会全体では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が15.7ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が10.8ポイント高くなっている。

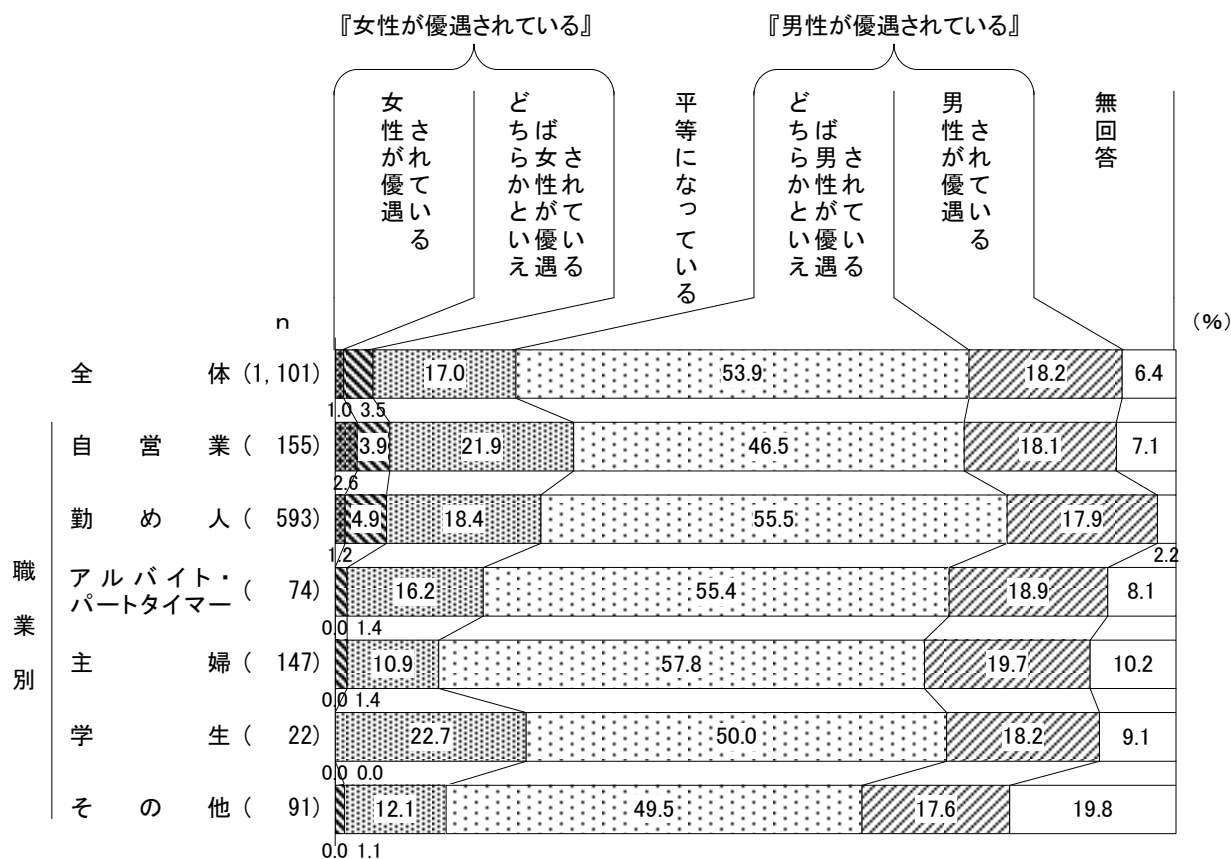
性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で9割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳で4割台半ばと高くなっている。(図表6-1-11)

図表6-1-11 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(8) 社会全体では」



“社会全体では”について職業別で見ると、『男性が優遇されている』と感じる割合は主婦で8割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は学生と自営業で2割を超えて高くなっている。(図表6-1-12)

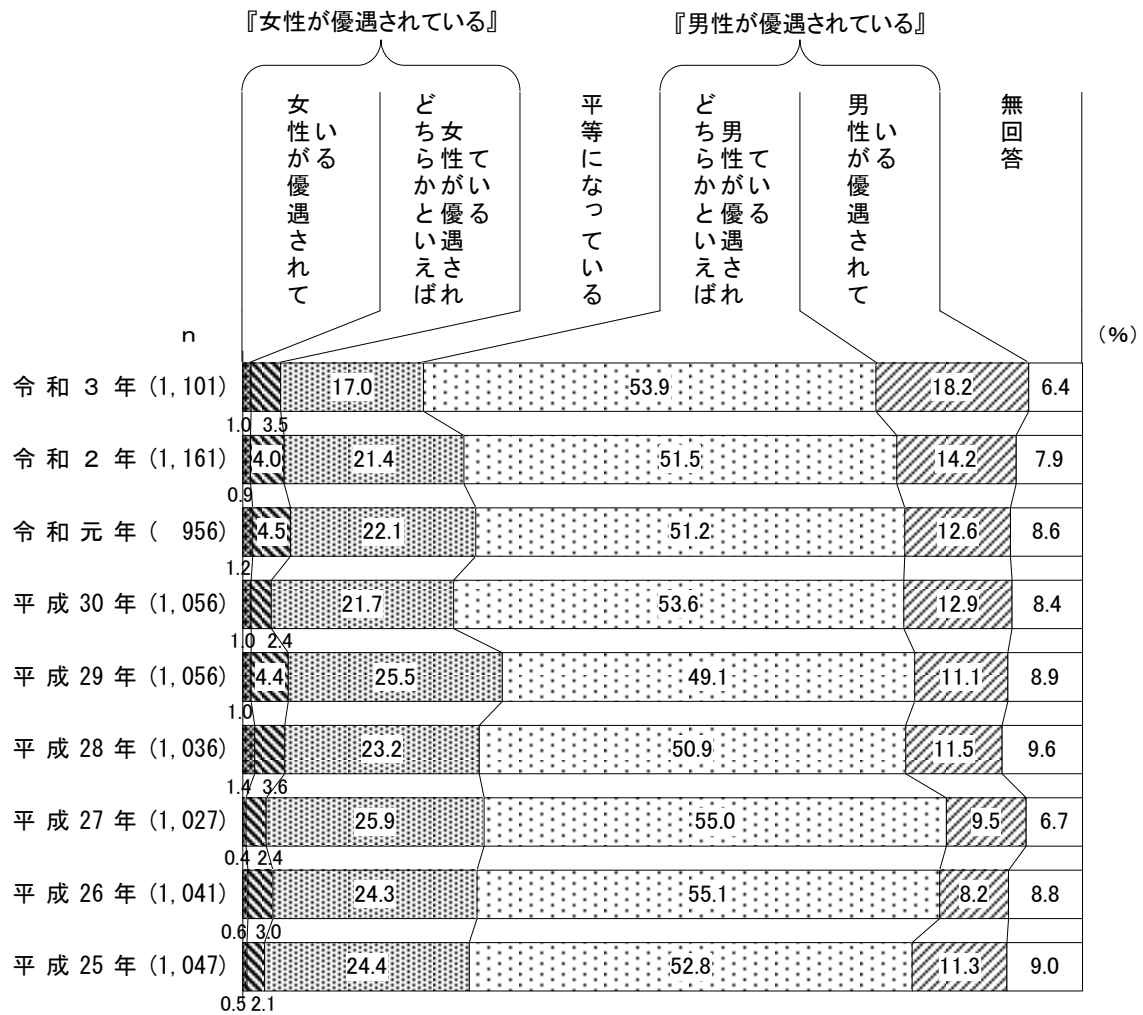
図表6-1-12 男女の地位の平等感—職業別「(8) 社会全体では」



“社会全体では”について過去の調査と比較すると、『男性が優遇されている』と感じる割合は令和2年と比べて6.4ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。

(図表6-1-13)

図表6-1-13 男女の地位の平等感一過年度比較「(8) 社会全体では」



(2) ワーク・ライフ・バランスの現在の状況

◇「仕事と家庭生活を同じように両立させている」が3割近く

問13 あなた自身の「仕事」と「家庭生活」について、現状は次のどれにあてはまりますか。

(○は1つ)

(※) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

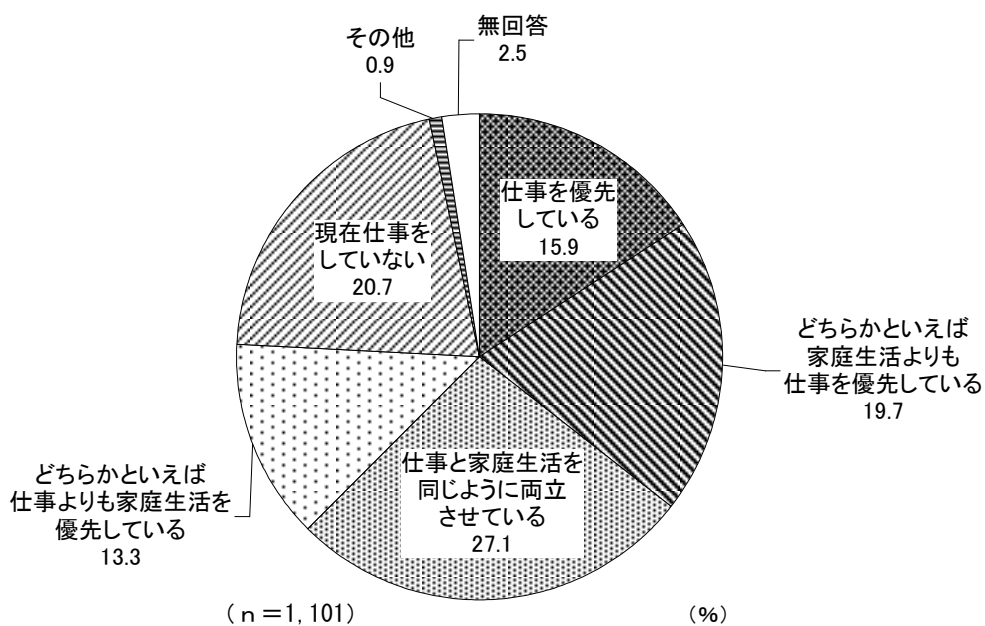
仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

n = 1, 101

1	仕事を優先している	15.9%
2	どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している	19.7
3	仕事と家庭生活を同じように両立させている	27.1
4	どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している	13.3
5	現在仕事をしていない	20.7
6	その他	0.9
	(無回答)	2.5

ワーク・ライフ・バランスの現在の状況は、「仕事と家庭生活を同じように両立させている」(27.1%) が3割近くで最も高くなっている。次いで、「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」(19.7%)、「仕事を優先している」(15.9%) などとなっている。また、「現在仕事をしていない」(20.7%) は約2割となっている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況



過去の調査結果との比較は、平成30年以前とは選択肢が異なり単純に比較することはできないが、令和2年と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表6-2-2)

図表6-2-2 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－過年度比較

調査年	n	(%)						
		仕事を優先している	どちらかといえば仕事を優先している	仕事と家庭生活を同じように両立させている	どちらかといえば家庭生活を優先している	現在仕事をしていない	その他	無回答
令和3年	1,101	15.9	19.7	27.1	13.3	20.7	0.9	2.5
令和2年	1,161	15.3	19.6	25.8	14.7	19.2	1.5	3.8
令和元年	956	15.4	21.1	23.4	13.6	22.4	0.7	3.3
平成30年	1,056	9.0	30.3	20.5	13.5	22.7	0.9	3.0
平成29年	1,056	8.1	29.8	23.9	11.2	20.6	1.5	4.8
平成28年	1,036	10.2	28.8	23.7	12.4	19.6	1.0	4.3
平成27年	1,027	9.7	30.1	20.6	12.8	21.0	2.2	3.5
平成26年	1,041	7.5	31.6	20.2	12.2	24.1	0.5	3.9
平成25年	1,047	9.1	31.6	20.2	11.3	21.0	1.6	5.2

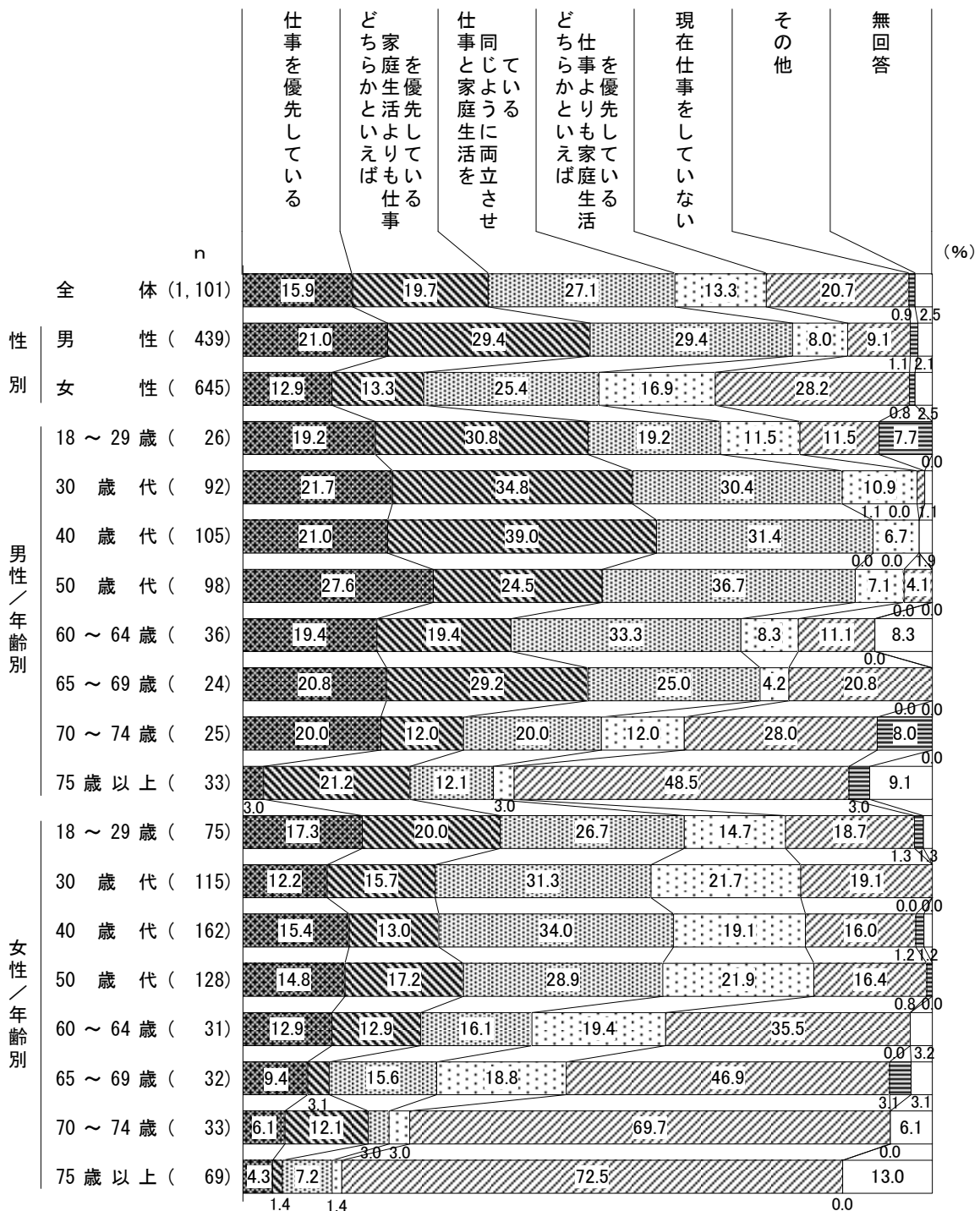
- * 「仕事を優先している」の選択肢は、平成30年まで「仕事に専念している」としていた。
- * 「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」の選択肢は、平成30年まで「どちらかといえば、仕事の方を優先している」としていた。
- * 「仕事と家庭生活を同じように両立させている」の選択肢は、平成30年まで「仕事と生活を同じように両立させている」としていた。
- * 「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」の選択肢は、平成30年まで「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「現在仕事をしていない」で19.1ポイント、「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」で8.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」で16.1ポイント、「仕事を優先している」で8.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事を優先している」は男性の50歳代で3割近くと高くなっている。「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」は男性の40歳代で約4割と高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は男性の50歳代で4割近くと高くなっている。

(図表6-2-3)

図表6-2-3 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－性別・性／年齢別

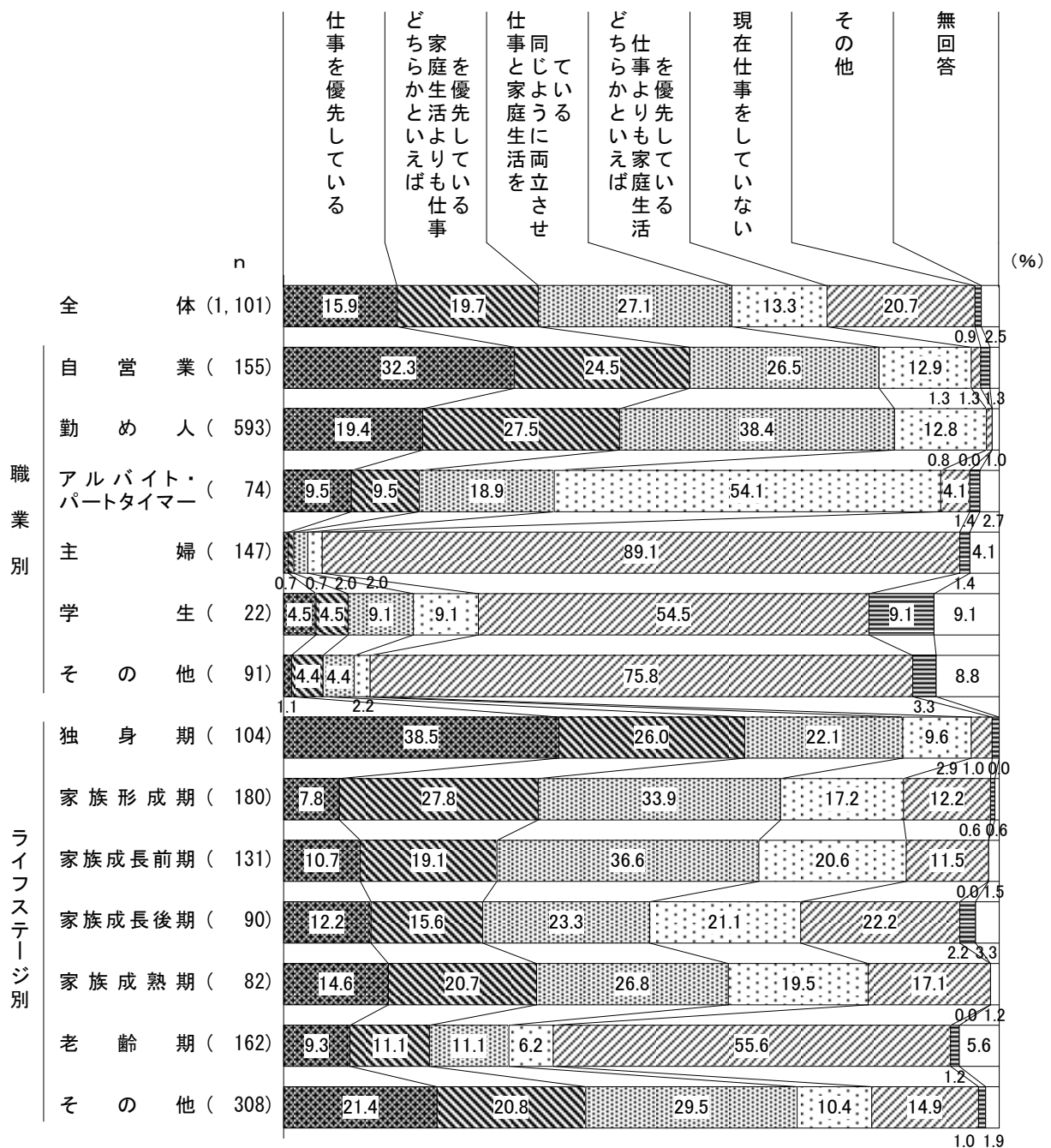


職業別でみると、「仕事を優先している」は自営業で3割を超えて高くなっている。「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」は勤め人で3割近くと高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は勤め人で4割近くと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」はアルバイト・パートタイマーで5割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事を優先している」は独身期で4割近くと高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は家族成長前期で4割近くと高くなっている。

(図表6-2-4)

図表6-2-4 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－職業別・ライフステージ別



【7 防犯対策】

(1) 不安を感じる犯罪

◇「振り込め詐欺」が2割

問14 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

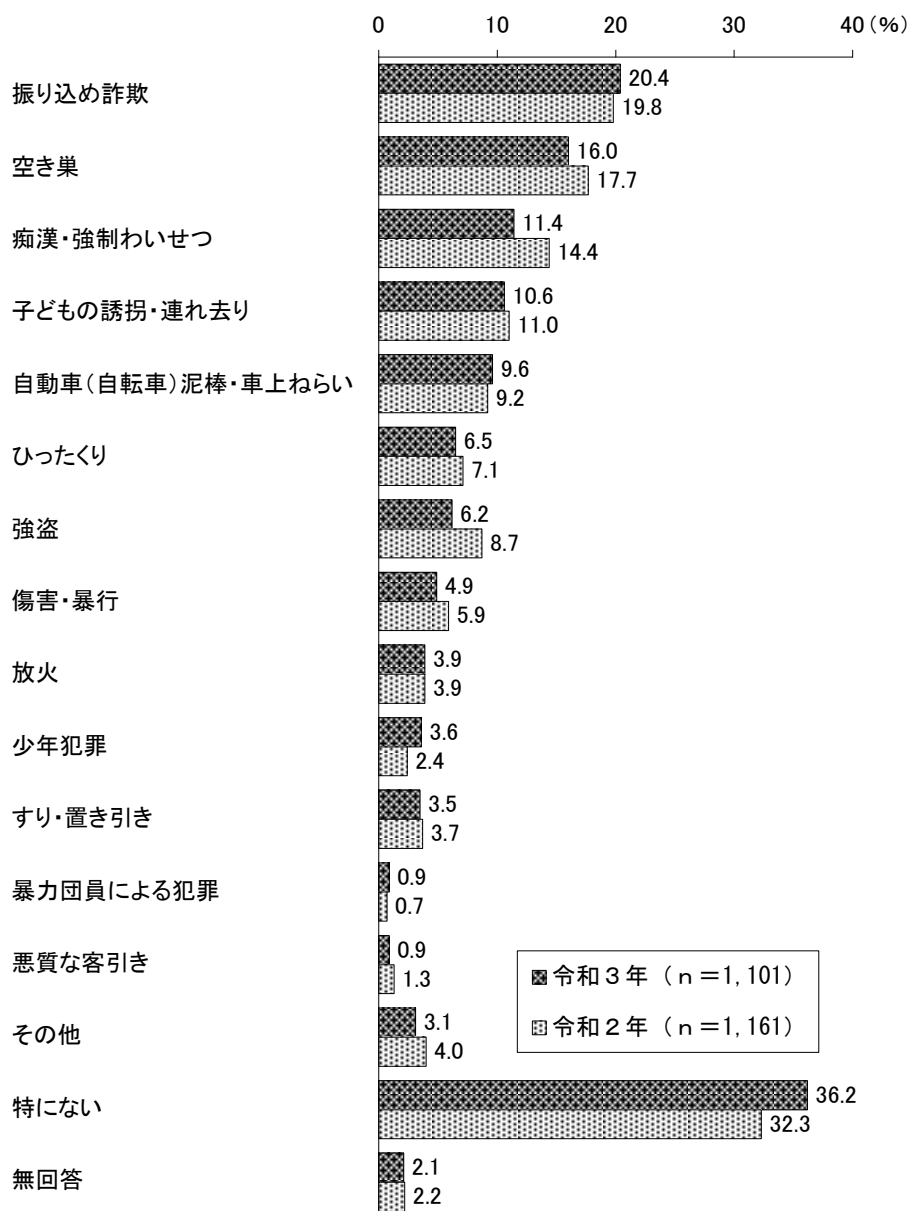
n = 1, 101

1	ひったくり	6.5%	9	痴漢・強制わいせつ	11.4
2	空き巣	16.0	10	少年犯罪	3.6
3	強盗	6.2	11	子どもの誘拐・連れ去り	10.6
4	すり・置き引き	3.5	12	暴力団員による犯罪	0.9
5	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	9.6	13	悪質な客引き	0.9
6	振り込め詐欺	20.4	14	その他	3.1
7	傷害・暴行	4.9	15	特にない	36.2
8	放火	3.9		(無回答)	2.1

不安を感じる犯罪は、「振り込め詐欺」(20.4%)が2割で最も高くなっている。次いで、「空き巣」(16.0%)、「痴漢・強制わいせつ」(11.4%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(10.6%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(9.6%)などとなっている。一方、「特にない」(36.2%)は3割台半ばとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特にない」は3.9ポイント増加している。一方、「痴漢・強制わいせつ」は3.0ポイント減少している。(図表7-1-1)

図表7-1-1 不安に感じる犯罪（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和2年以降は「振り込め詐欺」が第1位となっている。(図表7-1-2)

図表7-1-2 不安に感じる犯罪一過年度比較

調査年	n	(%)															
		振り込め詐欺	空き巣	痴漢・強制わいせつ	子どもの誘拐・連れ去り	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	ひったくり	強盗	傷害・暴行	放火	少年犯罪	すり・置き引き	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
令和3年	1,101	20.4	16.0	11.4	10.6	9.6	6.5	6.2	4.9	3.9	3.6	3.5	0.9	0.9	3.1	36.2	2.1
令和2年	1,161	19.8	17.7	14.4	11.0	9.2	7.1	8.7	5.9	3.9	2.4	3.7	0.7	1.3	4.0	32.3	2.2
令和元年	956	18.1	23.6	10.8	9.8	7.1	5.9	7.8	6.3	5.1	3.3	2.7	1.7	1.9	4.0	32.5	2.4
平成30年	1,056	16.8	22.1	9.0	14.1	8.4	8.4	4.7	7.5	6.9	3.5	2.9	1.2	1.7	4.1	32.1	2.3
平成29年	1,056	13.6	22.2	8.3	13.2	10.6	9.8	5.9	5.2	6.4	3.1	3.0	1.0	1.7	3.3	31.5	4.0
平成28年	1,036	12.4	21.7	10.0	14.0	12.2	6.0	6.4	6.0	5.2	3.6	2.7	2.0	1.4	3.8	33.4	3.2
平成27年	1,027	15.1	26.4	7.4	14.1	10.8	7.7	6.5	6.5	8.7	7.6	3.8	1.7	0.8	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	21.4	40.1	11.8	16.9	17.5	16.0	11.9	11.1	13.8	8.8	8.4	3.9	※	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	21.5	37.8	11.4	11.4	22.1	22.6	12.0	11.9	16.4	7.6	8.2	4.7	※	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	13.1	41.7	10.5	11.9	21.1	21.5	16.9	16.8	17.8	10.2	7.5	8.2	※	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	14.2	43.6	9.9	12.8	23.2	23.4	15.4	11.9	15.6	7.8	7.5	5.7	※	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	17.1	41.8	10.3	13.9	20.9	20.3	12.8	12.2	16.7	11.3	6.5	7.0	※	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	12.2	44.8	10.2	14.2	21.1	27.7	17.7	9.7	21.9	9.5	6.3	4.8	※	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	18.0	42.6	18.6	16.9	13.9	19.8	18.1	17.7	18.9	15.0	4.5	10.4	※	5.9	※	7.6
平成19年	686	18.4	43.7	15.9	16.5	16.0	20.6	20.6	14.0	22.6	16.3	5.0	8.7	※	1.9	※	5.4

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

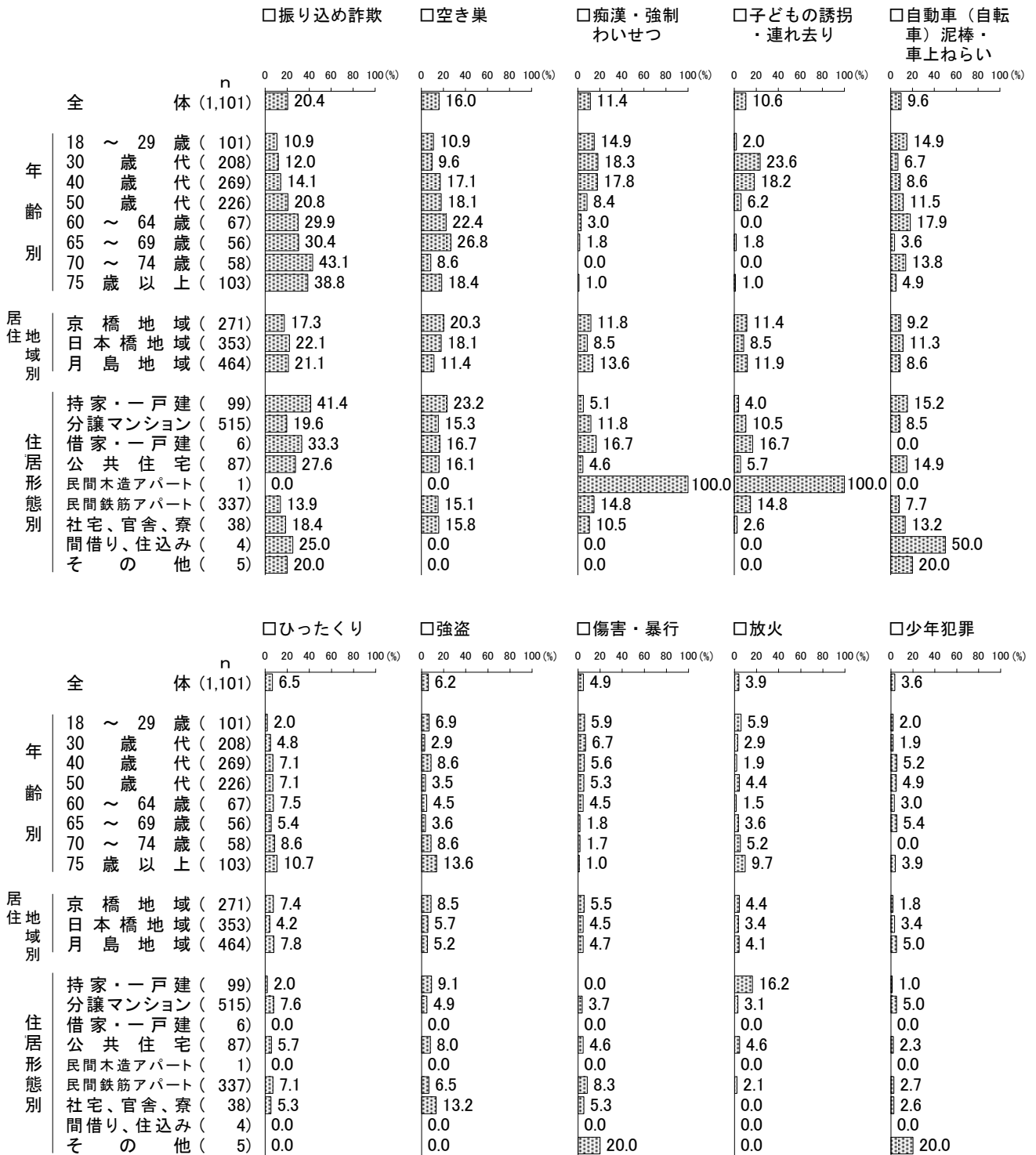
* 平成26年以前は、3つまで回答可能としていた。

年齢別でみると、「振り込め詐欺」は70～74歳で4割を超えて高くなっている。「空き巣」は65～69歳で3割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「空き巣」は京橋地域で2割と高くなっている。

住居形態別でみると、「振り込め詐欺」は持家・一戸建てで4割を超えて高くなっている。「空き巣」は持家・一戸建てで2割を超えて高くなっている。(図表7-1-3)

図表7-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



(2) 防犯のために行っていること

◇「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」が6割近く

問15 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。

(〇はいくつでも)

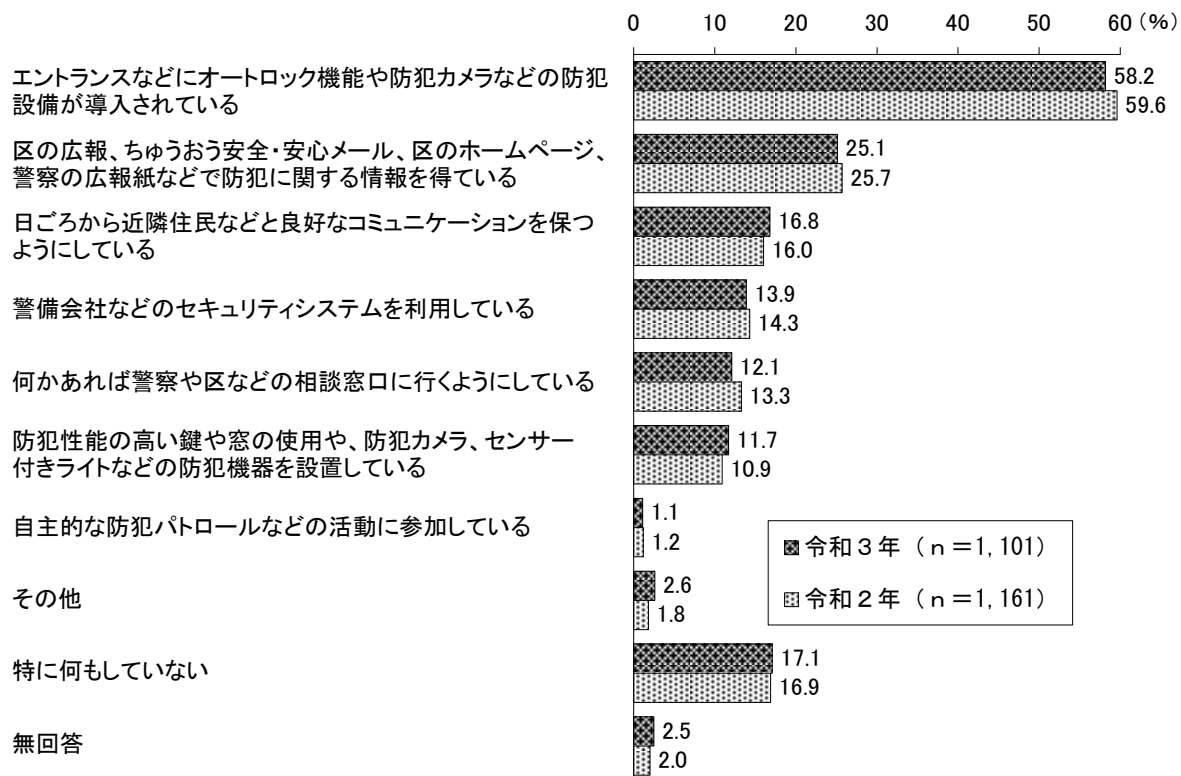
n = 1, 101

1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	1.1%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	25.1
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	12.1
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	16.8
5	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	11.7
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	13.9
7	エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	58.2
8	その他	2.6
9	特に何もしていない (無回答)	17.1 2.5

防犯のために行っていることは、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」(58.2%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(25.1%)、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(16.8%)、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(13.9%)、「何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている」(12.1%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(17.1%)は2割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表7-2-1)

図表7-2-1 防犯のために行っていること(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」と「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」は、平成22年以降引き続き上位項目となっている。(図表7-2-2)

図表7-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

調査年	n	(%)									
		エン トラ ンス など にオ ート ロッ ク機 能や 防犯 カメ ラな どの 防犯 設備 が導 入さ れて いる	区 の広 報、 ちゅう おう 安全 ・安 心メ ール、 区 のホ ーム ペー ジ、 警 察の 広報 紙な どで 防犯 に関 する 情報 を得 てい る	日 ご ろか ら近 隣住 民な どと 良好 なコ ミュ ニ ケー ショ ンを保 つよ うに して いる	警 備会 社な どの セキ ュリ テイ シス テム を利 用し てい る	何 かあ れば 警察 や区 など の相 談窓 口に行 く	防 犯性 能の 高い 鍵や 窓の 使用 や、 防犯 カメ ラ、 セン サー 付き ライ トな どの 防犯 機器 を設 置し てい る	自 主的 な防 犯パ トロー ルな どの 活動 に参 加し てい る	そ の他	特 に何 もし てい ない	無 回答
令和3年	1,101	58.2	25.1	16.8	13.9	12.1	11.7	1.1	2.6	17.1	2.5
令和2年	1,161	59.6	25.7	16.0	14.3	13.3	10.9	1.2	1.8	16.9	2.0
令和元年	956	※	21.1	20.5	16.7	13.7	16.3	1.6	2.4	40.5	2.4
平成30年	1,056	※	19.8	19.6	14.7	13.3	11.6	1.5	3.9	42.1	2.1
平成29年	1,056	※	21.3	19.1	14.6	13.2	15.9	1.4	3.0	38.0	3.6
平成28年	1,036	※	19.8	20.3	15.2	13.5	15.5	1.2	2.2	41.0	2.6
平成27年	1,027	※	20.0	20.1	14.2	13.0	14.1	1.6	3.0	41.6	1.9
平成26年	1,041	※	17.5	19.5	13.6	14.4	14.9	1.2	3.7	41.6	3.2
平成25年	1,047	※	18.4	22.3	11.9	15.2	16.1	2.1	3.9	36.8	4.7
平成24年	1,123	※	19.6	20.1	12.0	16.3	15.2	1.6	2.8	40.5	2.4
平成23年	1,097	※	17.7	22.0	11.9	15.3	14.8	1.8	3.2	39.7	3.4
平成22年	1,004	※	20.3	27.5	14.0	19.2	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1
平成21年	1,001	※	13.7	26.8	15.4	16.2	19.4	2.6	3.5	35.2	2.2
平成20年	1,065	※	12.7	29.8	14.1	17.2	19.7	3.4	3.3	36.2	2.3
平成19年	686	※	9.0	27.7	10.5	13.0	19.2	2.9	2.5	41.5	2.0

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

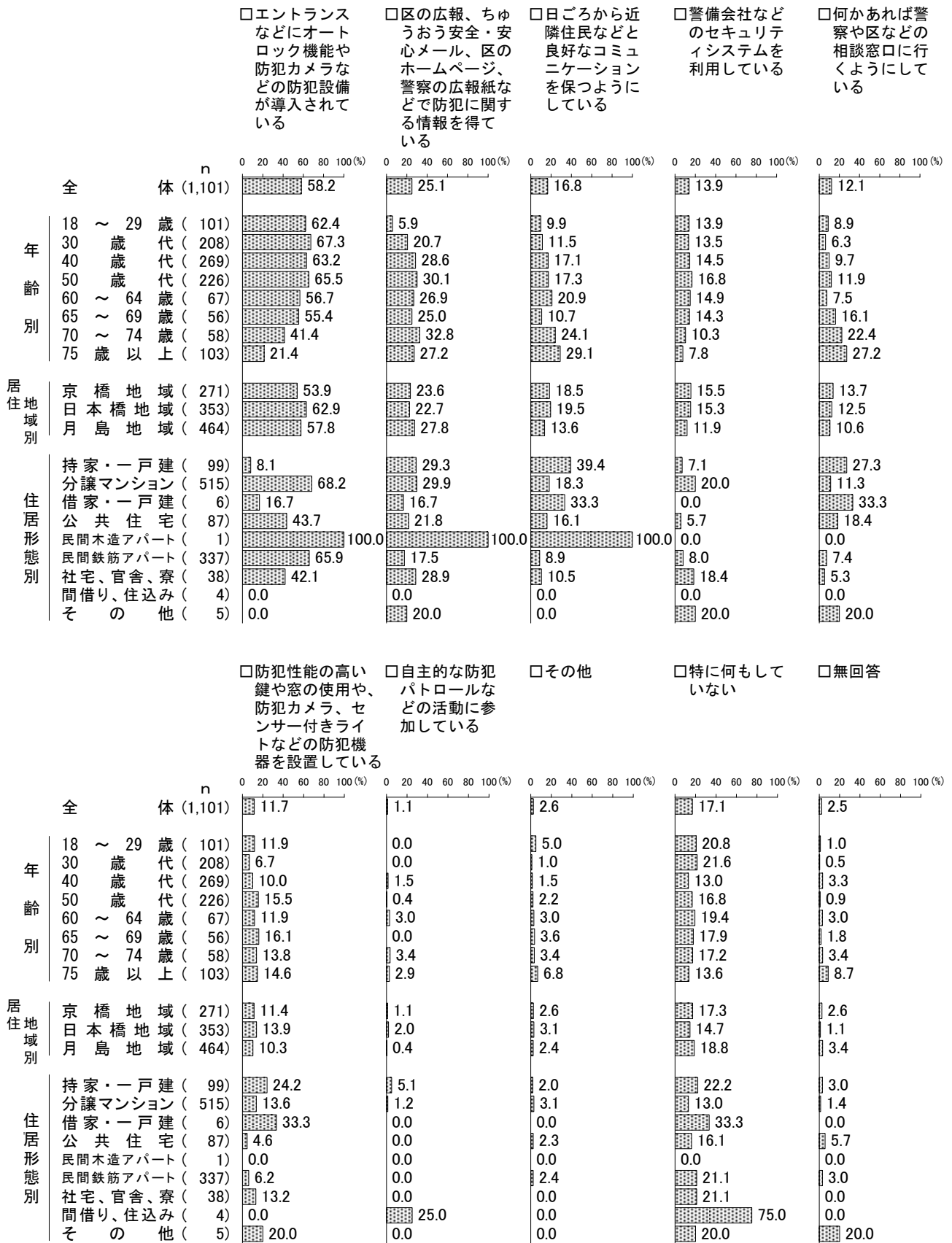
年齢別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は30歳代で7割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は日本橋地域で6割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は分譲マンションで7割近く、民間鉄筋アパートで6割台半ばと高くなっている。

(図表7-2-3)

図表 7-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



(3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が4割台半ば

問16 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

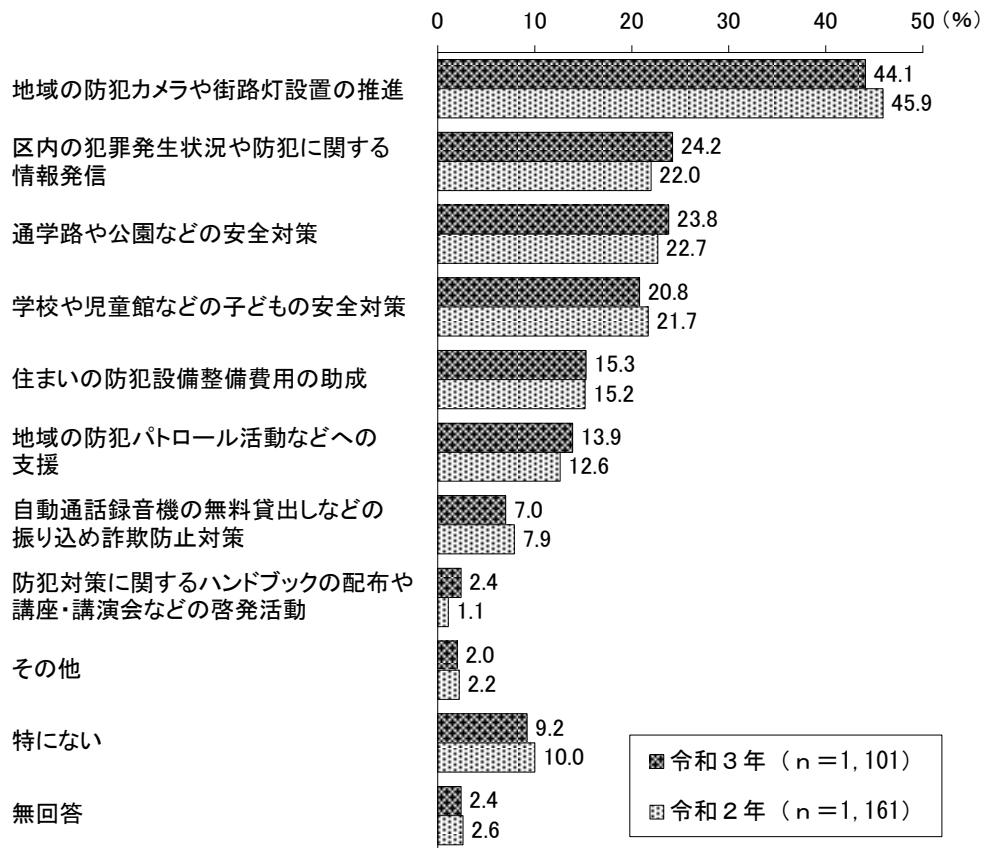
n = 1, 101

1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	24.2%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	15.3
3	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	7.0
4	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	44.1
5	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	2.4
6	学校や児童館などの子どもの安全対策	20.8
7	通学路や公園などの安全対策	23.8
8	地域の防犯パトロール活動などへの支援	13.9
9	その他	2.0
10	特にない	9.2
	(無回答)	2.4

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(44.1%)が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(24.2%)、「通学路や公園などの安全対策」(23.8%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(20.8%)、「住まいの防犯設備整備費用の助成」(15.3%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表7-3-1)

図表7-3-1 区に特に力を入れてほしい施策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は平成27年以降第1位となっている。(図表7-3-2)

図表7-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一過年度比較

調査年	n	(%)										
		地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	通学路や公園などの安全対策	学校や児童館などの子どもの安全対策	住まいの防犯設備整備費用の助成	地域の防犯パトロール活動などへの支援	自動の通話録音機詐欺防止対策	防犯配布活動に関する講座・講演会などの啓発	その他	特にない	無回答
令和3年	1,101	44.1	24.2	23.8	20.8	15.3	13.9	7.0	2.4	2.0	9.2	2.4
令和2年	1,161	45.9	22.0	22.7	21.7	15.2	12.6	7.9	1.1	2.2	10.0	2.6
令和元年	956	43.7	24.2	25.0	20.6	11.9	16.0	8.5	1.9	1.8	7.6	2.8
平成30年	1,056	51.1	20.1	26.9	20.4	14.2	17.0	※	2.7	2.7	6.4	2.1
平成29年	1,056	47.1	24.1	26.2	22.1	11.7	16.3	※	2.5	2.1	8.0	4.5
平成28年	1,036	46.9	24.0	25.5	22.0	11.5	18.8	※	2.2	1.2	8.5	3.1
平成27年	1,027	50.6	21.3	30.1	23.5	12.8	22.1	※	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	14.6	35.8	22.9	21.3	22.4	※	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	14.9	34.4	19.5	23.3	21.0	※	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	20.7	38.1	24.0	11.0	28.9	※	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	15.6	38.6	24.2	12.4	30.8	※	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	14.9	42.4	29.3	10.8	31.1	※	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	14.5	39.3	23.6	11.4	28.6	※	5.0	7.1	※	9.0

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

* 「地域の防犯パトロール活動などへの支援」の選択肢は、平成29年と平成27年では「地域の防犯パトロール活動への支援」、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。

* 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。

* 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。

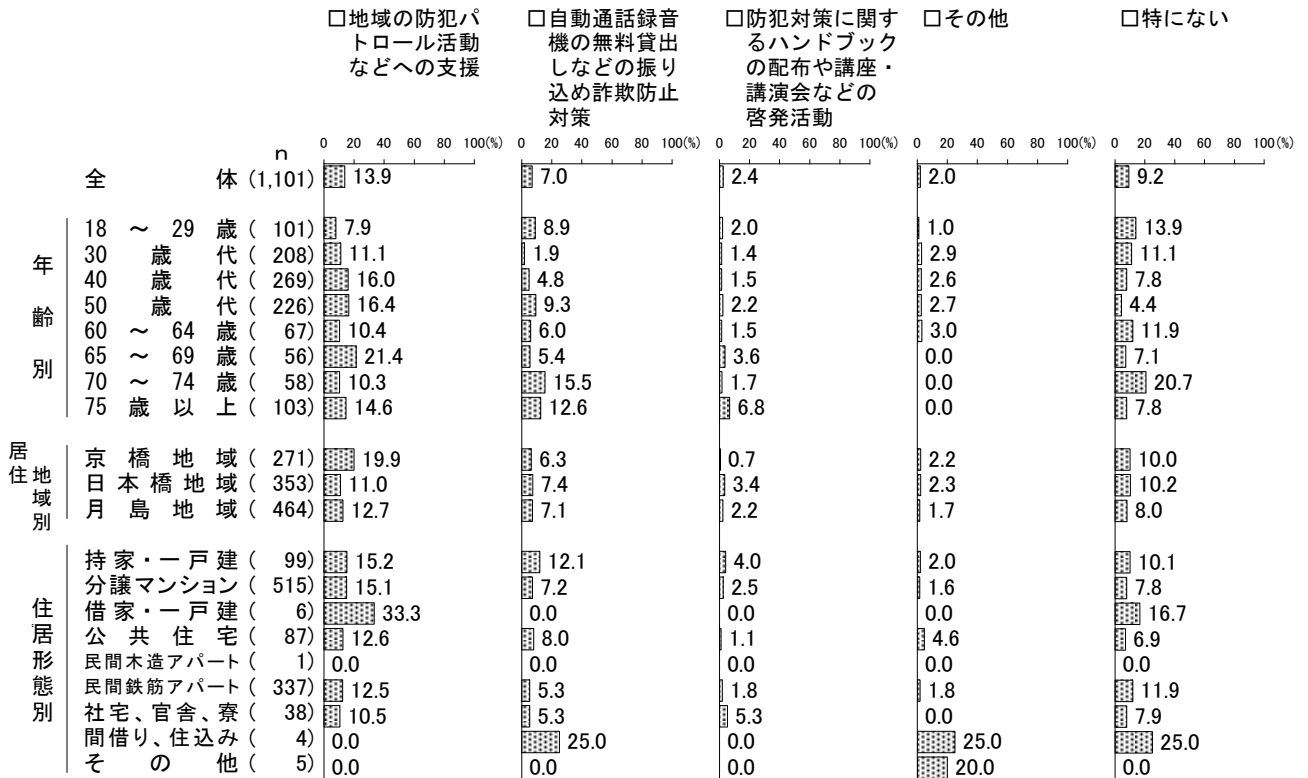
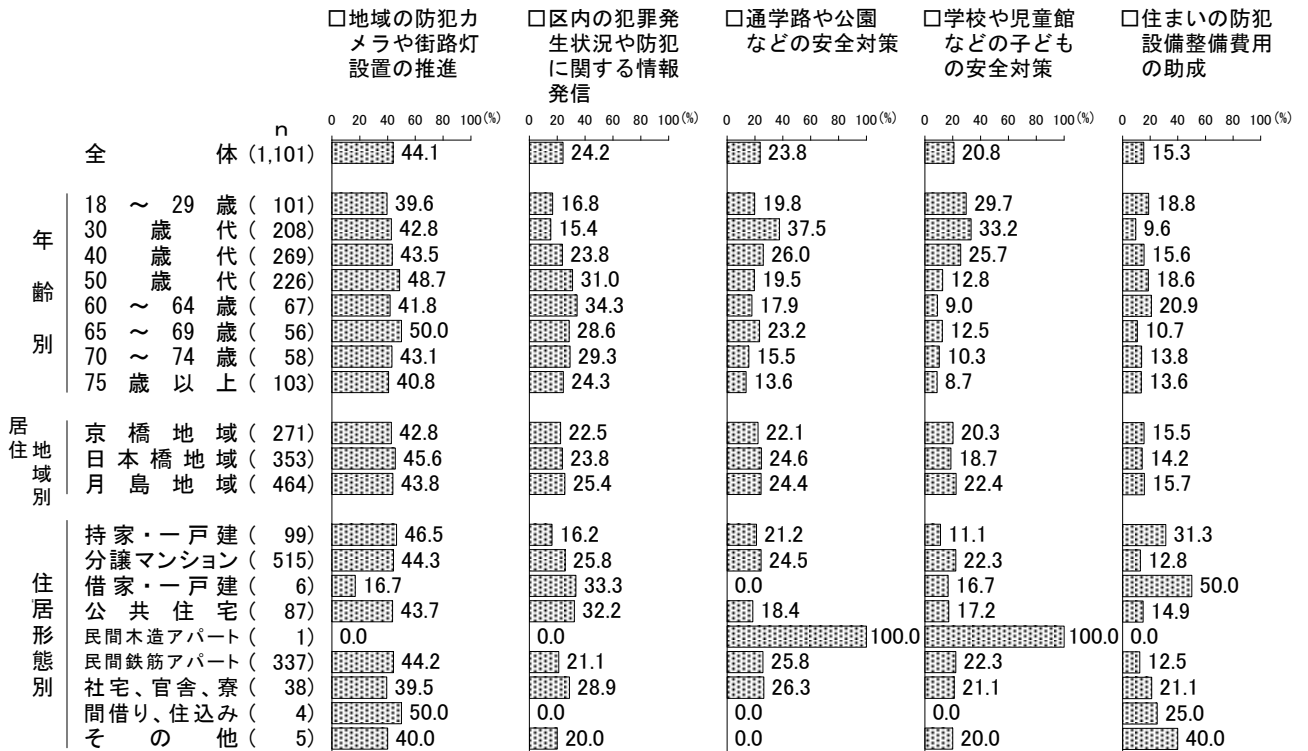
* 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・講演会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

年齢別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は65～69歳で5割と高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は30歳代で4割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「地域の防犯パトロール活動などへの支援」は京橋地域で2割となっている。

住居形態別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は持家・一戸建てで5割近くと高くなっている。(図表7-3-3)

図表 7-3-3 区に特に力を入れてほしい施策—年齢別・居住地域別・住居形態別



【8 スポーツ】

(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が6割台半ば

問17 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。（○はいくつでも）

※ 運動の量や時間の条件はありません。

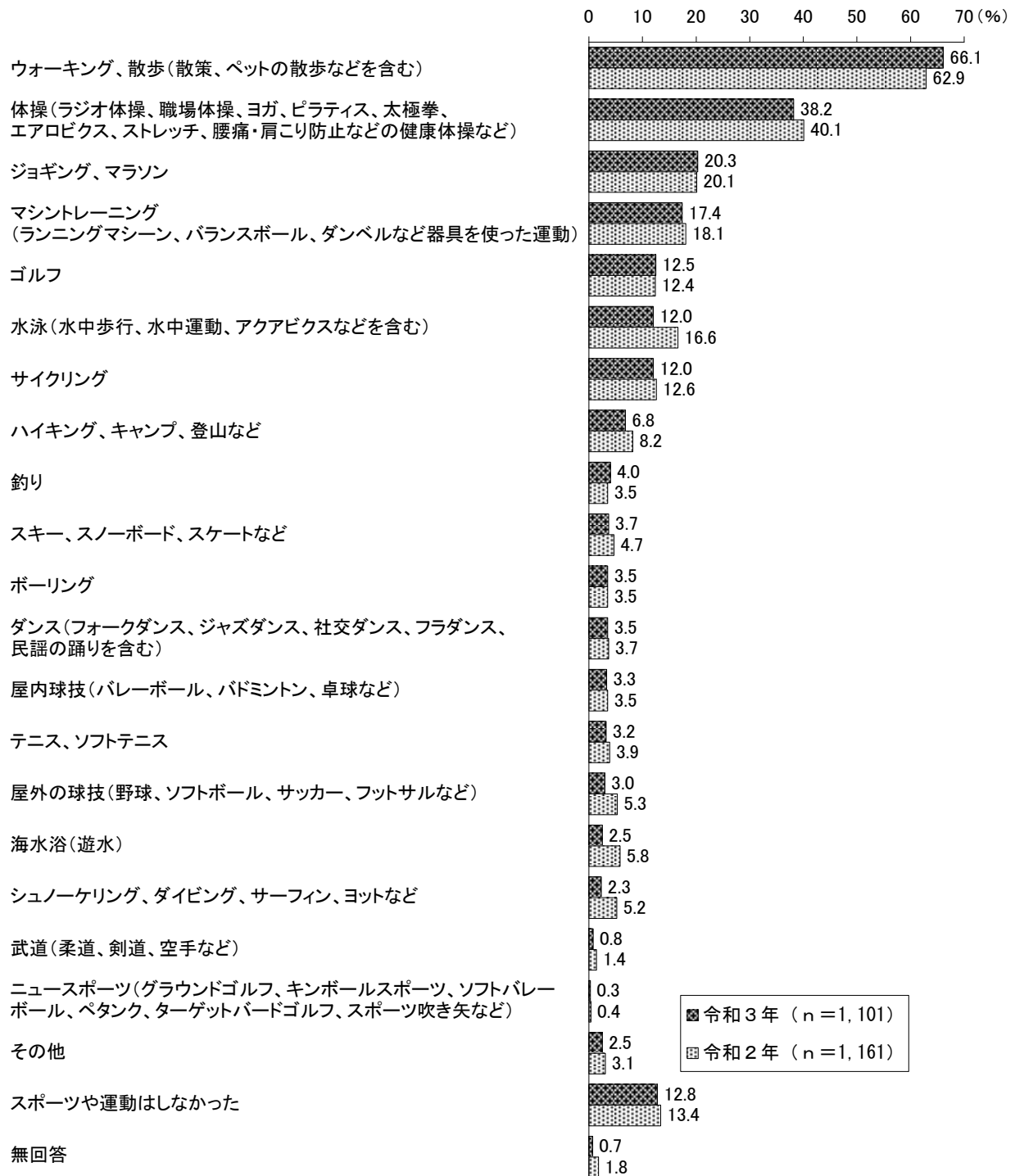
n = 1,101

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	12.0%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	38.2
3	ジョギング、マラソン	20.3
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	66.1
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	17.4
6	武道（柔道、剣道、空手など）	0.8
7	テニス、ソフトテニス	3.2
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	3.3
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	3.0
10	ゴルフ	12.5
11	ハイキング、キャンプ、登山など	6.8
12	スキー、スノーボード、スケートなど	3.7
13	海水浴（遊水）	2.5
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	2.3
15	釣り	4.0
16	ボーリング	3.5
17	サイクリング	12.0
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）	0.3
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	3.5
20	その他	2.5
21	スポーツや運動はしなかった （無回答）	12.8 0.7

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」（66.1%）が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」（38.2%）、「ジョギング、マラソン」（20.3%）、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」（17.4%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」は3.2ポイント増加している。一方、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」は4.6ポイント、「海水浴（遊水）」は3.3ポイント、それぞれ減少している。（図表8-1-1）

図表8-1-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩」と「体操」が引き続き上位2項目となっている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—過年度比較

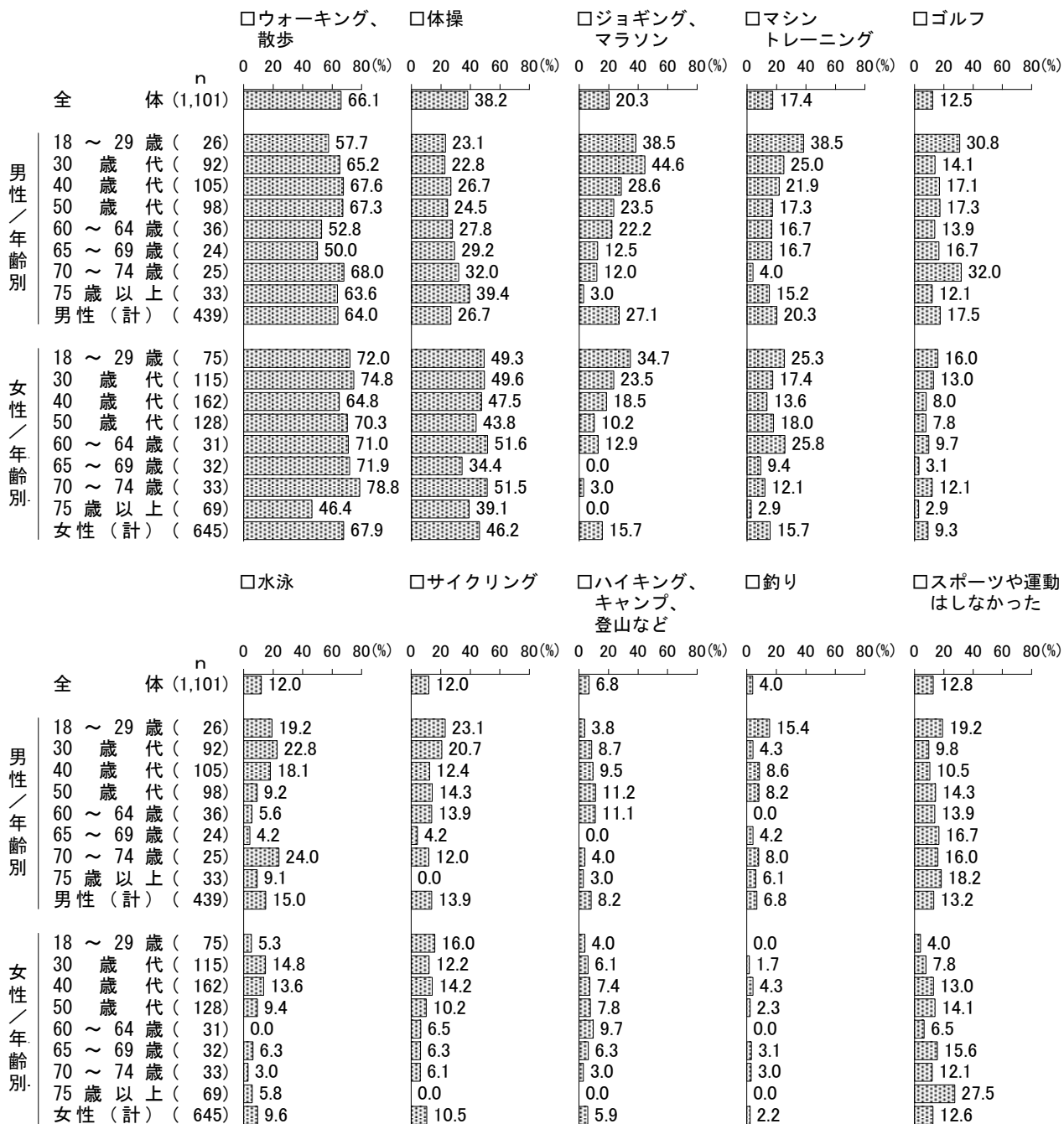
調査年	n	(%)																					
		ウォーキング、散歩	体操	ジョギング、マラソン	マシントレーニング	ゴルフ	水泳	サイクリング	ハイキング、キャンプ、登山など	釣り	スキー、スノーボード、スケートなど	ボーリング	ダンス	屋内球技	テニス、ソフトテニス	屋外の球技	海水浴(遊水)	シム、ヨットなど シュノーケリング、ダイビング、サーフィ	武道(柔道、剣道、空手など)	ニュースポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
令和3年	1,101	66.1	38.2	20.3	17.4	12.5	12.0	12.0	6.8	4.0	3.7	3.5	3.5	3.3	3.2	3.0	2.5	2.3	0.8	0.3	2.5	12.8	0.7
令和2年	1,161	62.9	40.1	20.1	18.1	12.4	16.6	12.6	8.2	3.5	4.7	3.5	3.7	3.5	3.9	5.3	5.8	5.2	1.4	0.4	3.1	13.4	1.8
平成30年	1,056	57.5	37.9	18.8	20.3	12.2	17.0	13.7	11.6	3.5	6.2	6.6	5.7	4.3	3.6	4.5	7.2	6.0	1.1	0.9	1.2	11.9	2.0
平成29年	1,056	56.7	40.0	16.4	17.4	12.7	17.6	13.0	11.2	3.9	6.0	6.7	5.8	5.6	4.4	4.9	8.6	5.6	1.3	1.0	0.9	12.7	3.5
平成28年	1,036	58.3	36.2	20.6	18.8	14.3	21.9	15.9	11.3	4.7	6.9	8.7	5.3	5.3	5.4	5.5	11.0	7.4	1.4	1.5	1.0	12.6	3.4
平成27年	1,027	50.2	30.0	16.8	14.0	15.1	16.9	10.2	8.3	3.1	7.4	4.6	3.3	3.3	3.8	3.9	6.2	5.1	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	17.2	15.0	13.9	21.3	14.6	11.6	4.9	7.4	7.3	5.0	5.2	4.2	5.2	8.5	3.7	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	15.6	14.3	13.0	20.9	12.3	9.6	4.2	5.9	7.1	5.3	4.8	5.3	5.2	7.6	4.9	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	17.7	9.8	13.2	20.1	※	11.2	※	※	※	※	5.3	4.1	4.0	※	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

* 「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)」の選択肢は、平成29年では「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など)」としていた。

性／年齢別で見ると、「ウォーキング、散歩」は女性の70～74歳で8割近くと高くなっている。「体操」は女性の60～64歳と70～74歳で5割を超えて高くなっている。「ジョギング、マラソン」は男性の30歳代で4割台半ばと高くなっている。（図表8-1-3）

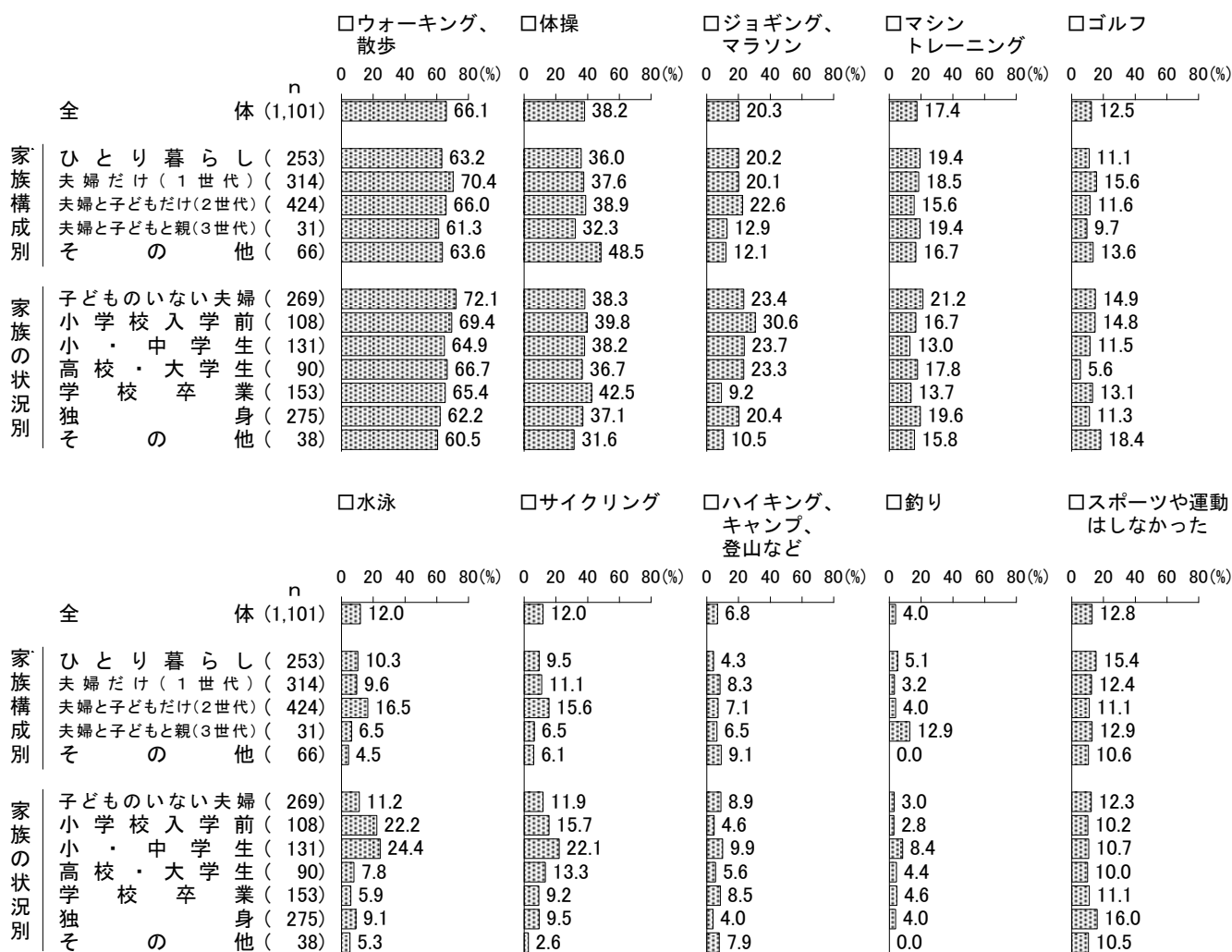
図表8-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—性／年齢別（上位10項目）



家族構成別でみると、「ウォーキング、散歩」は夫婦だけ（1世代）で7割と高くなっている。

家族の状況別でみると、「ウォーキング、散歩」は子どものいない夫婦で7割を超えて高くなっている。「体操」が一番上の子どもが学校卒業の家族で4割を超えて高くなっている。「ジョギング、マラソン」が一番上の子どもが小学校入学前の家族で約3割と高くなっている。（図表8-1-4）

図表8-1-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—家族構成別・家族の状況別（上位10項目）



(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が3割台半ば

(問17で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

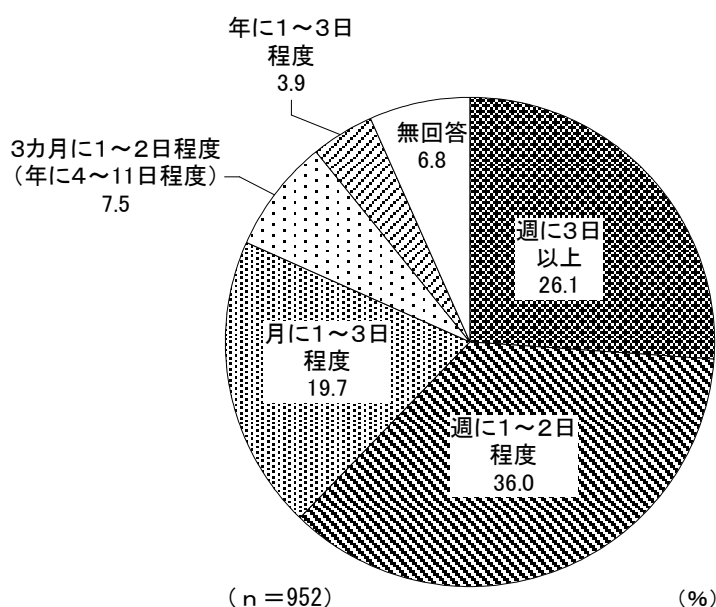
問17-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 952

1 週に3日以上	26.1%
2 週に1～2日程度	36.0
3 月に1～3日程度	19.7
4 3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)	7.5
5 年に1～3日程度	3.9
(無回答)	6.8

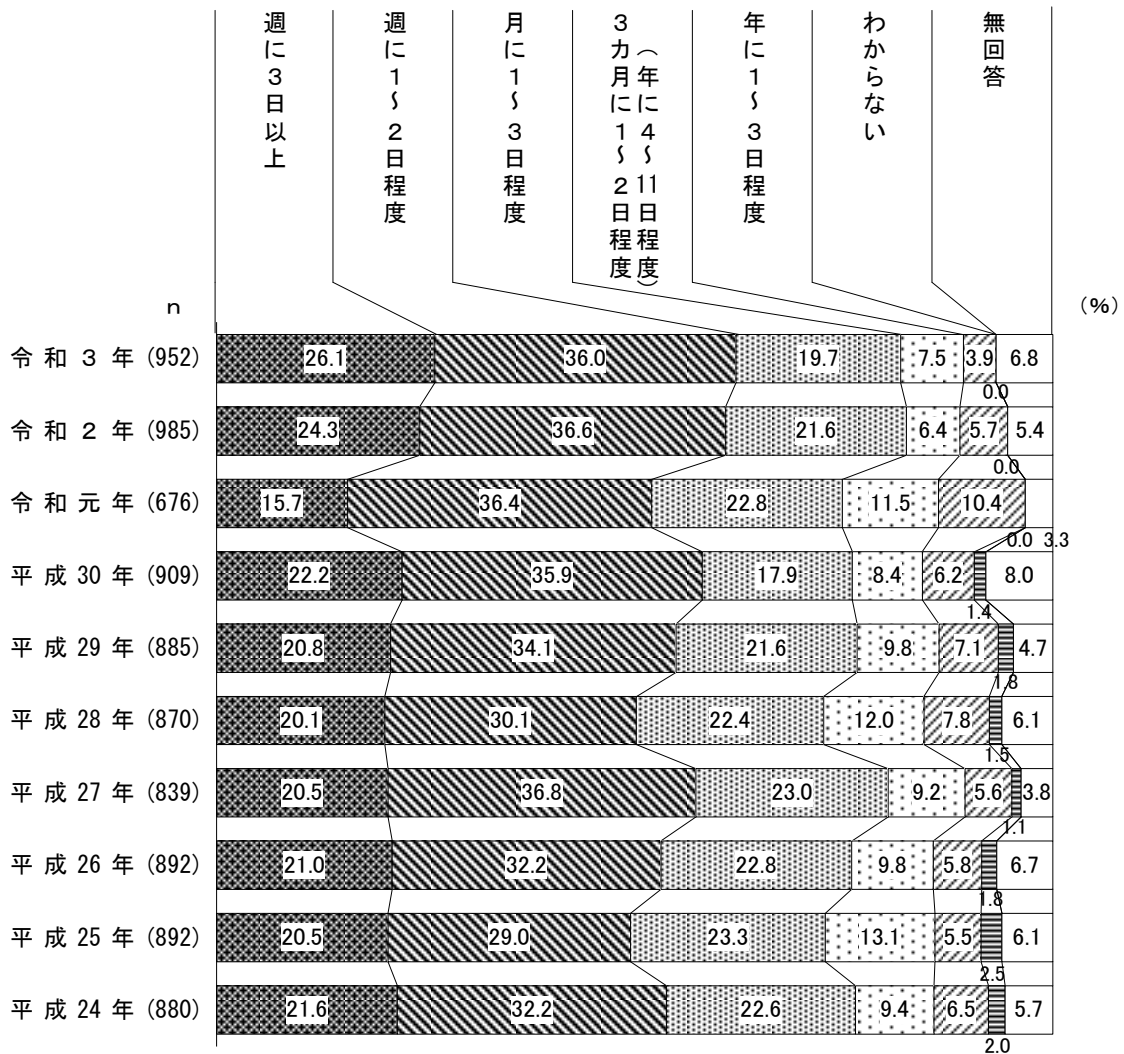
問17で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(36.0%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「週に3日以上」(26.1%)、「月に1～3日程度」(19.7%)、「3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度)」(7.5%)などとなっている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和2年と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表8-2-2)

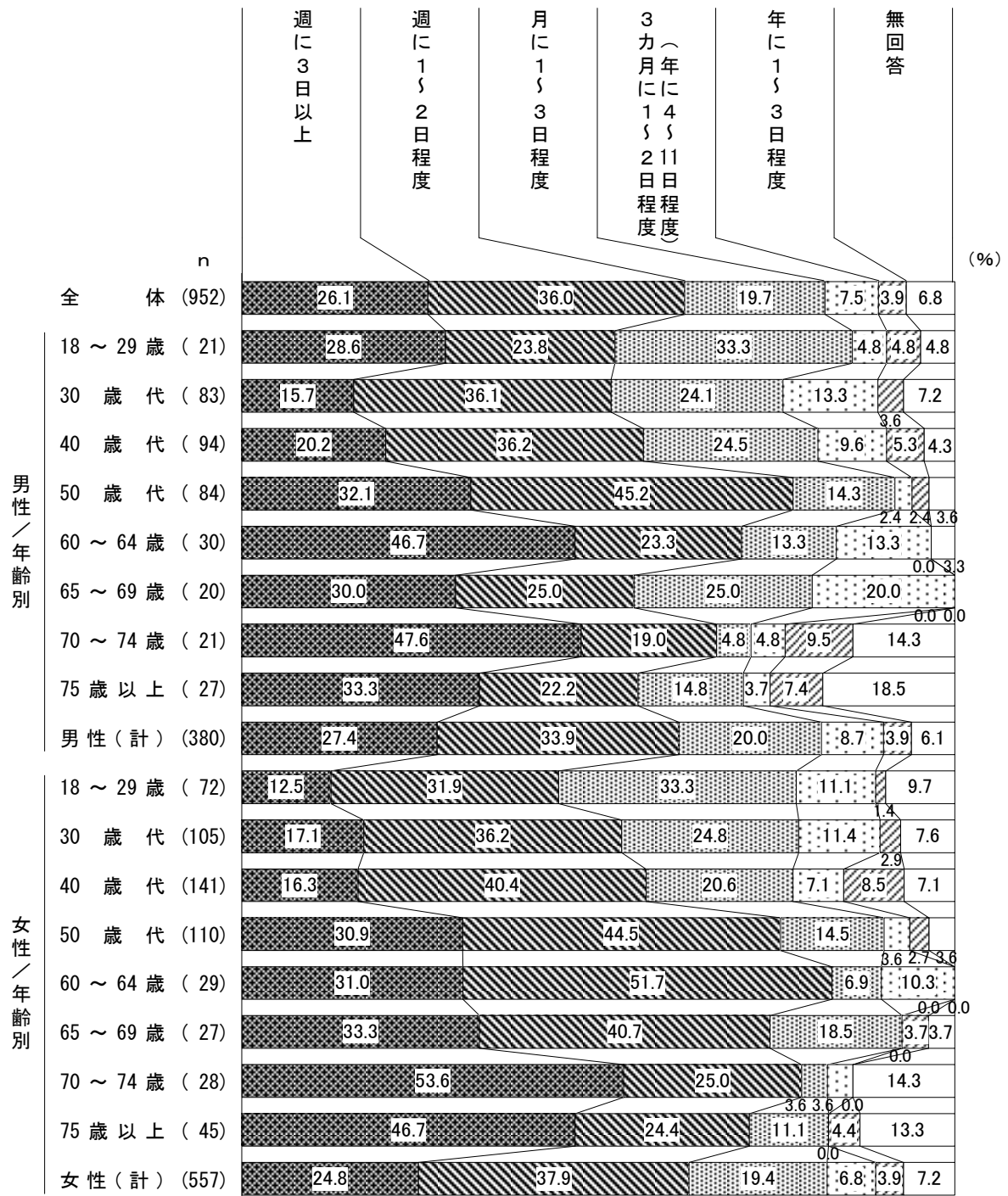
図表8-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度—過年度比較



* 「わからない」は、令和元年調査から選択肢に含まれていない。
 * 令和元年の調査では、「あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)」と全員に対してこの質問を聞いた。図表8-2-2における令和元年の比率は、「スポーツや運動はしなかった」と答えた数を除いて再計算した比率を示す。

性／年齢別で見ると、「週に3日以上」は女性の70～74歳で5割を超えて高くなっている。「週に1～2日程度」は女性の60～64歳で5割を超えて高くなっている。「月に1～3日程度」は男女ともに18～29歳で3割を超えて高くなっている。(図表8-2-3)

図表8-2-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－性／年齢別

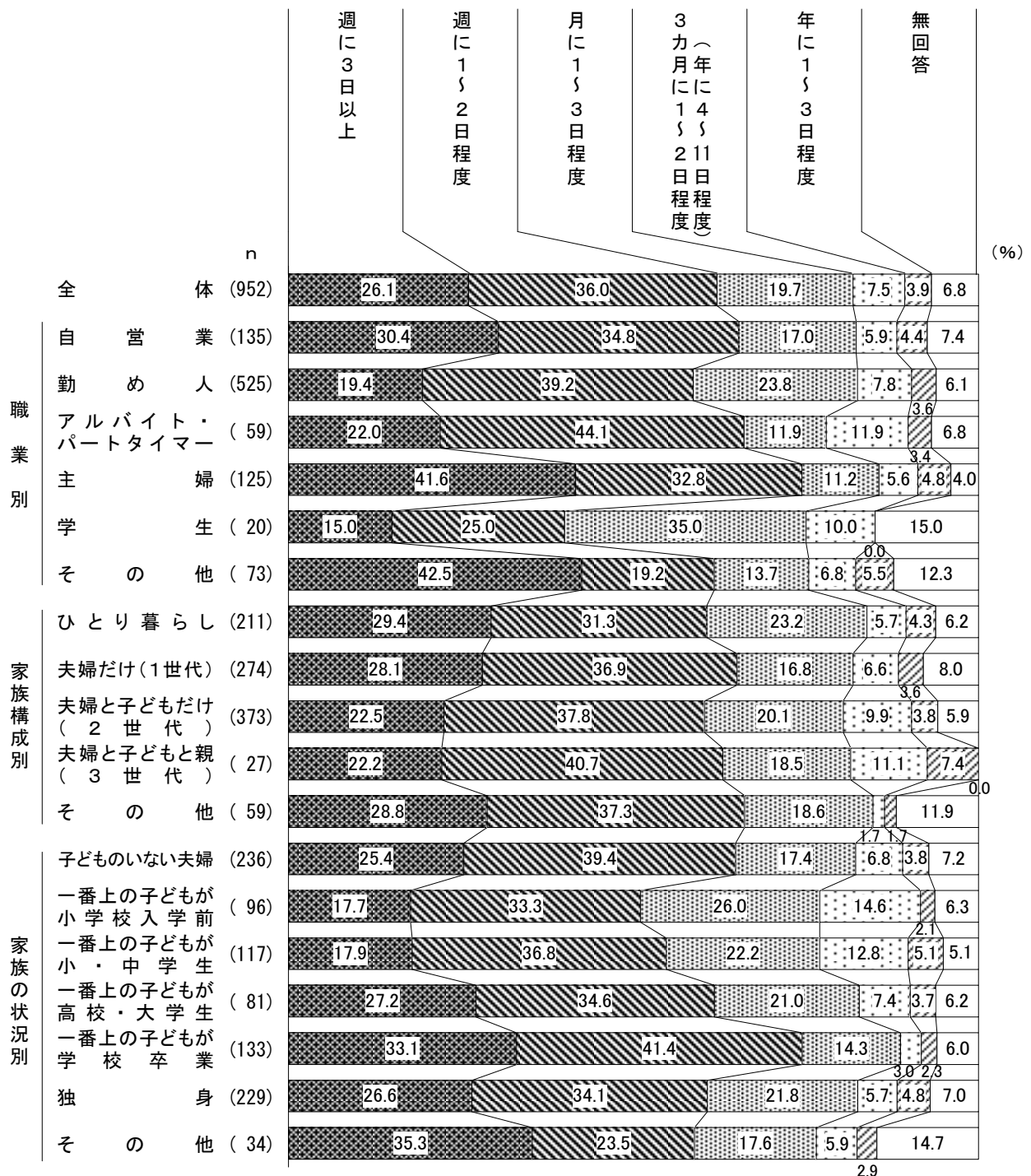


職業別でみると、「週に3日以上」はその他と主婦で4割を超えて高くなっている。「週に1～2日程度」はアルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。

家族構成別でみると、「週に1～2日程度」は夫婦と子どもと親（3世代）で約4割と高くなっている。

家族の状況別でみると、「週に3日以上」が一番上の子どもが学校卒業の家族とその他で3割台と高くなっている。「週に1～2日程度」が一番上の子どもが学校卒業の家族で4割を超えて高くなっている。（図表8-2-4）

図表8-2-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－職業別・家族構成別・家族の状況別



【9 築地魚河岸】

(※) 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

(1) 「築地魚河岸」への来場経験

◇『来場経験あり』が5割台半ば

問18 「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

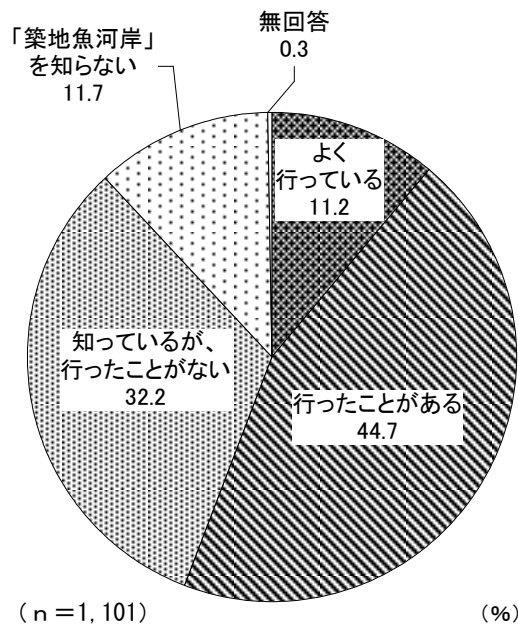
n = 1, 101

1	よく行っている	11.2%	3	知っているが、行ったことがない	32.2
2	行ったことがある	44.7	4	「築地魚河岸」を知らない	11.7
				(無回答)	0.3

「築地魚河岸」への来場経験は、「よく行っている」(11.2%)と「行ったことがある」(44.7%)を合わせた『来場経験あり』(55.9%)が5割台半ばとなっている。

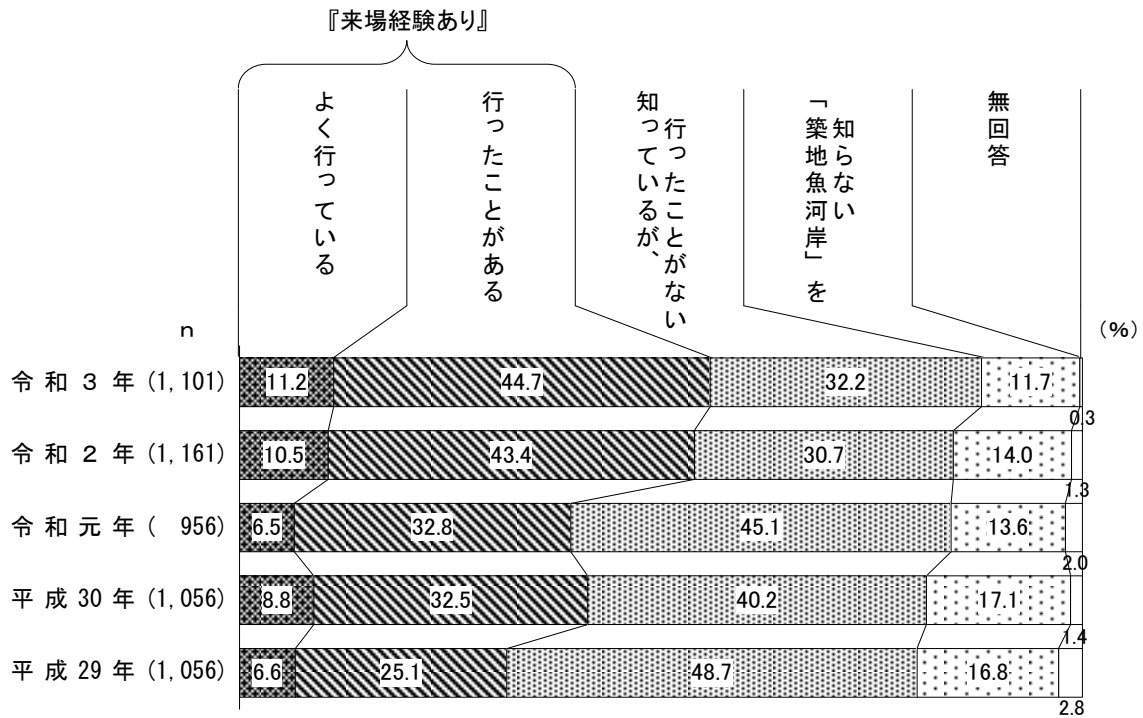
一方、「知っているが、行ったことがない」(32.2%)は3割を超え、「『築地魚河岸』を知らない」(11.7%)は1割を超えている。(図表9-1-1)

図表9-1-1 「築地魚河岸」への来場経験



過去の調査結果と比較すると、『来場経験あり』は令和2年と比べて2.0ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。(図表9-1-2)

図表9-1-2 「築地魚河岸」への来場経験一過年度比較



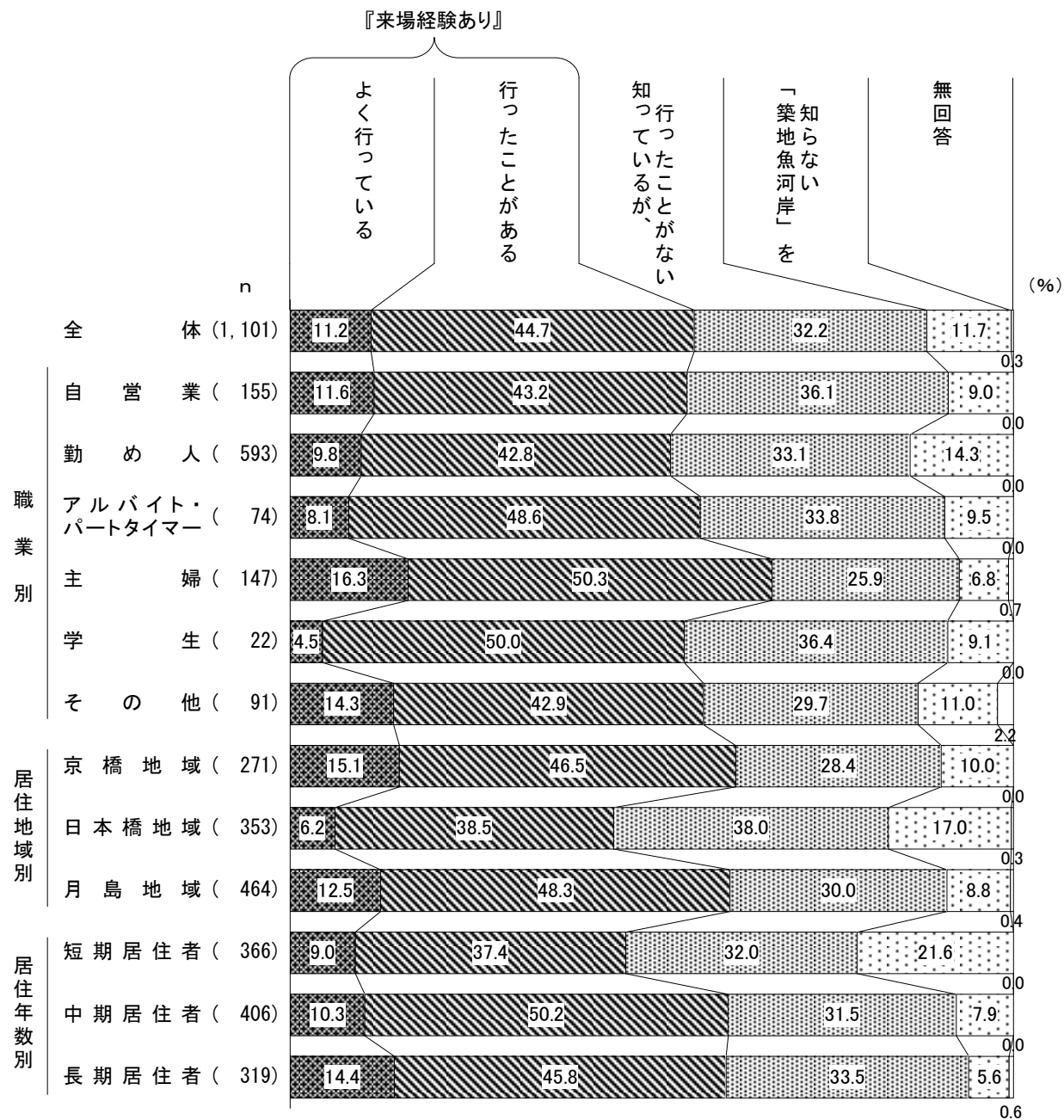
職業別でみると、『来場経験あり』は主婦で7割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、『来場経験あり』は京橋地域と月島地域で6割台と高くなっている。

居住年数別でみると、『来場経験あり』は中期居住者と長期居住者で約6割と高くなっている。
一方、『築地魚河岸』を知らない」は短期居住者で2割を超えて高くなっている。

(図表9-1-3)

図表9-1-3 「築地魚河岸」への来場経験－職業別・居住地域別・居住年数別



(2) 「築地魚河岸」への来場目的

◇「1階の店舗で買い物をするため」が7割を超える

(問18で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)
問18-1 「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(〇はいくつでも)

n = 615

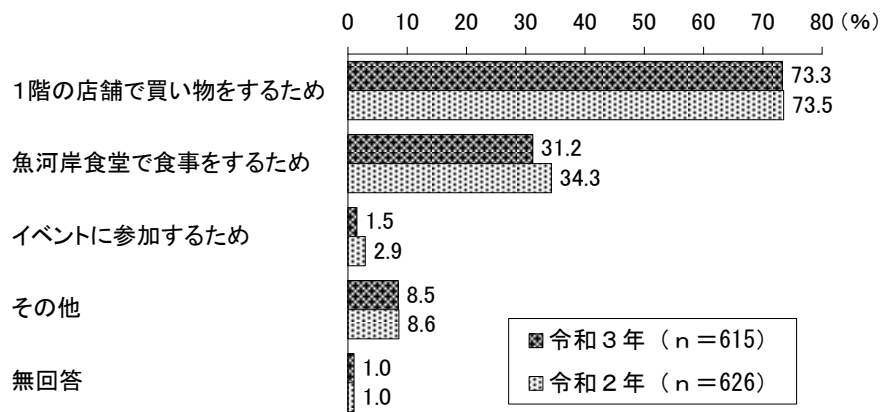
1	1階の店舗で買い物をするため	73.3%	3	イベントに参加するため	1.5
2	魚河岸食堂で食事をするため	31.2	4	その他	8.5
				(無回答)	1.0

問18で、「よく行っている」または「行ったことがある」と回答した方の、「築地魚河岸」への来場目的は、「1階の店舗で買い物をするため」(73.3%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「魚河岸食堂で食事をするため」(31.2%)、「イベントに参加するため」(1.5%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「魚河岸食堂で食事をするため」は3.1ポイント減少している。

(図表9-2-1)

図表9-2-1 「築地魚河岸」への来場目的(複数回答)



【10 受動喫煙防止対策】

(1) 「中央区たばこルール」の認知度

◇「『中央区たばこルール』の内容も知っている」が2割を超える

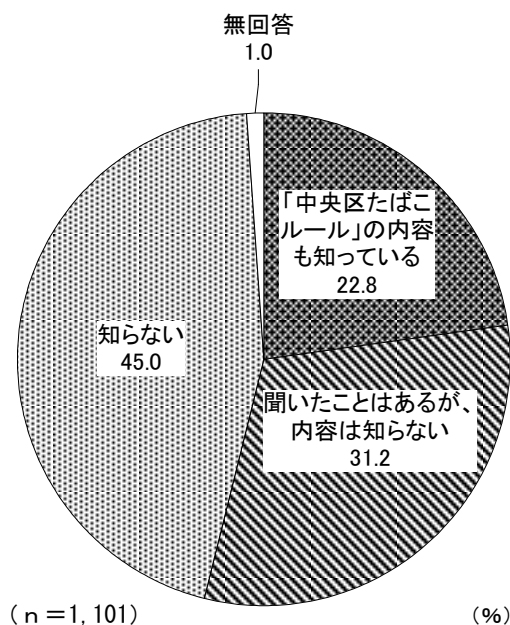
問19 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。(○は1つだけ)

n = 1,101

1 「中央区たばこルール」の内容も知っている	22.8%
2 聞いたことはあるが、内容は知らない	31.2
3 知らない	45.0
(無回答)	1.0

「中央区たばこルール」の認知度は、「『中央区たばこルール』の内容も知っている」(22.8%)が2割を超えている。「聞いたことはあるが、内容は知らない」(31.2%)は3割を超え、「知らない」(45.0%)は4割台半ばとなっている。(図表10-1-1)

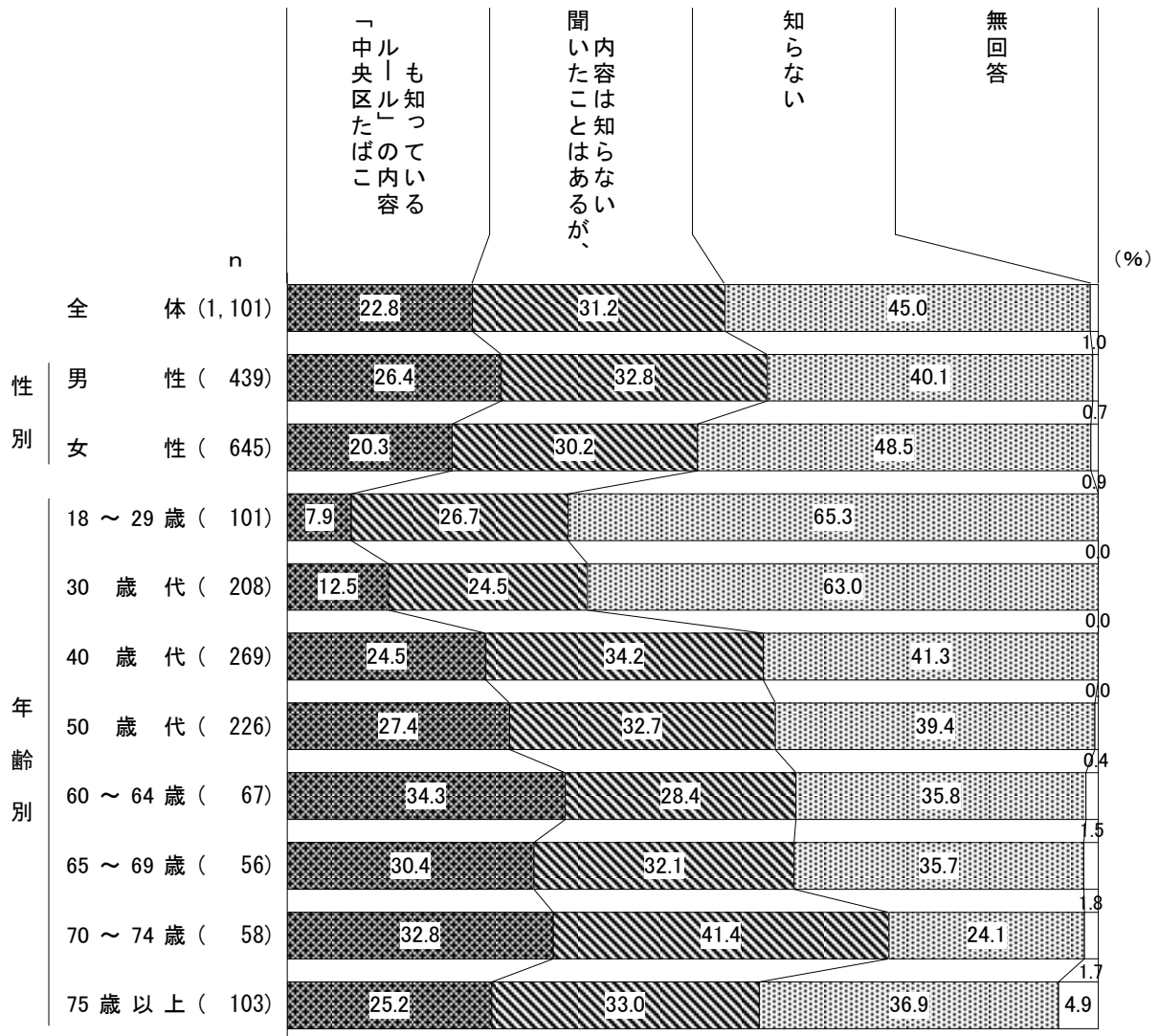
図表10-1-1 「中央区たばこルール」の認知度



性別でみると、女性の方が男性よりも「知らない」で8.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも『中央区たばこルール』の内容も知っている」で6.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『中央区たばこルール』の内容も知っている」は60～64歳で3割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳と30歳代で6割台と高くなっている。(図表10-1-2)

図表10-1-2 「中央区たばこルール」の認知度－性別・年齢別



(2) 区に取り組んでほしい受動喫煙防止対策

問20 あなたが受動喫煙防止対策として区に取り組んでほしい具体的な施策をお書きください。

受動喫煙防止対策として区に取り組んでほしい具体的な施策を自由に記述していただいたところ、407人から延べ452件の回答が寄せられた。

(ご意見の一部)

■路上喫煙の取り締まりの強化 (158件)

- ・ 現状路上喫煙をよく見かける。子どもを連れているので、厳しく取り締まってほしい。
- ・ 歩きたばこの人や喫煙場所でのマナーの悪さに対しての注意喚起の強化。
- ・ 路上で吸いながら歩くサラリーマンが多い。子どもを連れていると注意しづらいし、歩いているだけで予期せず受動喫煙になるのが困る。
- ・ 住んでいるマンションの隣やかげで、企業の方々がたばこを吸っていると、マンションに入りづらいタバコのけむりやにおいがただよってあまり心地良いものではないです。

■喫煙場所の増設、整備による分煙の徹底 (67件)

- ・ 喫煙場所の設置。設置がないから歩きたばこや路地などでの喫煙があると思う。
- ・ BOX型の喫煙所の設置はありがたい。
- ・ 公共の喫煙所の設置。

■「中央区たばこルール」の周知徹底、喫煙マナーの啓蒙 (31件)

- ・ 「中央区たばこルール」を区外の人に知らせる看板の設置など行ってほしい。
- ・ 条例の内容が分からないので区民が分かるような発信をしてほしい。
- ・ たばこルールがあるのを知らなかった。こういう事はもっと広く知らせるべき！
- ・ 区内の法人に対する喫煙ルール、マナーの啓蒙。(区内には法人オフィスが多いですが、そこにお勤めの社員さんたちがオフィス外へ出てコインパークなどで喫煙している姿を度々目にします。控えてほしいと考えています。)

■違反者に対する罰金、罰則強化 (30件)

- ・ 注意、罰金など罰則の徹底。

■公園での禁煙と取り締まりの強化 (29件)

- ・ 公園での喫煙は未だに多く見かける。今以上にさらに強く告知が必要。
- ・ 公園の子どもが通るような場所には喫煙所を作らないで欲しい。
- ・ 公園などにタバコの吸い殻がよく落ちていて、1歳の子供が拾って口の中に入れたりするので、公園の掃除を徹底するのと、子供が近づく環境でのタバコは厳しくしてほしいです。

■たばこのポイ捨て（28件）

- ・ 煙草のポイ捨てが多い。特に自動販売機のそば。
- ・ 家の前に歩行者がたばこの吸殻を捨てています。特に植木の中にあつて、火事にならないか心配です。駅などにもっと禁煙のポスターなど通勤の人に呼び掛けてほしい。

■パトロールによる取り締まりの強化（23件）

- ・ 禁煙のパトロールを強化してほしい。
- ・ ルール違反に対する取り締まり。

■飲食店等、商業施設でのたばこの規制（22件）

- ・ 全ての飲食店を禁煙にしてほしい。
- ・ 全面禁煙にしているお店に「NOたばこ」ステッカーを与え、店頭にも貼ってもらう。嫌煙者はそれを見て安心してお店に入れる。
- ・ 飲食店は終日一律禁煙にし、違反した場合は、罰則等、厳しくしてほしいです。

■公共の場での全面禁煙（19件）

- ・ 公共の場所、公道での喫煙を禁止してほしい。

■その他（45件）

- ・ 十分に取り組んでいただいているおかげで受動喫煙の不安を感じる機会はなくなりました。
- ・ 保険診療による禁煙治療が実施可能なクリニック病院を公表してほしい。禁煙支援薬剤師の在籍薬局を公表してほしい。
- ・ マンションのベランダでの喫煙の完全禁止。

【11 公共施設】

(1) 区の施設の利用頻度

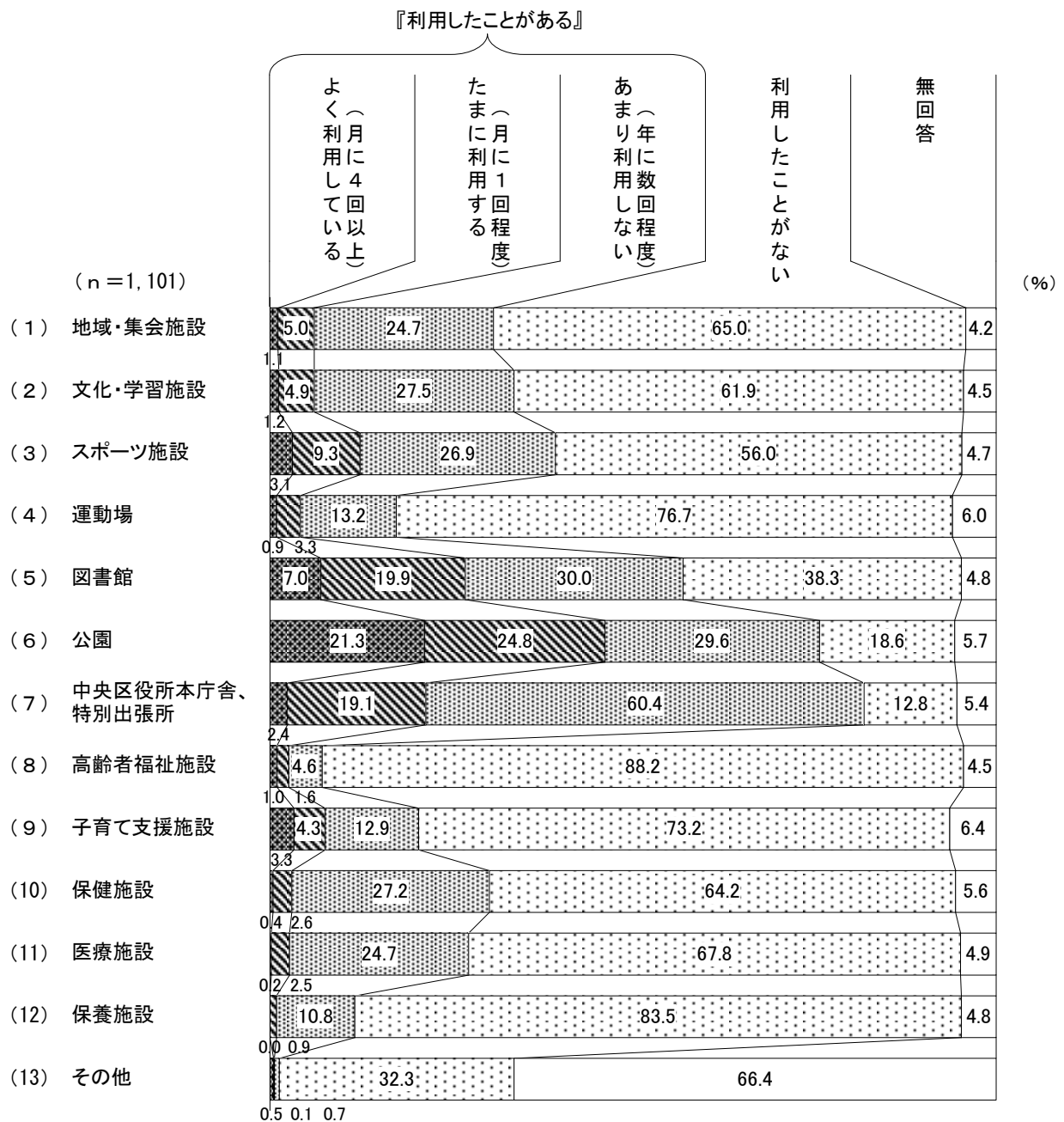
◇「よく利用している（月に4回以上）」は“公園”で2割を超える

問21 あなたが、利用したことがある区の施設の利用頻度を、(1) から (13) までの施設ごとに選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)		(%)				
		1 よく利用している (月に4回以上)	2 たまに利用する (月に1回程度)	3 あまり利用しない (年に数回程度)	4 利用したことがない	無回答
n = 1, 101						
(1) 地域・集会施設 (区民館・コミュニティルームなど)		1.1	5.0	24.7	65.0	4.2
(2) 文化・学習施設 (中央会館・日本橋公会堂・社会教育会館・ タイムドーム明石など)		1.2	4.9	27.5	61.9	4.5
(3) スポーツ施設 (総合スポーツセンター・月島スポーツプラザ など)		3.1	9.3	26.9	56.0	4.7
(4) 運動場 (月島、浜町、豊海テニス場など)		0.9	3.3	13.2	76.7	6.0
(5) 図書館		7.0	19.9	30.0	38.3	4.8
(6) 公園		21.3	24.8	29.6	18.6	5.7
(7) 中央区役所本庁舎、 特別出張所 (日本橋・月島)		2.4	19.1	60.4	12.8	5.4
(8) 高齢者福祉施設 (おとしより相談センター・敬老館など)		1.0	1.6	4.6	88.2	4.5
(9) 子育て支援施設 (児童館など)		3.3	4.3	12.9	73.2	6.4
(10) 保健施設 (中央保健所・保健センター (日本橋・月島))		0.4	2.6	27.2	64.2	5.6
(11) 医療施設 (休日応急診療所・休日応急歯科診療所・ 休日応急薬局)		0.2	2.5	24.7	67.8	4.9
(12) 保養施設 (伊豆高原荘・区民健康村「ヴィラ本栖」)		-	0.9	10.8	83.5	4.8
(13) その他		0.5	0.1	0.7	32.3	66.4

区の施設の利用頻度について、「よく利用している（月に4回以上）」が最も高いのは、（6）公園（21.3%）で2割を超えており、次いで（5）図書館（7.0%）で1割に満たない。

「よく利用している（月に4回以上）」、「たまに利用する（月に1回程度）」、「あまり利用しない（年に数回程度）」の3つを合わせた『利用したことがある』が最も高いのは、（7）中央区役所本庁舎、特別出張所（日本橋・月島）（81.9%）で8割を超えており、次いで（6）公園（75.7%）、（5）図書館（56.9%）、（3）スポーツ施設（総合スポーツセンター・月島スポーツプラザ・ほっとプラザはるみなど）（39.3%）などとなっている。（図表11-1-1）

図表11-1-1 区の施設の利用頻度



“地域・集会施設”について性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、『利用したことがある』は40歳代と60～64歳、70～74歳で4割近くと高くなっている。

居住地域別にみると、『利用したことがある』は月島地域と日本橋地域で3割を超えて高くなっている。

“文化・学習施設”について性別にみると、女性の方が男性よりも『利用したことがある』で6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『利用したことがある』は40歳代と60～64歳で4割を超えて高くなっている。

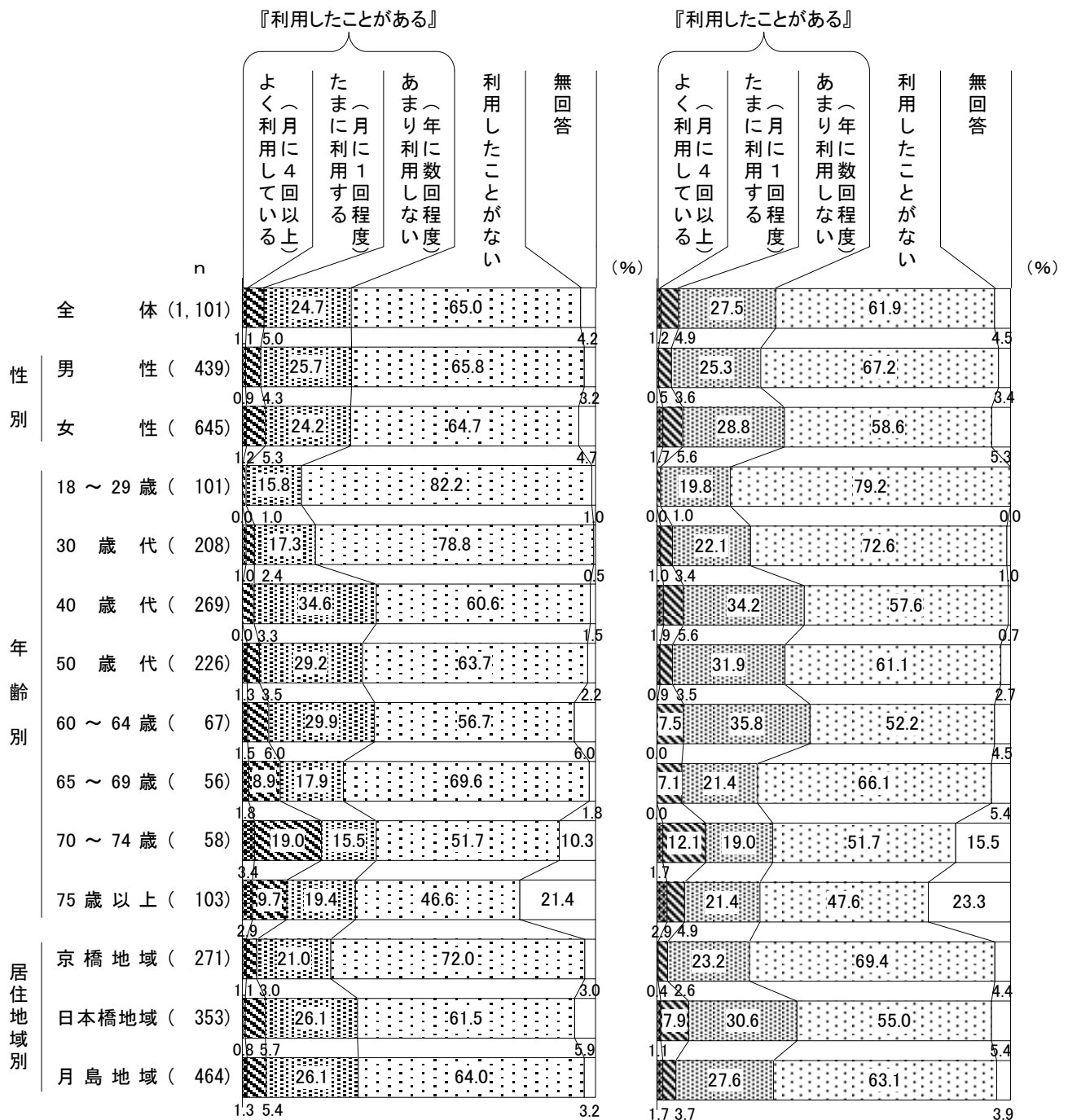
居住地域別にみると、『利用したことがある』は日本橋地域で4割と高くなっている。

(図表11-1-2)

図表 11-1-2 区の施設の利用頻度—性別・年齢別・居住地域別

(1) 地域・集会施設

(2) 文化・学習施設



“スポーツ施設”について性別にみると、男性の方が女性よりも『利用したことがある』で4.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『利用したことがある』は40歳代で5割を超えて高くなっている。

居住地域別にみると、『利用したことがある』は日本橋地域で5割を超えて高くなっている。

“運動場”について性別にみると、男性の方が女性よりも『利用したことがある』で5.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『利用したことがある』は18～29歳と40歳代で2割台と高くなっている。

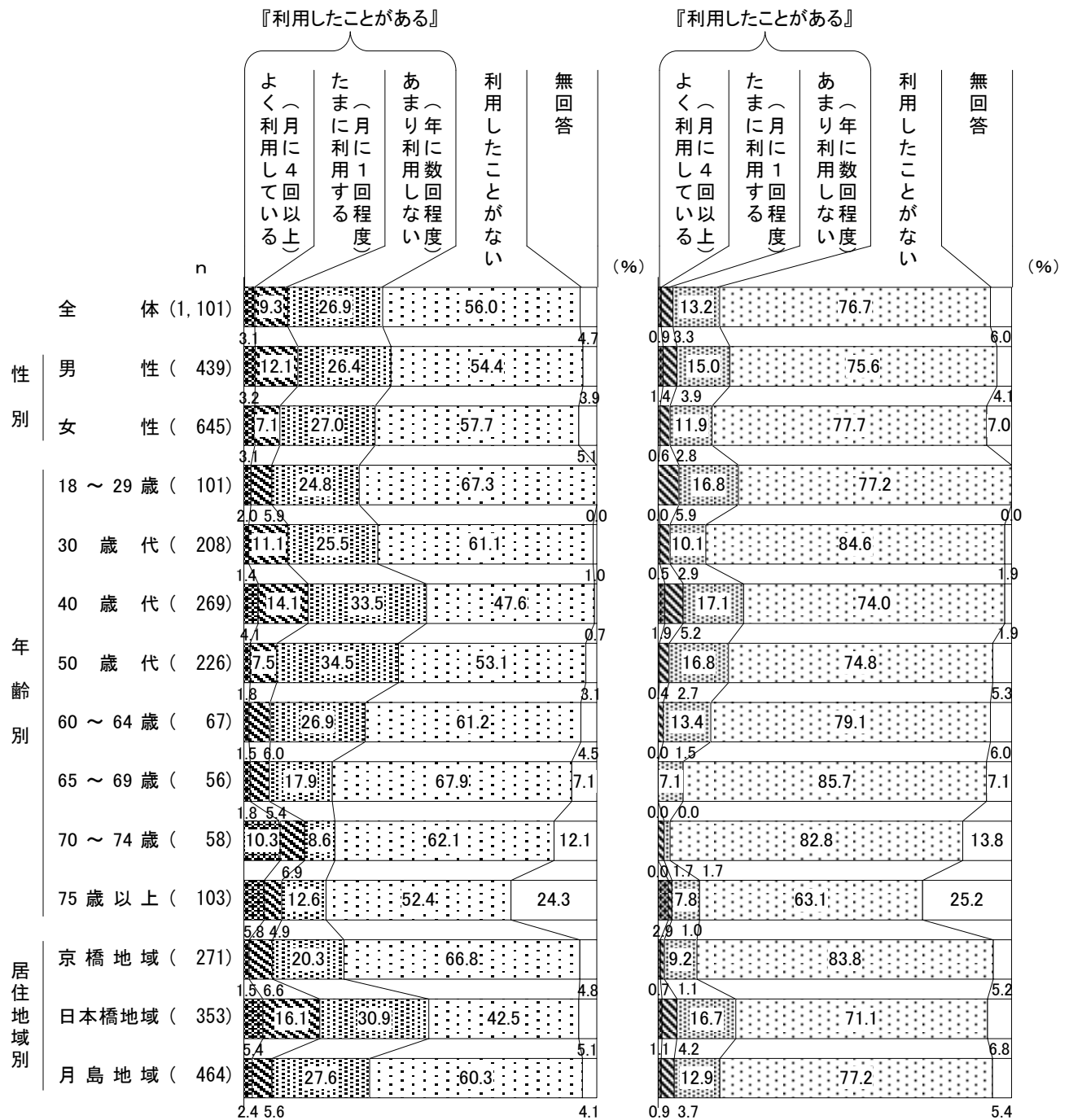
居住地域別にみると、『利用したことがある』は日本橋地域で2割を超えて高くなっている。

(図表11-1-3)

図表 11-1-3 区の施設の利用頻度—性別・年齢別・居住地域別

(3) スポーツ施設

(4) 運動場



“図書館”について性別にみると、女性の方が男性よりも『利用したことがある』で5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『利用したことがある』は40歳代で7割近くと高くなっている。

居住地域別にみると、『利用したことがある』は月島地域で約6割と高くなっている。

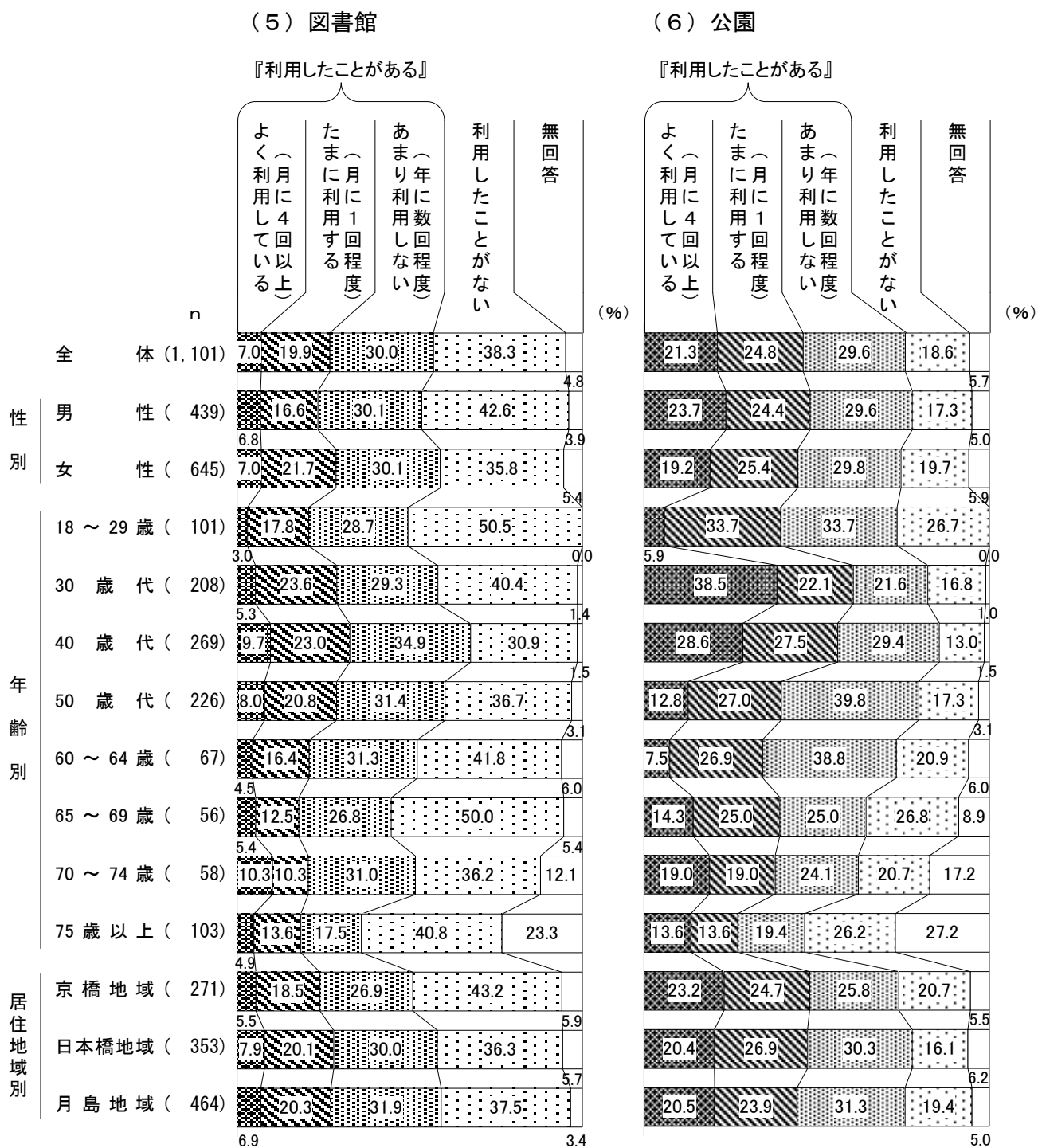
“公園”について性別にみると、男性の方が女性よりも『利用したことがある』で3.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『利用したことがある』は30歳代と40歳代で8割台と高くなっている。

居住地域別にみると、『利用したことがある』は日本橋地域で8割近くと高くなっている。

(図表11-1-4)

図表 11-1-4 区の施設の利用頻度—性別・年齢別・居住地域別



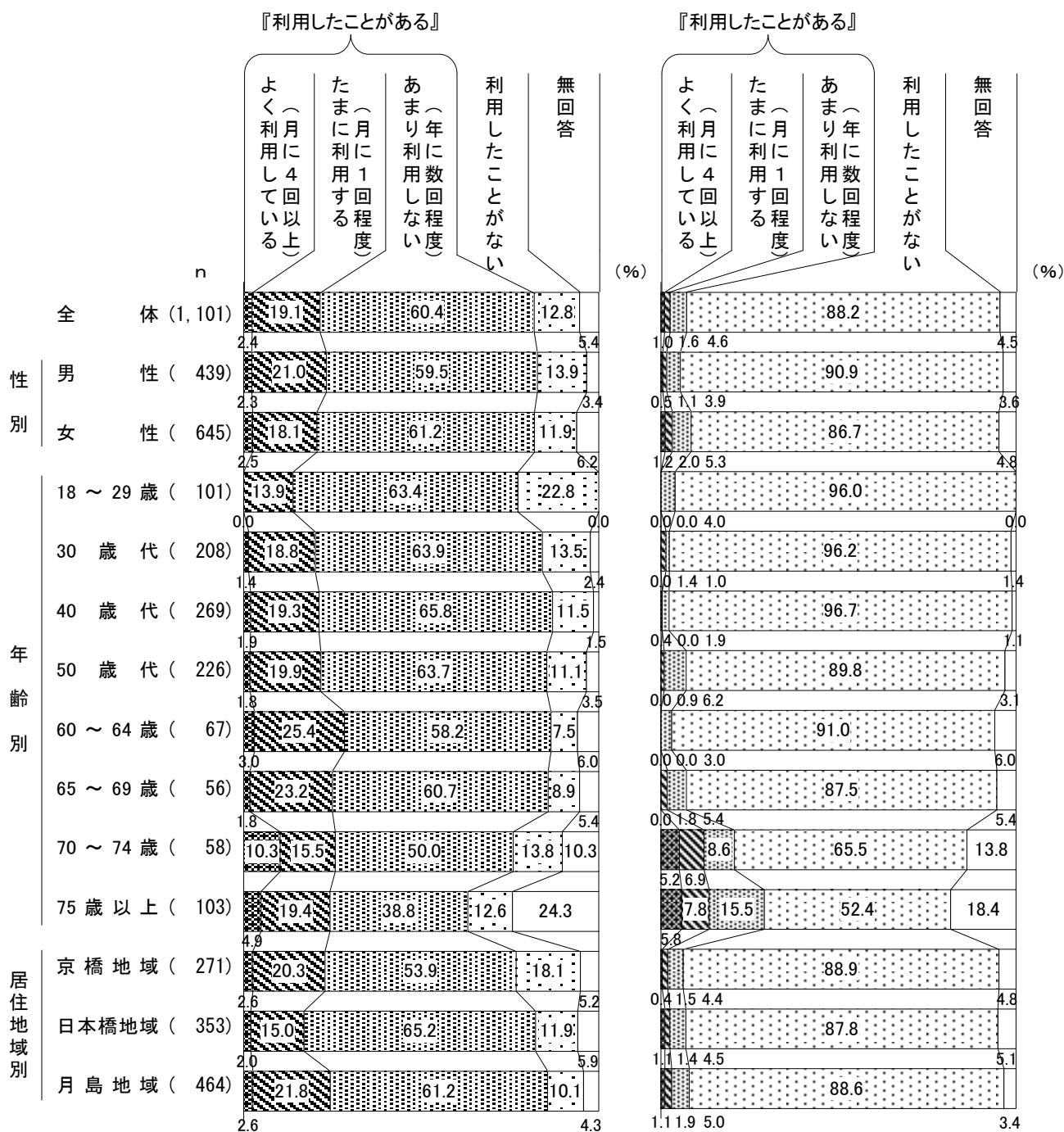
“中央区役所本庁舎、特別出張所”について性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。年齢別にみると、『利用したことがある』は40歳代と60～64歳で9割近くと高くなっている。居住地域別にみると、『利用したことがある』は月島地域で8割台半ばと高くなっている。

“高齢者福祉施設”について性別にみると、女性の方が男性よりも『利用したことがある』で3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『利用したことがある』は75歳以上で約3割と高くなっている。

居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表11-1-5)

図表 11-1-5 区の施設の利用頻度—性別・年齢別・居住地域別
(7) 中央区役所本庁舎、特別出張所 (8) 高齢者福祉施設



“子育て支援施設”について性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。
 年齢別にみると、『利用したことがある』は30歳代と40歳代で3割台と高くなっている。
 居住地域別にみると、『利用したことがある』は月島地域で2割台半ばと高くなっている。

“保健施設”について性別にみると、女性の方が男性よりも『利用したことがある』で7.3ポイント高くなっている。

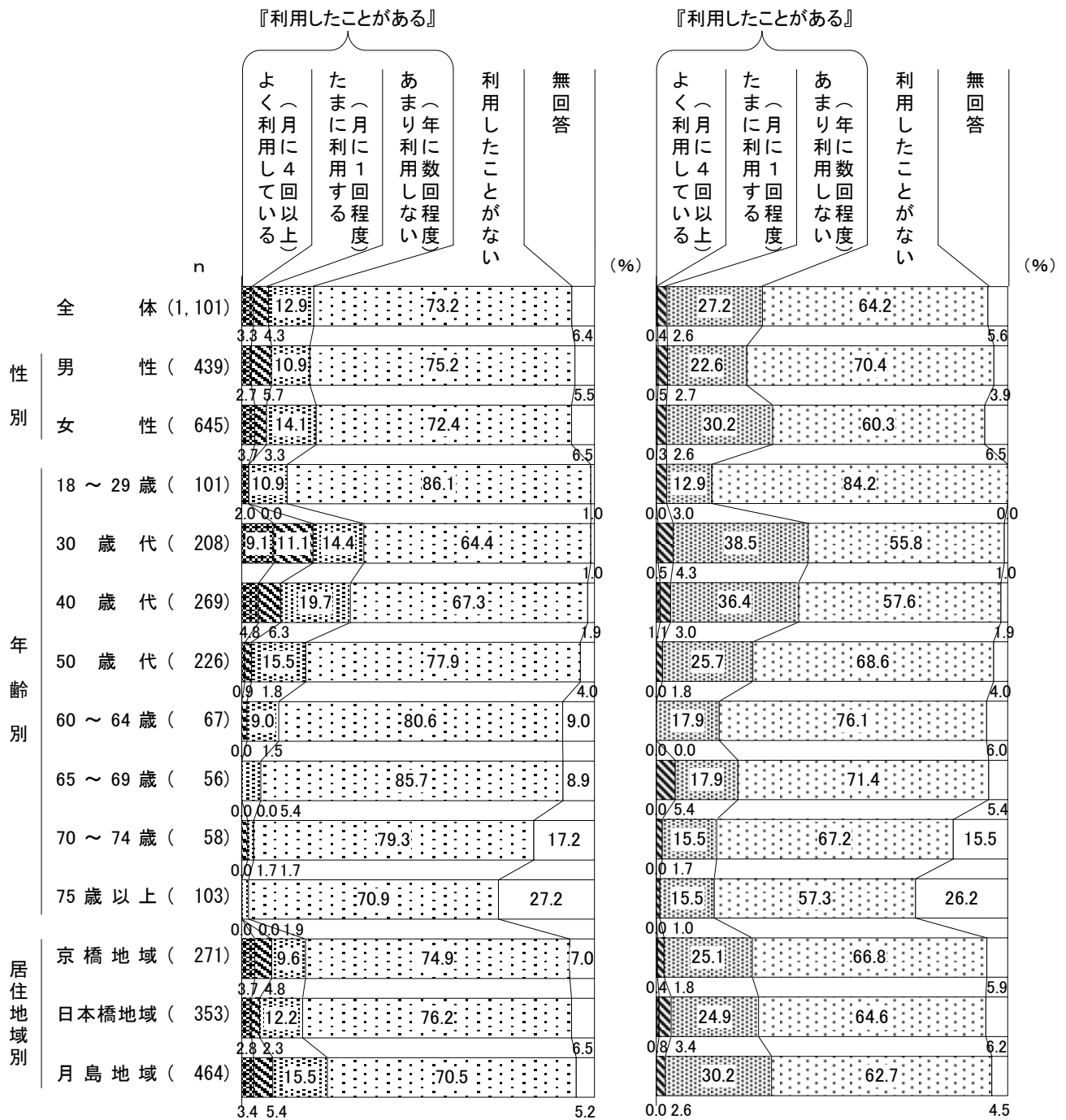
年齢別にみると、『利用したことがある』は30歳代と40歳代で4割台と高くなっている。
 居住地域別にみると、『利用したことがある』は月島地域で3割を超えて高くなっている。

(図表11-1-6)

図表 11-1-6 区の施設の利用頻度—性別・年齢別・居住地域別

(9) 子育て支援施設

(10) 保健施設



“医療施設”について性別にみると、女性の方が男性よりも『利用したことがある』で3.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『利用したことがある』は40歳代で3割台半ばと高くなっている。

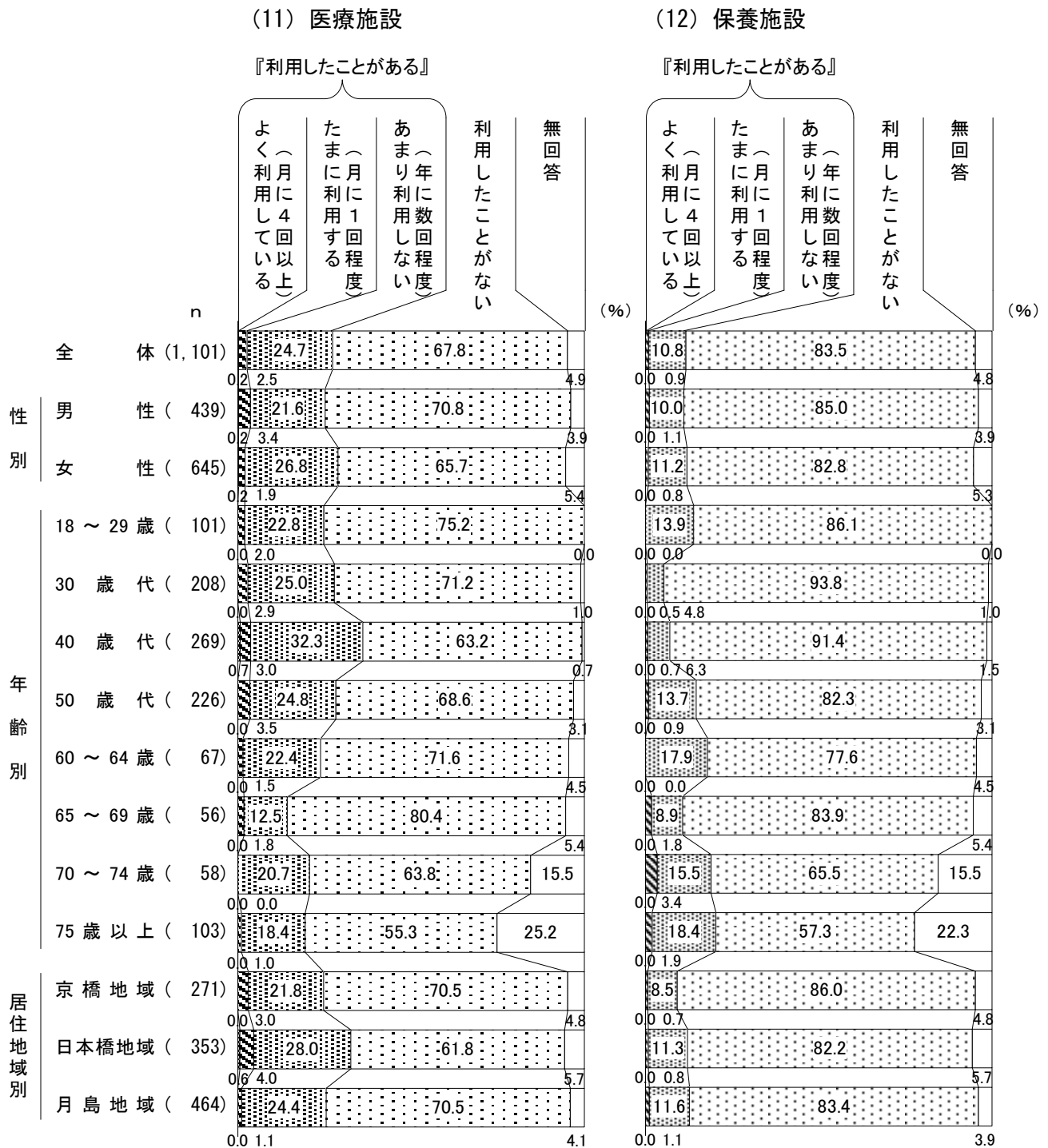
居住地域別にみると、『利用したことがある』は日本橋地域で3割を超えて高くなっている。

“保養施設”について性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、『利用したことがある』は75歳以上で2割と高くなっている。

居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表11-1-7)

図表 11-1-7 区の施設の利用頻度—性別・年齢別・居住地域別



(2) 区の施設を利用したことがない理由

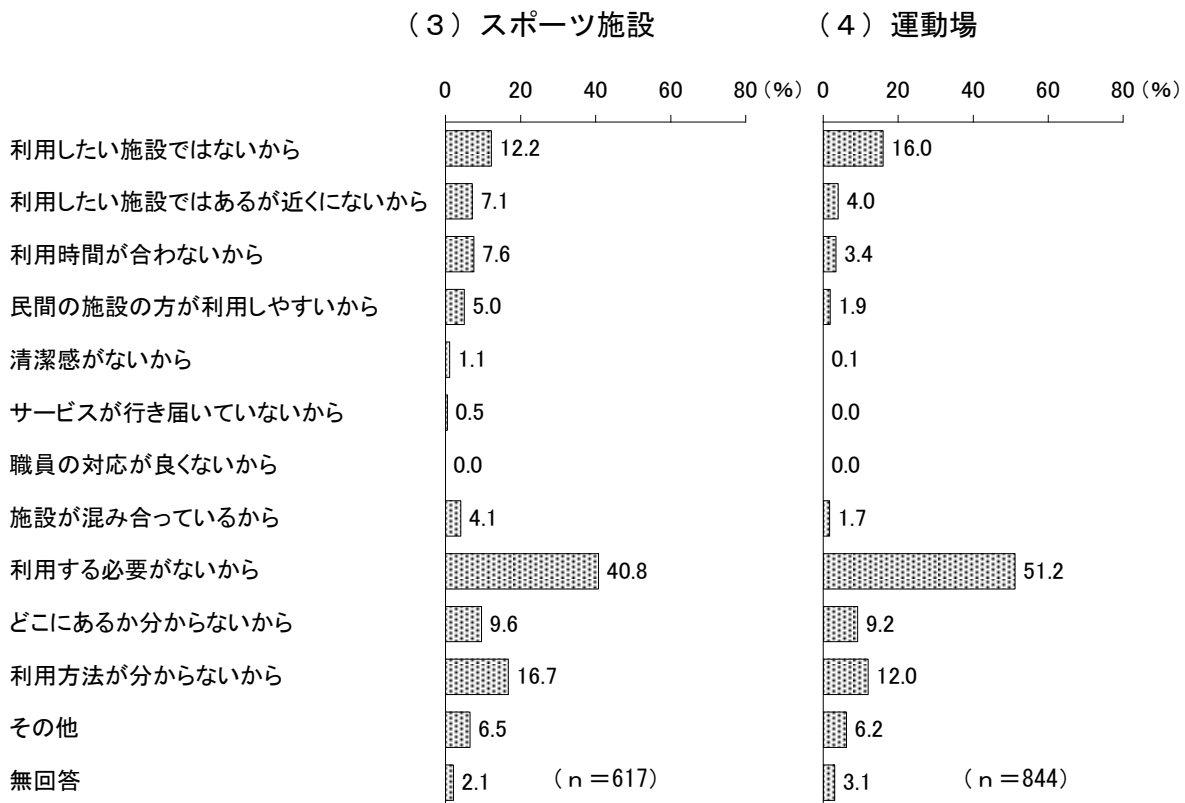
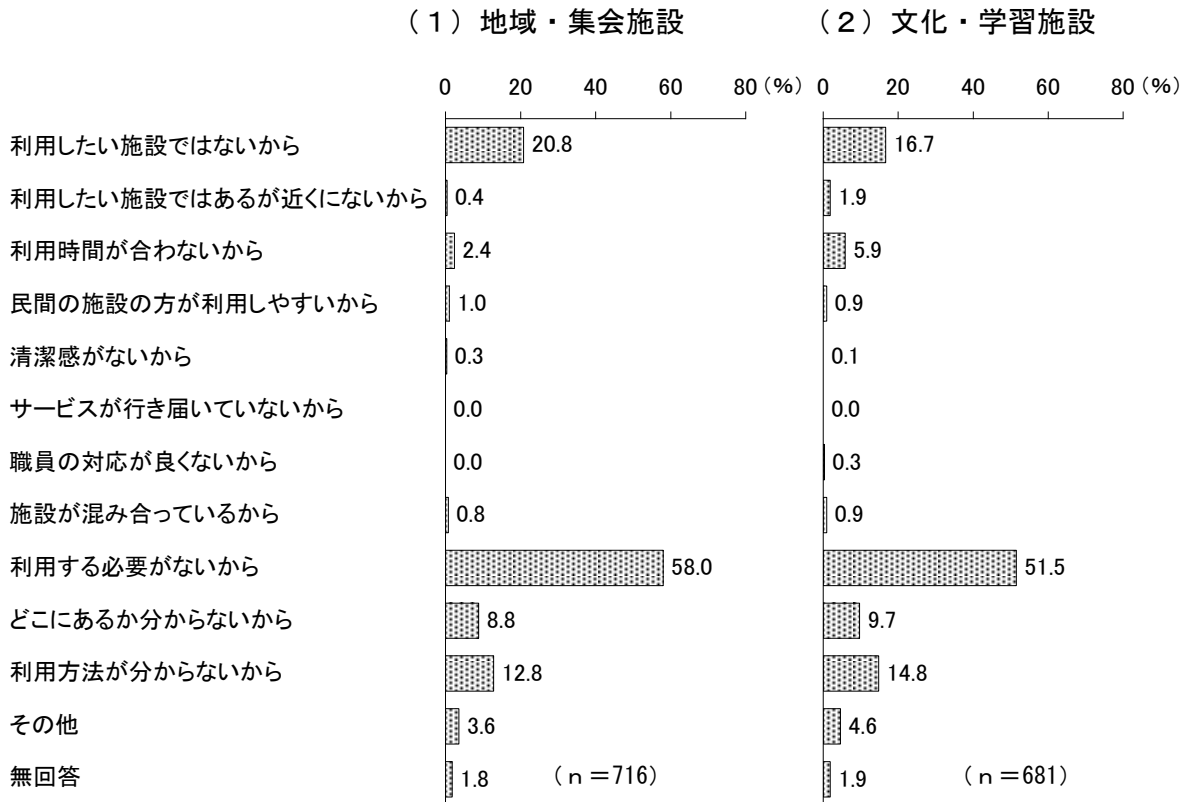
◇「利用する必要がないから」が全ての施設で最も高い

問21 また、あなたが、「4 利用したことがない」を選んだ施設について、その理由は何ですか。施設ごとに選んでください。(○はそれぞれ2つまで)		(%)												
	n	1 利用したい施設ではないから	2 利用したい施設ではあるが近くにないから	3 利用時間が合わないから	4 民間の施設の方が利用しやすいから	5 清潔感がないから	6 サービスが行き届いていないから	7 職員の対応が良くないから	8 施設が混み合っているから	9 利用する必要がないから	10 どこにあるか分からないから	11 利用方法が分からないから	12 その他	無回答
(1) 地域・集会施設	716	20.8	0.4	2.4	1.0	0.3	-	-	0.8	58.0	8.8	12.8	3.6	1.8
(2) 文化・学習施設	681	16.7	1.9	5.9	0.9	0.1	-	0.3	0.9	51.5	9.7	14.8	4.6	1.9
(3) スポーツ施設	617	12.2	7.1	7.6	5.0	1.1	0.5	-	4.1	40.8	9.6	16.7	6.5	2.1
(4) 運動場	844	16.0	4.0	3.4	1.9	0.1	-	-	1.7	51.2	9.2	12.0	6.2	3.1
(5) 図書館	422	13.3	5.5	7.3	0.5	2.1	-	0.2	0.9	42.9	14.0	10.0	9.5	3.8
(6) 公園	205	15.6	2.0	3.4	-	1.5	-	-	2.0	58.0	5.4	2.9	9.8	5.4
(7) 中央区役所本庁舎、特別出張所	141	17.7	2.1	1.4	-	0.7	-	-	-	55.3	6.4	7.1	5.7	7.8
(8) 高齢者福祉施設	971	17.7	0.5	1.0	0.1	0.1	-	-	0.7	69.4	4.5	3.0	5.3	2.4
(9) 子育て支援施設	806	16.4	0.4	0.9	0.1	0.2	0.1	-	0.6	68.0	3.8	2.4	7.1	4.1
(10) 保健施設	707	14.4	0.6	0.8	1.7	0.1	-	0.1	0.7	64.1	4.8	7.5	6.5	3.1
(11) 医療施設	746	11.4	0.7	1.7	4.0	0.4	0.1	-	0.5	61.0	7.9	8.7	8.0	2.3
(12) 保養施設	919	12.5	4.4	2.4	7.5	0.4	0.1	-	1.8	39.6	8.2	23.3	7.3	2.6
(13) その他	356	15.7	1.1	1.1	0.8	0.3	-	-	0.6	50.6	5.1	7.0	12.1	9.3

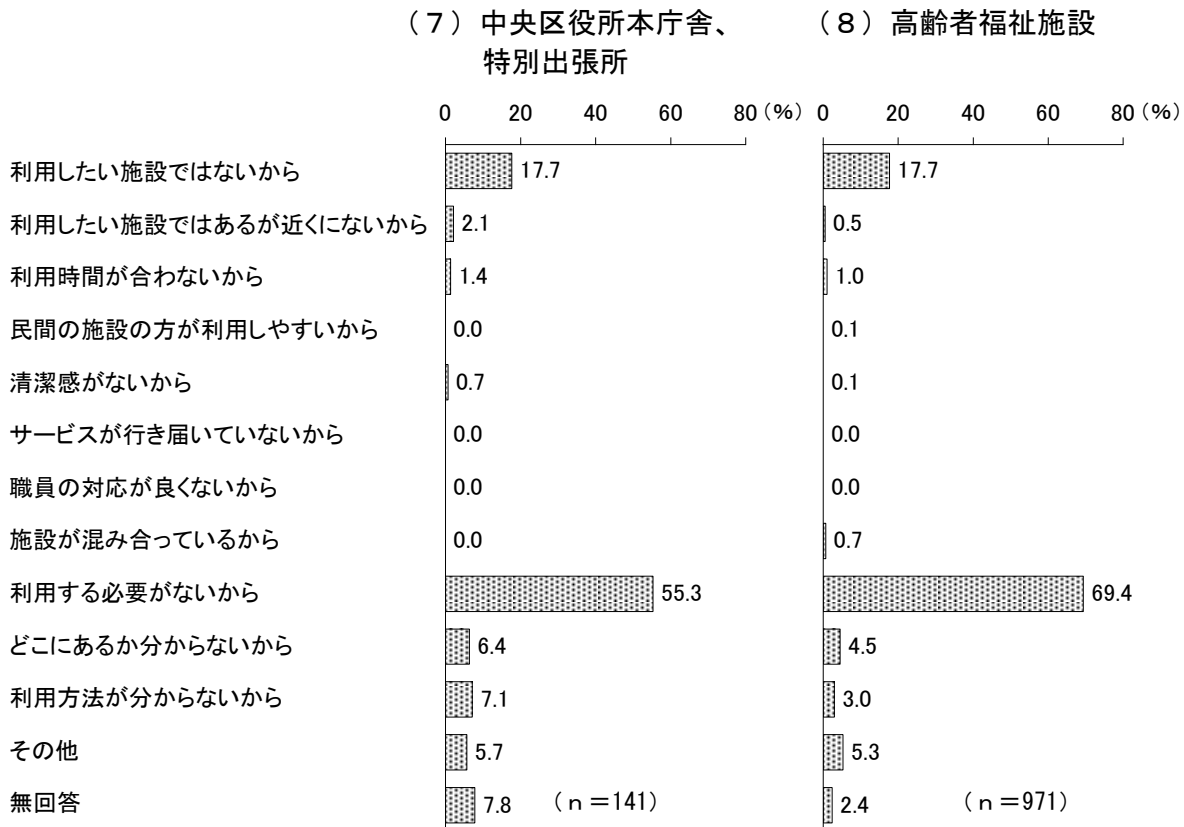
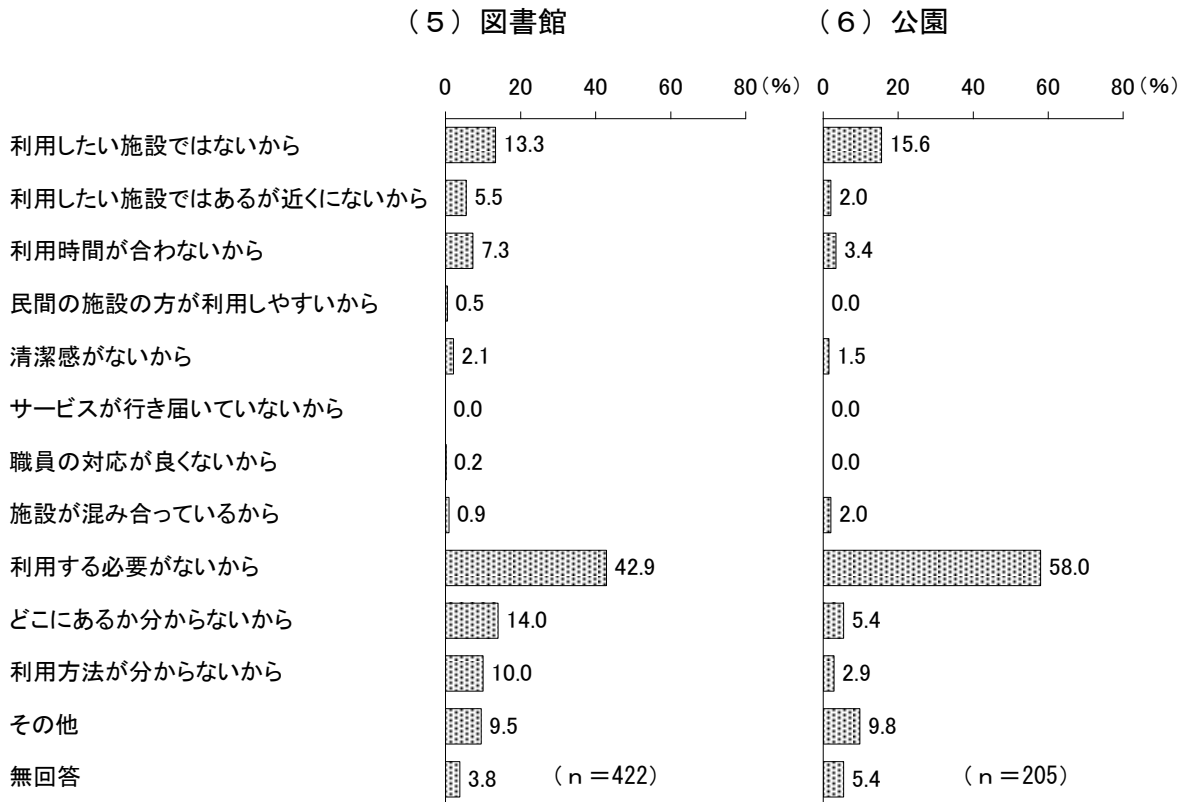
問21で、過去1年間に「利用したことがない」と答えた区の施設について、利用したことがない理由は、全ての施設で「利用する必要がないから」が最も高くなっており、特に(8)高齢者福祉施設(69.4%)では約7割、子育て支援施設(68.0%)は7割近くと高くなっている。

「利用したい施設ではないから」は、「その他」を除く12項目中9項目で「利用する必要がないから」に次いで高い理由となっているが、(3)スポーツ施設、(12)保養施設では、「利用方法がわからないから」が「利用する必要がないから」に次いで高い理由となっている。また、(5)図書館では、「どこにあるか分からないから」が「利用する必要がないから」に次いで高い理由となっている。(図表11-2-1、図表11-2-2、図表11-2-3)

図表11-2-1 区の施設を利用したことがない理由（複数回答）



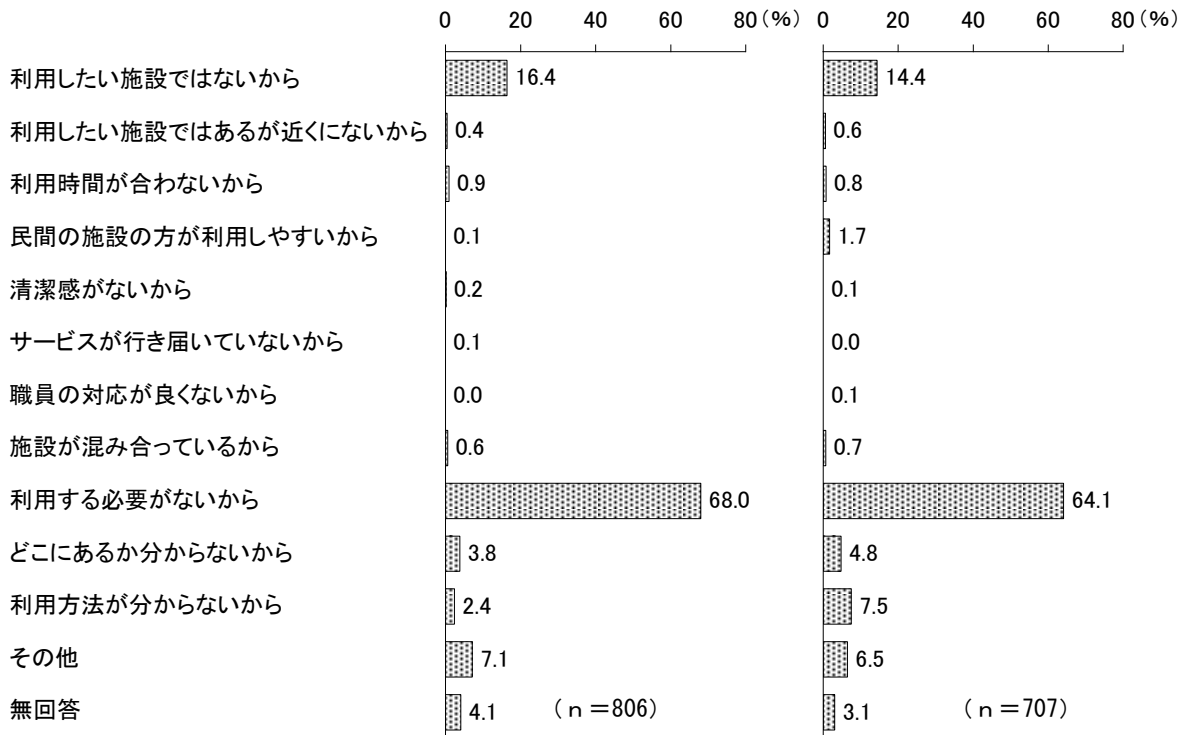
図表11-2-2 区の施設を利用したことがない理由（複数回答）



図表11-2-3 区の施設を利用したことがない理由（複数回答）

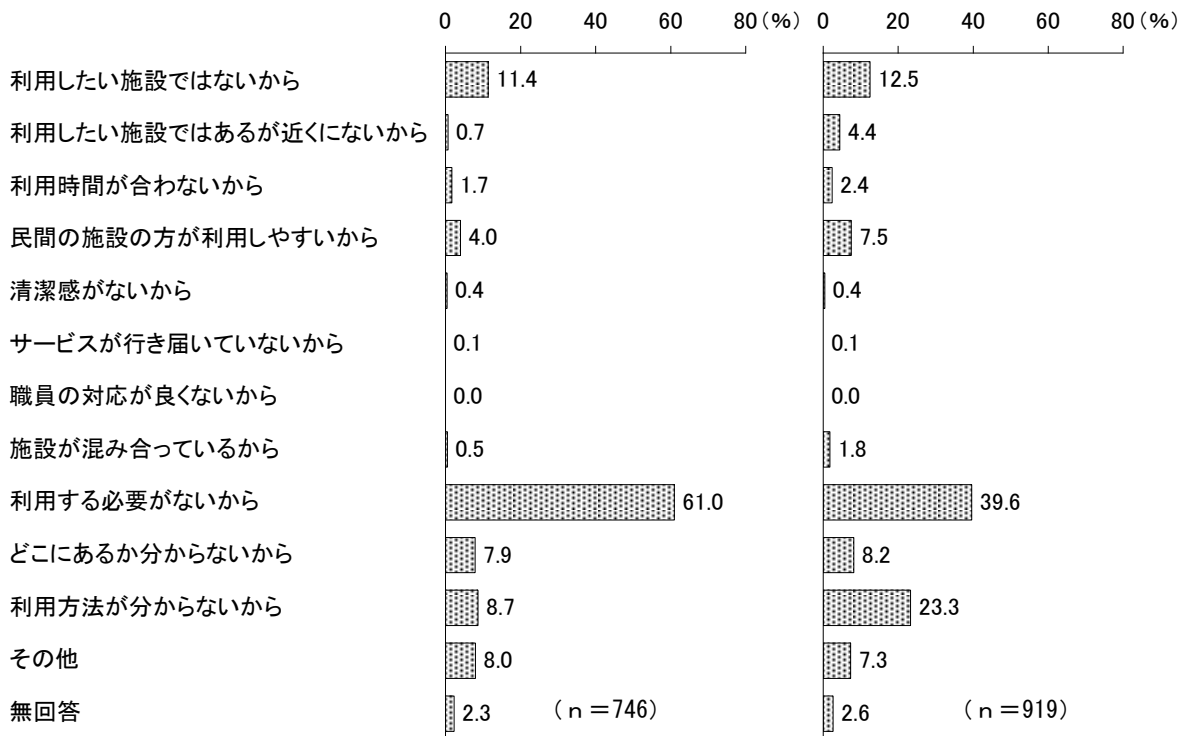
(9) 子育て支援施設

(10) 保健施設



(11) 医療施設

(12) 保養施設



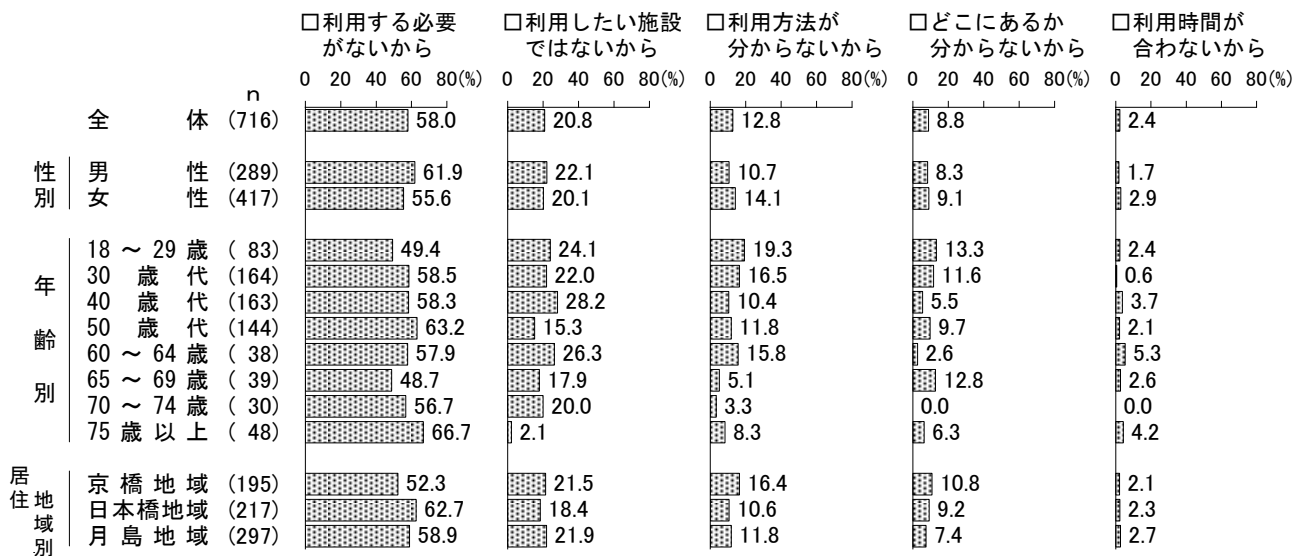
“地域・集会施設”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用する必要がないから」で6.3ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「利用方法が分からないから」で3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は75歳以上で7割近くと高くなっている。「利用したい施設ではないから」は40歳代で3割近くと高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は日本橋地域で6割を超えて高くなっている。

(図表11-2-4)

図表 11-2-4 区の施設を利用したことがない理由（1）地域・集会施設
—性別・年齢別・居住地域別（上位5項目）



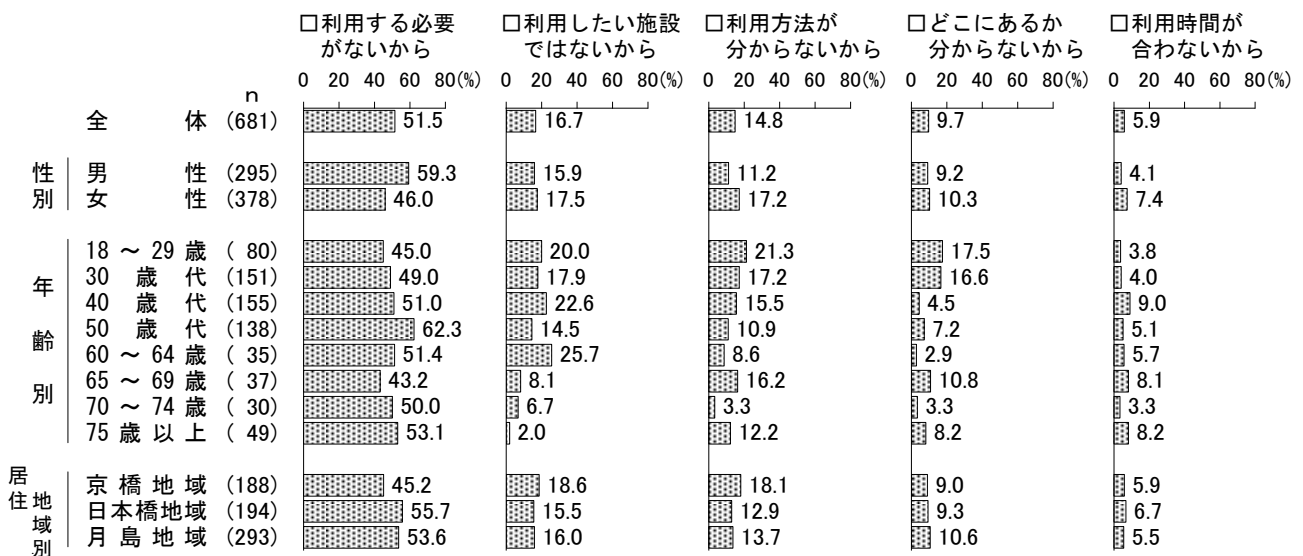
“文化・学習施設”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用する必要がないから」で13.3ポイント高くなっている。女性の方が男性よりも「利用方法が分からないから」で6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は50歳代で6割を超えて高くなっている。「利用したい施設ではないから」は60～64歳で2割台半ばと高くなっている。「利用方法が分からないから」は18～29歳で2割を超えて高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は日本橋地域で5割台半ばと高くなっている。

(図表11-2-5)

図表 11-2-5 区の施設を利用したことがない理由（2）文化・学習施設
—性別・年齢別・居住地域別（上位5項目）



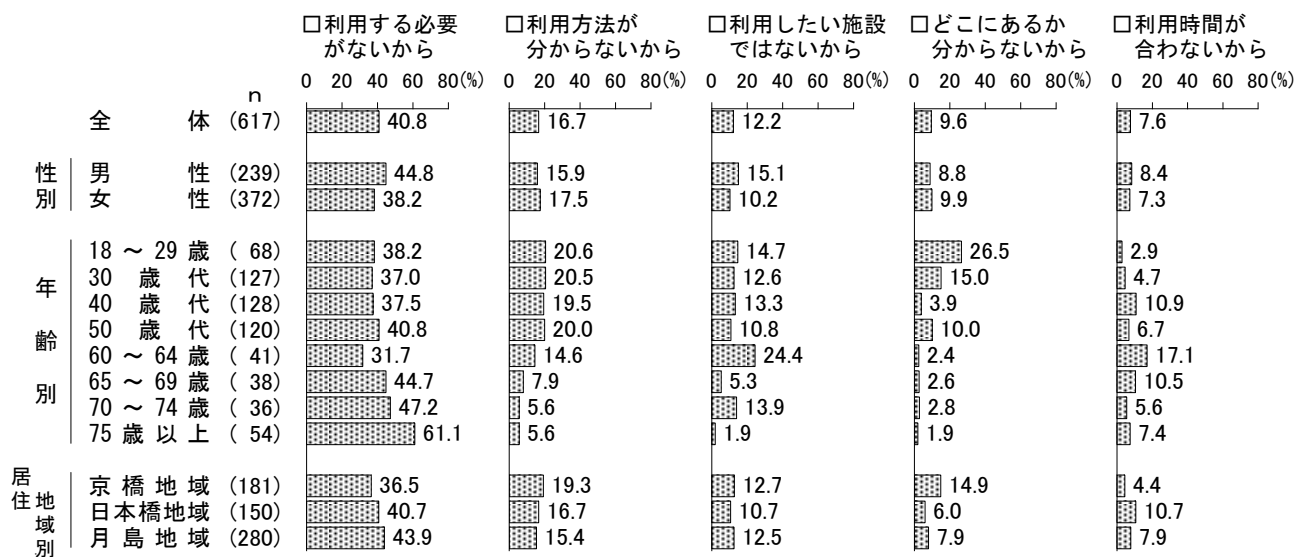
“スポーツ施設”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用する必要がないから」で6.6ポイント、「利用したい施設ではないから」で4.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は75歳以上で6割を超えて高くなっている。「どこにあるか分からないから」は18～29歳で3割近くと高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は月島地域で4割を超えて高くなっている。

(図表11-2-6)

図表 11-2-6 区の施設を利用したことがない理由(3) スポーツ施設
—性別・年齢別・居住地域別(上位5項目)



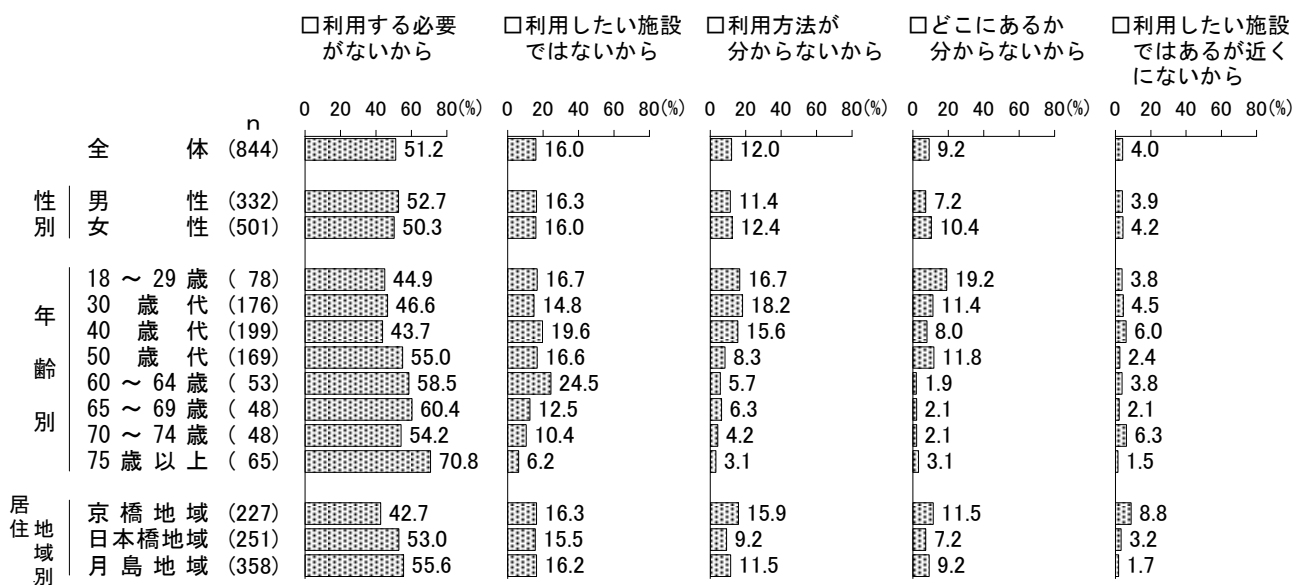
“運動場”について性別にみると、女性の方が男性よりも「どこにあるか分からないから」で3.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要があるから」は75歳以上で約7割と高くなっている。「利用したい施設ではないから」は60～64歳で2割台半ばと高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要があるから」は月島地域で5割台半ばと高くなっている。

(図表11-2-7)

図表 11-2-7 区の施設を利用したことがない理由（4）運動場
—性別・年齢別・居住地域別（上位5項目）



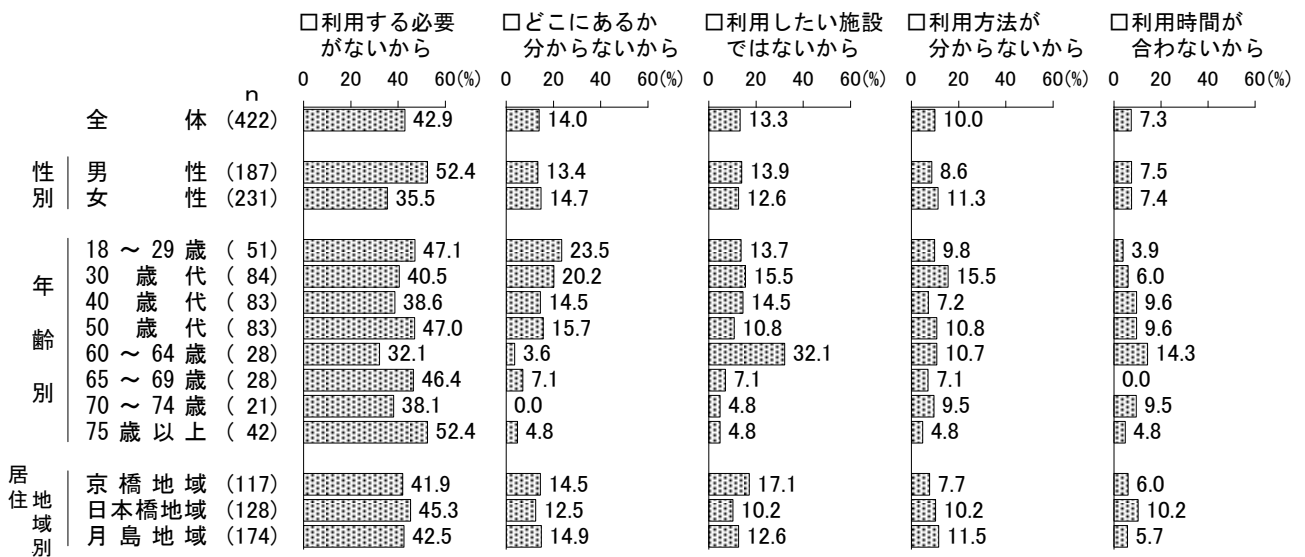
“図書館”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用する必要がないから」で16.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は75歳以上で5割を超えて高くなっている。「利用したい施設ではないから」は60～64歳で3割を超えて高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は日本橋地域で4割台半ばと高くなっている。

(図表11-2-8)

図表 11-2-8 区の施設を利用したことがない理由 (5) 図書館
—性別・年齢別・居住地域別 (上位5項目)

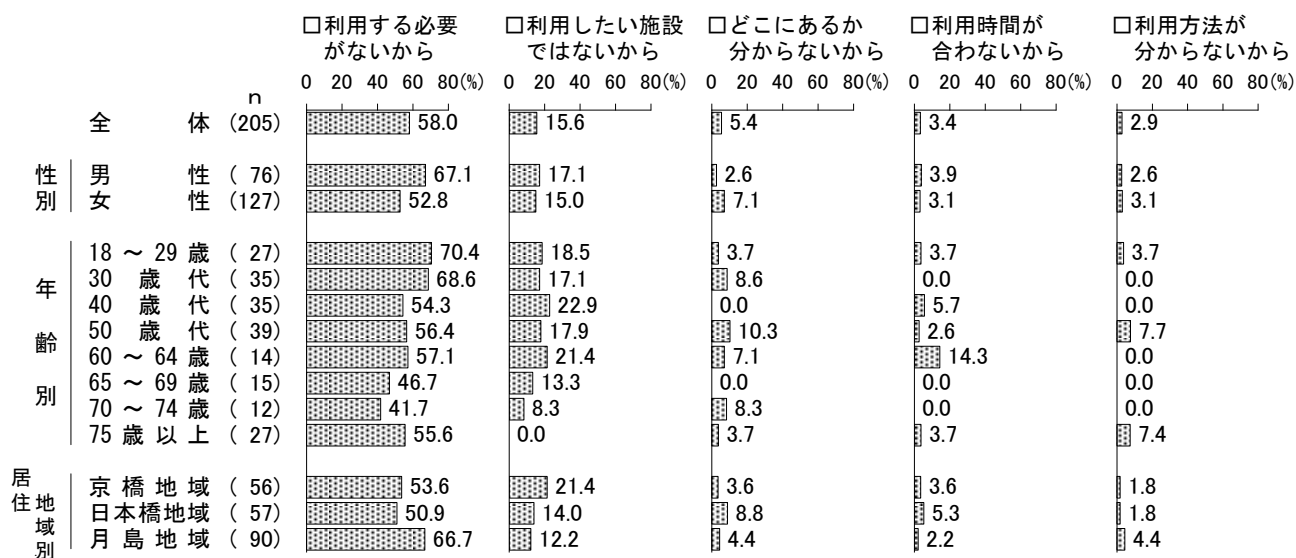


“公園”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用する必要がないから」で14.3ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「どこにあるか分からないから」で4.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は18～29歳で7割、30歳代で7割近くと高くなっている。「利用したい施設ではないから」は40歳代で2割を超えて高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は月島地域で7割近くと高くなっている。「利用したい施設ではないから」は京橋地域で2割を超えて高くなっている。(図表11-2-9)

図表 11-2-9 区の施設を利用したことがない理由(6) 公園
-性別・年齢別・居住地域別(上位5項目)

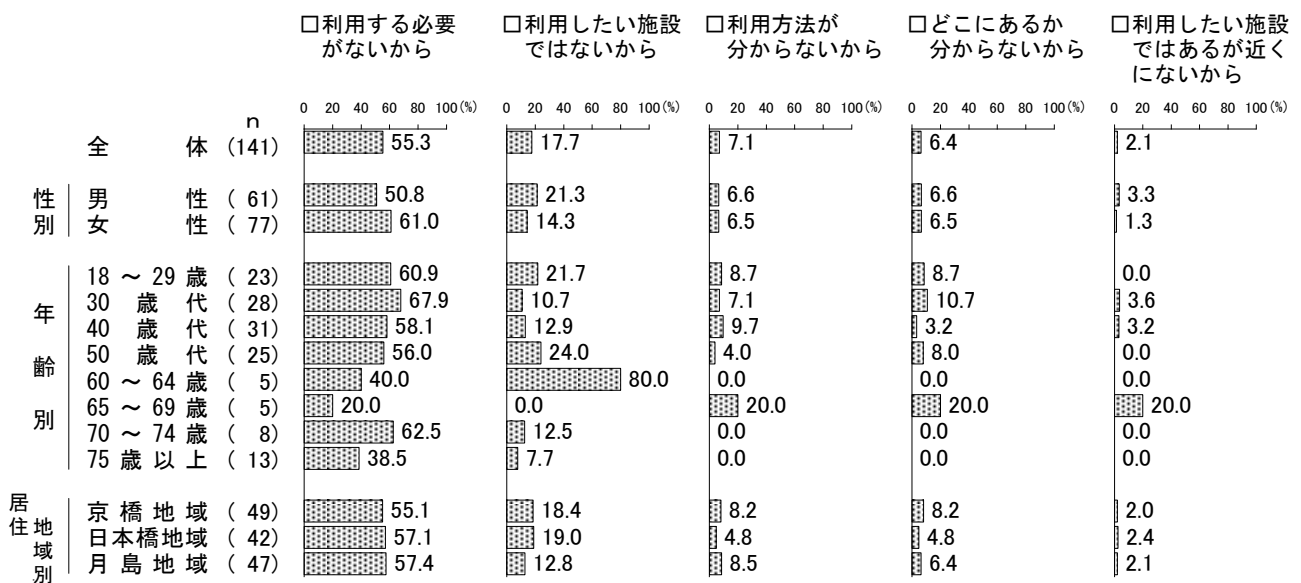


“中央区役所本庁舎、特別出張所”について性別にみると、女性の方が男性よりも「利用する必要がないから」で10.2ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「利用したい施設ではないから」で7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は30歳代で7割近くと高くなっている。「利用したい施設ではないから」は50歳代で2割台半ばと高くなっている。

居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表11-2-10)

図表 11-2-10 区の施設を利用したことがない理由（7）中央区役所本庁舎、特別出張所
—性別・年齢別・居住地域別（上位5項目）



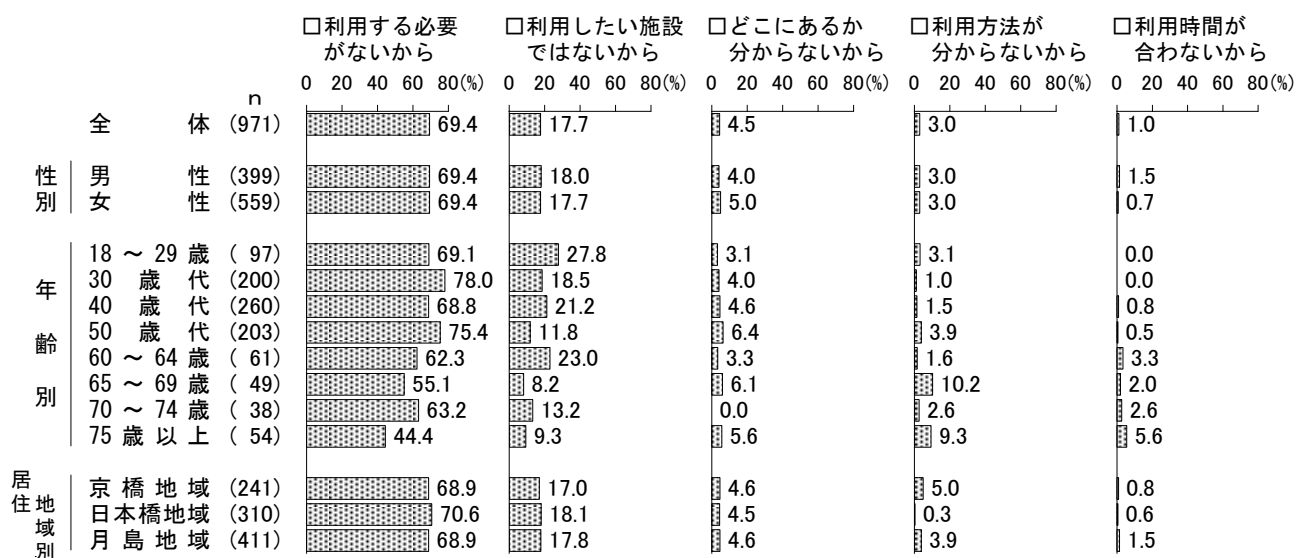
“高齢者福祉施設”について性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は30歳代と50歳代で7割台と高くなっている。「利用したい施設ではないから」は18～29歳で3割近くと高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は日本橋地域で約7割と高くなっている。

(図表11-2-11)

図表 11-2-11 区の施設を利用したことがない理由 (8) 高齢者福祉施設
—性別・年齢別・居住地域別 (上位5項目)



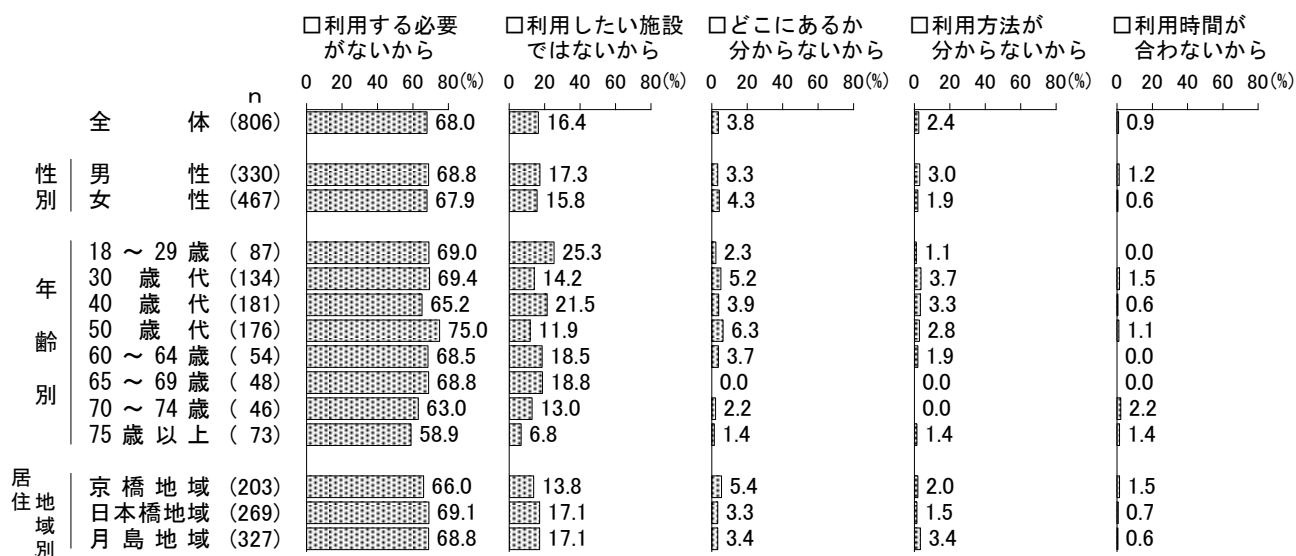
“子育て支援施設”について性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は50歳代で7割台半ばと高くなっている。「利用したい施設ではないから」は18～29歳で2割台半ばと高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は日本橋地域で約7割と高くなっている。

(図表11-2-12)

図表 11-2-12 区の施設を利用したことがない理由 (9) 子育て支援施設
—性別・年齢別・居住地域別 (上位5項目)



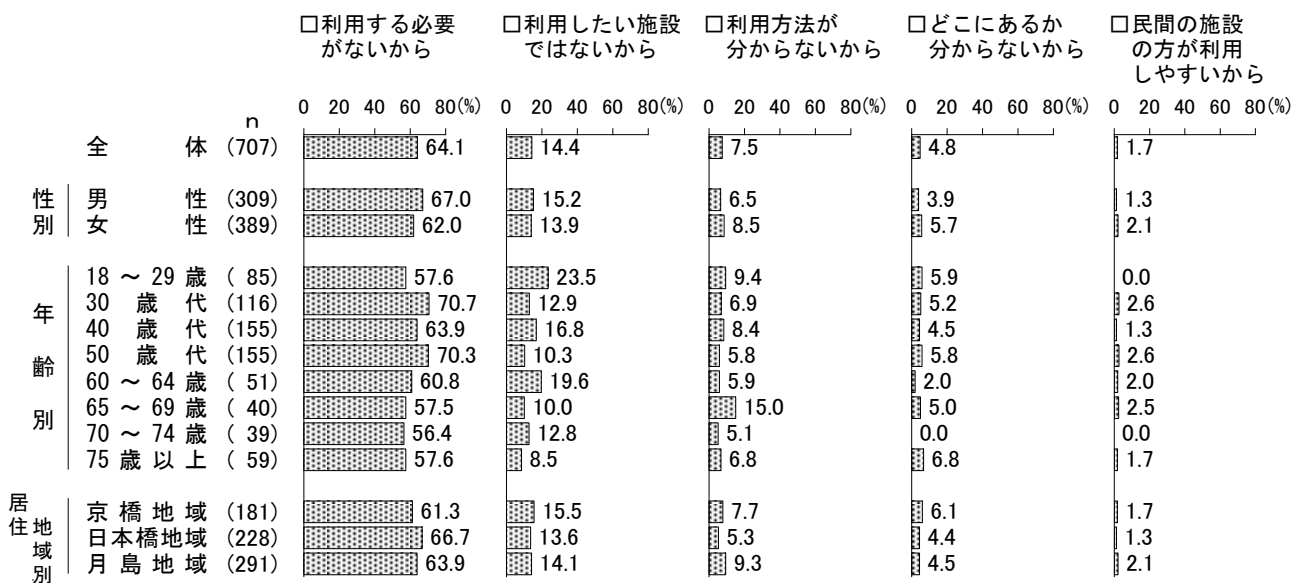
“保健施設”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用する必要がないから」で5.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は30歳代と50歳代で約7割と高くなっている。「利用したい施設ではないから」は18～29歳で2割を超えて高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は日本橋地域で7割近くと高くなっている。

(図表11-2-13)

図表 11-2-13 区の施設を利用したことがない理由 (10) 保健施設
—性別・年齢別・居住地域別 (上位5項目)



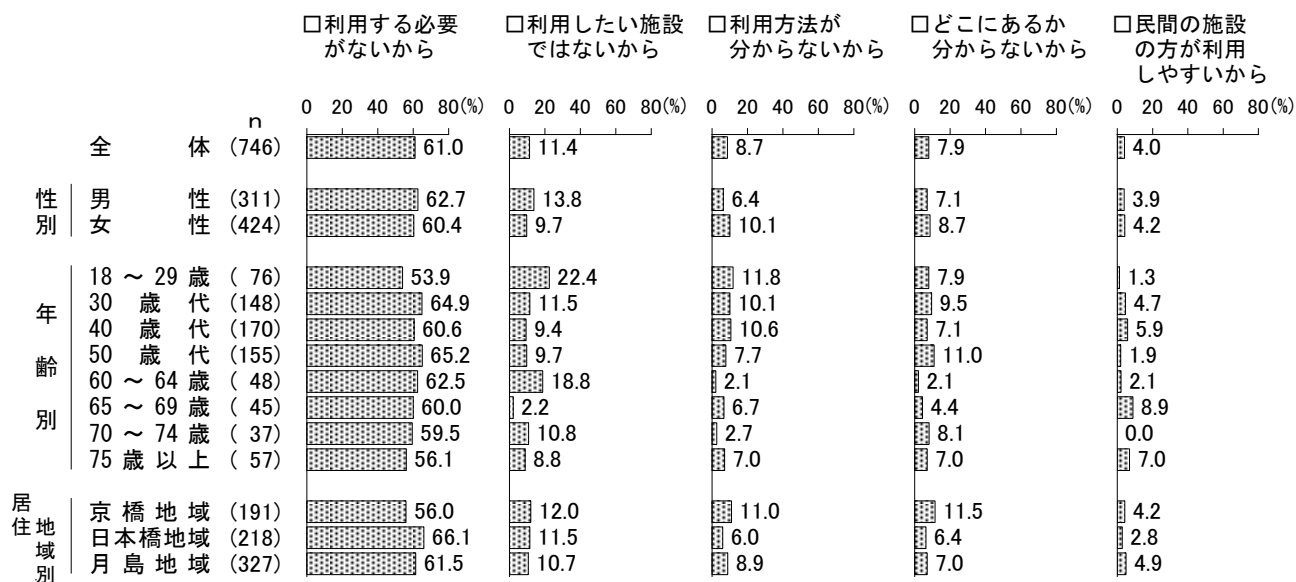
“医療施設”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用したい施設ではないから」で4.1ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「利用方法が分からないから」で3.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は30歳代と50歳代で6割台半ばと高くなっている。「利用したい施設ではないから」は18～29歳で2割を超えて高くなっている。

居住地域別にみると、「利用する必要がないから」は日本橋地域で6割台半ばと高くなっている。

(図表11-2-14)

図表 11-2-14 区の施設を利用したことがない理由 (11) 医療施設
—性別・年齢別・居住地域別 (上位5項目)

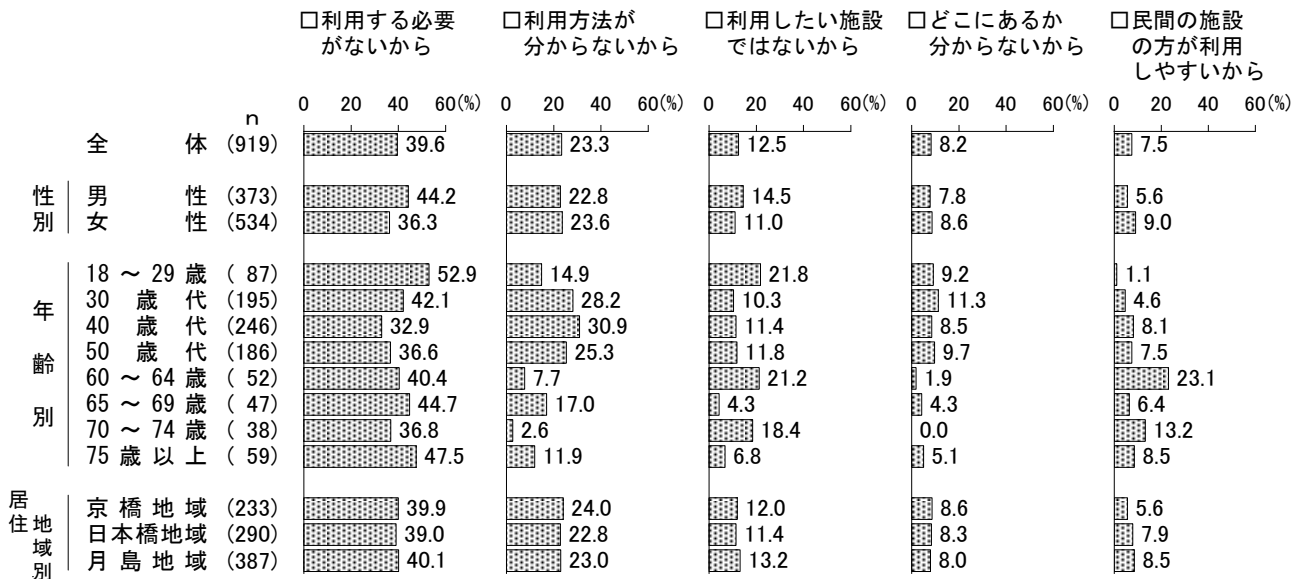


“保養施設”について性別にみると、男性の方が女性よりも「利用する必要がないから」で7.9ポイント、「利用したい施設ではないから」で3.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「民間の施設の方が利用しやすいから」で3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は18～29歳で5割を超えて高くなっている。「利用方法が分からないから」は40歳代で約3割と高くなっている。「利用したい施設ではないから」は18～29歳と60～64歳で2割を超えて高くなっている。

居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表11-2-15)

図表 11-2-15 区の施設を利用したことがない理由 (12) 保養施設
—性別・年齢別・居住地域別 (上位5項目)



(3) 現在不足していると思う公共施設

◇「スポーツ施設（スポーツセンターなど）」が2割近く

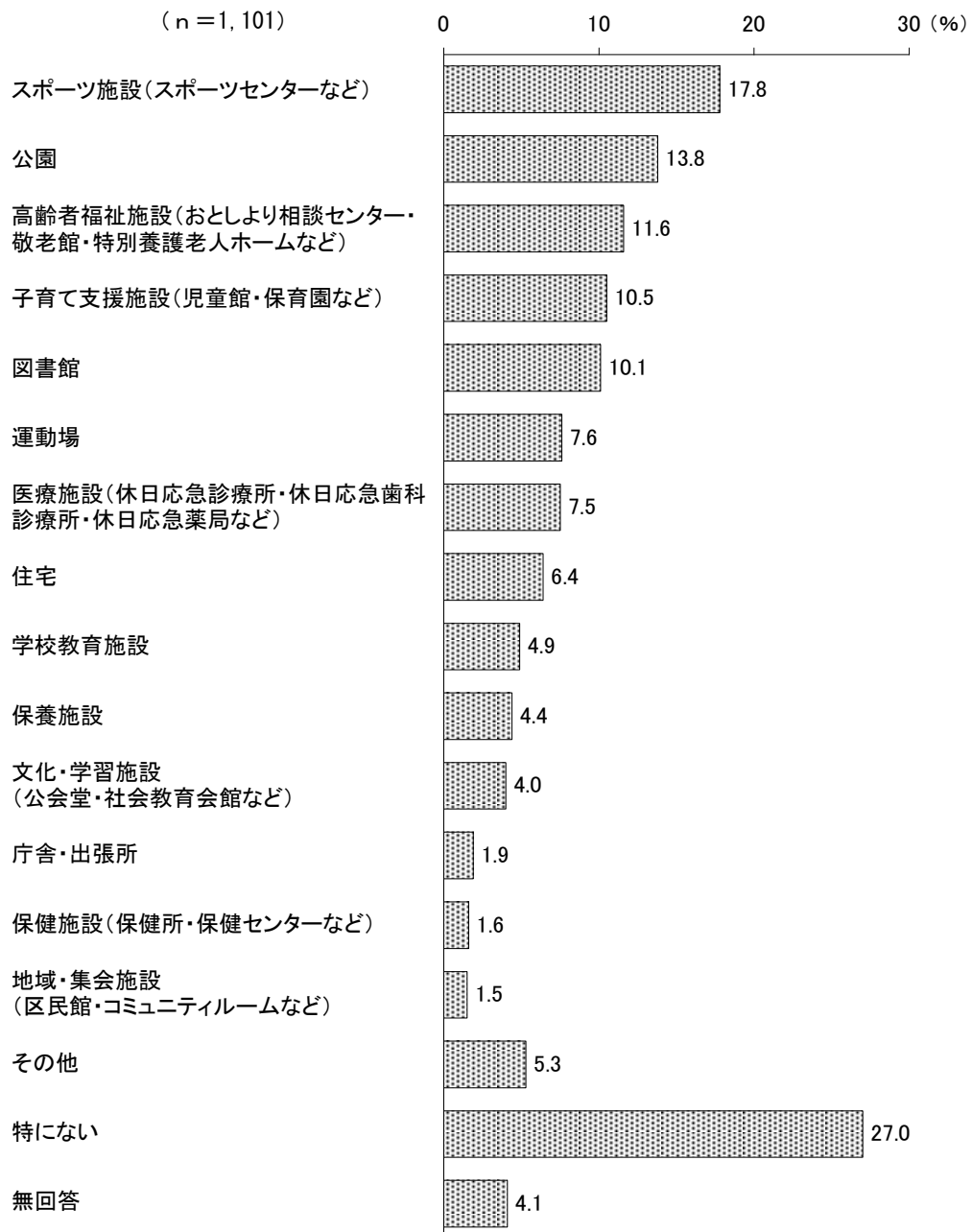
問22 あなたが今、不足していると思う施設は何ですか。(○は2つまで)

n = 1, 101

1	地域・集会施設（区民館・コミュニティルームなど）	1.5%
2	文化・学習施設（公会堂・社会教育会館など）	4.0
3	スポーツ施設（スポーツセンターなど）	17.8
4	運動場	7.6
5	図書館	10.1
6	公園	13.8
7	庁舎・出張所	1.9
8	高齢者福祉施設（おとしより相談センター・敬老館・特別養護老人ホームなど）	11.6
9	子育て支援施設（児童館・保育園など）	10.5
10	保健施設（保健所・保健センターなど）	1.6
11	医療施設（休日応急診療所・休日応急歯科診療所・休日応急薬局など）	7.5
12	保養施設	4.4
13	学校教育施設	4.9
14	住宅	6.4
15	その他	5.3
16	特にない	27.0
	（無回答）	4.1

現在不足していると思う施設は、「特にない」（27.0%）が3割近くで最も高くなっている。次いで、「スポーツ施設（スポーツセンターなど）」（17.8%）、「公園」（13.8%）、「高齢者福祉施設（おとしより相談センター・敬老館・特別養護老人ホームなど）」（11.6%）、「子育て支援施設（児童館・保育園など）」（10.5%）、「図書館」（10.1%）などとなっている。（図表11-3-1）

図表11-3-1 現在不足していると思う公共施設（複数回答）



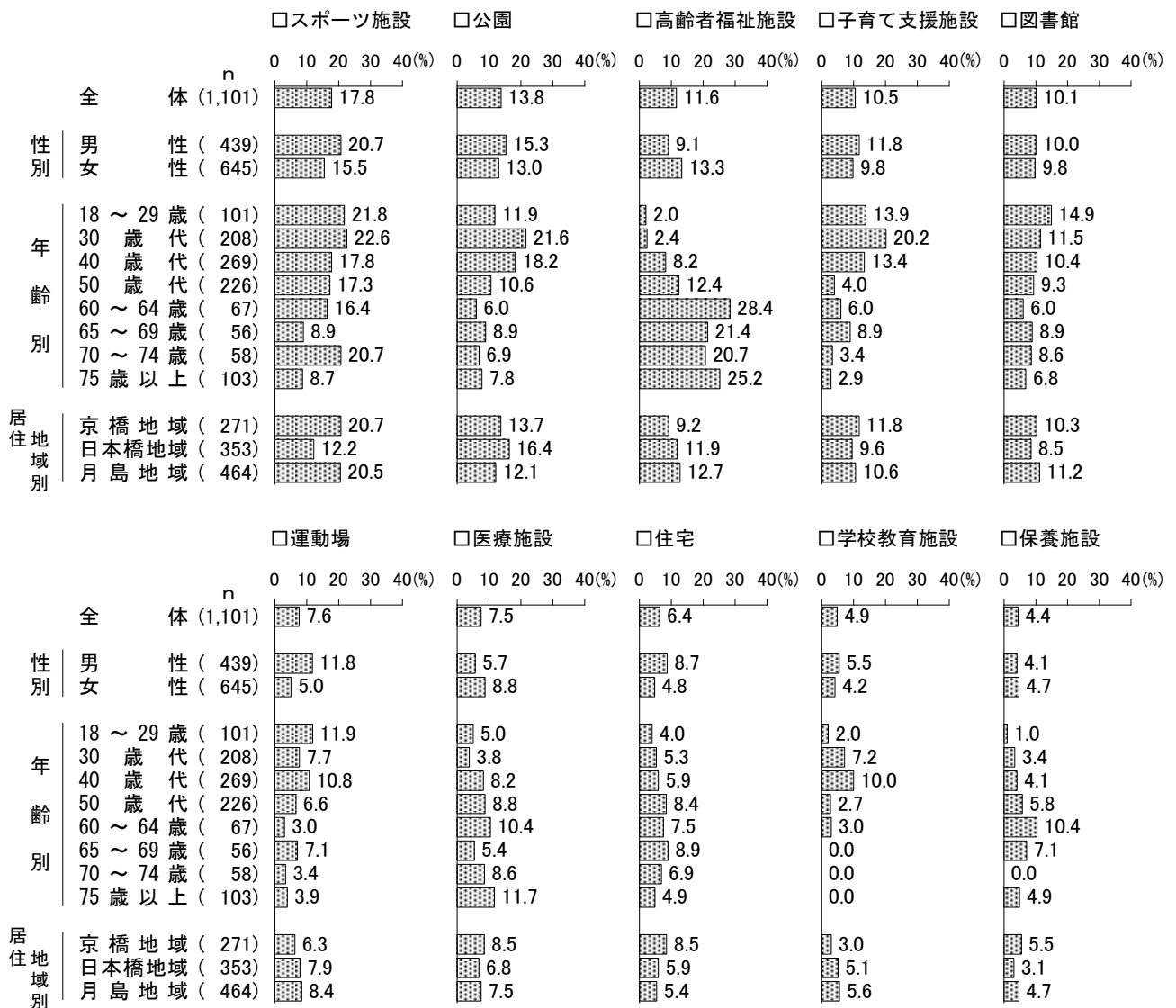
性別でみると、男性の方が女性よりも「運動場」で6.8ポイント、「スポーツ施設」で5.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「高齢者福祉施設」で4.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「公園」は30歳代で2割を超えて高くなっている。「高齢者福祉施設」は60～64歳で3割近く、75歳以上で2割台半ばと高くなっている。「子育て支援施設」は30歳代で2割と高くなっている。

居住地域別でみると、「スポーツ施設」は京橋地域と月島地域で約2割と高くなっている。

(図表11-3-2)

図表11-3-2 現在不足していると思う公共施設一性別・年齢別・居住地域別（上位10項目）



(4) 将来不足と思う公共施設

◇「高齢者福祉施設」が5割を超える

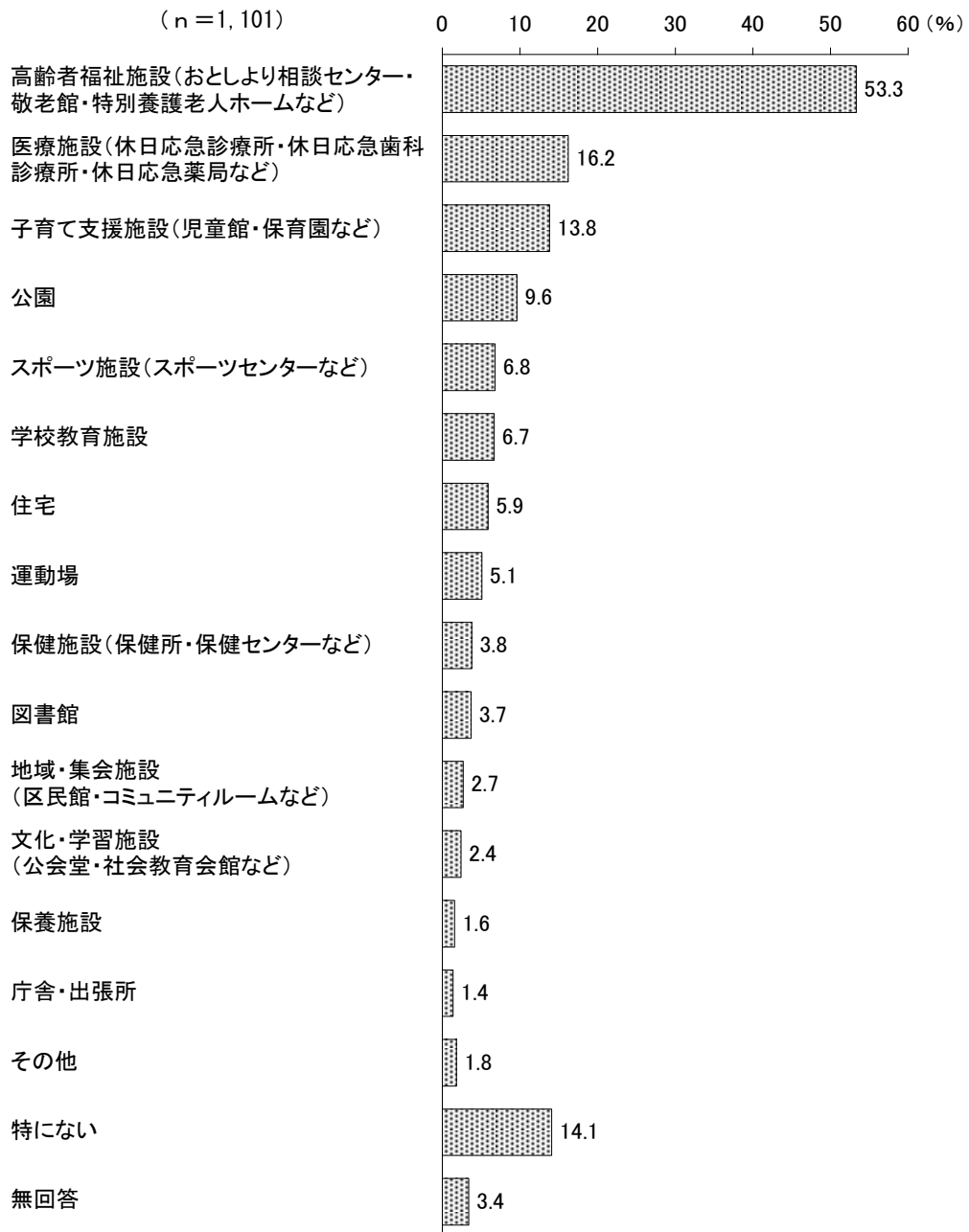
問23 あなたが将来（10年程度先）、不足と思う施設は何ですか。（○は2つまで）

n = 1, 101

1	地域・集会施設（区民館・コミュニティルームなど）	2.7%
2	文化・学習施設（公会堂・社会教育会館など）	2.4
3	スポーツ施設（スポーツセンターなど）	6.8
4	運動場	5.1
5	図書館	3.7
6	公園	9.6
7	庁舎・出張所	1.4
8	高齢者福祉施設（おとしより相談センター・敬老館・特別養護老人ホームなど）	53.3
9	子育て支援施設（児童館・保育園など）	13.8
10	保健施設（保健所・保健センターなど）	3.8
11	医療施設（休日応急診療所・休日応急歯科診療所・休日応急薬局など）	16.2
12	保養施設	1.6
13	学校教育施設	6.7
14	住宅	5.9
15	その他	1.8
16	特にない (無回答)	14.1 3.4

10年程度先の将来不足と思う施設は、「高齢者福祉施設（おとしより相談センター・敬老館・特別養護老人ホームなど）」（53.3%）が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「医療施設（休日応急診療所・休日応急歯科診療所・休日応急薬局など）」（16.2%）、「子育て支援施設（児童館・保育園など）」（13.8%）、「公園」（9.6%）、「スポーツ施設（スポーツセンターなど）」（6.8%）などとなっている。一方、「特にない」（14.1%）は1割台半ばとなっている。（図表11-4-1）

図表11-4-1 将来不足すると思う公共施設（複数回答）

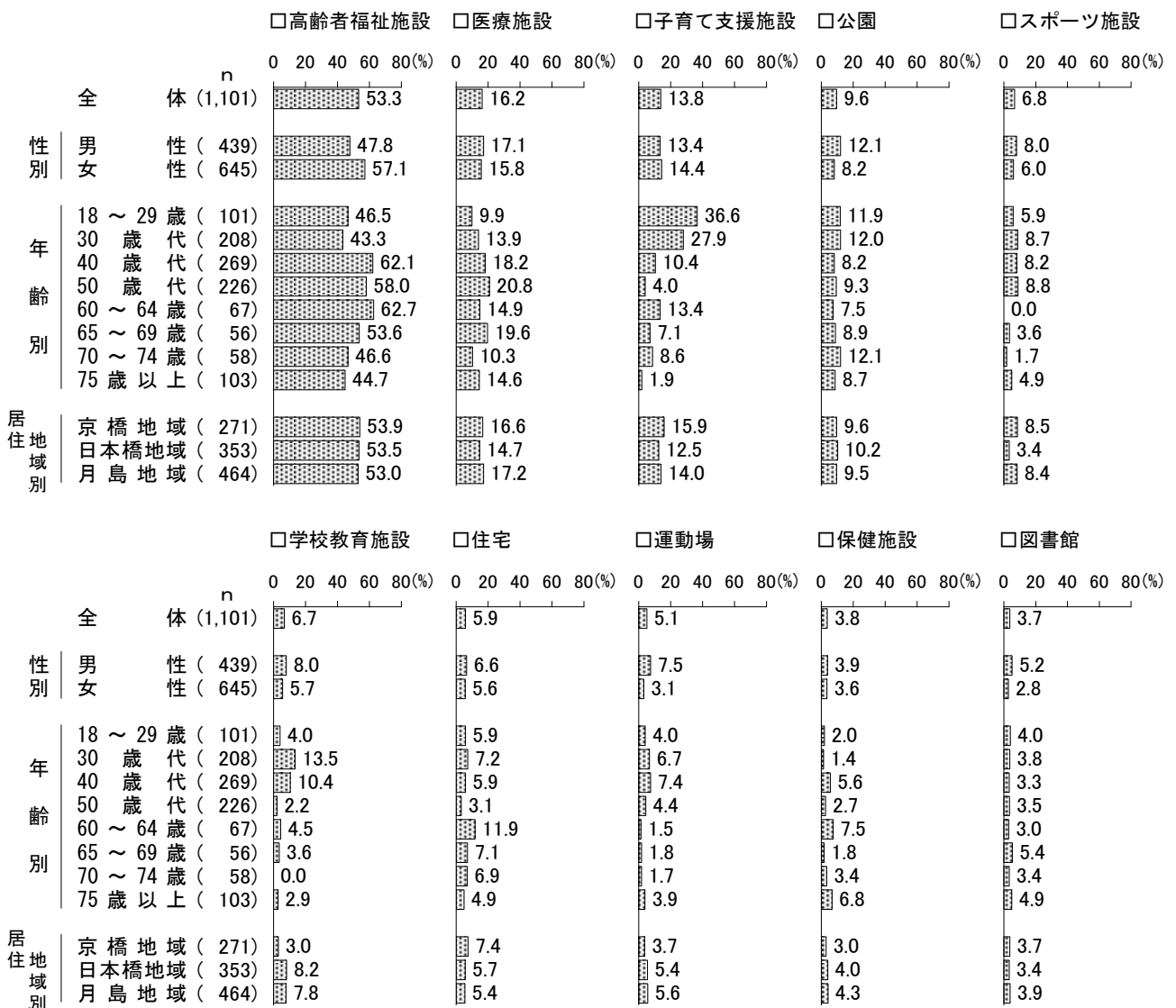


性別でみると、女性の方が男性よりも「高齢者福祉施設」で9.3ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「運動場」で4.4ポイント、「公園」で3.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「高齢者福祉施設」は40歳代と60～64歳で6割を超えて高くなっている。「子育て支援施設」は18～29歳で4割近く、30歳代で3割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表11-4-2)

図表11-4-2 将来不足と思う公共施設一性別・年齢別・居住地域別（上位10項目）



【12 デジタル技術を活用した区民サービス】

(1) スマートフォンの利用状況

◇「利用している」が9割近く

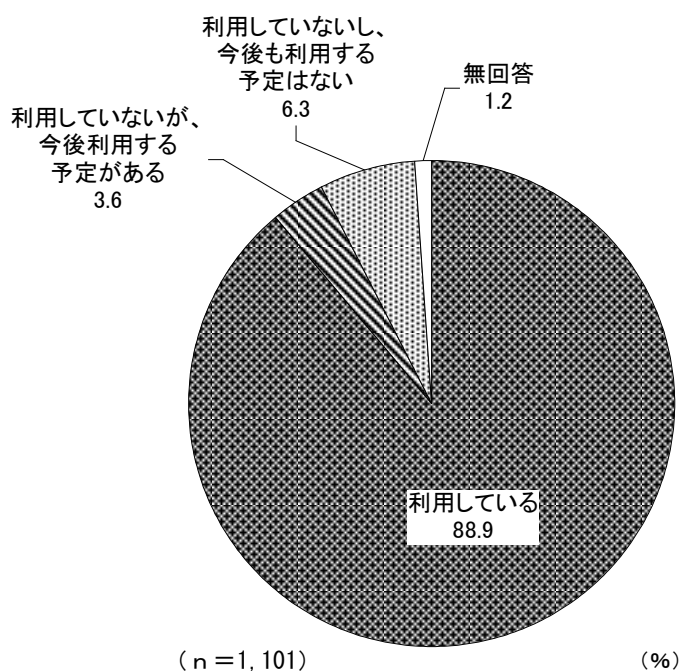
問24 あなたは、スマートフォンを利用していますか。(○は1つだけ)

n = 1, 101

1 利用している	88.9%
2 利用していないが、今後利用する予定がある	3.6
3 利用していないし、今後も利用する予定はない (無回答)	6.3 1.2

スマートフォンの利用状況は、「利用している」(88.9%)が9割近くで最も高くなっている。「利用していないが、今後利用する予定がある」(3.6%)と「利用していないし、今後も利用する予定はない」(6.3%)はともに1割に満たない。(図表12-1-1)

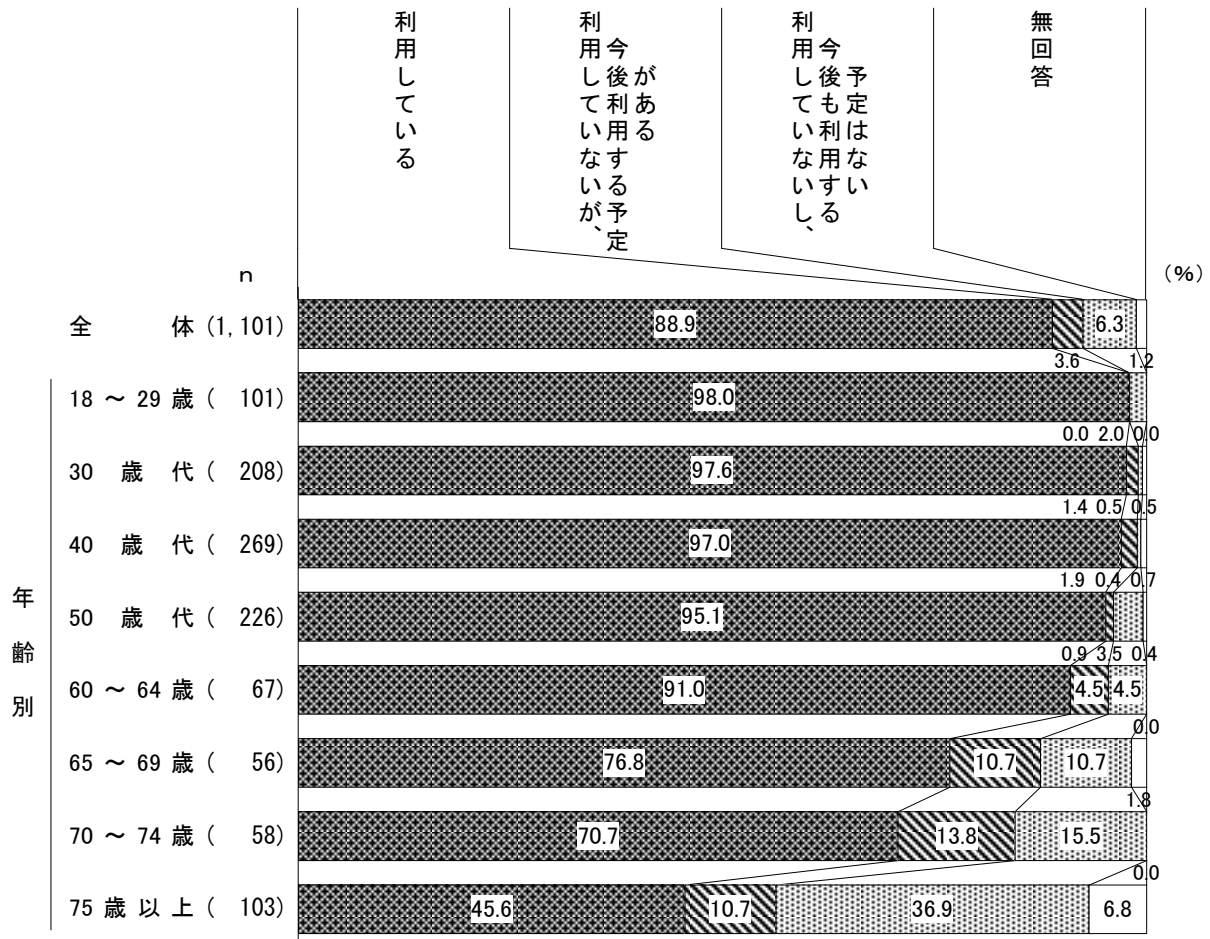
図表12-1-1 スマートフォンの利用状況



年齢別でみると、「利用している」は60～64歳以下の年代で9割台と高くなっている。一方、「利用していないし、今後利用する予定はない」は75歳以上で4割近くと高くなっている。

(図表12-1-2)

図表12-1-2 スマートフォンの利用状況一年齢別



(2) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス

◇「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続の拡大」が6割台半ば

問25 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。(〇はいくつでも)

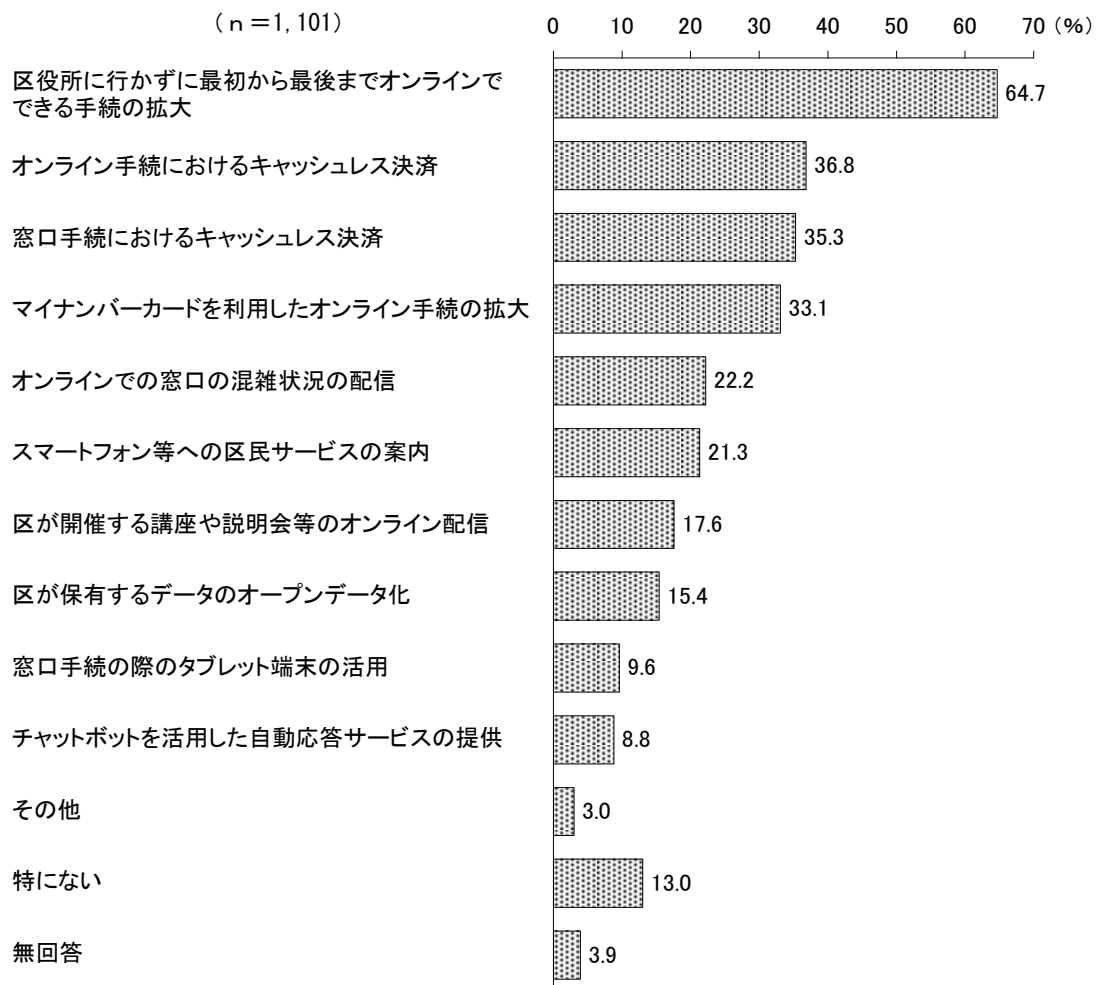
n = 1, 101

1	窓口手続におけるキャッシュレス決済	35.3%
2	オンライン手続におけるキャッシュレス決済	36.8
3	区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続の拡大	64.7
4	マイナンバーカードを利用したオンライン手続の拡大	33.1
5	スマートフォン等への区民サービスの案内	21.3
6	窓口手続の際のタブレット端末の活用	9.6
7	チャットボットを活用した自動応答サービスの提供	8.8
8	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	22.2
9	区が開催する講座や説明会等のオンライン配信	17.6
10	区が保有するデータのオープンデータ化	15.4
11	その他	3.0
12	特にない	13.0
	(無回答)	3.9

(※) チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービスは、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続の拡大」(64.7%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「オンライン手続におけるキャッシュレス決済」(36.8%)、「窓口手続におけるキャッシュレス決済」(35.3%)、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続の拡大」(33.1%)、「オンラインでの窓口の混雑状況の配信」(22.2%)などとなっている。(図表12-2-1)

図表12-2-1 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス（複数回答）

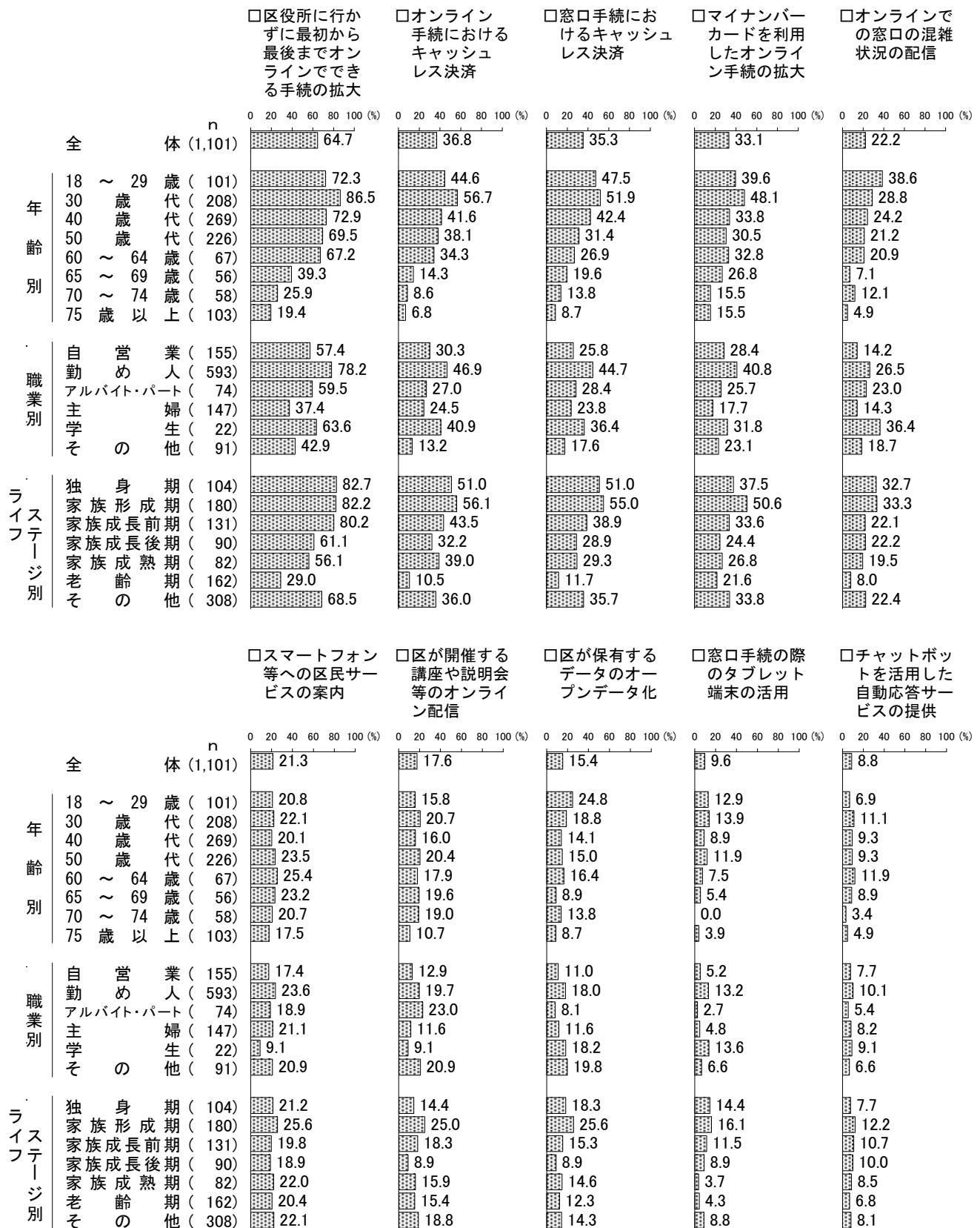


年齢別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続の拡大」は30歳代で9割近く、18～29歳と40歳代で7割を超えて高くなっている。「オンライン手続におけるキャッシュレス決済」は30歳代で6割近くと高くなっている。

職業別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続の拡大」は勤め人で8割近くと高くなっている。「オンライン手続におけるキャッシュレス決済」は勤め人と学生で4割台と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「オンライン手続におけるキャッシュレス決済」は家族形成期と独身期で5割台と高くなっている。「窓口手続におけるキャッシュレス決済」は家族形成期と独身期で5割台と高くなっている。「マイナンバーカードを利用したオンライン手続の拡大」は家族形成期で約5割と高くなっている。（図表12-2-2）

図表12-2-2 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス
 一年齢別・職業別・ライフステージ別（上位10項目）



【13 地球温暖化対策】

(1) 「中央区の森」事業の認知度

◇「知らない」が7割を超える

問26 あなたは、地球温暖化対策推進事業である「中央区の森」事業を知っていますか。
(○は1つだけ)

n = 1, 101

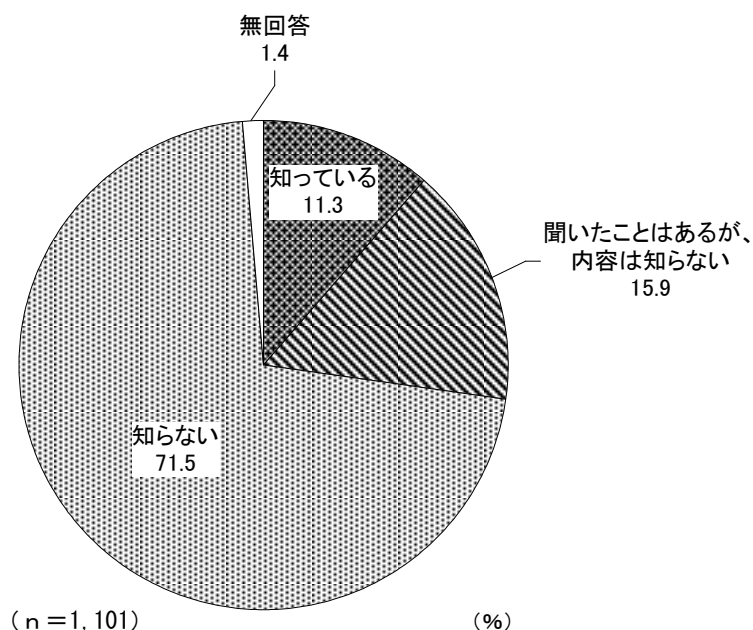
1 知っている	11.3%
2 聞いたことはあるが、内容は知らない	15.9
3 知らない	71.5
(無回答)	1.4

(※)「中央区の森」事業 区では、二酸化炭素の吸収源となる森林を荒廃から守り、育てるため、行政のエリアにとらわれない広域的な地球温暖化対策推進事業として、東京都西多摩郡檜原村にある「中央区の森」で森林保全活動を実施しています。

「中央区の森」事業の認知度は、「知っている」(11.3%)が1割を超えている。「聞いたことはあるが、内容は知らない」(15.9%)は1割台半ば、「知らない」(71.5%)は7割を超えている。

(図表13-1-1)

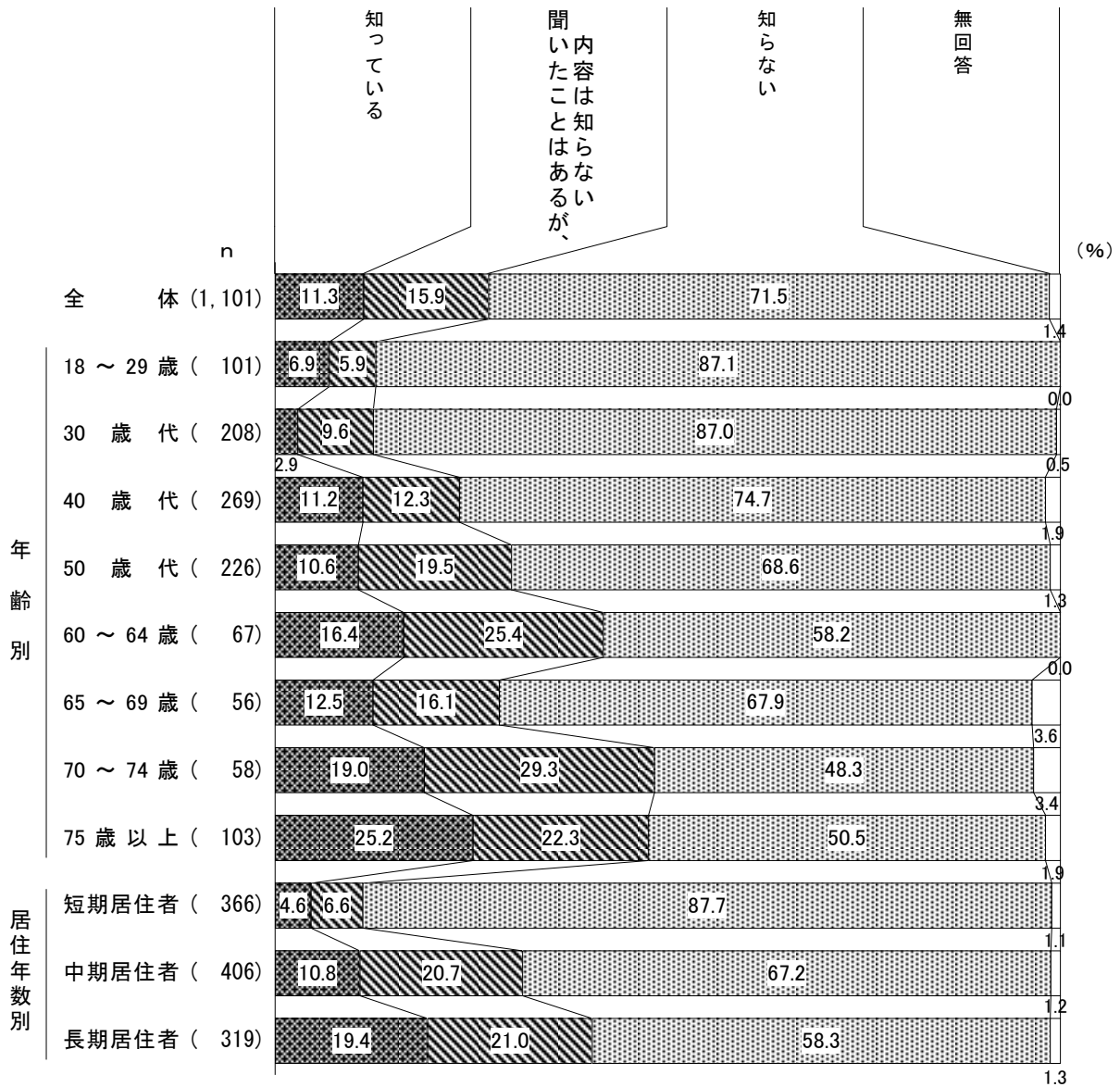
図表13-1-1 「中央区の森」事業の認知度



年齢別でみると、「知っている」は75歳以上で2割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳と30歳代で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は長期居住者で約2割となっている。(図表13-1-2)

図表13-1-2 「中央区の森」事業の認知度一年齢別・居住年数別



(2) 森林保全活動のために重要だと思うこと

◇「区内の保育園、幼稚園、小・中学校等での環境学習」が4割台半ば

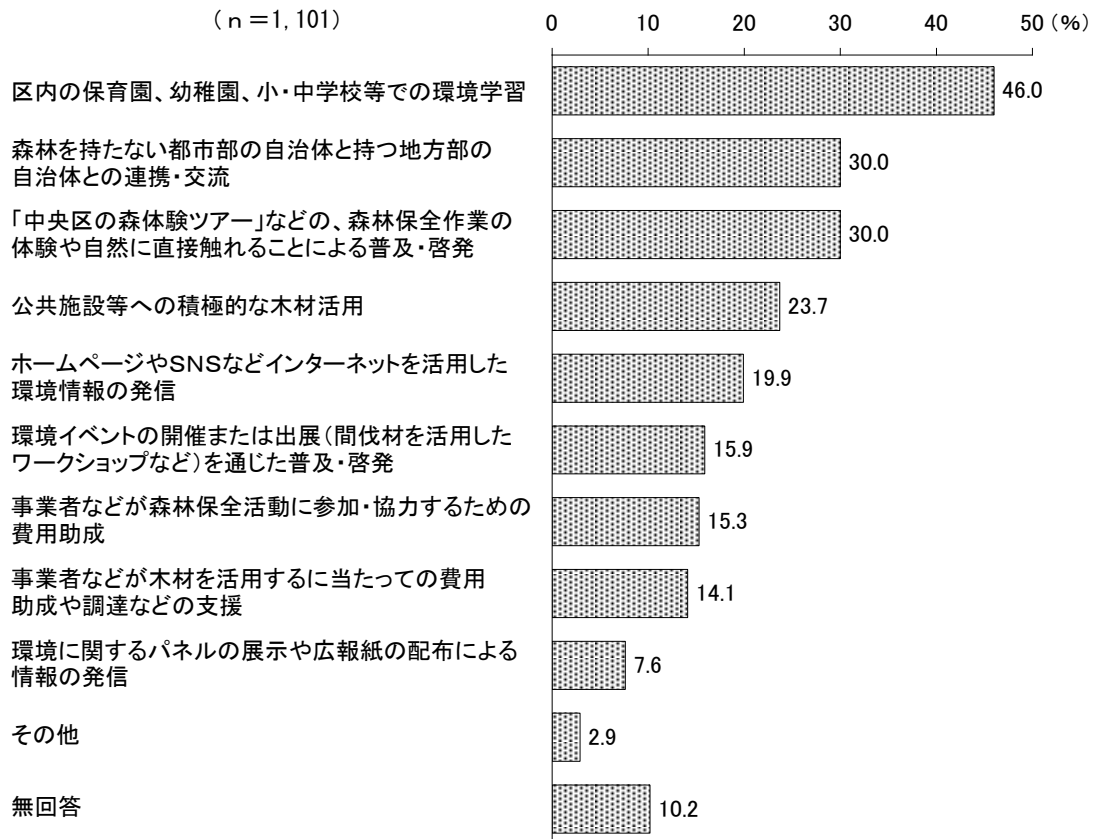
問27 あなたは、「中央区の森」事業などの森林保全活動を推進する上で、何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

n = 1, 101

1	森林を持たない都市部の自治体と持つ地方部の自治体との連携・交流	30.0%
2	公共施設等への積極的な木材活用	23.7
3	事業者などが木材を活用するに当たっての費用助成や調達などの支援	14.1
4	「中央区の森体験ツアー」などの、森林保全作業の体験や自然に直接触れることによる普及・啓発	30.0
5	環境イベントの開催または出展（間伐材を活用したワークショップなど）を通じた普及・啓発	15.9
6	区内の保育園、幼稚園、小・中学校等での環境学習	46.0
7	事業者などが森林保全活動に参加・協力するための費用助成	15.3
8	環境に関するパネルの展示や広報紙の配布による情報の発信	7.6
9	ホームページやSNSなどインターネットを活用した環境情報の発信	19.9
10	その他	2.9
	(無回答)	10.2

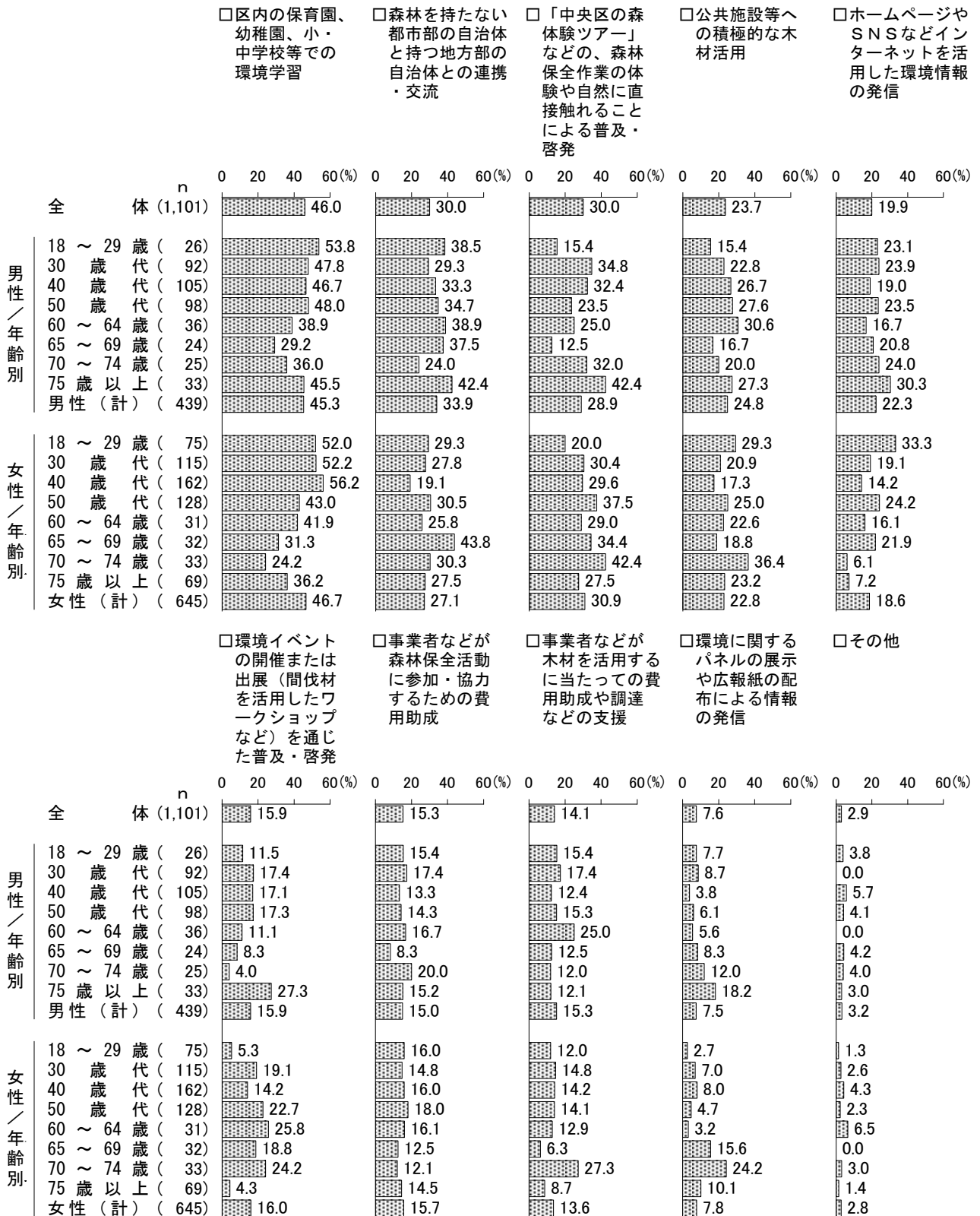
森林保全活動のために重要だと思うことは、「区内の保育園、幼稚園、小・中学校等での環境学習」(46.0%)が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「森林を持たない都市部の自治体と持つ地方部の自治体との連携・交流」と『「中央区の森体験ツアー」などの、森林保全作業の体験や自然に直接触れることによる普及・啓発」(ともに30.0%)、「公共施設等への積極的な木材活用」(23.7%)、「ホームページやSNSなどインターネットを活用した環境情報の発信」(19.9%)などとなっている。(図表13-2-1)

図表13-2-1 森林保全活動のために重要だと思うこと（複数回答）



性／年齢別でみると、「区内の保育園、幼稚園、小・中学校等での環境学習」は女性の40歳代で5割台半ばと高くなっている。「森林を持たない都市部の自治体と持つ地方部の自治体との連携・交流」は女性の65～69歳と男性の75歳以上で4割を超えて高くなっている。『「中央区の森体験ツアー」などの、森林保全作業の体験や自然に直接触れることによる普及・啓発」は男性の75歳以上と女性の70～74歳で4割を超えて高くなっている。(図表13-2-2)

図表13-2-2 森林保全活動のために重要だと思うこと—性／年齢別



(3) 地球温暖化対策に効果的な施策

◇「ごみの減量・リサイクルの促進」が6割近く

問28 区が推進している地球温暖化対策に係る施策の中で、あなたは、何が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

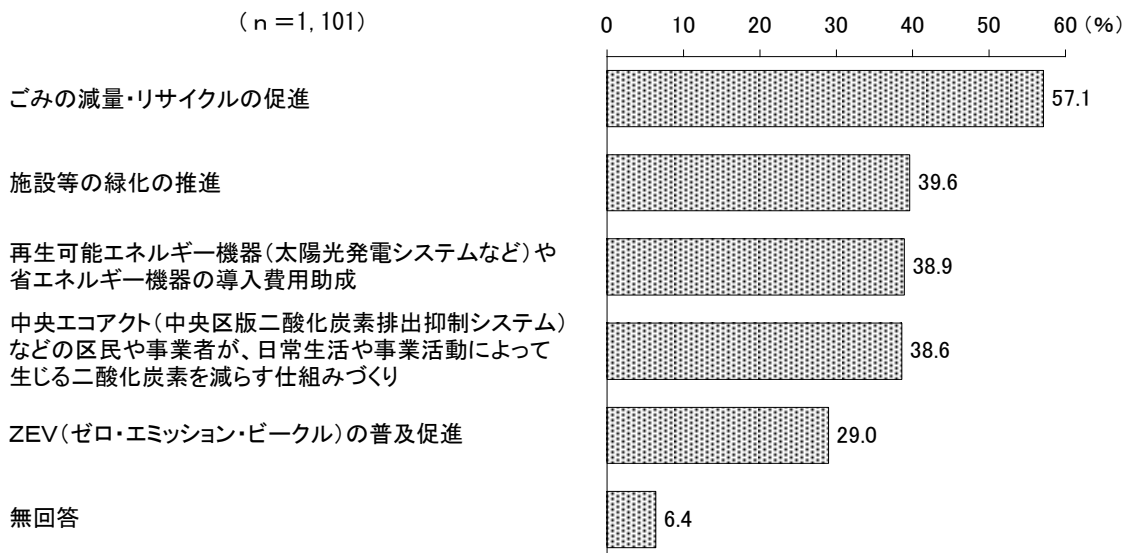
n = 1, 101

1	中央エコアクト(中央区版二酸化炭素排出抑制システム)などの区民や事業者が、日常生活や事業活動によって生じる二酸化炭素を減らす仕組みづくり	38.6%
2	再生可能エネルギー機器(太陽光発電システムなど)や省エネルギー機器の導入費用助成	38.9
3	ZEV(ゼロ・エミッション・ビークル)の普及促進	29.0
4	ごみの減量・リサイクルの促進	57.1
5	施設等の緑化の推進	39.6
	(無回答)	6.4

(※) ZEV(ゼロ・エミッション・ビークル) 走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)のことです。

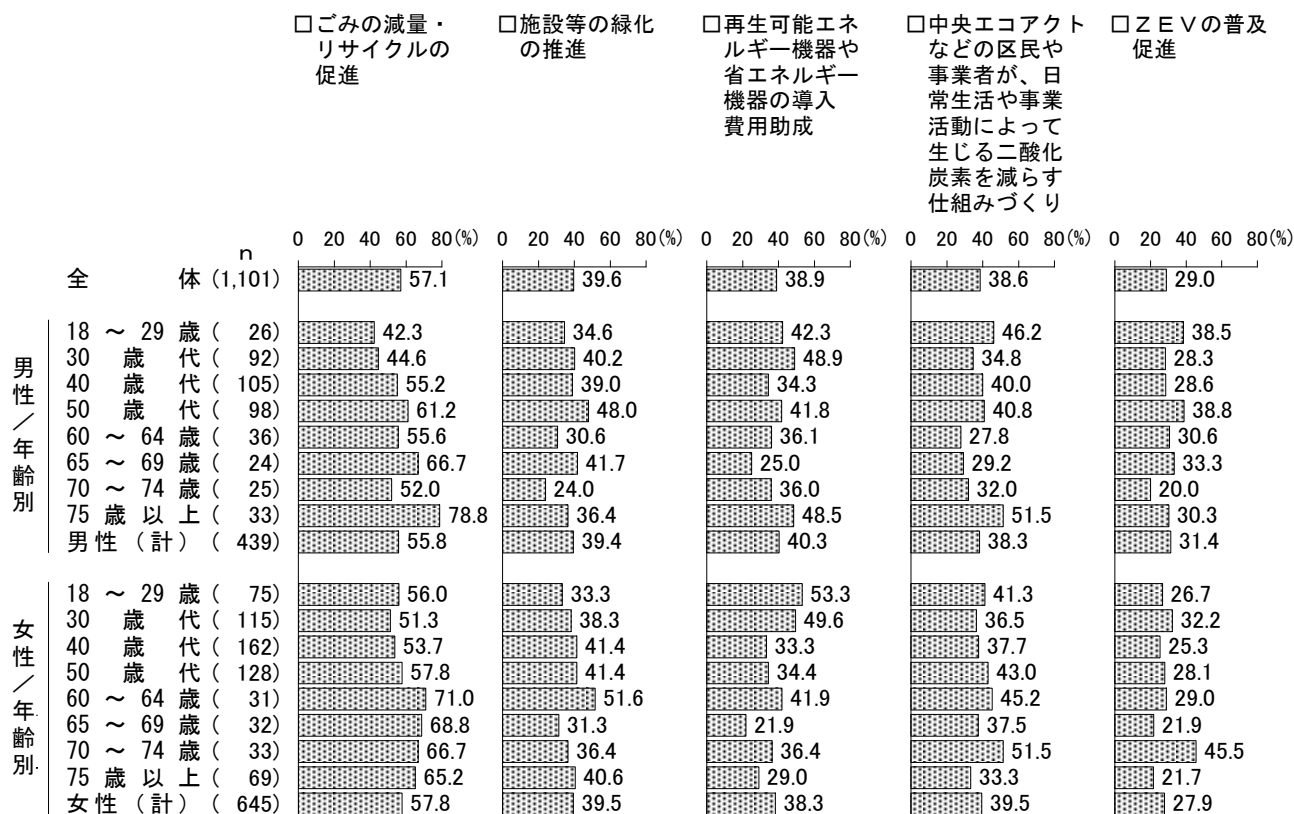
地球温暖化対策に効果的な施策は、「ごみの減量・リサイクルの促進」(57.1%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「施設等の緑化の推進」(39.6%)、「再生可能エネルギー機器(太陽光発電システムなど)や省エネルギー機器の導入費用助成」(38.9%)、「中央エコアクト(中央区版二酸化炭素排出抑制システム)などの区民や事業者が、日常生活や事業活動によって生じる二酸化炭素を減らす仕組みづくり」(38.6%)などとなっている。(図表13-3-1)

図表13-3-1 地球温暖化対策に効果的な施策(複数回答)



性／年齢別でみると、「ごみの減量・リサイクルの促進」は男性の75歳以上で8割近く、女性の60～64歳で7割を超えて高くなっている。「施設等の緑化の推進」は女性の60～64歳で5割を超えて高くなっている。「再生可能エネルギー機器（太陽光発電システムなど）や省エネルギー機器の導入費用助成」は女性の18～29歳で5割を超えて高くなっている。（図表13-3-2）

図表13-3-2 地球温暖化対策に効果的な施策一性／年齢別



【14 中央区コミュニティバス（江戸バス）の運行】

（1）江戸バスの利用頻度

◇「過去に数回利用したことがある」が5割近く

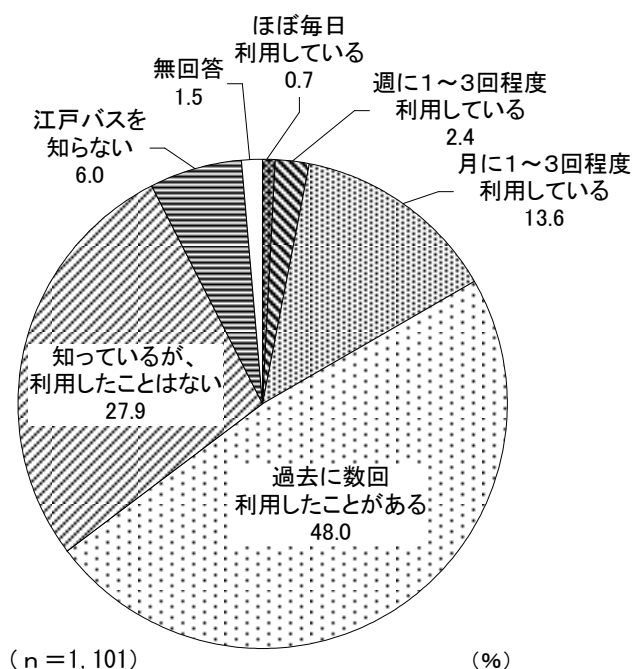
問29 中央区コミュニティバス（江戸バス）（以下「江戸バス」という。）は、平成21年12月1日に運行を開始してから12年が経過しましたが、あなたは利用したことがありますか。（○は1つ）

n = 1, 101

1	ほぼ毎日利用している	0.7%	4	過去に数回利用したことがある	48.0
2	週に1～3回程度利用している	2.4	5	知っているが、利用したことはない	27.9
3	月に1～3回程度利用している	13.6	6	江戸バスを知らない	6.0
				(無回答)	1.5

江戸バスの利用頻度は、「過去に数回利用したことがある」（48.0%）が5割近くで最も高くなっている。次いで、「知っているが、利用したことはない」（27.9%）、「月に1～3回程度利用している」（13.6%）、「江戸バスを知らない」（6.0%）などとなっている。（図表14-1-1）

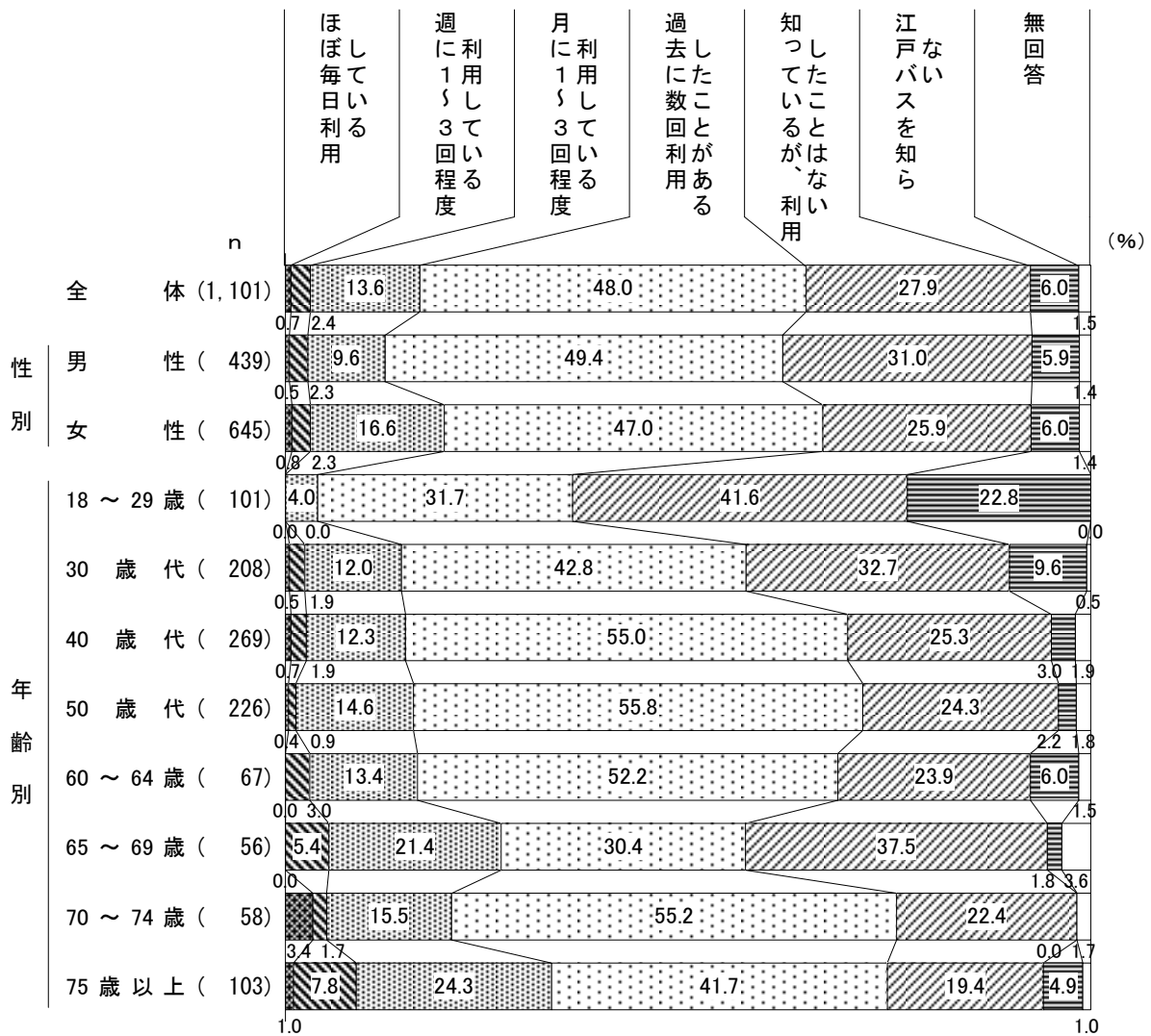
図表14-1-1 江戸バスの利用頻度



性別でみると、女性の方が男性よりも「月に1～3回程度利用している」で7.0ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「知っているが、利用したことはない」で5.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「月に1～3回程度利用している」は65～69歳と75歳以上で2割台と高くなっている。「知っているが、利用したことはない」は18～29歳で4割を超えて高くなっている。「江戸バスを知らない」は18～29歳で2割を超えて高くなっている。(図表14-1-2)

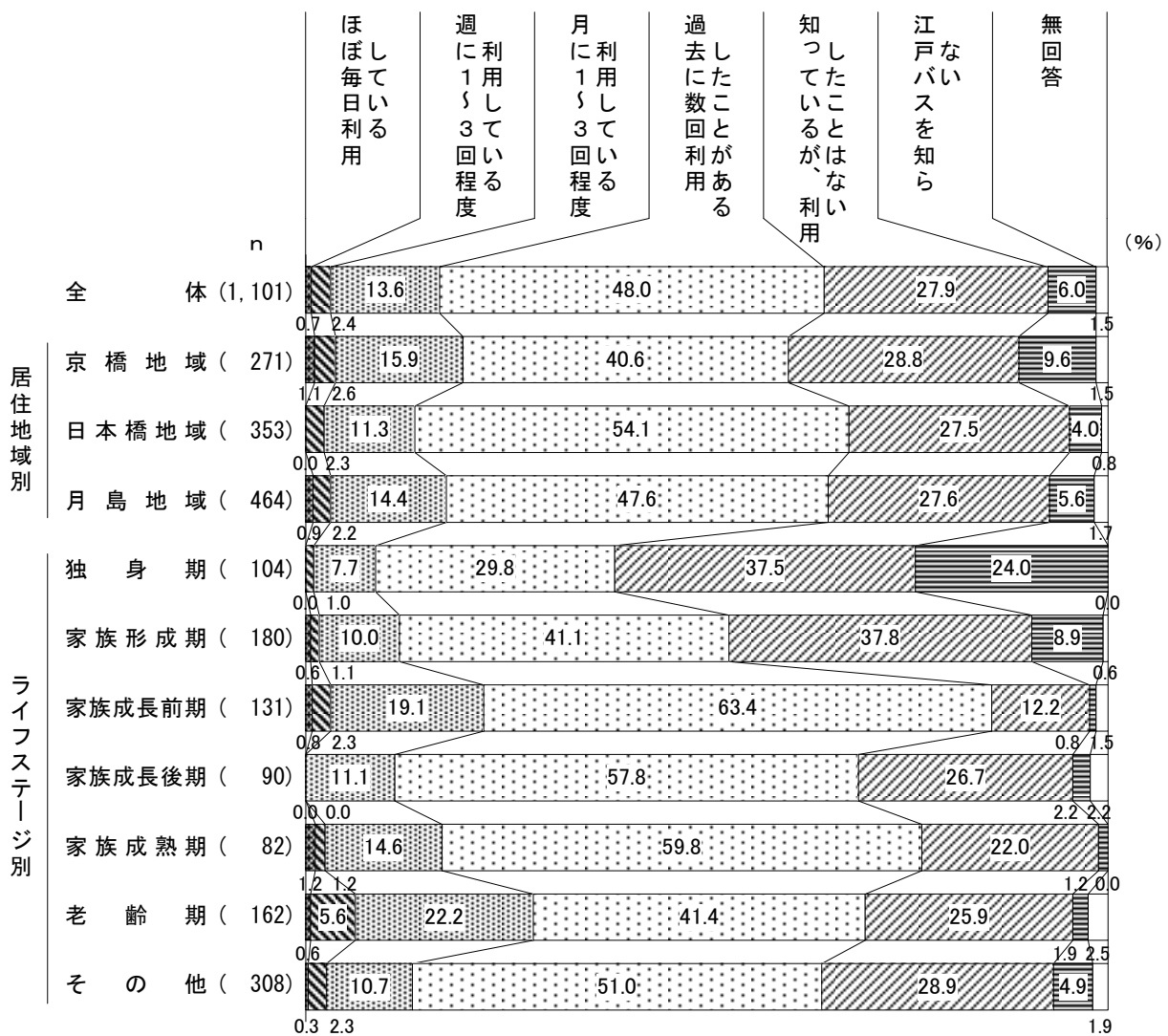
図表14-1-2 江戸バスの利用頻度－性別・年齢別



居住地域別でみると、「過去に数回利用したことがある」は日本橋地域で5割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「月に1～3回程度利用している」は高齢期で2割を超えて高くなっている。「過去に数回利用したことがある」は家族成長前期で6割を超えて高くなっている。「江戸バスを知らない」は独身期で2割台半ばと高くなっている。(図表14-1-3)

図表14-1-3 江戸バスの利用頻度－居住地域別・ライフステージ別



(2) 江戸バスの運行内容に望むこと

◇「逆方向便の運行」が3割台半ば

(問 29 で、「4 過去に数回利用したことがある」または「5 知っているが、利用したことはない」とお答えの方に

問 29-1 あなたは、江戸バスの運行内容がどのようになれば利用したいと思いますか。

(○はいくつでも)

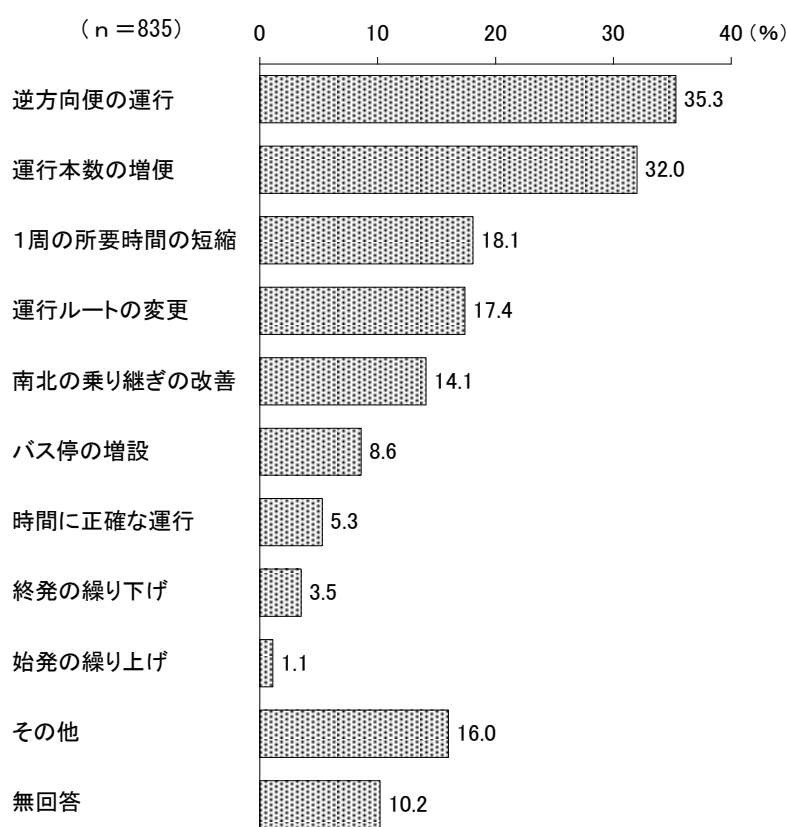
n = 835

1	運行本数の増便	32.0%	7	逆方向便の運行	35.3
2	始発の繰り上げ	1.1	8	運行ルートの変更	17.4
3	終発の繰り下げ	3.5	9	バス停の増設	8.6
4	時間に正確な運行	5.3	10	その他	16.0
5	南北の乗り継ぎの改善	14.1		(無回答)	10.2
6	1 週の所要時間の短縮	18.1			

問 29 で、「過去に数回利用したことがある」または「知っているが、利用したことはない」と回答した方の、江戸バスの運行内容に望むことは、「逆方向便の運行」(35.3%) が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「運行本数の増便」(32.0%)、「1 週の所要時間の短縮」(18.1%)、「運行ルートの変更」(17.4%)、「南北の乗り継ぎの改善」(14.1%) などとなっている。

(図表 14-2-1)

図表 14-2-1 江戸バスの運行内容に望むこと (複数回答)



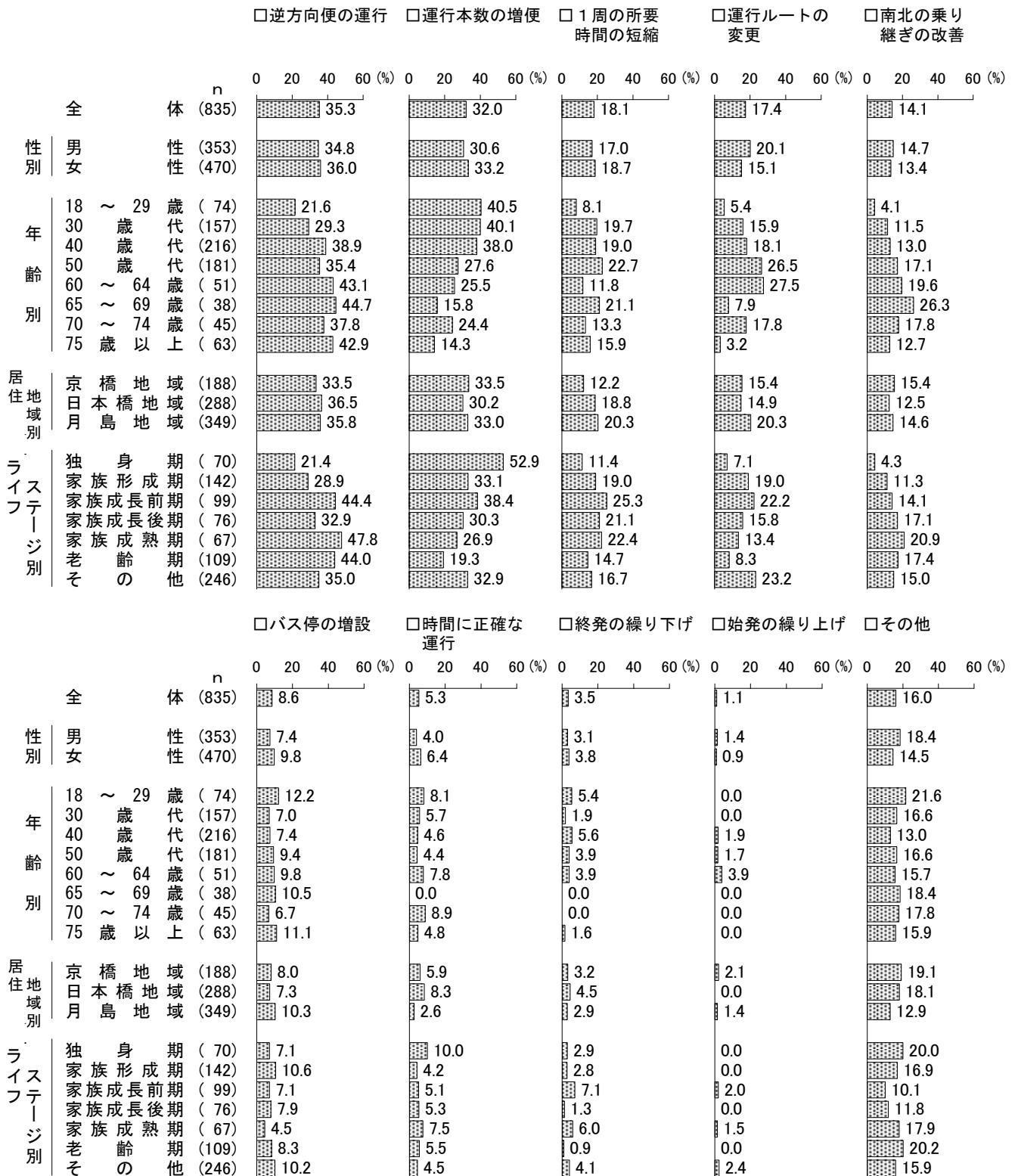
性別でみると、男性の方が女性よりも「運行ルートの変更」で5.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「逆方向便の運行」は60～64歳と65～69歳、75歳以上で4割台と高くなっている。「運行本数の増便」は18～29歳と30歳代で約4割と高くなっている。「運行ルートの変更」は50歳代と60～64歳で3割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「1週の所要時間の短縮」は月島地域で2割と高くなっている。「運行ルートの変更」は月島地域で2割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「逆方向便の運行」は家族成熟期で5割近くと高くなっている。「運行本数の増便」は独身期で5割を超えて高くなっている。「1週の所要時間の短縮」は家族成長前期で2割台半ばと高くなっている。(図表14-2-2)

図表 14-2-2 江戸バスの運行内容に望むことー性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別



(3) 江戸バスの利便性向上のために優先すべきこと

◇「逆方向便の運行」が2割台半ば

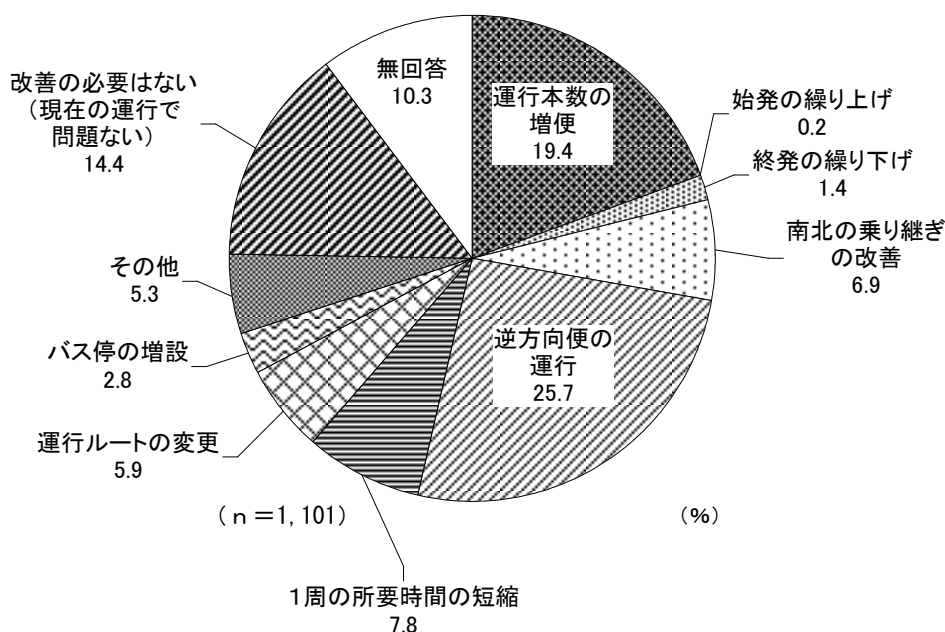
問 30 江戸バスの運行については、さまざまな意見や要望が寄せられており、区では限られた財源の中で可能な限り利便性の向上を図っていきたくと考えています。あなたは、区が最も優先すべき項目は何だと思えますか。(〇は1つ)

n = 1, 101

1	運行本数の増便	19.4%
2	始発の繰り上げ	0.2
3	終発の繰り下げ	1.4
4	南北の乗り継ぎの改善	6.9
5	逆方向便の運行	25.7
6	1週の所要時間の短縮	7.8
7	運行ルートの変更	5.9
8	バス停の増設	2.8
9	その他	5.3
10	改善の必要はない(現在の運行で問題ない)	14.4
	(無回答)	10.3

江戸バスの利便性向上のために優先すべきことは、「逆方向便の運行」(25.7%)が2割台半ばで最も高くなっている。次いで、「運行本数の増便」(19.4%)、「改善の必要はない(現在の運行で問題ない)」(14.4%)などとなっている。(図表 14-3-1)

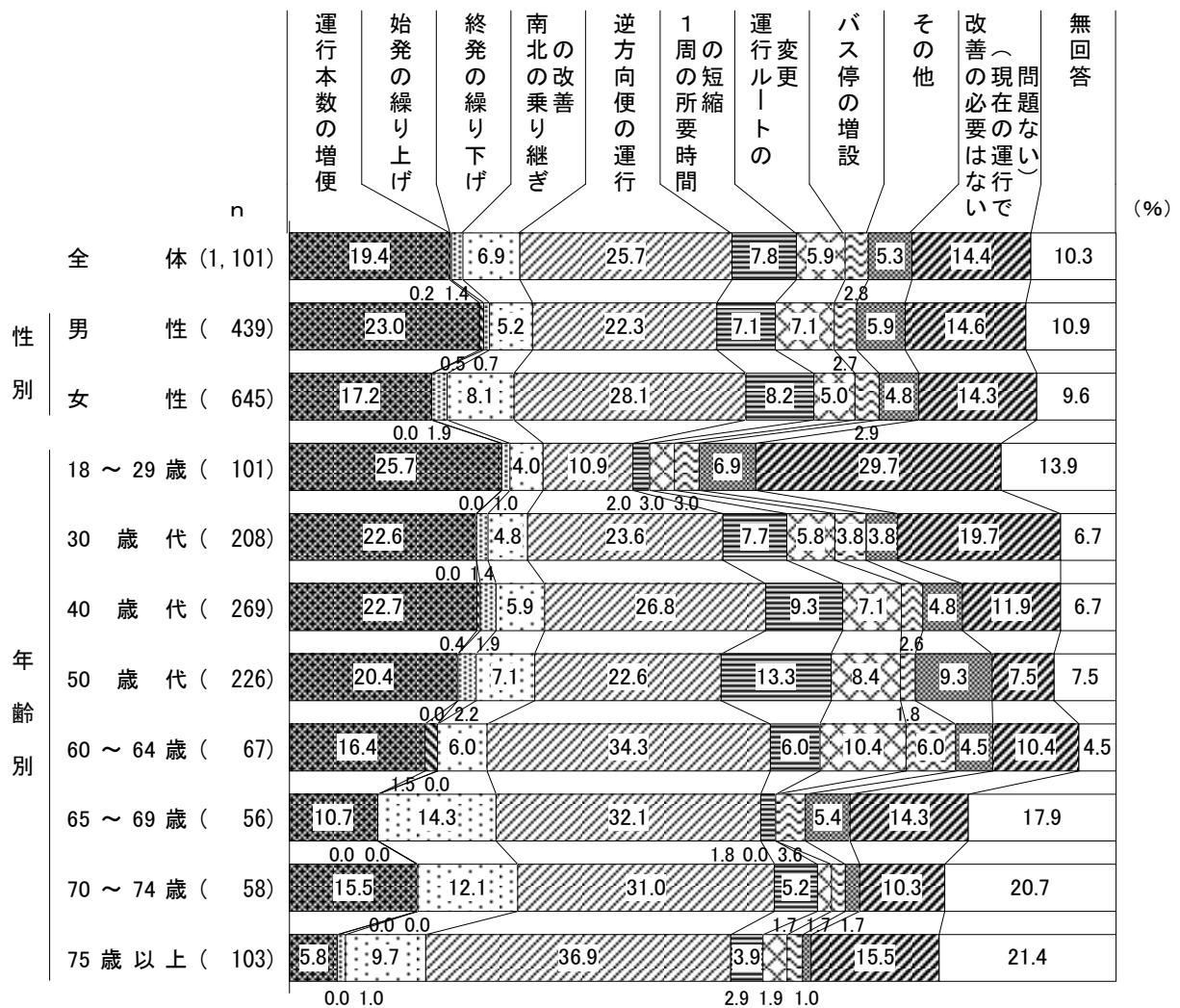
図表 14-3-1 江戸バスの利便性向上のために優先すべきこと



性別でみると、男性の方が女性よりも「運行本数の増便」で5.8ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「逆方向便の運行」で5.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「運行本数の増便」は18～29歳で2割台半ばと高くなっている。「逆方向便の運行」は75歳以上で4割近くと高くなっている。「改善の必要はない（現在の運行で問題ない）」は18～29歳で3割と高くなっている。（図表14-3-2）

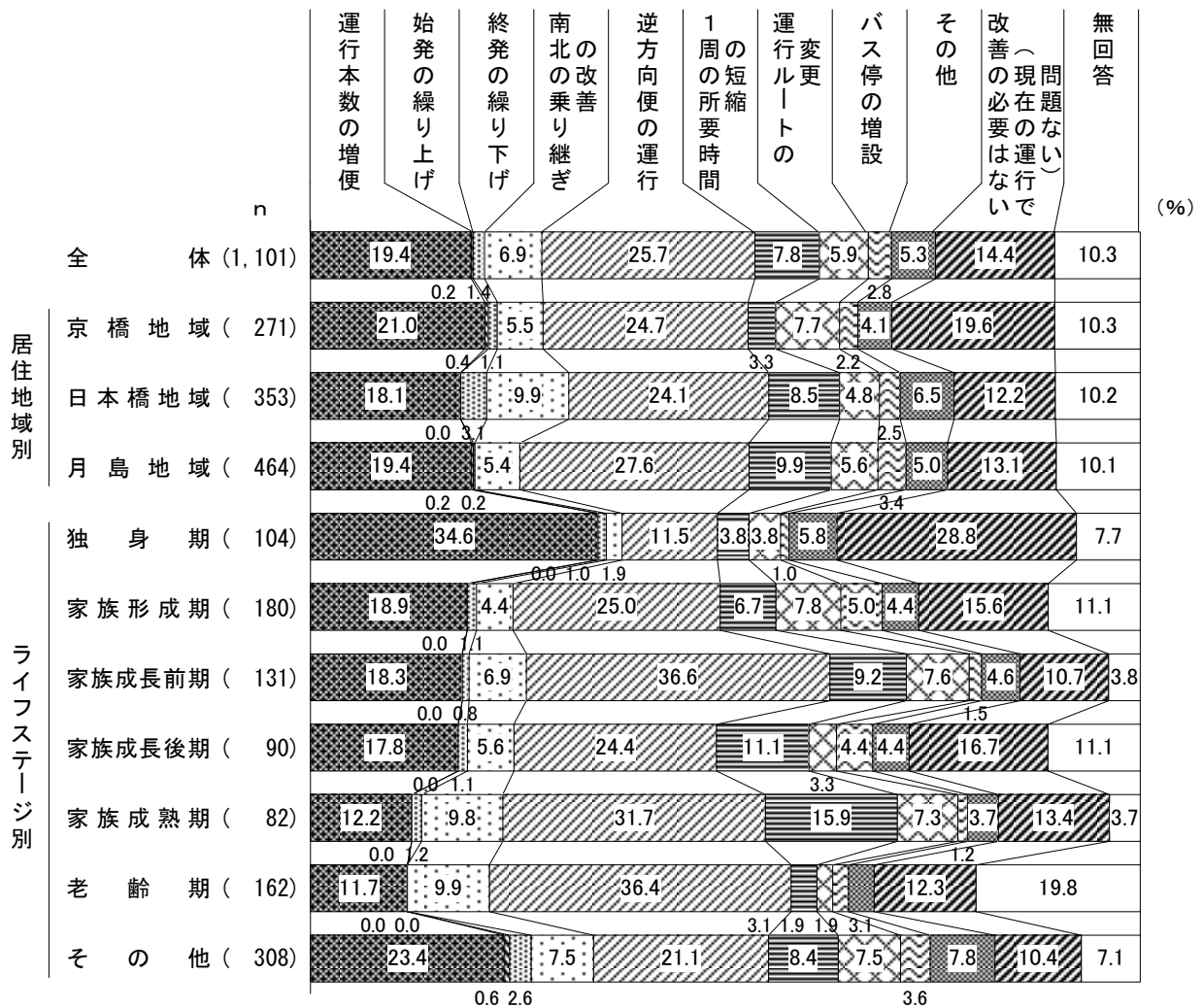
図表14-3-2 江戸バスの利便性向上のために優先すべきこと－性別・年齢別



居住地域別でみると、「運行本数の増便」は京橋地域で2割を超えて高くなっている。「逆方向便の運行」は月島地域で3割近くと高くなっている。「改善の必要はない（現在の運行で問題ない）」は京橋地域で2割となっている。

ライフステージ別でみると、「運行本数の増便」は独身期で3割台半ばと高くなっている。「逆方向便の運行」は家族成長前期と老齢期、家族成熟期で3割台と高くなっている。「改善の必要はない（現在の運行で問題ない）」は独身期で3割近くと高くなっている。（図表14-3-3）

図表 14-3-3 江戸バスの利便性向上のために優先すべきこと－居住地域別・ライフステージ別



【15 施策の要望・評価】

(1) 区の施策の満足度と重要度

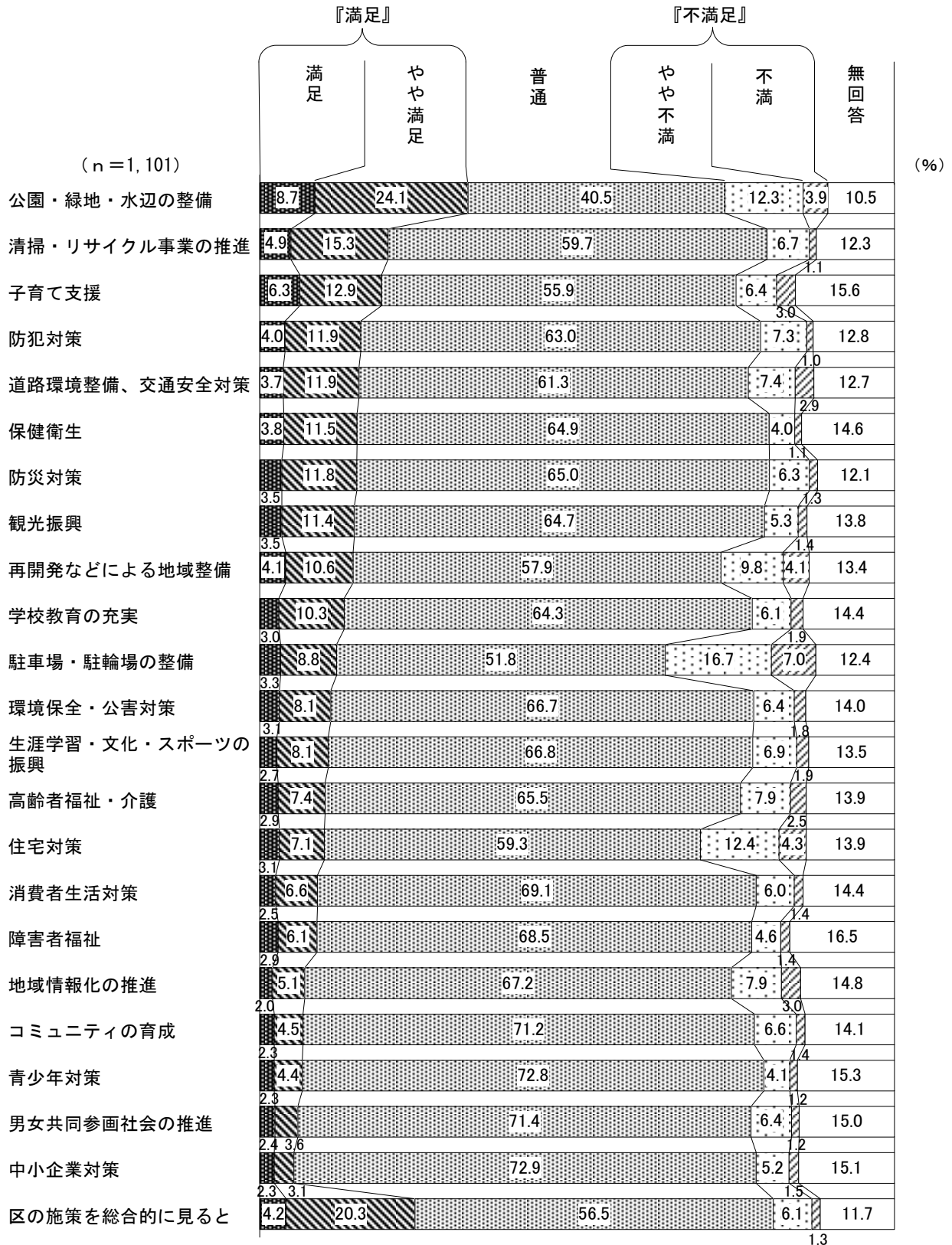
◇満足度が高いのは「公園・緑地・水辺の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

◇重要度が高いのは「高齢者福祉・介護」、低いのは「中小企業対策」

問31 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)	満足度					重要度 (%)				
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	無回答	1 たいへん重要	2 比較的重要	3 普通	無回答
n = 1, 101										
(1) 子育て支援	6.3	12.9	55.9	6.4	3.0	15.6	47.4	15.3	15.3	22.0
(2) 障害者福祉	2.9	6.1	68.5	4.6	1.4	16.5	29.2	24.3	23.7	22.9
(3) 高齢者福祉・介護	2.9	7.4	65.5	7.9	2.5	13.9	42.6	20.2	16.5	20.7
(4) 保健衛生	3.8	11.5	64.9	4.0	1.1	14.6	30.2	25.0	22.3	22.5
(5) 男女共同参画社会の推進	2.4	3.6	71.4	6.4	1.2	15.0	13.7	26.7	36.1	23.4
(6) 住宅対策	3.1	7.1	59.3	12.4	4.3	13.9	18.9	28.4	30.0	22.7
(7) 公園・緑地・水辺の整備	8.7	24.1	40.5	12.3	3.9	10.5	25.0	35.3	20.3	19.3
(8) 消費者生活対策	2.5	6.6	69.1	6.0	1.4	14.4	13.6	26.4	36.4	23.5
(9) 環境保全・公害対策	3.1	8.1	66.7	6.4	1.8	14.0	19.8	31.3	26.1	22.8
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	4.9	15.3	59.7	6.7	1.1	12.3	22.1	32.6	23.3	22.0
(11) 駐車場・駐輪場の整備	3.3	8.8	51.8	16.7	7.0	12.4	15.0	28.3	34.9	21.8
(12) 道路環境整備、交通安全対策	3.7	11.9	61.3	7.4	2.9	12.7	20.1	29.1	28.6	22.3
(13) 防災対策	3.5	11.8	65.0	6.3	1.3	12.1	38.6	22.3	18.2	21.0
(14) 防犯対策	4.0	11.9	63.0	7.3	1.0	12.8	34.9	23.3	20.4	21.4
(15) 再開発などによる地域整備	4.1	10.6	57.9	9.8	4.1	13.4	16.2	27.8	34.1	22.0
(16) 中小企業対策	2.3	3.1	72.9	5.2	1.5	15.1	10.0	24.7	41.9	23.4
(17) 学校教育の充実	3.0	10.3	64.3	6.1	1.9	14.4	32.2	21.3	24.5	22.0
(18) 青少年対策	2.3	4.4	72.8	4.1	1.2	15.3	17.5	26.5	33.2	22.8
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	2.7	8.1	66.8	6.9	1.9	13.5	13.5	27.5	37.1	21.8
(20) コミュニティの育成	2.3	4.5	71.2	6.6	1.4	14.1	9.8	25.4	42.3	22.4
(21) 観光振興	3.5	11.4	64.7	5.3	1.4	13.8	10.3	25.6	42.1	22.1
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	2.0	5.1	67.2	7.9	3.0	14.8	14.2	27.9	35.3	22.6
(23) 区の施策を総合的に見ると	4.2	20.3	56.5	6.1	1.3	11.7				

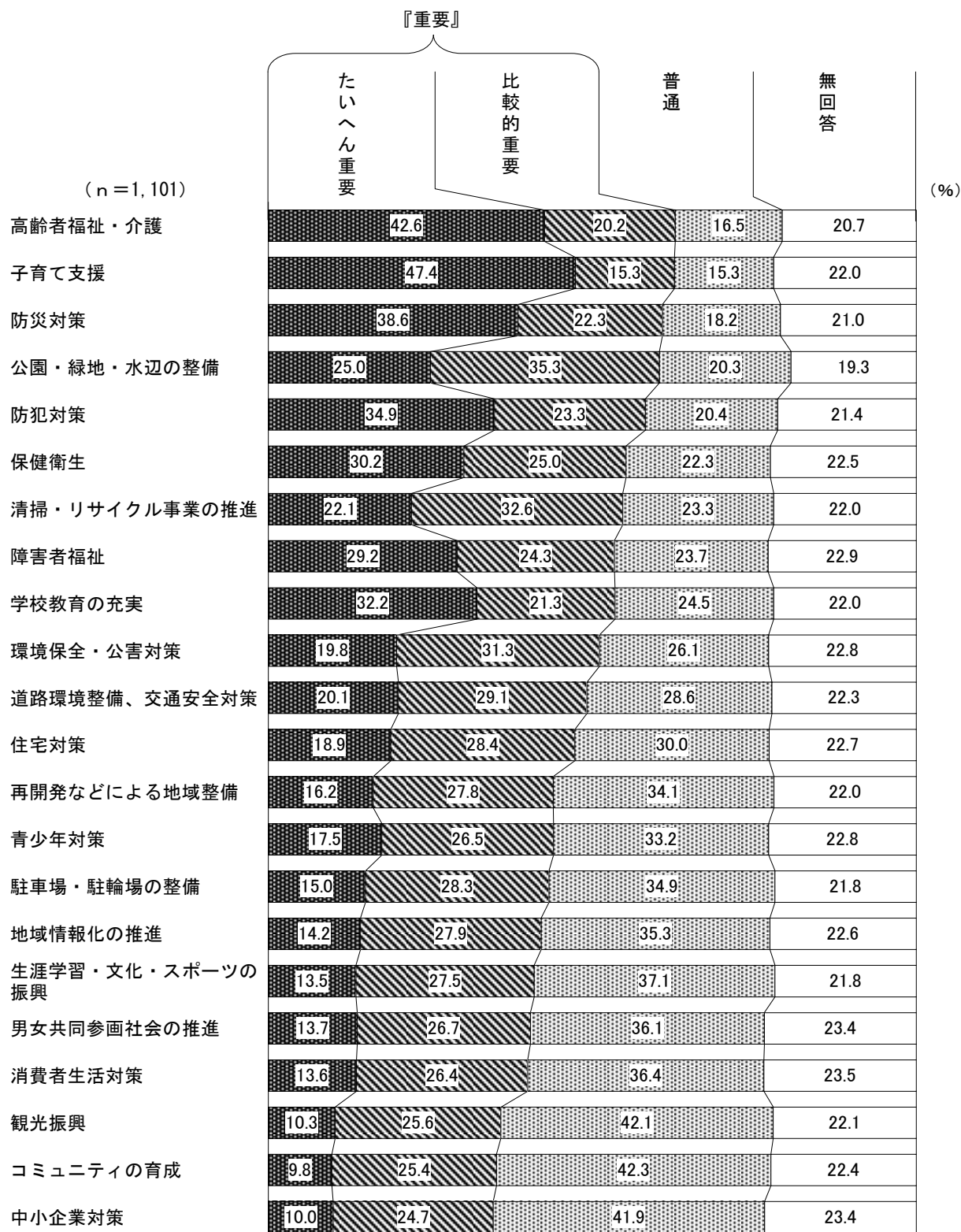
次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「公園・緑地・水辺の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(32.8%)が3割を超えて最も高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満足』(23.7%)が2割を超えて最も高くなっている。(図表15-1-1)

図表15-1-1 区の施策の満足度



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「高齢者福祉・介護」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』(62.8%)が6割を超えて最も高くなっている。また、「コミュニティの育成」は、「普通」(42.3%)が4割を超えて最も高くなっている。(図表15-1-2)

図表15-1-2 区の施策の重要度



■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不満足』	
①公園・緑地・水辺の整備	(32.8%)	①駐車場・駐輪場の整備	(23.7%)
②清掃・リサイクル事業の推進	(20.2%)	②住宅対策	(16.7%)
③子育て支援	(19.2%)	③公園・緑地・水辺の整備	(16.2%)
④防犯対策	(15.9%)	④再開発などによる地域整備	(13.9%)
⑤道路環境整備、交通安全対策	(15.6%)	⑤地域情報化の推進	(10.9%)

■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①高齢者福祉・介護	(62.8%)	①中小企業対策	(34.7%)
②子育て支援	(62.7%)	②コミュニティの育成	(35.2%)
③防災対策	(60.9%)	③観光振興	(35.9%)
④公園・緑地・水辺の整備	(60.3%)	④消費者生活対策	(40.0%)
⑤防犯対策	(58.2%)	⑤男女共同参画社会の推進	(40.4%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

$$\text{重要度評価点} = (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、+10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

【満足度】

上 位		下 位	
①公園・緑地・水辺の整備	(1.20)	①駐車場・駐輪場の整備	(-0.88)
②清掃・リサイクル事業の推進	(0.93)	②住宅対策	(-0.44)
③子育て支援	(0.78)	③地域情報化の推進	(-0.28)
④保健衛生	(0.76)	④男女共同参画社会の推進	(-0.03)
⑤防犯対策	(0.61)	④中小企業対策	(-0.03)

【重要度】

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.05)	①コミュニティの育成	(2.90)
②高齢者福祉・介護	(6.64)	②中小企業対策	(2.92)
③防災対策	(6.29)	③観光振興	(2.96)
④防犯対策	(5.92)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(3.49)
⑤保健衛生	(5.52)	⑤消費者生活対策	(3.51)

居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(1.85)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.30)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.70)、「地域情報化の推進」(-0.40)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「防犯対策」(0.92)、「清掃・リサイクル事業の推進」(0.87)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.94)、「住宅対策」(-0.43)が比較的低くなっている。

月島地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(1.09)、「子育て支援」(0.80)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.94)、「住宅対策」(-0.62)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、「子育て支援」は全ての地域で第1位となっている。「高齢者福祉・介護」は全ての地域で第2位となっている。「防災対策」は全ての地域で第3位となっている。

(図表15-1-3)

図表15-1-3 区の施策の満足度評価点と重要度評価点－居住地域別

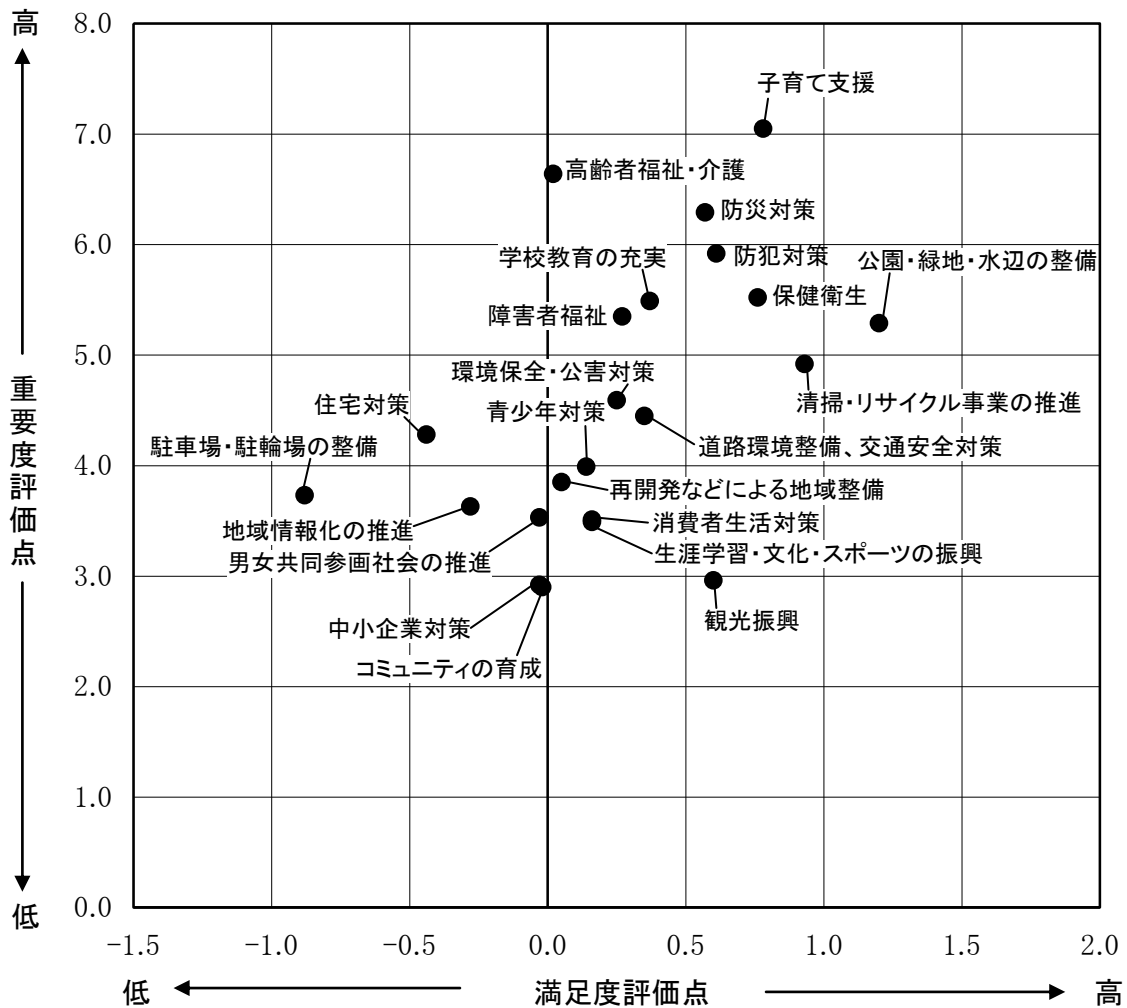
項目	満足度				重要度			
	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域
(1) 子育て支援	0.78	0.68	0.82	0.80	7.05	7.04	6.92	7.17
(2) 障害者福祉	0.27	0.23	0.26	0.31	5.35	5.21	5.24	5.52
(3) 高齢者福祉・介護	0.02	0.02	0.20	-0.11	6.64	6.58	6.58	6.71
(4) 保健衛生	0.76	0.74	0.86	0.70	5.52	5.44	5.11	5.90
(5) 男女共同参画社会の推進	-0.03	-0.04	0.08	-0.10	3.53	3.61	3.30	3.66
(6) 住宅対策	-0.44	-0.17	-0.43	-0.62	4.28	4.27	3.87	4.62
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1.20	1.85	0.83	1.09	5.29	5.33	5.10	5.40
(8) 消費者生活対策	0.16	0.37	0.17	0.04	3.51	3.82	3.22	3.54
(9) 環境保全・公害対策	0.25	0.67	0.05	0.15	4.59	4.79	4.45	4.59
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	0.93	1.30	0.87	0.76	4.92	5.23	4.84	4.79
(11) 駐車場・駐輪場の整備	-0.88	-0.70	-0.94	-0.94	3.73	4.09	3.60	3.60
(12) 道路環境整備、交通安全対策	0.35	0.53	0.46	0.16	4.45	4.47	4.32	4.52
(13) 防災対策	0.57	0.80	0.71	0.35	6.29	6.33	6.06	6.43
(14) 防犯対策	0.61	0.70	0.92	0.34	5.92	6.09	5.62	6.03
(15) 再開発などによる地域整備	0.05	0.04	0.44	-0.24	3.85	4.03	3.47	4.03
(16) 中小企業対策	-0.03	0.04	-0.07	-0.04	2.92	3.35	2.80	2.74
(17) 学校教育の充実	0.37	0.52	0.38	0.29	5.49	5.39	5.59	5.44
(18) 青少年対策	0.14	0.42	0.15	-0.03	3.99	3.94	3.79	4.17
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.16	0.27	0.25	0.04	3.49	3.47	3.50	3.49
(20) コミュニティの育成	-0.02	-0.10	0.12	-0.07	2.90	3.10	2.81	2.85
(21) 観光振興	0.60	0.51	0.73	0.56	2.96	3.36	3.01	2.67
(22) 地域情報化の推進	-0.28	-0.40	-0.10	-0.35	3.63	4.11	3.17	3.69

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図表15-1-4)

図表15-1-4 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



(2) 区の施策への要望

◇「高齢者福祉・介護」と「子育て支援」がともに3割を超える

問32 問31の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1~22までの番号)

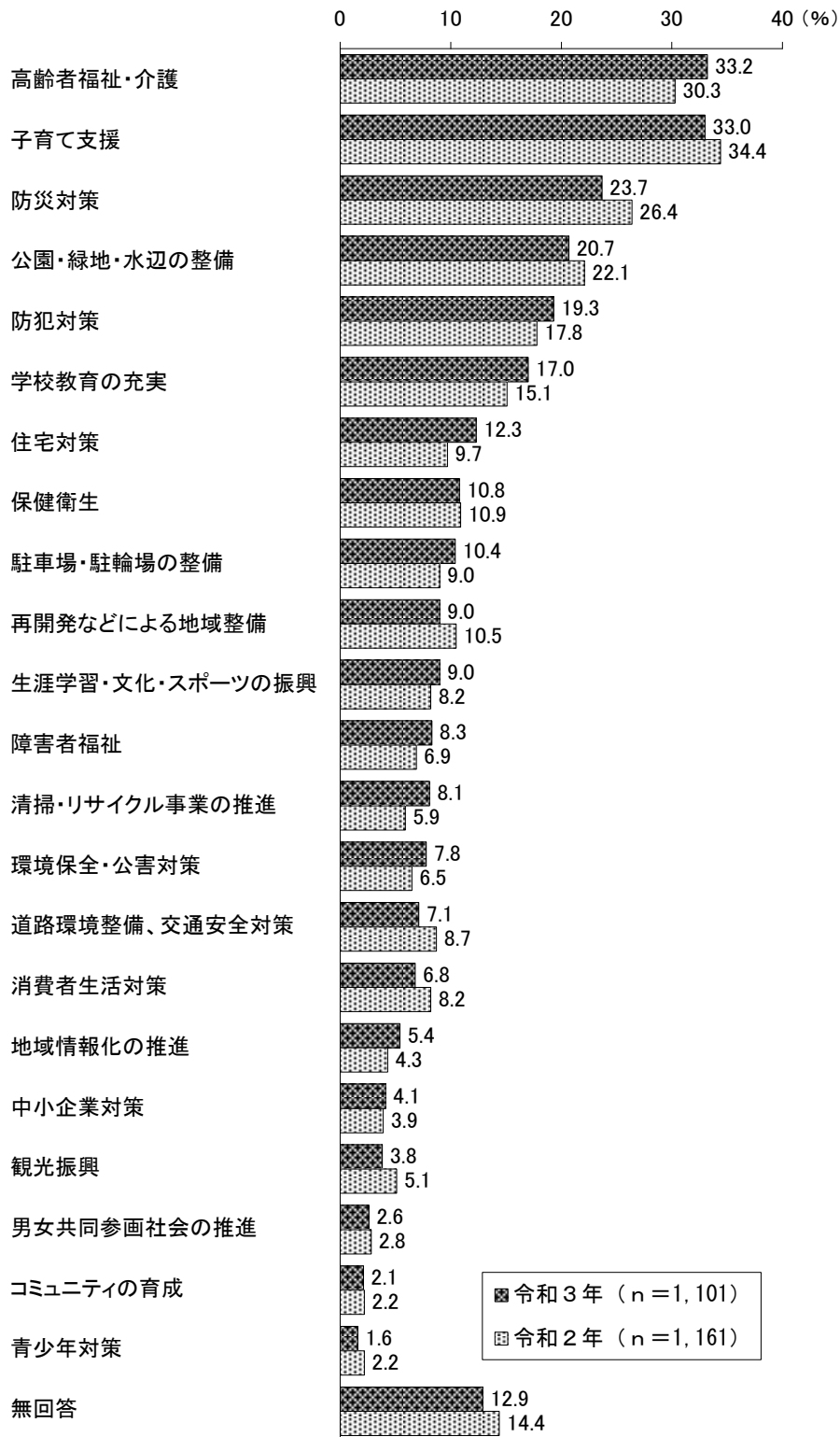
	(%)			
	第1位	第2位	第3位	全体
n = 1, 101				
(1) 子育て支援	19.9	7.1	6.0	33.0
(2) 障害者福祉	2.3	3.4	2.6	8.3
(3) 高齢者福祉・介護	15.8	10.3	7.2	33.2
(4) 保健衛生	3.4	3.5	4.0	10.8
(5) 男女共同参画社会の推進	1.0	1.0	0.6	2.6
(6) 住宅対策	4.2	4.5	3.5	12.3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	6.3	7.3	7.2	20.7
(8) 消費者生活対策	1.2	2.6	3.0	6.8
(9) 環境保全・公害対策	1.8	2.7	3.3	7.8
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	2.2	3.0	2.9	8.1
(11) 駐車場・駐輪場の整備	3.0	4.1	3.4	10.4
(12) 道路環境整備、交通安全対策	2.1	2.5	2.5	7.1
(13) 防災対策	8.1	9.6	6.0	23.7
(14) 防犯対策	3.7	6.6	8.9	19.3
(15) 再開発などによる地域整備	2.2	2.5	4.3	9.0
(16) 中小企業対策	0.9	1.5	1.7	4.1
(17) 学校教育の充実	4.9	7.1	5.0	17.0
(18) 青少年対策	0.1	0.5	1.0	1.6
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	2.2	2.1	4.7	9.0
(20) コミュニティの育成	0.1	0.5	1.5	2.1
(21) 観光振興	0.5	1.5	1.7	3.8
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス 情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1.4	1.6	2.5	5.4
(無回答)	12.9	14.4	16.6	12.9

* 全体の無回答の割合は、第1位の割合とした。

区の施策への要望としては、「高齢者福祉・介護」(33.2%)と「子育て支援」(33.0%)がともに3割を超えて高くなっている。次いで、「防災対策」(23.7%)、「公園・緑地・水辺の整備」(20.7%)、「防犯対策」(19.3%)、「学校教育の充実」(17.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表15-2-1)

図表15-2-1 区の施策への要望（複数回答）



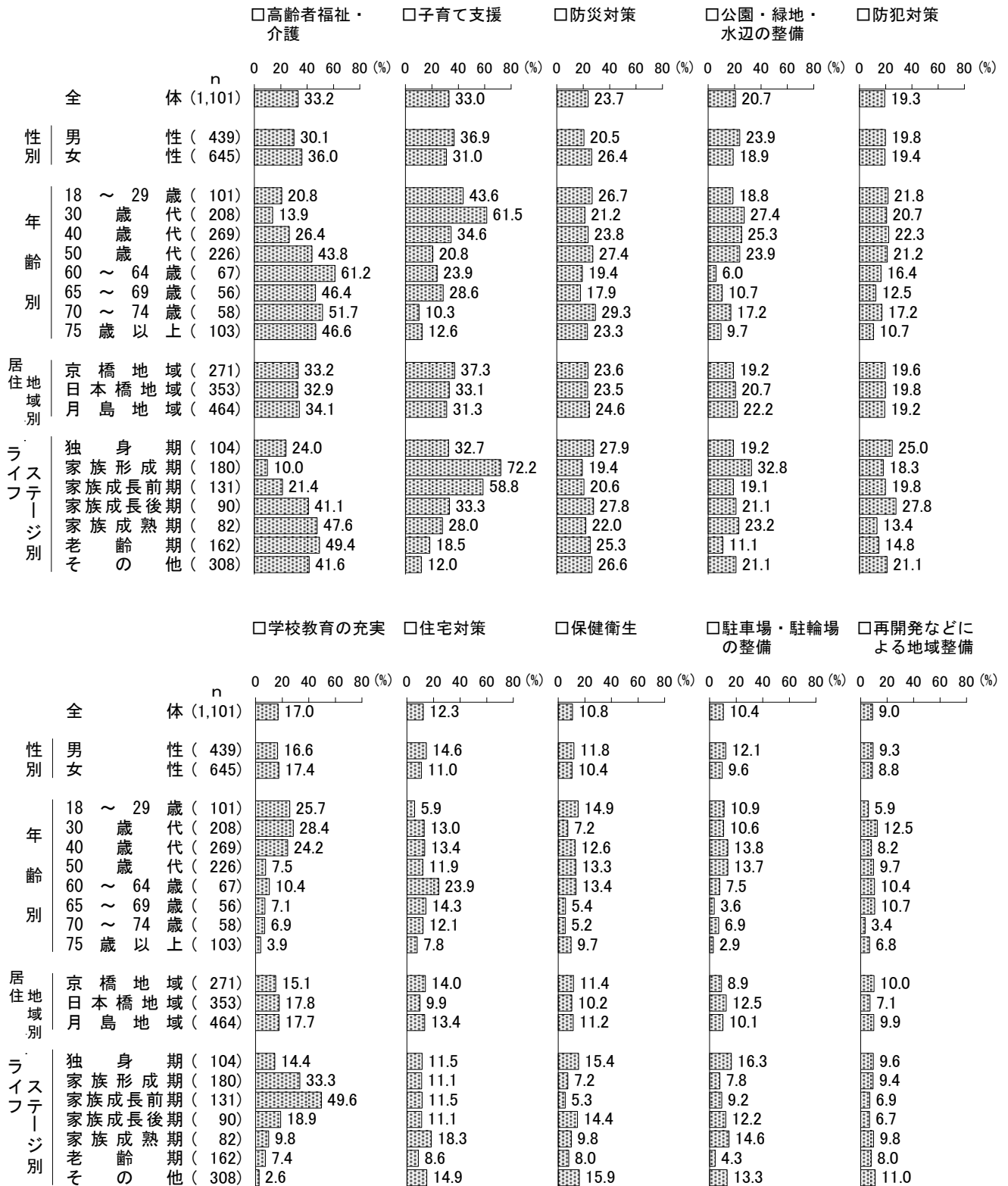
性別でみると、女性の方が男性よりも「高齢者福祉・介護」で5.9ポイント、「防災対策」で5.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「子育て支援」で5.9ポイント、「公園・緑地・水辺の整備」で5.0ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「高齢者福祉・介護」は60～64歳で6割を超えて高くなっている。「子育て支援」は30歳代で6割を超えて高くなっている。「防災対策」は70～74歳で約3割と高くなっている。

居住地域別でみると、「子育て支援」は京橋地域で4割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「高齢者福祉・介護」は高齢期で約5割と高くなっている。「子育て支援」は家族形成期で7割を超え、家族成長前期で6割近くと高くなっている。「公園・緑地・水辺の整備」は家族形成期で3割を超えて高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期で5割と高くなっている。(図表15-2-2)

図表15-2-2 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位10項目）



上位5項目にあげられた施策を性別でみると、「子育て支援」は男性で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は女性で第1位となっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は40歳代以下の年代で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は50歳代以上の年代で第1位となっている。

居住地域別でみると、「子育て支援」は京橋地域と日本橋地域で第1位、月島地域で第2位となっている。「高齢者福祉・介護」は月島地域で第1位、京橋地域と日本橋地域で第2位となっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は独身期と家族形成期、家族成長前期で第1位となっている。「高齢者福祉・介護」は家族成長後期と家族成熟期、老齢期、その他で第1位となっている。(図表15-2-3)

図表15-2-3 区の施策への要望－性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位5項目）
(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体			1,101	高齢者福祉・介護 33.2	子育て支援 33.0	防災対策 23.7	公園・緑地・水辺の整備 20.7	防犯対策 19.3
性別	男性		439	子育て支援 36.9	高齢者福祉・介護 30.1	公園・緑地・水辺の整備 23.9	防災対策 20.5	防犯対策 19.8
	女性		645	高齢者福祉・介護 36.0	子育て支援 31.0	防災対策 26.4	防犯対策 19.4	公園・緑地・水辺の整備 18.9
年齢別	18～29歳		101	子育て支援 43.6	防災対策 26.7	学校教育の充実 25.7	防犯対策 21.8	高齢者福祉・介護 20.8
	30歳代		208	子育て支援 61.5	学校教育の充実 28.4	公園・緑地・水辺の整備 27.4	防災対策 21.2	防犯対策 20.7
	40歳代		269	子育て支援 34.6	高齢者福祉・介護 26.4	公園・緑地・水辺の整備 25.3	学校教育の充実 24.2	防災対策 23.8
	50歳代		226	高齢者福祉・介護 43.8	防災対策 27.4	公園・緑地・水辺の整備 23.9	防犯対策 21.2	子育て支援 20.8
	60～64歳		67	高齢者福祉・介護 61.2	子育て支援/住宅対策 23.9		防災対策 19.4	防犯対策 16.4
	65～69歳		56	高齢者福祉・介護 46.4	子育て支援 28.6	障害者福祉 19.6	防災対策 17.9	住宅対策 14.3
	70～74歳		58	高齢者福祉・介護 51.7	防災対策 29.3	公園・緑地・水辺の整備/防犯対策 17.2		障害者福祉/ 住宅対策 12.1
	75歳以上		103	高齢者福祉・介護 46.6	防災対策 23.3	障害者福祉 14.6	子育て支援 12.6	防犯対策 10.7
居住地域別	京橋地域		271	子育て支援 37.3	高齢者福祉・介護 33.2	防災対策 23.6	防犯対策 19.6	公園・緑地・水辺の整備 19.2
	日本橋地域		353	子育て支援 33.1	高齢者福祉・介護 32.9	防災対策 23.5	公園・緑地・水辺の整備 20.7	防犯対策 19.8
	月島地域		464	高齢者福祉・介護 34.1	子育て支援 31.3	防災対策 24.6	公園・緑地・水辺の整備 22.2	防犯対策 19.2
ライフステージ別	独身期		104	子育て支援 32.7	防災対策 27.9	防犯対策 25.0	高齢者福祉・介護 24.0	公園・緑地・水辺の整備 19.2
	家族形成期		180	子育て支援 72.2	学校教育の充実 33.3	公園・緑地・水辺の整備 32.8	防災対策 19.4	防犯対策 18.3
	家族成長前期		131	子育て支援 58.8	学校教育の充実 49.6	高齢者福祉・介護 21.4	防災対策 20.6	防犯対策 19.8
	家族成長後期		90	高齢者福祉・介護 41.1	子育て支援 33.3	防災対策/防犯対策 27.8		公園・緑地・水辺の整備 21.1
	家族成熟期		82	高齢者福祉・介護 47.6	子育て支援 28.0	公園・緑地・水辺の整備 23.2	防災対策 22.0	住宅対策 18.3
	老齢期		162	高齢者福祉・介護 49.4	防災対策 25.3	子育て支援 18.5	防犯対策 14.8	障害者福祉 14.2
	その他		308	高齢者福祉・介護 41.6	防災対策 26.6	公園・緑地・水辺の整備/防犯対策 21.1		保健衛生 15.9

V 結果の数表

V 結果の数表

1 定住性

上段：件数
下段：%

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。（〇は1つ）

全 体	3 年 未 満	3 ～ 6 年 未 満	6 ～ 1 0 年 未 満	1 0 ～ 1 5 年 未 満	1 5 ～ 2 0 年 未 満	2 0 年 以 上	生 ま れ て か ら ず つ と	無 回 答	『 短 期 居 住 者 』	『 中 期 居 住 者 』	『 長 期 居 住 者 』
1,101 100.0	195 17.7	171 15.5	132 12.0	173 15.7	101 9.2	228 20.7	91 8.3	10 0.9	366 33.2	406 36.9	319 29.0

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。（〇は1つ）

全 体	非 常 に 感 じ る	少 し は 感 じ る	あ ま り 感 じ な い	感 じ な い	わ か ら な い	無 回 答
1,101 100.0	425 38.6	481 43.7	105 9.5	32 2.9	47 4.3	11 1.0

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。（〇は1つ）

全 体	住 み 続 け た い	で き れ ば 住 み 続 け た い	で き れ ば 転 出 し た い	転 出 し た い	わ か ら な い	無 回 答
1,101 100.0	527 47.9	397 36.1	27 2.5	8 0.7	133 12.1	9 0.8

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。（〇はいくつでも）

全 体	食 料 の 備 蓄 （ 1 人 1 日 3 食 分 ）	飲 料 水 の 備 蓄 （ 1 人 1 日 3 0 分 ）	簡 易 ト イ レ の 備 蓄	家 具 防 止 や ガ ラ ス 飛 散 防 止 動 作	消 火 器 ・ 救 急 セ ット な ど の 備 え	バ ル 救 助 用 工 具 の 備 え な ど の	貴 重 品 を 持 ち 出 す 準 備	風 呂 な ど へ の 水 の た め 置 き	救 命 救 助 の 講 習 会 へ の 参 加	町 会 ・ 自 治 会 な ど の 地 域 の 参 加	避 難 方 法 、 避 難 場 所 の 確 認	家 庭 で の 連 絡 方 法 な ど の	建 物 の 補 強	そ の 他	特 に な い	無 回 答
1,101 100.0	730 66.3	785 71.3	513 46.6	376 34.2	557 50.6	129 11.7	247 22.4	228 20.7	74 6.7	124 11.3	422 38.3	299 27.2	51 4.6	20 1.8	96 8.7	19 1.7

(問4で、「1 食料の備蓄」「2 飲料水の備蓄」「3 簡易トイレの備蓄」とお答えの方に)
 問4-1 災害に対する備蓄量

上段：件数
 下段：%

	全 体	1 日 分 以下	2 日 分	3 日 分	4 ～ 6 日 分	1 週 間 分 以上	無 回 答	平均 備蓄 (日数)	最小 備蓄 (日数)	最大 備蓄 (日数)
食料の備蓄	730 100.0	82 11.2	122 16.7	307 42.1	80 11.0	105 14.4	34 4.7	3.86	0.5	90
飲料水の備蓄	785 100.0	82 10.4	142 18.1	260 33.1	104 13.2	151 19.2	46 5.9	4.13	0.3	60
簡易トイレの備蓄	513 100.0	96 18.7	83 16.2	143 27.9	41 8.0	110 21.4	40 7.8	4.49	0.5	30

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
 あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(○は1つ)

全 体	知 っ て い る	知 っ は わ て い か ら な い が 、 場 所	知 ら な い	無 回 答
1,101 100.0	689 62.6	106 9.6	291 26.4	15 1.4

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
 問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

全 体	知 っ て い る	知 っ 内 容 な い は い る よ く が 、 わ か ら な い 活 動	知 ら な い	無 回 答
795 100.0	171 21.5	290 36.5	324 40.8	10 1.3

問6 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

上段：件数
下段：%

全 体	区 の ホ ー ム ペ ー ジ	防 災 マ ッ プ ア プ リ	ち ゆ う お う 安 全 ・ 安 心 メ ー ル	イ ン タ ー ネ ッ ト	ツ イ ッ タ ー や フ ェ イ ス ブ ッ ク な ど	ワ ー キ ン グ サ ー ビ ス (ソ ー シ ヤ ル ネ ッ ト な ど)	防 災 行 政 無 線 (屋 外 ス ピ ー カ ー)	緊 急 告 知 ラ ジ オ	ケ ー ブ ル テ レ ビ	そ の 他	無 回 答
1,101 100.0	469 42.6	300 27.2	244 22.2	583 53.0	429 39.0	372 33.8	316 28.7	42 3.8	27 2.5	25 2.3	

3 健康診査

問7 あなたは、この1年間に健康診査(健康診断)を受けましたか。(〇はいくつでも)

全 体	区 で 実 施 し て い る 健 康 診 査 を 受 け た	勤 務 先 (家 族 の 勤 務 先 を 含 む) で 実 施 し た	加 入 し て い る 健 康 保 険 組 合 な ど で 実 施 し た	個 人 で 人 間 ド ク な ど を 受 け た	学 校 で 実 施 す る 健 康 診 査 を 受 け た	そ の 他 で 受 け た	健 康 診 査 は 受 け て い な い	無 回 答
1,101 100.0	240 21.8	521 47.3	89 8.1	108 9.8	19 1.7	43 3.9	204 18.5	8 0.7

(問7で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問7-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	勤 務 先 (家 族 の 勤 務 先 を 含 む) な ど で 実 施 し て い な い	受 診 方 法 が わ か ら な い	必 要 が な い	時 間 が な い	面 倒 で あ る	健 康 に 自 信 が あ る	病 気 い る 医 者 に か か つ て	検 査 が い や	病 気 怖 い 診 断 さ れ る の が	費 用 が か か る	そ の 他
204 100.0	24 11.8	8 3.9	8 3.9	42 20.6	41 20.1	13 6.4	42 20.6	22 10.8	14 6.9	17 8.3	59 28.9

4 高齢者施策

問8 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。
(もっとも近い考え1つに○)

全体	主に、家族の介護を受けたいが、自宅で暮らしたくない	主に、自宅で暮らしたいが、介護サービスなどを利用	高齢者向け住宅に住み替え利用	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
1,101 100.0	106 9.6	394 35.8	267 24.3	82 7.4	95 8.6	9 0.8	139 12.6	9 0.8

問9 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いませんか。(○はいくつでも)

全体	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	在宅サービス(医療・介護・福祉)の充実	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの整備・誘致	高齢者向け住宅の整備・誘致	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
1,101 100.0	408 37.1	314 28.5	590 53.6	406 36.9	421 38.2	535 48.6	253 23.0	35 3.2	15 1.4

5 子育て支援

問10 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

全体	配偶者・パートナー	その他の親族	職場の人	隣近所の人、知人、友人	保育園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	子ども家庭支援センター、児童館、子育て支援施設	(健診センターの担当者、保健所、保健センターなど)	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
1,101 100.0	411 37.3	217 19.7	40 3.6	99 9.0	42 3.8	18 1.6	17 1.5	11 1.0	7 0.6	81 7.4	458 41.6	62 5.6

問11 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。
 (〇は2つまで) また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んで
 ください。(〇はいくつでも)

上段：件数
 下段：%

重要と考えるもの (〇は2つまで)

全 体	保 育 園 ・ 認 定 こ ど も 幼 稚 園 ・ 地 域	一 時 預 かり 保 育 、 延 長 保 育 、 病 児 ・ 病 後 児 保 育 な ど の 支 援 サ ー ビ ス	子 育 て 仲 間 が 交 流 し 、 情 報 交 換 の で き る 場 所	子 ど も の 健 や か な 成 長 の た め の 健 康 な 環 境 の 整 備	放 課 後 な ど に お け る 児 童 の 遊 び の 場	情 報 の 提 供 や 相 談 サ ー ビ ス	公 園 の 整 備 な ど 、 子 ど も が 安 心 し て 育 て る こ と が で き る 環 境 の 整 備	母 親 と 乳 幼 児 な ど の 健 康 の 確 保 お よ び 増 進	職 業 生 活 と 家 庭 生 活 と の 両 立 の 支 援	児 童 虐 待 防 止 対 策	経 済 的 な 支 援	特 に な い	無 回 答
1,101 100.0	401 36.4	386 35.1	46 4.2	105 9.5	139 12.6	44 4.0	170 15.4	16 1.5	183 16.6	95 8.6	127 11.5	48 4.4	162 14.7

さらに充実を図る必要があると考えるもの (〇はいくつでも)

全 体	保 育 園 ・ 認 定 こ ど も 幼 稚 園 ・ 地 域	一 時 預 かり 保 育 、 延 長 保 育 、 病 児 ・ 病 後 児 保 育 な ど の 支 援 サ ー ビ ス	子 育 て 仲 間 が 交 流 し 、 情 報 交 換 の で き る 場 所	子 ど も の 健 や か な 成 長 の た め の 健 康 な 環 境 の 整 備	放 課 後 な ど に お け る 児 童 の 遊 び の 場	情 報 の 提 供 や 相 談 サ ー ビ ス	公 園 の 整 備 な ど 、 子 ど も が 安 心 し て 育 て る こ と が で き る 環 境 の 整 備	母 親 と 乳 幼 児 な ど の 健 康 の 確 保 お よ び 増 進	職 業 生 活 と 家 庭 生 活 と の 両 立 の 支 援	児 童 虐 待 防 止 対 策	経 済 的 な 支 援	特 に な い	無 回 答
1,101 100.0	298 27.1	350 31.8	138 12.5	240 21.8	288 26.2	150 13.6	300 27.2	110 10.0	278 25.2	233 21.2	223 20.3	47 4.3	280 25.4

6 男女共同参画社会

問12 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	全 体	女 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 男 性	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
(1) 家庭では	1,101 100.0	38 3.5	61 5.5	549 49.9	296 26.9	76 6.9	81 7.4
(2) 職場では	1,101 100.0	13 1.2	67 6.1	396 36.0	394 35.8	138 12.5	93 8.4
(3) 学校教育の場では	1,101 100.0	7 0.6	14 1.3	712 64.7	180 16.3	42 3.8	146 13.3
(4) 政治の場では	1,101 100.0	10 0.9	13 1.2	89 8.1	400 36.3	517 47.0	72 6.5
(5) 法律や制度では	1,101 100.0	9 0.8	52 4.7	351 31.9	409 37.1	193 17.5	87 7.9
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	1,101 100.0	7 0.6	28 2.5	134 12.2	516 46.9	332 30.2	84 7.6
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	1,101 100.0	13 1.2	84 7.6	404 36.7	325 29.5	136 12.4	139 12.6
(8) 社会全体では	1,101 100.0	11 1.0	39 3.5	187 17.0	593 53.9	200 18.2	71 6.4

問13 あなた自身の「仕事」と「家庭生活」について、現状は次のどれにあてはまりますか。
(○は1つ)

上段：件数
下段：%

全 体	仕事を優先している	どちらかといえ ば仕事を優先して いる	両立させている 仕事と家庭生活を 同じように	どちらかといえ ば仕事を優先して いる	現在仕事を していない	その他	無 回 答
1,101 100.0	175 15.9	217 19.7	298 27.1	146 13.3	228 20.7	10 0.9	27 2.5

7 防犯対策

問14 あなたの住む地域で不安を感じる具体的な犯罪は何ですか。(○は2つまで)

全 体	ひつたくり	空き巣	強盗	すり・置き引き	自動車(自 転車)泥棒・ 車上ねらい	振り込め詐欺	傷害・暴行	放火	痴漢・強制わいせつ	少年犯罪	子どもの誘拐・連れ去り	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特 に ない	無 回 答
1,101 100.0	72 6.5	176 16.0	68 6.2	38 3.5	106 9.6	225 20.4	54 4.9	43 3.9	126 11.4	40 3.6	117 10.6	10 0.9	10 0.9	34 3.1	399 36.2	23 2.1

問15 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

全 体	自主的参加している 防犯パトロールなどの活動に	区の広報、ホームページ、安全・安心メール	何かあれば警察や区などの相談窓口に行	日ごろから近隣住民などと良好なコミュ	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カ	警備会社などのセキュリティシステムを	エン防 トラカ ランス などの 防犯設 備が導 入され	その他	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
1,101 100.0	12 1.1	276 25.1	133 12.1	185 16.8	129 11.7	153 13.9	641 58.2	29 2.6	188 17.1	27 2.5

問16 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

上段：件数
下段：%

全体	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	住まいの防犯設備整備費用の助成	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	防犯の配布や講座・講演会などの啓発活動	学校や児童館などの子どもの安全対策	通学路や公園などの安全対策	地域の防犯パトロール活動などへの支援	その他	特にない	無回答
1,101 100.0	266 24.2	169 15.3	77 7.0	485 44.1	26 2.4	229 20.8	262 23.8	153 13.9	22 2.0	101 9.2	26 2.4

8 スポーツ

問17 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)

全体	水泳(水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)	体操(ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など)	ジョギング、マラソン	ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)	マシントレーニング(ランニングマシン、ダンベル)	武道(柔道、剣道、空手など)	テニス、ソフトテニス	屋内球技(バレーボール、バドミントン、卓球など)	屋外の球技(野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	海水浴(遊水)	フィン、ヨットなど シュノーケリング、ダイビング、サーフ
1,101 100.0	132 12.0	421 38.2	224 20.3	728 66.1	192 17.4	9 0.8	35 3.2	36 3.3	33 3.0	138 12.5	75 6.8	41 3.7	27 2.5	25 2.3
釣り	ボウリング	サイクリング	ニュースポーツ(ゴルフ、フットボール、バスケットボール、ラグビー、テニス、ゴルフ)	ダンス、民謡の踊りを含む)	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答							
44 4.0	39 3.5	132 12.0	3 0.3	38 3.5	27 2.5	141 12.8	8 0.7							

上段：件数
下段：%

(問17で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

問17-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

全 体	週 に 3 日 以 上	週 に 1 〜 2 日 程 度	月 に 1 〜 3 日 程 度	3 カ 月 に 1 〜 4 〜 2 1 日 程 度	年 に 1 〜 3 日 程 度	無 回 答
952 100.0	248 26.1	343 36.0	188 19.7	71 7.5	37 3.9	65 6.8

9 築地魚河岸

問18 「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

全 体	よ く 行 っ て い る	行 っ た こ と が あ る	知 っ た こ と が な い が 、 い っ た こ と が な い	「築地魚河岸」を知らない	無 回 答
1,101 100.0	123 11.2	492 44.7	354 32.2	129 11.7	3 0.3

(問18で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

問18-1 「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

全 体	1 階 の 店 舗 で 買 い 物 を	魚 河 岸 す る た め に 食 堂 で 食 事 を	イ ベ ン ト に 参 加 す る	そ の 他	無 回 答
615 100.0	451 73.3	192 31.2	9 1.5	52 8.5	6 1.0

上段：件数
下段：%

10 受動喫煙防止対策

問19 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。（○は1つだけ）

全 体	「中 央区 たば こル ール」	聞 いた 内容 は知 らな い が、	知 ら な い	無 回 答
1,101 100.0	251 22.8	343 31.2	496 45.0	11 1.0

11 公共施設

問21 あなたが、利用したことがある区の施設の利用頻度を、（1）から（13）までの施設ごとに選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	全 体	よく （月 に4 回以 上）	たま に（月 に1 回程 度）	あま り（年 に数 回程 度）	利用 した こと がな い	無 回 答
(1) 地域・集会施設 （区民館・コミュニティルームなど）	1,101 100.0	12 1.1	55 5.0	272 24.7	716 65.0	46 4.2
(2) 文化・学習施設（中央会館・日本橋公会堂・ 社会教育会館・タイムドーム明石など）	1,101 100.0	13 1.2	54 4.9	303 27.5	681 61.9	50 4.5
(3) スポーツ施設（総合スポーツセンター・ 月島スポーツプラザなど）	1,101 100.0	34 3.1	102 9.3	296 26.9	617 56.0	52 4.7
(4) 運動場（月島、浜町、豊海テニス場など）	1,101 100.0	10 0.9	36 3.3	145 13.2	844 76.7	66 6.0
(5) 図書館	1,101 100.0	77 7.0	219 19.9	330 30.0	422 38.3	53 4.8
(6) 公園	1,101 100.0	234 21.3	273 24.8	326 29.6	205 18.6	63 5.7
(7) 中央区役所本庁舎、特別出張所 （日本橋・月島）	1,101 100.0	26 2.4	210 19.1	665 60.4	141 12.8	59 5.4
(8) 高齢者福祉施設 （おとしより相談センター・敬老館など）	1,101 100.0	11 1.0	18 1.6	51 4.6	971 88.2	50 4.5
(9) 子育て支援施設（児童館など）	1,101 100.0	36 3.3	47 4.3	142 12.9	806 73.2	70 6.4
(10) 保健施設（中央保健所・保健センター （日本橋・月島））	1,101 100.0	4 0.4	29 2.6	299 27.2	707 64.2	62 5.6
(11) 医療施設（休日応急診療所・休日応急歯科 診療所・休日応急薬局）	1,101 100.0	2 0.2	27 2.5	272 24.7	746 67.8	54 4.9
(12) 保養施設 （伊豆高原荘・区民健康村「ヴィラ本栖」）	1,101 100.0	-	10 0.9	119 10.8	919 83.5	53 4.8
(13) その他	1,101 100.0	5 0.5	1 0.1	8 0.7	356 32.3	731 66.4

問23 あなたが将来（10年程度先）、不足すると思う施設は何ですか。（〇は2つまで）

上段：件数
下段：%

全体	地域・集会施設（区民館・コミュニティルームなど）	文化・学習施設（公会堂・社会教育会館など）	スポーツ施設（スポーツセンターなど）	運動場	図書館	公園	庁舎・出張所	高齢者福祉施設（おとしより相談センター・敬老館・特別養護老人ホームなど）	子育て支援施設（児童館・保育園など）	保健施設（保健所・保健センターなど）	医療施設（休日応急診療所・休日応急歯科診療所・休日応急薬局など）	保養施設	学校教育施設	住宅	その他	特にない	無回答
1,101 100.0	30 2.7	26 2.4	75 6.8	56 5.1	41 3.7	106 9.6	15 1.4	587 53.3	152 13.8	42 3.8	178 16.2	18 1.6	74 6.7	65 5.9	20 1.8	155 14.1	37 3.4

12 デジタル技術を活用した区民サービス

問24 あなたは、スマートフォンを利用していますか。（〇は1つだけ）

全体	利用している	利用していないが、今後利用する予定がある	利用していないし、今後利用する予定はない	無回答
1,101 100.0	979 88.9	40 3.6	69 6.3	13 1.2

問25 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。（〇はいくつでも）

全体	窓口手続におけるキャッシュレス決済	オンライン手続におけるキャッシュレス決済	区役所で行かずにオンラインで最初から最後までオンラインでできる	マイナンバーカードの拡大	スマートフォン等の区民サービスの案内	窓口手続の際のタブレット	チャットボットを活用した自動応答サービスの提供	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	区が開催する講座や説明会等の配信	区が保有するデータのオープンデータ化	その他	特にない	無回答
1,101 100.0	389 35.3	405 36.8	712 64.7	364 33.1	235 21.3	106 9.6	97 8.8	244 22.2	194 17.6	170 15.4	33 3.0	143 13.0	43 3.9

13 地球温暖化対策

問26 あなたは、地球温暖化対策推進事業である「中央区の森」事業を知っていますか。
(○は1つだけ)

全体	知っている	聞いたことは知らないが、	知らない	無回答
1,101 100.0	124 11.3	175 15.9	787 71.5	15 1.4

問27 あなたは、「中央区の森」事業などの森林保全活動を推進する上で、何が重要だと思いますか。(○はいくつでも)

全体	森林を保持した自治体との連携・交流	公共施設等への積極的な木材活用	事業者などが木材を活用するに当たつての費用助成や調達などの支援	「中央区の森体験ツアー」などの、森林保全の体験や自然の接触	環境イベントの開催または出展(間伐材を活用したワークショップなど)	区内の保育園、幼稚園、小・中学校等での環境学習	事業者などが森林保全活動に参加・協力するための費用助成	環境配布に関する情報の発信	ホームページやSNSなどインターネット	その他	無回答
1,101 100.0	330 30.0	261 23.7	155 14.1	330 30.0	175 15.9	506 46.0	168 15.3	84 7.6	219 19.9	32 2.9	112 10.2

問28 区が推進している地球温暖化対策に係る施策の中で、あなたは、何が効果的だと思いますか。(○はいくつでも)

全体	排出業者が、削減システム(中央区版二酸化炭素削減)を実施する仕組みづくり	再生可能エネルギーや省エネルギー機器(太陽光発電)	ZEV(ゼロ・エミッション・ビークル)の普及促進	ごみの減量・リサイクルの促進	施設等の緑化の推進	無回答
1,101 100.0	425 38.6	428 38.9	319 29.0	629 57.1	436 39.6	71 6.4

上段：件数
下段：%

14 中央区コミュニティバス（江戸バス）の運行

問29 中央区コミュニティバス（江戸バス）（以下「江戸バス」という。）は、平成21年12月1日に運行を開始してから12年が経過しましたが、あなたは利用したことがありますか。（○は1つ）

全 体	ほぼ毎日利用している	週に1〜3回程度利用している	月に1〜3回程度利用している	過去に数回利用したことがある	知っているが、利用したことはない	江戸バスを知らない	無回答
1,101 100.0	8 0.7	26 2.4	150 13.6	528 48.0	307 27.9	66 6.0	16 1.5

（問29で、「4 過去に数回利用したことがある」または「5 知っているが、利用したことはない」とお答えの方に）

問29-1 あなたは、江戸バスの運行内容がどのようになれば利用したいと思いますか。（○はいくつでも）

全 体	運行本数の増便	始発の繰り上げ	終発の繰り下げ	時間に正確な運行	南北の乗り継ぎの改善	1週の所要時間の短縮	逆方向便の運行	運行ルートの変更	バス停の増設	その他	無回答
835 100.0	267 32.0	9 1.1	29 3.5	44 5.3	118 14.1	151 18.1	295 35.3	145 17.4	72 8.6	134 16.0	85 10.2

問30 江戸バスの運行については、さまざまな意見や要望が寄せられており、区では限られた財源の中で可能な限り利便性の向上を図っていきたいと考えています。あなたは、区が最も優先すべき項目は何だと思えますか。（○は1つ）

全 体	運行本数の増便	始発の繰り上げ	終発の繰り下げ	南北の乗り継ぎの改善	逆方向便の運行	1週の所要時間の短縮	運行ルートの変更	バス停の増設	その他	改善の必要はない（現行の運行で問題ない）	無回答
1,101 100.0	214 19.4	2 0.2	15 1.4	76 6.9	283 25.7	86 7.8	65 5.9	31 2.8	58 5.3	158 14.4	113 10.3

15 施策の要望・評価

上段：件数
下段：%

問31 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	全 体	満 足	や や 満 足	普 通	や や 不 満	不 満	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,101 100.0	69 6.3	142 12.9	615 55.9	70 6.4	33 3.0	172 15.6	0.78
(2) 障害者福祉	1,101 100.0	32 2.9	67 6.1	754 68.5	51 4.6	15 1.4	182 16.5	0.27
(3) 高齢者福祉・介護	1,101 100.0	32 2.9	81 7.4	721 65.5	87 7.9	27 2.5	153 13.9	0.02
(4) 保健衛生	1,101 100.0	42 3.8	127 11.5	715 64.9	44 4.0	12 1.1	161 14.6	0.76
(5) 男女共同参画社会の推進	1,101 100.0	26 2.4	40 3.6	786 71.4	71 6.4	13 1.2	165 15.0	-0.03
(6) 住宅対策	1,101 100.0	34 3.1	78 7.1	653 59.3	136 12.4	47 4.3	153 13.9	-0.44
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,101 100.0	96 8.7	265 24.1	446 40.5	135 12.3	43 3.9	116 10.5	1.20
(8) 消費者生活対策	1,101 100.0	27 2.5	73 6.6	761 69.1	66 6.0	15 1.4	159 14.4	0.16
(9) 環境保全・公害対策	1,101 100.0	34 3.1	89 8.1	734 66.7	70 6.4	20 1.8	154 14.0	0.25
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,101 100.0	54 4.9	169 15.3	657 59.7	74 6.7	12 1.1	135 12.3	0.93
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,101 100.0	36 3.3	97 8.8	570 51.8	184 16.7	77 7.0	137 12.4	-0.88
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,101 100.0	41 3.7	131 11.9	675 61.3	82 7.4	32 2.9	140 12.7	0.35
(13) 防災対策	1,101 100.0	39 3.5	130 11.8	716 65.0	69 6.3	14 1.3	133 12.1	0.57
(14) 防犯対策	1,101 100.0	44 4.0	131 11.9	694 63.0	80 7.3	11 1.0	141 12.8	0.61
(15) 再開発などによる地域整備	1,101 100.0	45 4.1	117 10.6	638 57.9	108 9.8	45 4.1	148 13.4	0.05
(16) 中小企業対策	1,101 100.0	25 2.3	34 3.1	803 72.9	57 5.2	16 1.5	166 15.1	-0.03
(17) 学校教育の充実	1,101 100.0	33 3.0	113 10.3	708 64.3	67 6.1	21 1.9	159 14.4	0.37
(18) 青少年対策	1,101 100.0	25 2.3	48 4.4	802 72.8	45 4.1	13 1.2	168 15.3	0.14
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,101 100.0	30 2.7	89 8.1	736 66.8	76 6.9	21 1.9	149 13.5	0.16
(20) コミュニティの育成	1,101 100.0	25 2.3	49 4.5	784 71.2	73 6.6	15 1.4	155 14.1	-0.02
(21) 観光振興	1,101 100.0	38 3.5	126 11.4	712 64.7	58 5.3	15 1.4	152 13.8	0.60
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな 区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,101 100.0	22 2.0	56 5.1	740 67.2	87 7.9	33 3.0	163 14.8	-0.28
(23) 区の施策を総合的に見ると	1,101 100.0	46 4.2	223 20.3	622 56.5	67 6.1	14 1.3	129 11.7	1.13

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点 = (「満足」の回答者数×10点 + 「やや満足」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点
+ 「やや不満」の回答者数×-5点 + 「不満」の回答者数×-10点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、
+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問31 あなたは、区の施策についてどの程度重視していますか。重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	た い へ ん 重 要	比 較 的 重 要	普 通	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,101 100.0	522 47.4	168 15.3	169 15.3	242 22.0	7.05
(2) 障害者福祉	1,101 100.0	321 29.2	267 24.3	261 23.7	252 22.9	5.35
(3) 高齢者福祉・介護	1,101 100.0	469 42.6	222 20.2	182 16.5	228 20.7	6.64
(4) 保健衛生	1,101 100.0	333 30.2	275 25.0	245 22.3	248 22.5	5.52
(5) 男女共同参画社会の推進	1,101 100.0	151 13.7	294 26.7	398 36.1	258 23.4	3.53
(6) 住宅対策	1,101 100.0	208 18.9	313 28.4	330 30.0	250 22.7	4.28
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,101 100.0	275 25.0	389 35.3	224 20.3	213 19.3	5.29
(8) 消費者生活対策	1,101 100.0	150 13.6	291 26.4	401 36.4	259 23.5	3.51
(9) 環境保全・公害対策	1,101 100.0	218 19.8	345 31.3	287 26.1	251 22.8	4.59
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,101 100.0	243 22.1	359 32.6	257 23.3	242 22.0	4.92
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,101 100.0	165 15.0	312 28.3	384 34.9	240 21.8	3.73
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,101 100.0	221 20.1	320 29.1	315 28.6	245 22.3	4.45
(13) 防災対策	1,101 100.0	425 38.6	245 22.3	200 18.2	231 21.0	6.29
(14) 防犯対策	1,101 100.0	384 34.9	256 23.3	225 20.4	236 21.4	5.92
(15) 再開発などによる地域整備	1,101 100.0	178 16.2	306 27.8	375 34.1	242 22.0	3.85
(16) 中小企業対策	1,101 100.0	110 10.0	272 24.7	461 41.9	258 23.4	2.92
(17) 学校教育の充実	1,101 100.0	354 32.2	235 21.3	270 24.5	242 22.0	5.49
(18) 青少年対策	1,101 100.0	193 17.5	292 26.5	365 33.2	251 22.8	3.99
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,101 100.0	149 13.5	303 27.5	409 37.1	240 21.8	3.49
(20) コミュニティの育成	1,101 100.0	108 9.8	280 25.4	466 42.3	247 22.4	2.90
(21) 観光振興	1,101 100.0	113 10.3	282 25.6	463 42.1	243 22.1	2.96
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな 区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,101 100.0	156 14.2	307 27.9	389 35.3	249 22.6	3.63

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点 = (「たいへん重要」の回答者数×10点 + 「比較的重要」の回答者数×5点
+ 「普通」の回答者数×0点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、+10.00点～0点の間に分布し、+10.00点に近くなるほど重要度が
高くなる。

問32 問31の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1~22までの番号)

上段：件数
下段：%

	全 体	(1) 子育て支援	(2) 障害者福祉	(3) 高齢者福祉・介護	(4) 保健衛生	(5) 男女共同参画社会の推進	(6) 住宅対策	(7) 公園・緑地・水辺の整備	(8) 消費者生活対策	(9) 環境保全・公害対策	(10) 清掃・リサイクル事業の推進	(11) 駐車場・駐輪場の整備	(12) 道路環境整備、交通安全対策	(13) 防災対策	
第1位~第3位の累計	1,101 100.0	363 33.0	91 8.3	366 33.2	119 10.8	29 2.6	135 12.3	228 20.7	75 6.8	86 7.8	89 8.1	115 10.4	78 7.1	261 23.7	
第1位	1,101 100.0	219 19.9	25 2.3	174 15.8	37 3.4	11 1.0	46 4.2	69 6.3	13 1.2	20 1.8	24 2.2	33 3.0	23 2.1	89 8.1	
第2位	1,101 100.0	78 7.1	37 3.4	113 10.3	38 3.5	11 1.0	50 4.5	80 7.3	29 2.6	30 2.7	33 3.0	45 4.1	28 2.5	106 9.6	
第3位	1,101 100.0	66 6.0	29 2.6	79 7.2	44 4.0	7 0.6	39 3.5	79 7.2	33 3.0	36 3.3	32 2.9	37 3.4	27 2.5	66 6.0	
	(14) 防犯対策	(15) 再開発などによる地域整備	(16) 中小企業対策	(17) 学校教育の充実	(18) 青少年対策	(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	(20) コミュニティの育成	(21) 観光振興	(22) 地域生涯学習の推進(福祉・医療・)		無回答				
第1位~第3位の累計	212 19.3	99 9.0	45 4.1	187 17.0	18 1.6	99 9.0	23 2.1	42 3.8	60 5.4		142 12.9				
第1位	41 3.7	24 2.2	10 0.9	54 4.9	1 0.1	24 2.2	1 0.1	6 0.5	15 1.4		142 12.9				
第2位	73 6.6	28 2.5	16 1.5	78 7.1	6 0.5	23 2.1	6 0.5	17 1.5	18 1.6		158 14.4				
第3位	98 8.9	47 4.3	19 1.7	55 5.0	11 1.0	52 4.7	16 1.5	19 1.7	27 2.5		183 16.6				

*第1位~第3位の累計の無回答は第1位の値とした

16 フェイスシート

上段：件数
下段：%

F 1 性別（○は1つ）

全 体	男 性	女 性	無 回 答
1,101 100.0	439 39.9	645 58.6	17 1.5

F 2 年齢（○は1つ）

全 体	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以上	無 回 答
1,101 100.0	101 9.2	208 18.9	269 24.4	226 20.5	67 6.1	56 5.1	58 5.3	103 9.4	13 1.2

性／年齢別

全 体	男 性								女 性							性 別 ま た は 年 齢 無 回 答	
	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以上	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳		7 5 歳 以上
1,101 100.0	26 2.4	92 8.4	105 9.5	98 8.9	36 3.3	24 2.2	25 2.3	33 3.0	75 6.8	115 10.4	162 14.7	128 11.6	31 2.8	32 2.9	33 3.0	69 6.3	17 1.5

F 3 あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

全 体	自 営 業 （ 家 族 従 業 を 含 む ）	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 （ 主 婦 ）	無 職 （ 学 生 ）	無 職 （ そ の 他 ）	無 回 答
1,101 100.0	155 14.1	593 53.9	74 6.7	147 13.4	22 2.0	91 8.3	19 1.7

上段：件数
下段：%

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答
1,101 100.0	271 24.6	353 32.1	464 42.1	13 1.2

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。（〇は1つ）

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	「6 具 体 的 人 数 以 上」 に 回 答 し て	無 回 答
1,101 100.0	257 23.3	372 33.8	249 22.6	158 14.4	35 3.2	5 0.5	3 0.3	3 0.3	19 1.7

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	持 家		借 家						そ の 他	無 回 答
	一 戸 建	分 譲 マ ン シ ヨ ン	一 戸 建	社、 公 共 住 宅 （ 区 立 、 区 営 、 都 営 、 公	民 間 木 造 ア パ ー ト	民 間 鉄 筋 ア パ ー ト 、 マ ン シ ヨ ン	社 宅 、 官 舎 、 寮	間 借 り 、 住 込 み		
1,101 100.0	99 9.0	515 46.8	6 0.5	87 7.9	1 0.1	337 30.6	38 3.5	4 0.4	5 0.5	9 0.8

上段：件数
下段：%

(F6で、「2 分譲マンション」「4 公共住宅」「5 民間木造アパート」「6 民間鉄筋アパート、マンション」「7 社宅、官舎、寮」とお答えの方に)
F6-1 お住まいの階層

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	1 0 階 以上	無 回 答	1 ～ 5 階	6 ～ 9 階	1 0 階 以上
分譲マンション	515 100.0	5 1.0	36 7.0	22 4.3	28 5.4	33 6.4	36 7.0	29 5.6	31 6.0	30 5.8	195 37.9	70 13.6	124 24.1	126 24.5	195 37.9
公共住宅	87 100.0	- -	3 3.4	4 4.6	2 2.3	3 3.4	2 2.3	1 1.1	5 5.7	3 3.4	36 41.4	28 32.2	12 13.8	11 12.6	36 41.4
民間木造アパート	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -
民間鉄筋アパート、 マンション	337 100.0	3 0.9	31 9.2	31 9.2	23 6.8	18 5.3	27 8.0	26 7.7	18 5.3	14 4.2	111 32.9	35 10.4	106 31.5	85 25.2	111 32.9
社宅、官舎、寮	38 100.0	1 2.6	2 5.3	3 7.9	6 15.8	1 2.6	1 2.6	2 5.3	1 2.6	1 2.6	6 15.8	14 36.8	13 34.2	5 13.2	6 15.8

F7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	ひとり暮らし	夫婦だけ(1世代)	夫婦と子どもだけ(2世代)	夫婦と子どもと親(3世代)	その他	無回答
1,101 100.0	253 23.0	314 28.5	424 38.5	31 2.8	66 6.0	13 1.2

F8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

全 体	子どものいない夫婦	一番入学前の子どもが小学校	一番入学生の子どもが小・中	一番大学生の子どもが高校・	一番卒業の子どもが学校	独身	その他	無回答
1,101 100.0	269 24.4	108 9.8	131 11.9	90 8.2	153 13.9	275 25.0	38 3.5	37 3.4

ライフステージ

全 体	独身期	家族形成期	家族成長前期	家族成長後期	家族成熟期	老齡期	その他	無回答
1,101 100.0	104 9.4	180 16.3	131 11.9	90 8.2	82 7.4	162 14.7	308 28.0	44 4.0

VI 使用した調査票

区政世論調査ご協力をお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第51回区政世論調査」を行うことといたしました。

今回も、満18歳以上の区民の皆さま2,000人を対象に、防災対策、高齢者施策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政推進の基礎資料とするために実施するものです。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、ご迷惑をお掛けすることはありません。

また、今回、あなたにこの調査票をお送りしましたのは、区の住民基本台帳から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。

調査の趣旨をご理解の上、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

令和3年4月

中央区企画部広報課

☆ご記入にあたってのお願い

- ◇ 調査票には、**宛名のご本人**がご記入ください。
- ◇ 濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。なお、複数回答もごさいますので、○は（ ）の中に指定した個数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に（ ）の中にご記入ください。
- ◇ 設問によってご回答いただく方が限られる場合がありますので、説明文や矢印に従ってご回答ください。特に説明のない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れて、6月7日(月)までにポストに投函してください。切手は不要です。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



中央区役所 企画部 広報課 広聴係

〒104-8404 中央区築地1-1-1

電話 03-3546-5222 (直通)

第 51 回 区 政 世 論 調 査

1 定住性

問 1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

1 3年未満	4 10～15年未満	6 20年以上
2 3～6年未満	5 15～20年未満	7 生まれてからずっと
3 6～10年未満		

問 2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

1 非常に感じる	3 あまり感じない	5 わからない
2 少しは感じる	4 感じない	

問 3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

1 住み続けたい	3 できれば転出したい	5 わからない
2 できれば住み続けたい	4 転出したい	

2 防災対策

問 4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

1 食料の備蓄 → () 日分 (1人1日3食分)
2 飲料水の備蓄 → () 日分 (1人1日3ℓ分)
3 簡易トイレの備蓄 → () 日分
4 家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止
5 消火器・救急セットなどの備え
6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え
7 貴重品を持ち出す準備
8 風呂などへの水のため置き
9 救命救助の講習会への参加
10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加
11 避難方法、避難場所の確認
12 家庭での連絡方法などの話し合い
13 建物の補強
14 その他 (具体的に)
15 特にない

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、場所はわからない
- 3 知らない

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
-> 問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知っているが、活動内容はよくわからない
- 3 知らない

問6 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 区のホームページ
- 2 防災マップアプリ
- 3 ちゅうおう安全・安心メール
- 4 インターネット
- 5 ツイッターやフェイスブックなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)
- 6 防災行政無線 (屋外スピーカー)
- 7 緊急告知ラジオ
- 8 ケーブルテレビ
- 9 その他 (具体的に)

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、地域コミュニティFM放送局(中央エフエム)を活用して災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

3 健康診査

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

問7 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（○はいくつでも）

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問7で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

→ 問7-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（具体的に

)

4 高齢者施策

問8 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- | | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい | |
| 2 | 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい | |
| 3 | 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい | |
| 4 | 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい | |
| 5 | 介護付き有料老人ホームに入りたい | |
| 6 | その他 (具体的に |) |
| 7 | わからない | |

問9 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 健康づくり・介護予防の充実 |
| 2 | 就労・社会参加の促進 |
| 3 | 在宅サービス (医療・介護・区の在宅福祉サービスなど) の充実 |
| 4 | 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致 |
| 5 | 高齢者向け住宅の整備・誘致 |
| 6 | ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援 |
| 7 | 低所得者への経済的支援 |
| 8 | 特になし |

問9-1 問9で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

--

5 子育て支援

問10 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

1	配偶者・パートナー
2	その他の親族
3	職場の人
4	隣近所の人、知人、友人
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者
9	その他(具体的に)
10	特に相談しない
11	子育てを経験していない

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問11 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(○は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

	重要と考えるもの (○は2つまで)	さらに充実を図る必要 があるとするもの (○はいくつでも)
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問11-1 あなたが問11で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

6 男女共同参画社会

※ 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

問12 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 女性が優遇されている	2 どちらかといえは 女性が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかといえは 男性が優遇されている	5 男性が優遇されている
(記入例) (1) 家庭では	1	2	③	4	5
(1) 家庭では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 学校教育の場では	1	2	3	4	5
(4) 政治の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度では	1	2	3	4	5
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	1	2	3	4	5
(8) 社会全体では	1	2	3	4	5

問13 あなた自身の「仕事」と「家庭生活」について、現状は次のどれにあてはまりますか。

(○は1つ)

※ 仕事と家庭生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

- | | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 仕事を優先している | |
| 2 | どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している | |
| 3 | 仕事と家庭生活を同じように両立させている | |
| 4 | どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している | |
| 5 | 現在仕事をしていない | |
| 6 | その他（具体的に |) |

7 防犯対策

問14 あなたの住む地域で不安に感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

- | | | | |
|---|------------------|----|-------------|
| 1 | ひったくり | 9 | 痴漢・強制わいせつ |
| 2 | 空き巣 | 10 | 少年犯罪 |
| 3 | 強盗 | 11 | 子どもの誘拐・連れ去り |
| 4 | すり・置き引き | 12 | 暴力団員による犯罪 |
| 5 | 自動車（自転車）泥棒・車上ねらい | 13 | 悪質な客引き |
| 6 | 振り込め詐欺 | 14 | その他 |
| 7 | 傷害・暴行 | | (具体的に) |
| 8 | 放火 | 15 | 特にない |

問15 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している | |
| 2 | 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている | |
| 3 | 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている | |
| 4 | 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている | |
| 5 | 防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している | |
| 6 | 警備会社などのセキュリティシステムを利用している | |
| 7 | エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている | |
| 8 | その他（具体的に |) |
| 9 | 特に何もしていない | |

問16 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 1 | 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信 | |
| 2 | 住まいの防犯設備整備費用の助成 | |
| 3 | 自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策 | |
| 4 | 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進 | |
| 5 | 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動 | |
| 6 | 学校や児童館などの子どもの安全対策 | |
| 7 | 通学路や公園などの安全対策 | |
| 8 | 地域の防犯パトロール活動などへの支援 | |
| 9 | その他（具体的に | ） |
| 10 | 特にない | |

8 スポーツ

問17 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(○はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳 (水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)
- 2 体操 (ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など)
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩 (散策、ペットの散歩などを含む)
- 5 マシントレーニング (ランニングマシーン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動)
- 6 武道 (柔道、剣道、空手など)
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技 (バレーボール、バドミントン、卓球など)
- 9 屋外の球技 (野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴 (遊水)
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ (グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)
- 19 ダンス (フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む)
- 20 その他 (具体的に)
- 21 スポーツや運動はしなかった

(問17で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

-> 問17-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

- | | |
|------------|--------------------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3カ月に1～2日程度 (年に4～11日程度) |
| 2 週に1～2日程度 | 5 年に1～3日程度 |
| 3 月に1～3日程度 | |

9 築地魚河岸

- ※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

問18 「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------|
| 1 よく行っている | 3 知っているが、行ったことがない |
| 2 行ったことがある | 4 「築地魚河岸」を知らない |

(問18で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

→ 問18-1 「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 1階の店舗で買い物をするため | 3 イベントに参加するため |
| 2 魚河岸食堂で食事をするため | 4 その他(具体的に) |

10 受動喫煙防止対策

問19 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。(○は1つだけ)

- | |
|------------------------|
| 1 「中央区たばこルール」の内容も知っている |
| 2 聞いたことはあるが、内容は知らない |
| 3 知らない |

- ※ 中央区たばこルール 公共の場所(区内全域の道路、公園、広場)での受動喫煙を防止するため、「喫煙者が守るべきルール」及び「灰皿を設置する事業者が守るべきルール」を設けました。
ルールには加熱式たばこも含まれます。

問20 あなたが受動喫煙防止対策として区に取り組んでほしい具体的な施策をお書きください。

1 1 公共施設

問21 あなたが、利用したことがある区の施設の利用頻度を、(1) から (13) までの施設ごとに選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

また、あなたが、「4 利用したことがない」を選んだ施設について、その理由は何ですか。12ページの記入欄から、施設ごとに選んでください。(○はそれぞれ2つまで)

区の施設の利用頻度 (○はそれぞれ1つずつ)	1 よく利用している (月に4回以上)	2 たまに利用する (月に1回程度)	3 あまり利用しない (年に数回程度)	4 利用したことがない
(記入例) (1) 地域・集会施設 (区民館・コミュニティルームなど)	1	2	3	④
(1) 地域・集会施設 (区民館・コミュニティルームなど)	1	2	3	4
(2) 文化・学習施設 (中央会館・日本橋公会堂・社会教育会館・ タイムドーム明石など)	1	2	3	4
(3) スポーツ施設 (総合スポーツセンター・月島スポーツプラザ など)	1	2	3	4
(4) 運動場 (月島、浜町、豊海テニス場など)	1	2	3	4
(5) 図書館	1	2	3	4
(6) 公園	1	2	3	4
(7) 中央区役所本庁舎、 特別出張所 (日本橋・月島)	1	2	3	4
(8) 高齢者福祉施設 (おとしより相談センター・敬老館など)	1	2	3	4
(9) 子育て支援施設 (児童館など)	1	2	3	4
(10) 保健施設 (中央保健所・保健センター (日本橋・月島))	1	2	3	4
(11) 医療施設 (休日応急診療所・休日応急歯科診療所・ 休日応急薬局)	1	2	3	4
(12) 保養施設 (伊豆高原荘・区民健康村「ヴィラ本栖」)	1	2	3	4
(13) その他 (具体的に)	1	2	3	4

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
区の施設を「利用したことがない」と答えた理由（○はそれぞれ2つまで）	利用したい施設ではないから	利用したい施設ではあるが近くにないから	利用時間が合わないから	民間の施設の方が利用しやすいから	清潔感がないから	サービスが行き届いていないから	職員の対応が良くないから	施設が混み合っているから	利用する必要がないから	どこにあるか分からないから	利用方法が分からないから	その他
（記入例）（1）地域・集会施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（1）地域・集会施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（2）文化・学習施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（3）スポーツ施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（4）運動場を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（5）図書館を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（6）公園を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（7）中央区役所本庁舎、特別出張所 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（8）高齢者福祉施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（9）子育て支援施設を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（10）保健施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（11）医療施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（12）保養施設 を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（13）その他を利用したことがない理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

問22 あなたが今、不足していると思う施設は何ですか。(○は2つまで)

- 1 地域・集会施設 (区民館・コミュニティルームなど)
- 2 文化・学習施設 (公会堂・社会教育会館など)
- 3 スポーツ施設 (スポーツセンターなど)
- 4 運動場
- 5 図書館
- 6 公園
- 7 庁舎・出張所
- 8 高齢者福祉施設 (おとしより相談センター・敬老館・特別養護老人ホームなど)
- 9 子育て支援施設 (児童館・保育園など)
- 10 保健施設 (保健所・保健センターなど)
- 11 医療施設 (休日応急診療所・休日応急歯科診療所・休日応急薬局など)
- 12 保養施設
- 13 学校教育施設
- 14 住宅
- 15 その他 (具体的に)
- 16 特にない

問23 あなたが将来 (10年程度先)、不足すると思う施設は何ですか。(○は2つまで)

- 1 地域・集会施設 (区民館・コミュニティルームなど)
- 2 文化・学習施設 (公会堂・社会教育会館など)
- 3 スポーツ施設 (スポーツセンターなど)
- 4 運動場
- 5 図書館
- 6 公園
- 7 庁舎・出張所
- 8 高齢者福祉施設 (おとしより相談センター・敬老館・特別養護老人ホームなど)
- 9 子育て支援施設 (児童館・保育園など)
- 10 保健施設 (保健所・保健センターなど)
- 11 医療施設 (休日応急診療所・休日応急歯科診療所・休日応急薬局など)
- 12 保養施設
- 13 学校教育施設
- 14 住宅
- 15 その他 (具体的に)
- 16 特にない

1 2 デジタル技術を活用した区民サービス

問24 あなたは、スマートフォンを利用していますか。(○は1つだけ)

- 1 利用している
- 2 利用していないが、今後利用する予定がある
- 3 利用していないし、今後も利用する予定はない

問25 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。
(○はいくつでも)

- 1 窓口手続におけるキャッシュレス決済
- 2 オンライン手続におけるキャッシュレス決済
- 3 区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続の拡大
- 4 マイナンバーカードを利用したオンライン手続の拡大
- 5 スマートフォン等への区民サービスの案内
- 6 窓口手続の際のタブレット端末の活用
- 7 チャットボットを活用した自動応答サービスの提供
- 8 オンラインでの窓口の混雑状況の配信
- 9 区が開催する講座や説明会等のオンライン配信
- 10 区が保有するデータのオープンデータ化
- 11 その他(具体的に)
- 12 特になし

※ チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

1 3 地球温暖化対策

問26 あなたは、地球温暖化対策推進事業である「中央区の森」事業を知っていますか。

(○は1つだけ)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 3 知らない

※ 「中央区の森」事業 区では、二酸化炭素の吸収源となる森林を荒廃から守り、育てるため、行政のエリアにとられない広域的な地球温暖化対策推進事業として、東京都西多摩郡檜原村にある「中央区の森」で森林保全活動を実施しています。

問27 あなたは、「中央区の森」事業などの森林保全活動を推進する上で、何が重要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- 1 森林を持たない都市部の自治体と持つ地方部の自治体との連携・交流
- 2 公共施設等への積極的な木材活用
- 3 事業者などが木材を活用するに当たっての費用助成や調達などの支援
- 4 「中央区の森体験ツアー」などの、森林保全作業の体験や自然に直接触れることによる普及・啓発
- 5 環境イベントの開催または出展（間伐材を活用したワークショップなど）を通じた普及・啓発
- 6 区内の保育園、幼稚園、小・中学校等での環境学習
- 7 事業者などが森林保全活動に参加・協力するための費用助成
- 8 環境に関するパネルの展示や広報紙の配布による情報の発信
- 9 ホームページやSNSなどインターネットを活用した環境情報の発信
- 10 その他（具体的に)

問28 区が推進している地球温暖化対策に係る施策の中で、あなたは、何が効果的だと思いますか。

(○はいくつでも)

- 1 中央エコアクト(中央区版二酸化炭素排出抑制システム)などの区民や事業者が、日常生活や事業活動によって生じる二酸化炭素を減らす仕組みづくり
- 2 再生可能エネルギー機器（太陽光発電システムなど）や省エネルギー機器の導入費用助成
- 3 ZEV（ゼロ・エミッション・ビークル）の普及促進
- 4 ごみの減量・リサイクルの促進
- 5 施設等の緑化の推進

※ ZEV（ゼロ・エミッション・ビークル） 走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車（EV）や燃料電池車（FCV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）のことです。

14 中央区コミュニティバス（江戸バス）の運行

問29 中央区コミュニティバス（江戸バス）（以下「江戸バス」という。）は、平成21年12月1日に運行を開始してから12年が経過しましたが、あなたは利用したことがありますか。（○は1つ）

- | | |
|---|------------------|
| 1 | ほぼ毎日利用している |
| 2 | 週に1～3回程度利用している |
| 3 | 月に1～3回程度利用している |
| 4 | 過去に数回利用したことがある |
| 5 | 知っているが、利用したことはない |
| 6 | 江戸バスを知らない |

（問29で、「4 過去に数回利用したことがある」または「5 知っているが、利用したことはない」とお答えの方に）

→ 問29-1 あなたは、江戸バスの運行内容がどのようになれば利用したいと思いますか。

（○はいくつでも）

- | | | | |
|---|-----------------|----|----------|
| 1 | 運行本数の増便 | 8 | 運行ルートの変更 |
| 2 | 始発の繰り上げ（ 時 分から） | | （具体的に ） |
| 3 | 終発の繰り下げ（ 時 分まで） | 9 | バス停の増設 |
| 4 | 時間に正確な運行 | | （具体的に ） |
| 5 | 南北の乗り継ぎの改善 | 10 | その他 |
| 6 | 1週の所要時間の短縮 | | （具体的に ） |
| 7 | 逆方向便の運行 | | |

問30 江戸バスの運行については、さまざまな意見や要望が寄せられており、区では限られた財源の中で可能な限り利便性の向上を図っていきたいと考えています。あなたは、区が最も優先すべき項目は何だと思いますか。（○は1つ）

- | | | | |
|---|-----------------|----|----------------------|
| 1 | 運行本数の増便 | 7 | 運行ルートの変更 |
| 2 | 始発の繰り上げ（ 時 分から） | | （具体的に ） |
| 3 | 終発の繰り下げ（ 時 分まで） | 8 | バス停の増設 |
| 4 | 南北の乗り継ぎの改善 | | （具体的に ） |
| 5 | 逆方向便の運行 | 9 | その他 |
| 6 | 1週の所要時間の短縮 | | （具体的に ） |
| | | 10 | 改善の必要はない（現在の運行で問題ない） |

15 施策の要望・評価

問31 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満 足 度					重 要 度		
	1 満 足	2 やや 満足	3 普 通	4 やや 不満	5 不 満	1 たい へん 重要	2 比 較 的 重要	3 普 通
(記入例) (1) 子育て支援	①	2	3	4	5	①	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 地域情報化の推進 〔福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など〕	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5			

問32 問31の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。

1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

第1位	第2位	第3位

<フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。

これからお聞きすることは、これまでのお答えの内容を統計的に分類するためのものです。
ご協力をお願いします。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢 (○は1つ)

1 18～29歳	3 40歳代	5 60～64歳	7 70～74歳
2 30歳代	4 50歳代	6 65～69歳	8 75歳以上

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

1 自営業 (家族従業を含む)	3 アルバイト・パートタイマー	5 無職 (学生)
2 勤め人	4 無職 (主婦)	6 無職 (その他)

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 京橋地域 (八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川)
2 日本橋地域 (本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町)
3 月島地域 (佃、月島、勝どき、豊海町、晴海)

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

1 1人	3 3人	5 5人
2 2人	4 4人	6 6人以上 (人)

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

持家	1	一戸建	
	2	分譲マンション (階)	
借家	3	一戸建	
	4	公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) (階)	
家	5	民間木造アパート (階)	
	6	民間鉄筋アパート、マンション (階)	
	7	社宅、官舎、寮 (階)	
	8	間借り、住込み	
	9	その他 (具体的に)

F 7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	ひとり暮らし	
2	夫婦だけ (1世代)	
3	夫婦と子どもだけ (2世代)	
4	夫婦と子どもと親 (3世代)	
5	その他 (具体的に)

F 8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	子どものいない夫婦	
2	一番上の子どもが小学校入学前	
3	一番上の子どもが小・中学生	
4	一番上の子どもが高校・大学生	
5	一番上の子どもが学校卒業	
6	独身	
7	その他 (具体的に)

※ご協力ありがとうございました。

調査結果は、中央区ホームページで公表いたします。

調査結果の概要版が必要な方は、以下の欄に住所・氏名をご記入ください。

概要版ができ次第、送付いたします。(令和3年9月下旬予定)

住 所 中央区 _____

氏 名 _____

第51回 中央区政世論調査 報告書

令和3年9月

刊行物登録番号

3-046

- 発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
電話 03(3546)5222(直通)
- 実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
電話 03(3239)0071(代表)
-